

県道白鳥引田線及び大内白鳥インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

## 川北遺跡・住屋遺跡

2017.3

香川県教育委員会



住屋遺跡 SHa211 出土遺物



住屋遺跡 SHb101 床面出土土錘



住屋遺跡 SKb201 出土桃核

# 序 文

本書には県道白鳥引田線建設に伴い発掘調査を行った、東かがわ市小海（おうみ）の川北遺跡（かわきたいせき）の報告及び、県道大内白鳥インター線建設に伴い発掘調査を行った、東かがわ市川東（かわひがし）の住屋遺跡（すみやいせき）の報告を取録しています。

川北遺跡の調査では隣接して行われた四国横断自動車道建設に伴う調査で確認されたものと合わせると、13棟の7世紀中葉から8世紀中葉にかけて建てられた掘立柱建物跡が確認でき、古代の官衙的な集落の建物の広がりを知る手掛かりとなりました。また、12世紀代のものと考えられる掘立柱建物跡も確認でき、時期を違えた集落の存在が明らかになりました。

住屋遺跡の調査では古墳時代後期の約100年間にわたり営まれた集落が見つかり、51棟の竪穴建物跡が確認できました。また、弥生時代後期の竪穴建物跡1棟・古墳時代中期の竪穴建物跡1棟が確認でき、集落域が断続的に続くことや、7世紀の中頃までには集落が衰退することも確認できました。

両遺跡の調査成果が、本県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間、関係機関ならびに地元関係者各位には多大な御援助とご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

香川県埋蔵文化財センター  
所 長 増 田 宏

# 例 言

- 1 本報告書は県道白鳥引田線建設及び県道大内白鳥インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で、香川県東かがわ市小海(調査当時大川郡引田町小海)に所在する川北遺跡(かわきたいせき)及び、東かがわ市川東(調査当時大川郡大内町川東)に所在する住屋遺跡(すみやいせき)の報告を収録した。
- 2 発掘調査は、香川県教育委員会が調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター(現香川県埋蔵文化財センター)が調査担当者として実施した。
- 3 発掘調査は下記の期間で実施した。発掘調査の担当は以下のとおりである。

川北遺跡

期間 平成10年9月1日～平成10年11月30日

担当 濱松春海、長井博志、多田歩

住屋遺跡

平成9年度

期間 平成9年4月1日～平成9年8月31日

担当 喜岡永光、小野秀幸、陶山仁美

平成10年度

期間 平成10年4月1日～平成10年8月31日

担当 池田道雄、小野秀幸、山坂浩樹
- 4 調査にあたって、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。(順不同、敬称略)

香川県土木部道路課、香川県長尾土木事務所、地元自治会、地元水利組合

- 5 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆・編集は川北遺跡を乗松真也が、住屋遺跡を小野秀幸がそれぞれ分担した。
- 6 本報告書で用いる方位の北は、川北遺跡・住屋遺跡共に日本測地系(国土座標第IV系)の北であり、標高は東京湾平均海水位(T. P.)を基準としている。
- 7 遺構は下記の略号により表示している。

SA 欄列 SB 掘立柱建物 SD 溝 SE 井戸 SH 竪穴建物 SK 土坑  
SP 柱穴・小穴 SR 自然河川 SX その他の遺構

- 8 遺構断面図の水平線上の数値は水平線の標高値(単位m)である。

- 9 遺構断面図中の注記の色調は、小山正忠・竹原秀雄編「新版標準土色帖 32版」を参照した。
- 10 土器観察表の色調は、小山正忠・竹原秀雄編「新版標準土色帖 32版」を参照した。また、残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。
- 11 住屋遺跡の報告にあたっては、下記の機関に鑑定・分析を依頼した。  
株式会社パレオ・ラボ、バリノ・サーヴェイ株式会社
- 12 遺物の時期は主に次の文献を参照した。
- 信里芳紀 2002 「小谷窯跡出土須恵器の編年」財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編「高松ファクトリーパーク造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小谷窯跡・塚谷古墳」
- 佐藤竜馬 1993 「香川県十瓶山窯跡群における須恵器編年」『関西大学考古学研究室開設40周年記念考古学論叢』
- 佐藤竜馬 2000 「高松平野と周辺地域における中世土器の編年」財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編「空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊 空港跡地遺跡Ⅳ」
- 大阪府立近つ飛鳥博物館編 2006 「年代のものさし-陶邑の須恵器-」

# 本文目次

## 川北遺跡

第1章	調査にいたる経緯と経過	
第1節	調査にいたる経緯	1
第2節	調査の経過	2
第3節	調査体制・整理体制	2
第2章	立地と環境	
第1節	地理的環境	3
第2節	歴史的環境	3
第3章	発掘調査の記録	
第1節	調査の方法	5
第2節	層位	5
第3節	古代の遺構	9
第4節	古代末～中世の遺構と遺物	11
第4章	総括	
第1節	川北遺跡の古代掘立柱建物群	23
第2節	川北遺跡の古代遺構変遷と条里施工時期	25

## 住屋遺跡

第1章	調査の経緯	
第1節	調査に至る経緯	31
第2節	発掘調査および整理作業の経過	32
第2章	立地と環境	
第1節	地理的環境	33
第2節	歴史的環境	33
第3章	調査の成果	
第1節	調査の方法	37
第2節	層序	37
第3節	遺構、遺物	48
第4章	自然科学分析	
第1節	住屋遺跡出土玉類の蛍光X線分析	163
第2節	住屋遺跡出土炭化材の樹種同定	165
第3節	住屋遺跡木製品の樹種同定	168
第5章	まとめ	170

# 挿図目次

## 川北遺跡

第1図	遺跡位置図	1
第2図	周辺地形分層図	4
第3図	調査区割図	5
第4図	北壁土層図	6
第5図	南壁土層図1	7
第6図	南壁土層図2	8
第7図	SK201 平・断面図	9
第8図	SB201 平・断面図	10
第9図	SB101・103 平・断面図、出土遺物	12
第10図	SB102 平・断面図、出土遺物	13
第11図	SB104 平・断面図、出土遺物	14
第12図	SB105・106 平・断面図、出土遺物	15
第13図	SB107・108 平・断面図、出土遺物	16
第14図	SB110・111 平・断面図、出土遺物	17
第15図	SK101・102 平・断面図、出土遺物	18
第16図	SD101・102・103・12 断面図、出土遺物	19
第17図	SD106・SP104・1050・1097・1155・1160・1165・1062 平・断面図、出土遺物	21
第18図	SP1134・SP・遺構外 平面図、出土遺物	22
第19図	7世紀中葉～後葉の遺構	24
第20図	8世紀前葉～中葉の遺構	24

## 住屋遺跡

第1図	日本地図	31
第2図	遺跡位置図	35
第3図	調査区割図	37
第4図	H9 I区東壁土層図	38
第5図	H9 II区トレンチ土層図	39
第6図	H9 II区東壁土層図	39
第7図	H9 III区東壁土層図	40
第8図	H9 III区南壁土層図	41
第9図	H9 III区北壁土層図	41
第10図	H10 I区西壁土層図	42
第11図	H10 I区東壁土層図	42
第12図	H10 I区南壁土層図	43
第13図	H10 I区北壁土層図	43
第14図	H10 II区西壁土層図	44
第15図	H10 II区東壁土層図	44
第16図	H10 II区南半北壁土層図	45
第17図	H10 III区東壁土層図	46
第18図	H10 III区南半北壁土層図	47
第19図	カマド模式図	48
第20図	SHa101 平・断面図、出土遺物	49
第21図	SHa102・103 平・断面図、出土遺物	50
第22図	SHa104 平・断面図、出土遺物	51
第23図	SHa105 平・断面図	52
第24図	SHa105 カマド平・断面図	53
第25図	SHa105 出土遺物	54
第26図	SHa106 平・断面図、カマド平・断面図	55
第27図	SHa106 出土遺物	56
第28図	SHa107 平・断面図	57
第29図	SHa107 カマド平・断面図、出土遺物	58
第30図	SHa108 平・断面図、カマド平・断面図、出土遺物	60

第31図	SHa109 平・断面図	61
第32図	SHa109 カマド平・断面図、出土遺物	62
第33図	SHa110 平・断面図、出土遺物	63
第34図	SHa111 平・断面図、出土遺物	64
第35図	SHa201 平・断面図、カマド平面図、出土遺物1	65
第36図	SHa201 カマド平・断面図、出土遺物2	66
第37図	SHa201 出土遺物3	67
第38図	SHa201 出土遺物4	68
第39図	SHa202 平・断面図、出土遺物	69
第40図	SHa203 平・断面図、カマド平・断面図、出土遺物	70
第41図	SHa204 平・断面図	71
第42図	SHa204 カマド平・断面図、出土遺物1	72
第43図	SHa204 出土遺物2	73
第44図	SHa205 平・断面図、カマド平・断面図	74
第45図	SHa205 出土遺物	75
第46図	SHa206 平・断面図、カマド平・断面図、出土遺物	76
第47図	SHa207 平・断面図、出土遺物	77
第48図	SHa208 平・断面図	78
第49図	SHa208 カマド平・断・立面図、出土遺物1	79
第50図	SHa208 出土遺物2	80
第51図	SHa209 平・断面図、出土遺物	81
第52図	SHa210 平・断面図、出土遺物	82
第53図	SHa211 平・断面図、カマド平面図	84
第54図	SHa211 出土遺物1	85
第55図	SHa211 出土遺物2	86
第56図	SHa212 平・断面図、出土遺物	86
第57図	SHa213 平・断面図、出土遺物	87
第58図	SHa214 平・断面図	89
第59図	SHa214 出土遺物1	90
第60図	SHa214 出土遺物2	91
第61図	SHa215・SHa217 平・断面図	92
第62図	SHa217 出土遺物	92
第63図	SHa216 平面図、カマド部拡大断面図	93
第64図	SHa216 出土遺物	94
第65図	SHa301・302・303・SDa301 平・断面図	95
第66図	SHa301 出土遺物	96
第67図	SHa302 出土遺物	96
第68図	SHa304 平・断面図	97
第69図	SHa305 平・断面図	98
第70図	SHa306 平・断面図	99
第71図	SHa306 出土遺物	99
第72図	SHa307 平・断面図、出土遺物	100
第73図	SHa308 平・断面図、出土遺物1	101
第74図	SHa308 出土遺物2	102
第75図	SHa309 平・断面図、出土遺物	103
第76図	SHa310 平・断面図、出土遺物	105
第77図	SHa311 平・断面図、出土遺物	106
第78図	SHa312 平・断面図	106
第79図	SHa312 出土遺物	107
第80図	SHb101 平・断面図	108
第81図	SHb101 出土遺物	109
第82図	SHb102 平・断面図、出土遺物	110
第83図	SHb103 平・断面図	111
第84図	SHb104 平面図、出土遺物	112
第85図	SHb105 平・断面図、出土遺物	113

第86図	SHb106	平・断面図、出土遺物	114
第87図	SHb107・108	平・断面図、出土遺物	115
第88図	SHb109	平・断面図、出土遺物	116
第89図	SHb201	平・断面図、出土遺物	116
第90図	SHb202	平・断面図、出土遺物	117
第91図	SHb203	平・断面図	118
第92図	SHb203	カマド平・断面図、出土遺物	119
第93図	SHb204	平・断面図	121
第94図	SHb204	平面図、出土遺物	122
第95図	SHb205	平・断面図	123
第96図	SHb205	カマド平・断面図	124
第97図	SHb205	断面図	125
第98図	SHb205	出土遺物1	126
第99図	SHb205	出土遺物2	127
第100図	SHb206	平・断面図	128
第101図	SHb206	炭化物・土器出土状況	129
第102図	SHb206	平面図	130
第103図	SHb206	出土遺物1	131
第104図	SHb206	出土遺物2	132
第105図	SHb206	出土遺物3	133
第106図	SBb101	平・断面図	134
第107図	SBb102	平・断面図	135
第108図	SBb103	平・断面図	136
第109図	SBb201	平・断面図	137
第110図	SKb101・103・104・105・107	平・断面図、出土遺物	138
第111図	SKb201・206	平・断面図	139
第112図	SKb301・302	平・断面図	140
第113図	H9 I区SP	断面図、出土遺物	141
第114図	H9 II区SP	断面図、出土遺物	142

第115図	H9 III区SP	断面図、出土遺物	142
第116図	H10 I区SP	断面図、出土遺物1	143
第117図	H10 I区SP	断面図、出土遺物2	144
第118図	H10 I区SP	断面図、出土遺物3	145
第119図	H10 I区SP	出土遺物4	146
第120図	H10 II区SP	断面図、出土遺物	146
第121図	H10 III区SP	断面図	147
第122図	SDb101	断面図、出土遺物	147
第123図	SRa101	断面図、出土遺物	148
第124図	SRa301	断面図、出土遺物1	150
第125図	SRa301	出土遺物2	151
第126図	SRa302	断面図、出土遺物	152
第127図	SRb301	断面図、出土遺物	153
第128図	SRb302	断面図、出土遺物	154
第129図	SXb101	平・断面図、出土遺物	154
第130図	SXb201	平・断面図	155
第131図	H9 I区包含層	出土遺物	155
第132図	H9 II区包含層	出土遺物	157
第133図	H9 III区包含層	出土遺物	158
第134図	H10 I区包含層	出土遺物	158
第135図	H10 II区包含層	出土遺物	159
第136図	H10 III区包含層	出土遺物1	160
第137図	H10 III区包含層	出土遺物2	161
第138図	H10 II区北包含層	出土遺物	162
第139図	その他	出土遺物	162
第140図	分析を行った玉類		164
第141図	蛍光X線分析スペクトル図		164
第142図	住屋遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真		167
第143図	住屋遺跡 SHa205 P01 柱材の木材組織写真		169
第144図	遺構変遷図		171

## 表目次

### 川北遺跡

第1表	平成10年度発掘調査体制一覧表	2
第2表	平成26年度整理作業体制一覧表	2
第3表	中世建物一覧表	11
第4表	古代建物一覧表	23
第5表	土器観察表	27
第6表	瓦観察表	29
第7表	金属器観察表	29

### 住屋遺跡

第1表	体制表	32
第2表	分析対象一覧	163
第3表	玉類の半定量分析結果(重量%)	163
第4表	分析試料と産地推定	164
第5表	住屋遺跡出土炭化材の樹種同定結果	165
第6表	住屋遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧	166
第7表	土器観察表	175
第8表	瓦観察表	204
第9表	石器観察表	205
第10表	金属器観察表	205
第11表	玉観察表	205
第12表	木器観察表	205
第13表	種子観察表	206

# 図版目次

巻頭図版1 住屋遺跡 SHa211 出土遺物  
巻頭図版2 住屋遺跡 SHb101 床面出土土塊  
巻頭図版3 住屋遺跡 SKb201 出土焼灰

## 川北遺跡

図版1 写真1 全景 西から  
写真2 全景 南から  
図版2 写真3 調査前風景 東から  
写真4 SB201 完掘状況 南から  
写真5 SB201・SP2363 断面 北から  
図版3 写真6 SB201・SP2267 断面 南から  
写真7 SB201・SP2270 断面 西から  
写真8 SK201 断面 北から  
図版4 写真9 第1面全景 南から  
写真10 SK101 断面 東から  
写真11 SK102 断面 東から  
図版5 写真12 SD102 断面 北から  
写真13 SD12 断面 南から  
写真14 SD106 断面 西から  
図版6 写真15 SD106 土器出土状況 北から  
写真16 SP1034 断面 東から  
写真17 SP1062 瓦器検出土状況 東から  
図版7 写真18 SP1155 断面 東から  
写真19 SP1134 遺物出土状況 北から  
写真20 南壁断面 北から  
図版8 写真21 出土遺物

## 住屋遺跡

図版9 遺跡透景 南から  
図版10 遺跡透景 南から  
遺跡透景 北から  
図版11 H9 I区・Ⅲ区 西から  
H9 I区下層 西から  
図版12 H9 I区下層 東から  
H9 Ⅱ区 西から  
図版13 H10 I区南半・Ⅱ区北半 東から  
H10 Ⅱ区南半・Ⅲ区南半 東から  
図版14 H10 I区北半・Ⅲ区北半 東から  
H10 I区北半・Ⅲ区北半 西から  
図版15 H9 I区西壁断面1 東から  
H9 I区西壁断面2 東から  
H9 Ⅱ区中央全景 東から  
H9 Ⅱ区南半全景 北から  
H9 Ⅲ区全景 南から  
H9 SHa101 全景 南東から  
H9 SHa102・103 全景 南から  
H9 SHa104 全景 南東から  
図版16 H9 SHa104 カマド 北東から  
H9 SHa105 西側カマド 東から  
H9 SHa105 東側カマド 南から  
H9 SHa105 カマド 北から  
H9 SHa106 カマド支脚出土状況 南東から  
H9 SHa106 カマド 南東から  
H9 SHa106 カマド支脚部分断面 東から  
H9 SHa106 カマド完掘 南東から

図版17 H9 SHa107 全景 北から  
H9 SHa107 断面 西から  
H9 SHa108 全景 南から  
H9 SHa109 全景 西から  
H9 SHa109 カマド 東から  
H9 SHa109 カマド 南から  
H9 SHa109 カマド完掘 東から  
H9 SHa109 カマド完掘 南から  
図版18 H9 SHa110 断面 南から  
H9 SHa110 出土土器(飯) 南南東から  
H9 SHa201 カマド土器出土状況 南から  
H9 SHa201 カマド土器出土状況 西から  
H9 SHa201 カマド支脚出土状況 東から  
H9 SHa201 カマド支脚出土状況 南から  
H9 SHa201 支脚出土状況 南から  
H9 SHa204 カマド堆積状況断面 南から  
図版19 H9 SHa204 カマド 南から  
H9 SHa206 全景 南から  
H9 SHa206 カマド土器出土状況 西から  
H9 SHa206 カマド土器出土状況 北から  
H9 SHa208 全景 東から  
H9 SHa208 カマド土器出土状況 南から  
H9 SHa208 カマド完掘 南東から  
H9 SHa208 カマド 南東から  
図版20 H9 SHa208 カマド支脚出土状況 南東から  
H9 SHa208 カマド壁面断ち割り 南東から  
H9 SHa208 カマド支脚出土状況 南から  
H9 SHa208 カマド完掘 南東から  
H9 SHa208 カマド完掘 北東から  
H9 SHa208 カマド完掘状況 南東から  
H9 SHa209・211 全景 北から  
H9 SHa210 全景 北から  
図版21 H9 SHa211 遺物出土状況 北から  
H9 SHa211 床面土器出土状況 北から  
H9 SHa211 東壁土層 西から  
H9 SHa213 全景 東から  
H9 SHa214 全景 東から  
H9 SHa305 全景 北西から  
H9 SHa306 土器集中部 北から  
H9 SHa306 断面 西から  
図版22 H9 SHa306 全景 南から  
H9 SHa307 全景 西から  
H9 SHa309 全景 南から  
H9 SHa310 全景 南から  
H9 SPa207 土器出土状況 西から  
H9 SRa101 完掘 北から  
H10 I区 西半柱穴群 北から  
H10 I区 西壁断面 東から  
図版23 H10 I区南半 全景 西から  
H10 I区南半 全景 西から  
H10 I区北半 遺構検出状況(西半) 南から  
H10 I区北半 遺構検出状況(中央) 南から  
H10 I区北半 遺構検出状況(東半) 南から  
H10 I区北半 遺構検出状況 西から  
H10 I区北半 全景 西から  
図版24 H10 I区北半 完掘 南から

	H10 II区 遺構検出状況 南から		H10 SHb206 全景 南から
	H10 II区 遺構検出状況 南から		H10 SHb206 炭化材検出状況 西から
	H10 II区 全景 南から		H10 SHb206 炭化材検出状況 南から
	H10 II区 全景 南から	図版 32	H10 SHb206 炭化材検出状況 西から
	H10 III区 南部 全景 南から		H10 SHb206 断面 西から
	H10 III区 完掘状況全景 南から		H10 SHb206 ベッド状遺構炭化材検出状況 南から
図版 25	H10 III区 下層確認トレンチ		H10 SHb206 ベッド状遺構土器出土状況 南から
	H10 III区 東壁土層 西から		H10 SHb206 中央土坑 東から
	H10 III区 南端東西トレンチ拡張土層 南から		H10 SHb206 中央土坑 南から
	H10 SDb201 全景 北東から		H10 SHb206 中央土坑断面 南西から
	H10 SHb101 カマド 西土器出土状況 南から	図版 33	H10 SHb206 中央土坑断面 北東から
	H10 SHb101 断面 北から		H10 SHb206 中央土坑 南から
	H10 SHb102 P04 断面 北から		H10 SHb206 完掘状況 南から
	H10 SHb102 P05 断面 北から		H10 SKb302 断面 西から
図版 26	H10 SHb102 カマド 土器出土状況 南から		H10 SKb105 焼罎・炭化物出土状況 南から
	H10 SHb102 完掘 南から		H10 SKb105 断面 南から
	H10 SHb104 貼床面 東から		H10 SKb201 断面 南から
	H10 SHb104 貼床面 北東から		H10 SKb201 断面 北から
	H10 SHb106 カマド断面 南から		H10 SKb201 焼核出土状況 西から
	H10 SHb106 カマド断面 南から	図版 34	H10 SPb215 断面 南から
	H10 SHb106 カマド土器出土状況 西から		H10 SPb225 断面 南から
	H10 SHb106 完掘 西から		H10 SPb1017 土器出土状況 南から
図版 27	H10 SHb106 完掘 南から		H10 SPb1021 断面 東から
	H10 SHb107 断面 西から		H10 SPb1049 断面 南から
	H10 SHb201 断面 南から		H10 SXb101 土器出土状況 北から
	H10 SHb201・202・203 全景 北から	図版 35	出土遺物
	H10 SHb202 (SKb203) 土器出土状況 北から	図版 36	出土遺物
	H10 SHb202 断面 南から	図版 37	出土遺物
	H10 SHb202 全景 南から	図版 38	出土遺物
	H10 SHb203 カマド周辺出土土器 南から	図版 39	出土遺物
図版 28	H10 SHb203 カマド断面 南から	図版 40	出土遺物
	H10 SHb203 カマド 東から	図版 41	出土遺物
	H10 SHb203 カマド 南から	図版 42	出土遺物
	H10 SHb203 カマド内土器出土状況 南から	図版 43	出土遺物
	H10 SHb203 カマド 南から	図版 44	出土遺物
	H10 SHb203 北壁周辺完掘 南から	図版 45	出土遺物
	H10 SHb203・202・201 全景 北から	図版 46	出土遺物
	H10 SHb204 最終床面 北から	図版 47	出土遺物
図版 29	H10 SHb204 西壁土層 東から	図版 48	出土遺物
	H10 SHb204 貼床面 東から	図版 49	出土遺物
	H10 SHb204 完掘 南から	図版 50	出土遺物
	H10 SHb204 完掘 北から	図版 51	出土遺物
	H10 SHb204 完掘 南から	図版 52	出土遺物
	H10 SHb204 境土面 北西から	図版 53	出土遺物
	H10 SHb205 全景 南から	図版 54	出土遺物
	H10 SHb205 南北アゼ土層 西から	図版 55	出土遺物
図版 30	H10 SHb205 東西アゼ土層 北から	図版 56	出土遺物
	H10 SHb205 全景 南から	図版 57	出土遺物
	H10 SHb205 完掘 北から	図版 58	各遺構 出土遺物 (玉類)
	H10 SHb205 カマド 南から		各遺構 出土遺物 (有孔円盤)
	H10 SHb205 カマド東西トレンチ (西) 南から	図版 59	各遺構 出土遺物 (紡錘車)
	H10 SHb205 カマド東西トレンチ (東) 南から		各遺構 出土遺物 (石鏝)
	H10 SHb205 カマド 南から	図版 60	各遺構 出土遺物 (スクレイパー・石匙)
	H10 SHb205 カマド内土器出土状況 南から		SHa211 出土遺物
図版 31	H10 SHb205 カマド完掘 南から	図版 61	SHa214 出土遺物
	H10 SHb205 完掘 南から		SHa301 出土遺物
	H10 SHb205 内SKb202 断面 西から	図版 62	SHb205 出土遺物
	H10 SHb205 内SKb202 南から		SHb206 出土遺物
	H10 SHb205 内下層確認トレンチ土層 東から		

# 付図

## 川北遺跡

香川県 川北遺跡（県道）第1面遺構配置図（1/150）  
香川県 川北遺跡（県道）第2面遺構配置図（1/150）

## 住屋遺跡

香川県 住屋遺跡 遺構配置図1（1/200）  
香川県 住屋遺跡 遺構配置図2（1/200）

県道白鳥引田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

## 川北遺跡

## 第1章 調査にいたる経緯と経過

### 第1節 調査にいたる経緯

四国横断自動車道建設、および県道白鳥引田線建設工事に伴い、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが予備調査を実施した結果、7,158㎡で遺物・遺構を確認したため、川北遺跡として本調査を実施することになった。このうち、県道白鳥引田線建設工事に伴う範囲は1,120㎡である。



第1図 遺跡位置図

## 第2節 調査の経過

川北遺跡では、平成10年9月1日から11月30日までの間に発掘調査を実施した。なお、隣接する四国横断自動車道部分の調査期間は平成10年8月1日から平成11年2月28日までである。

整理作業は平成26年度に実施した。遺物の実測・浄書の一部については株式会社イビソクに委託した。四国横断自動車道部分の報告書は平成16年度に刊行している。

## 第3節 調査体制・整理体制

発掘調査および整理作業の体制は以下のとおりである。

第1表 平成10年度発掘調査体制一覧表

香川県教育委員会事務局 文化行政課		財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	
総括		総括	
課長	小原 克己	所長	菅原 良弘
課長補佐	北原 和利	次長	小野 善範
総務		総務	
副主幹（兼）係長	西村 隆史	参事	別枝 義昭
係長	中村 植伸	副主幹（兼）係長	田中 秀文
主査	三宅 陽子	主査	新 一郎
主査	松村 崇史	調査	
埋蔵文化財		参事	長尾 重盛
副主幹	渡部 明夫	主任文化財専門員	大山 眞光
係長	西村 尋文	文化財専門員	濱松 春海
主任技師	塩崎 誠司	技師	長井 博志
		嘱託（調査技術員）	多田 幸

第2表 平成26年度整理作業体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター	
総括		総括	
課長	増田 宏	所長	真鍋 昌宏
副課長	川上 泰	次長	前田 和也
総務・生涯学習推進グループ		総務課	
副主幹	松山下美子	課長（兼務）	前田 和也
主事	和木 麻佳	主任	俣野 英二
文化財グループ		主任	寺岡 仁美
課長補佐	片桐 孝浩	主任	中川 美江
主任文化財専門員	山下 平重	主任	高木 秀哉
文化財専門員	松本 和彦	主任	岩崎 昌平
		資料普及課	
		課長	森 格也
		文化財専門員	乗松 真也
		嘱託	大林真沙代
		嘱託	岡本 光代
		嘱託	甲斐美智子
		嘱託	葛西 薫
		嘱託	佐々木博子
		嘱託	西本 智子
		嘱託	森國 愛子

## 第2章 立地と環境

### 第1節 地理的環境

川北遺跡は香川県東かがわ市小海に所在する。

香川県は四国の北東部の一角を占め、四国島の一部と瀬戸内海上の島嶼部で構成されている。県南端部は東西に讃岐山脈が伸び、徳島県境となる。東かがわ市は県東端に位置し、面積は153平方km、2014年11月現在の人口は約33,000人である。北東は播磨灘に面し、南は讃岐山脈によって画される。市域にはさほど広くない平野が海岸沿いに並び、川北遺跡は大きく湾入する引田湾背後の小海川と古川に挟まれた小さな平野を望む場所に立地する。この平野にはわずかに条里型地割（木下1999）が認められ、その北の地割が乱れる部分は、かつては湿地状を呈していたと考えられる。

### 第2節 歴史的環境

川北遺跡が所在する東かがわ市小海は、近世以降、1955（昭和30）年までの小海村の範囲にあたる。小海村は1955年に引田町、相生村と合併して誕生した引田町の大字小海となり、さらに2003（平成15）年に引田町、大内町、白鳥町との合併により東かがわ市小海となった。

川北遺跡周辺は、古代讃岐国を構成していた11郡の東端、大内郡4郷のうちのひとつ、引田郷に属していた。引田郷は現在の東かがわ市馬宿・小海・黒羽・坂元・南野・引田・吉田に比定され、西で白鳥郷に隣接し、東・南では阿波国板野郡と接する。

15世紀半ばの「兵庫北関入船納帳」には11隻の引田船籍が登場し、「後法興院記」には15世紀末に京都の聖護院門跡遺興が備前国児島から「ヒケタ」に着いたと記される。これらの史料からは、引田が15世紀にはそれなりの港として機能していたことがわかる。

古代南海道は、都から紀伊、淡路、阿波の各国を経て讃岐国にいたる。南海道の路線は讃岐国ではまず東端の引田郷を横断し、その後西接する大内郷へ向かうと考えられている。「延喜式」兵部省にある引田駅の通称地でもあり、郷内に駅が置かれた蓋然性は高いが、馬宿を駅とする説は地名に含まれる「馬」「宿」以外の根拠に乏しい。引田郷で知られている古代の遺構や遺物は多くない。馬宿畑方遺跡では奈良時代とされる製塩土器が出土し、小海川右岸の小海荒井遺跡では7世紀の須恵器が出土しているという。また、いくつかの地点では古代の遺物が少量採取されている。

小海川左岸の丘陵上には6世紀後葉構築の川北1号墳が存在する。大振りの石を用いた大型の横穴式石室をもつ古墳だが、周辺には前段階に位置づけられる古墳が皆無で、6世紀後葉に突如出現した印象を受ける。おそらく、複数郷一団単位程度の範囲のなかで被葬者により選地されているのだろう。



木下晴一 1999「引田城下町の歴史地理学的検討」より一部改造して引用

第2図 周辺微地形分類図

## 第3章 発掘調査の記録

### 第1節 調査の方法

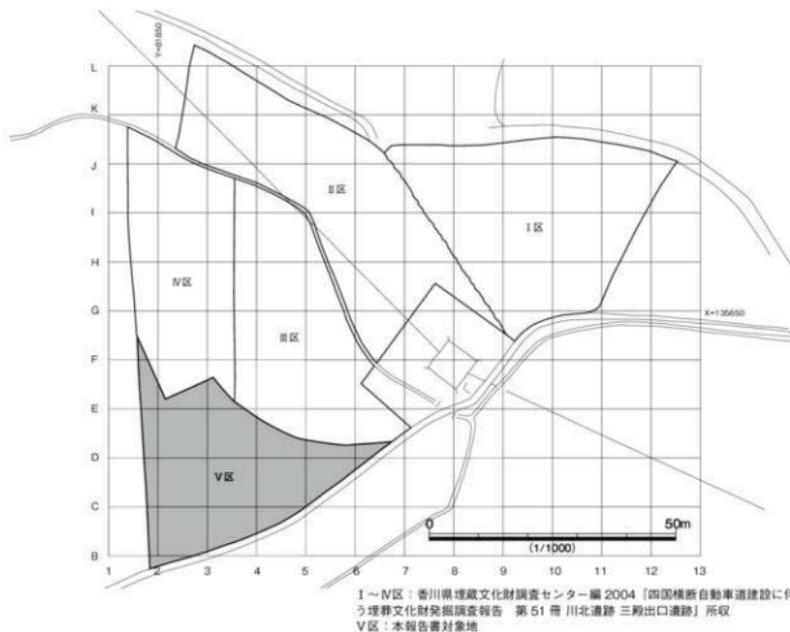
四国横断自動車道建設に伴う調査対象地を含め、I～V区の調査区に分割して調査を実施した。このうち、本書が対象とする県道白鳥引田線建設に伴うのはV区である。I～V区全体に1辺10mの正方形グリッドを設定したが、V区の調査ではグリッドが活かされていない。

発掘調査では、遺構面までは重機を用いて掘削し、遺構検出や遺構の掘り下げは人力で行った。全体の平面図は航空測量により作成した。

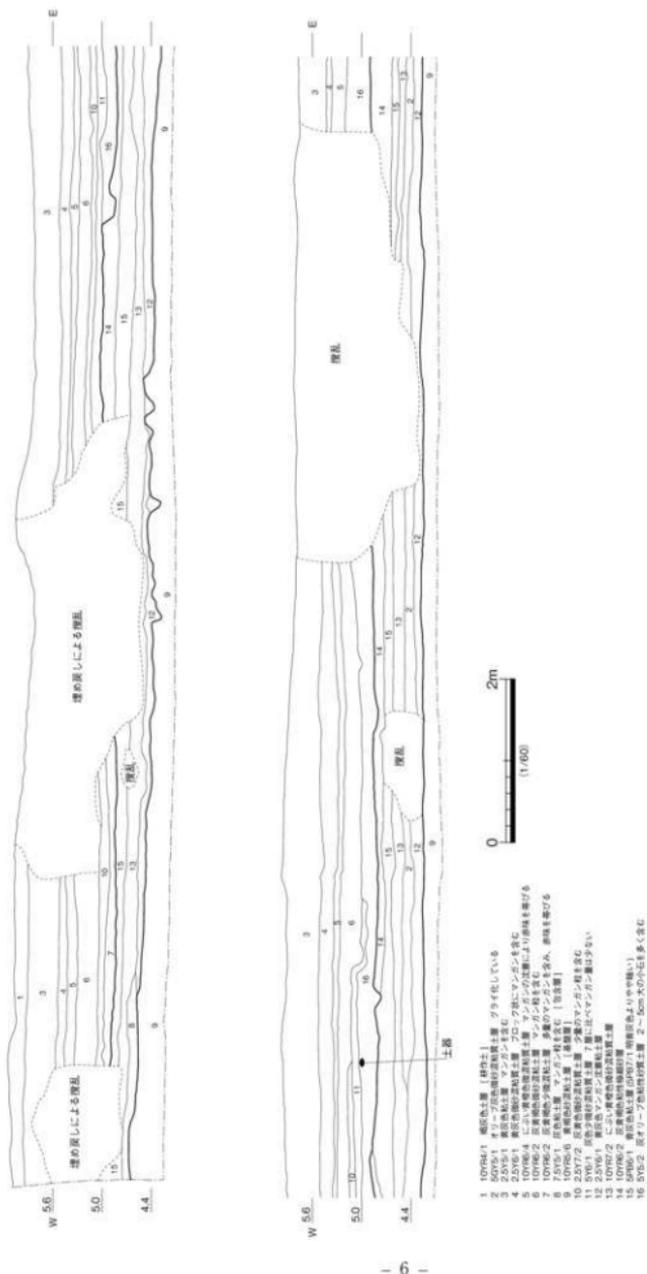
### 第2節 層位

V区では2面の遺構面を確認しており、上位を第1遺構面、下位を第2遺構面とする。第1遺構面には古代末～中世、第2遺構面には古代の遺構が展開する。両遺構面ともに西から東に向かって地形が下り、東西端では20～30cmの差がある。II・III区では古代～中世の流路SR01・02が北方の丘陵から流下し、I～V区を北東・南西にほぼ二分する。流路は小さな谷にあたるとみられる。V区は谷の南西に位置し、谷へ向かう緩やかな傾斜が遺構面の標高差に表れている。

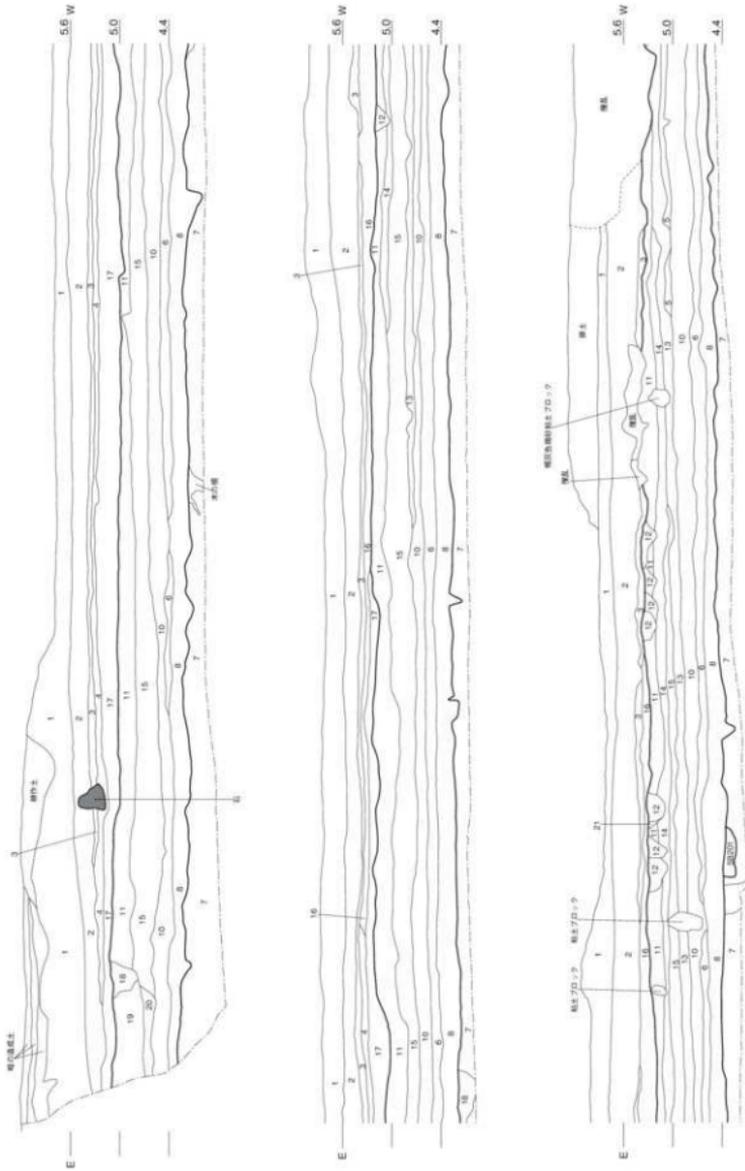
谷を挟んだ対岸のI区での遺構面は古代（7世紀中葉～8世紀中葉）の1面しか確認されていない。



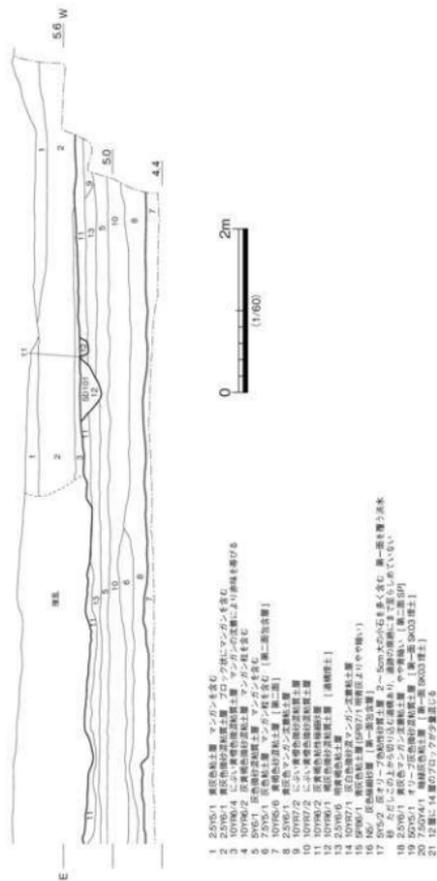
第3図 調査区割図



第4図 北壁土層図



第5図 南壁土層図1



第6図 南壁土層図2

### 第3節 古代の遺構

下層で検出した遺構を古代の遺構としたが、遺構に伴うかたちで時期決定可能な遺物が出土しているわけではない。掘立柱建物SB201の主軸方向が、I区で検出した8世紀前葉～中葉の掘立柱建物群とそろうことから同時期と判断した。

#### 掘立柱建物

##### SB201 (調査時遺構名：V区第2面SB01)

調査区南端で検出した掘立柱建物である。柱穴の並びはややいびつで、東辺の方向もややずれるが、周辺に同時期の柱穴がみられないため、梁間2間(6.4m)、桁行3間(7.6m、9.0m)、主軸方向N87°Wの建物として復元した。柱穴の平面形はいびつな隅丸方形で、掘りかたの平面規模は80～120cm、深さは30～50cmである。北東隅のSP2264を除く8基で柱痕を確認している。

遺物 遺物は出土していない。

時期 隣接するI区で確認されている8世紀前葉～中葉の建物群と主軸方向を同じくすることから同時期とみたい。

#### 土坑

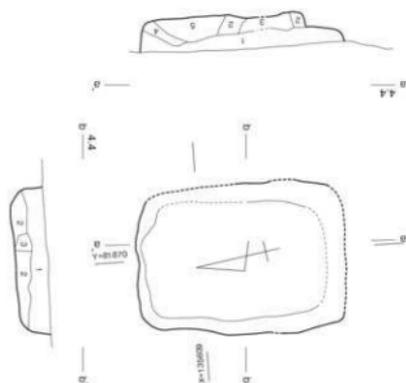
##### SK201

##### (調査時遺構名：V区第2面SK01)

調査区南東部で検出した平面長方形の土坑で、主軸方向をSB201と同じくする。

遺物 遺物は出土していない。

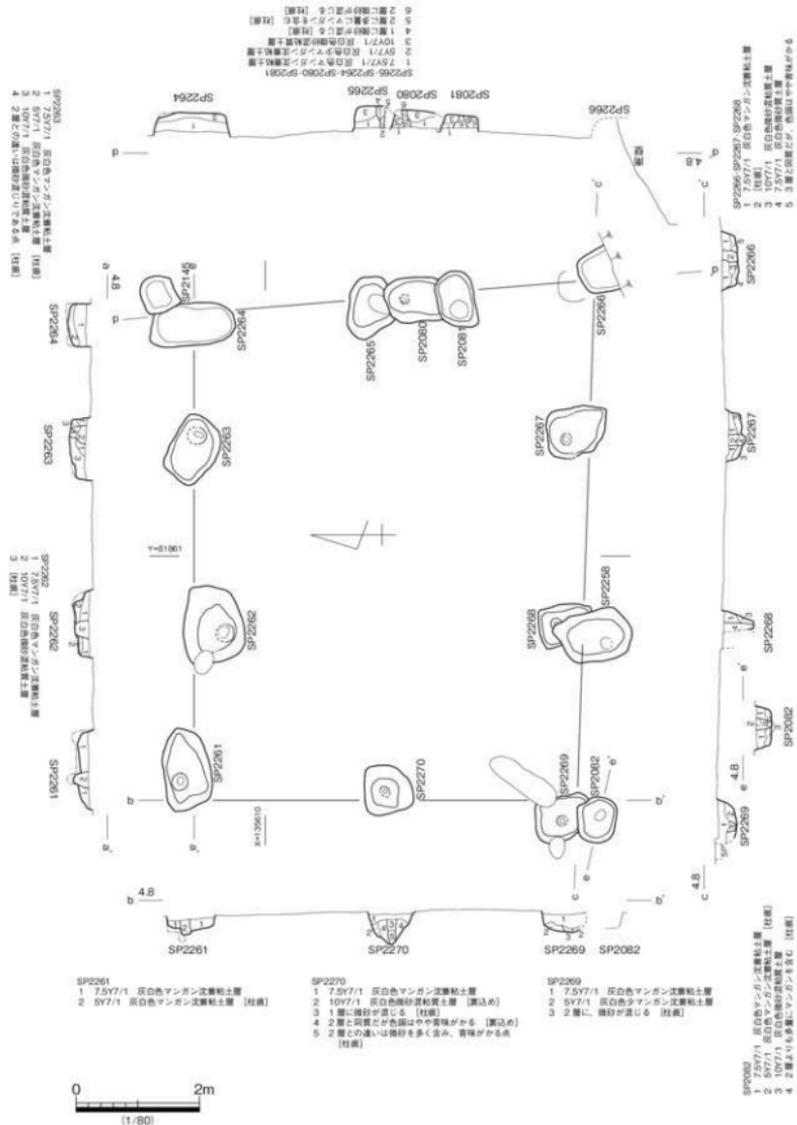
時期 SB201やI区の掘立柱建物群と同じ主軸方向のため、8世紀前葉～中葉の遺構と判断できる。



- 1 7.5V7/1 灰白色マンガン沈殿粘土層 0.5～2cm 木の炭化木刺小片 (焼け木炭ではなく、朽ちた木。周囲の草叢層にも混じっている) を多く含む
- 2 10Y7/1 灰白色マンガン沈殿粘土層
- 3 10Y7/1 灰白層時泥炭層土層
- 4 1層がやや青味がかる
- 5 2層に少量のマンガンを含む



第7図 SK201 平・断面図



第8図 SB201 平・断面図

## 第4節 古代末～中世の遺構と遺物

調査区西端部には溝が数本平行し、その東側に複数の掘立柱建物と多数の柱穴群が展開する。これらの遺構は12世紀を前後する時期と考えられる。

## 掘立柱建物

柱穴群の位置関係から掘立柱建物を復元したが、梁間の柱間距離が長すぎるものなどは、建物ではない可能性もある。主軸方向からは次の四つのグループに分けられる。

主軸1：N10° W～N15° W SB101・102・104～106・108・110

主軸2：N1° W SB111

主軸3：N16° E SB107

主軸4：N53° W SB103

第3表 中世建物一覧表

	梁間回数	桁間回数	梁間長 (m)	桁行長 (m)	面積 (㎡)	主軸グループ	備考
SB101	2	2	3.3	3.3	10.9	1	
SB102	1	2	2.2	5.0	11.0	1	
SB103	1	2	1.8～1.9	4.0	7.4	4	
SB104	2	3	4.2	4.7	19.8	1	南端は塙の可能性もある
SB105	1	2	2.4	3.5	8.4	1	
SB106	1	3	1.9	4.9	9.3	1	
SB107	2	2	3.0	4.3	12.9	3	
SB108	1	2	2.3	3.6	8.3	1	
SB110	1	2	1.1	2.9	3.2	1	
SB111	1	2	1.8	3.2	5.8	2	

## SB101 (調査時遺構名：V区第1面SB01)

遺物 1は土師質土器杯、2は須恵器甕である。1・2ともにSP1048から出土した。

時期 1から12世紀と判断できる。

## SB102 (調査時遺構名：V区第1面SB02)

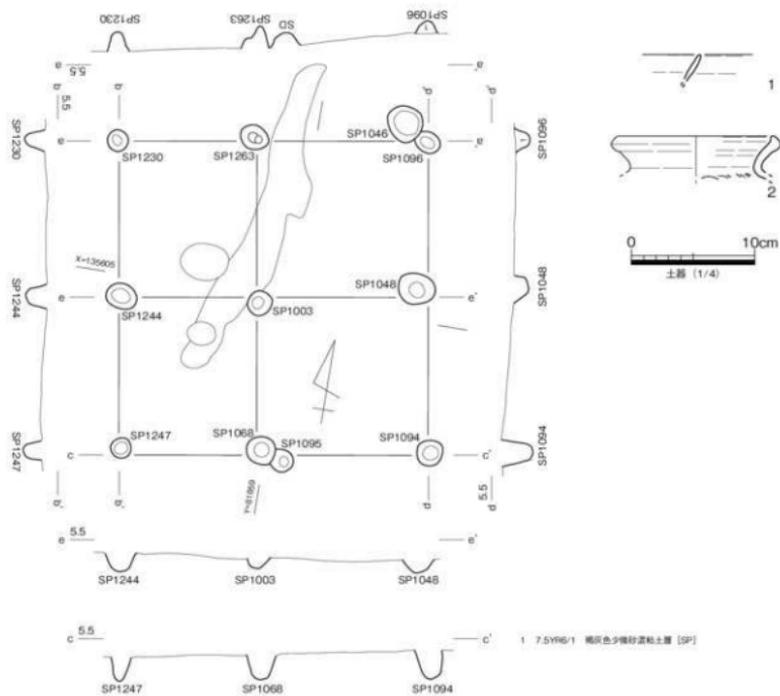
遺物 3は土師質土器小皿、4は須恵器椀、5は土師質土器杯である。管状土錘6～16も含めてすべてSP1064から出土した。6～16の孔径は0.2～0.3cmとはほぼ同じで、破損しているものの推定値を含めても重量は4.6～6.0gの幅に収まる。同一の生産地で、セットで使用されていた可能性がある。

時期 3から12世紀の遺構と考えられる。

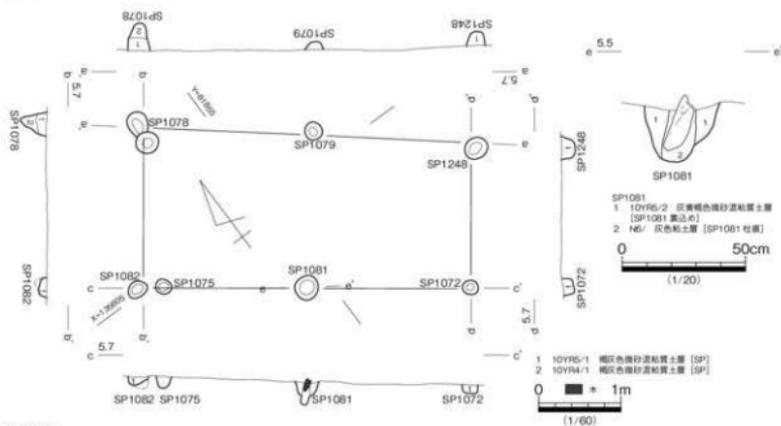
## SB104 (調査時遺構名：V区第1面SB04)

遺物 17～19は土師質土器杯、20は管状土錘である。20のつくりは6～16に近い。

時期 17～19から12世紀と判断できる。

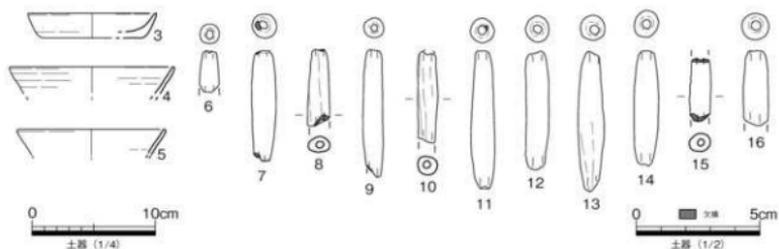
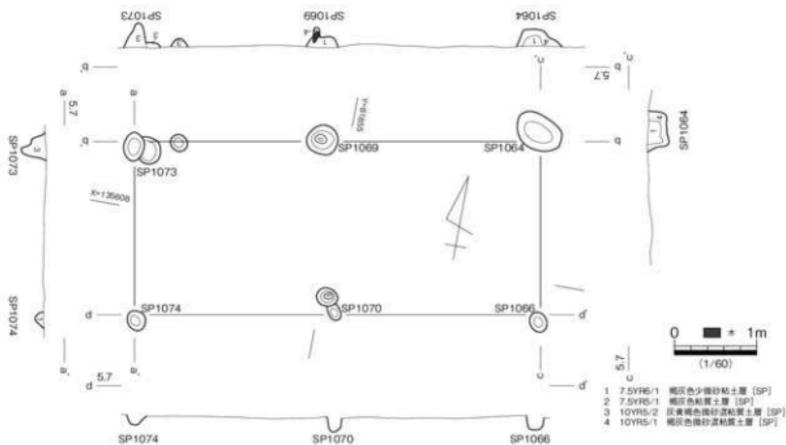


SB101



SB103

第9図 SB101・103 平・断面図、出土遺物



第10図 SB102 平・断面図、出土遺物

## SB105 (調査時遺構名：V区第1面SB05)

遺物 21は土師質土器杯、22は須恵器椀である。

時期 21から12世紀の建物と判断できる。

## SB106 (調査時遺構名：V区第1面SB06)

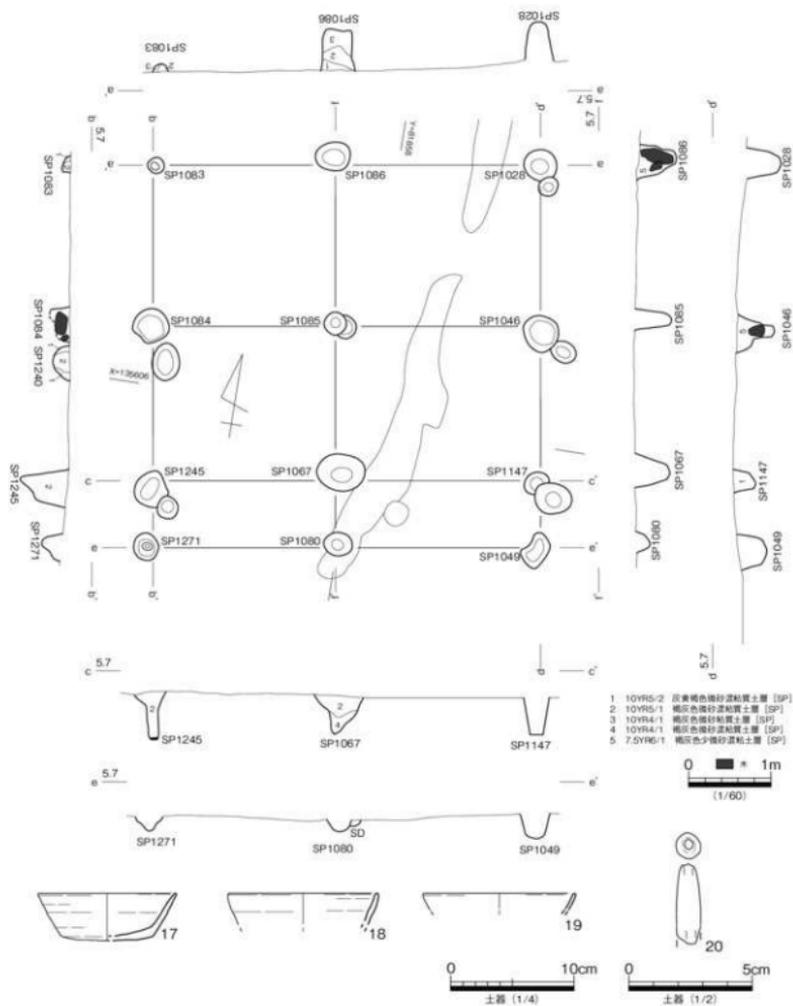
遺物 23は土師質土器杯、24は土師質土器鍋である。

時期 23から12世紀と推測できる。

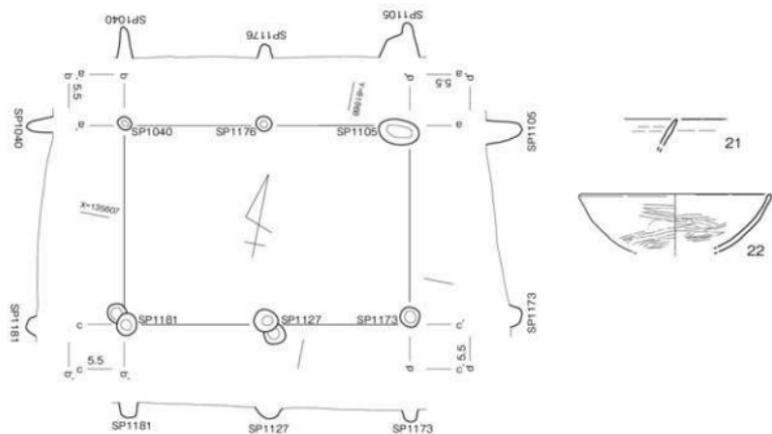
## SB107 (調査時遺構名：V区第1面SB07)

遺物 25は土師質土器杯、26は土師質土器足釜である。いずれもSP1058からの出土である。

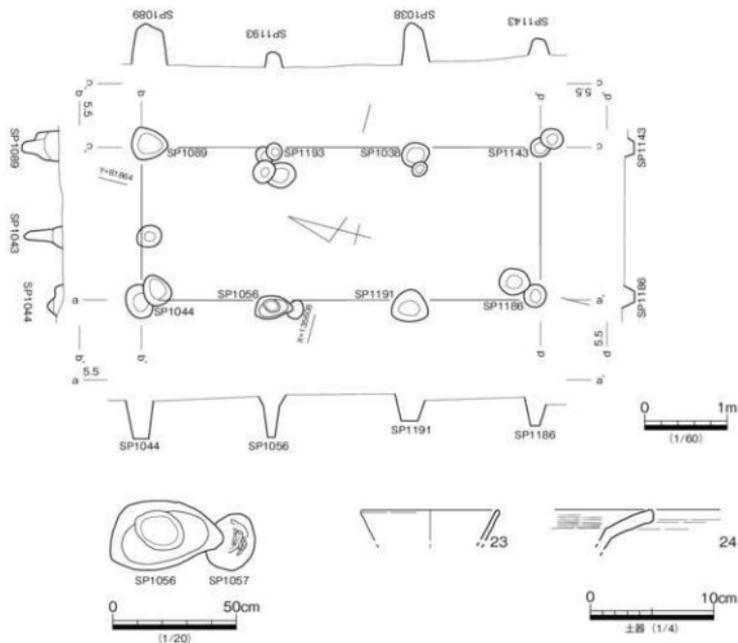
時期 26から13世紀と以降とみられるが、25の共伴を勘案すると13世紀でも限りなく早い時期とみたい。



第11図 SB104 平・断面図、出土遺物

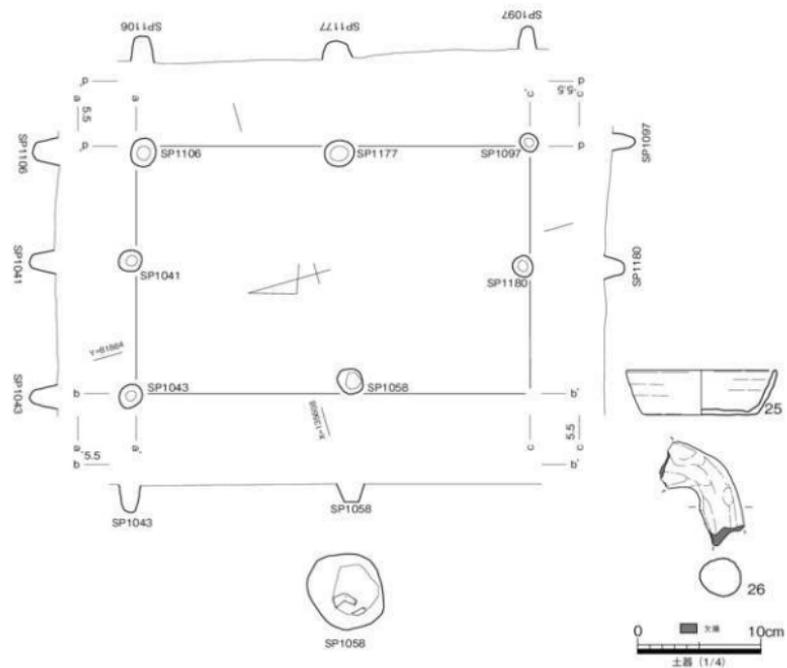


SB105

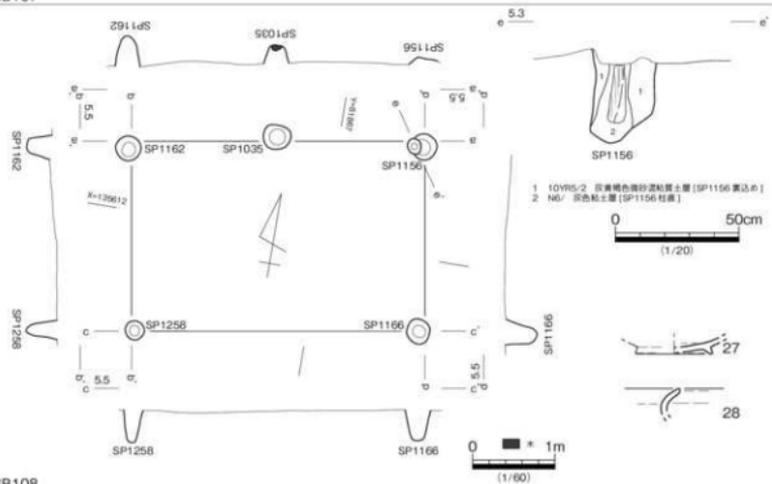


SB106

第12図 SB105・106 平・断面図、出土遺物

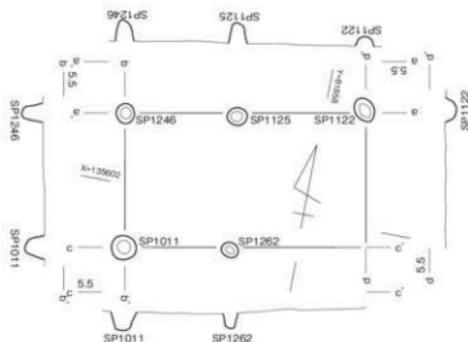


SB107

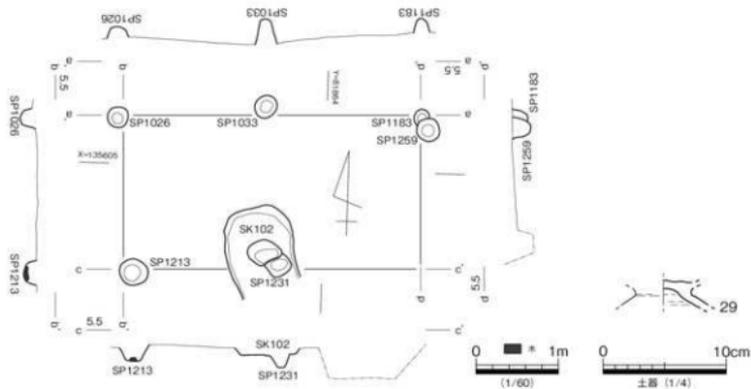


SB108

第 13 図 SB107・108 平・断面図、出土遺物



SB110



SB111

第14図 SB110・111 平・断面図、出土遺物

## SB108 (調査時遺構名：V区第1面SB08)

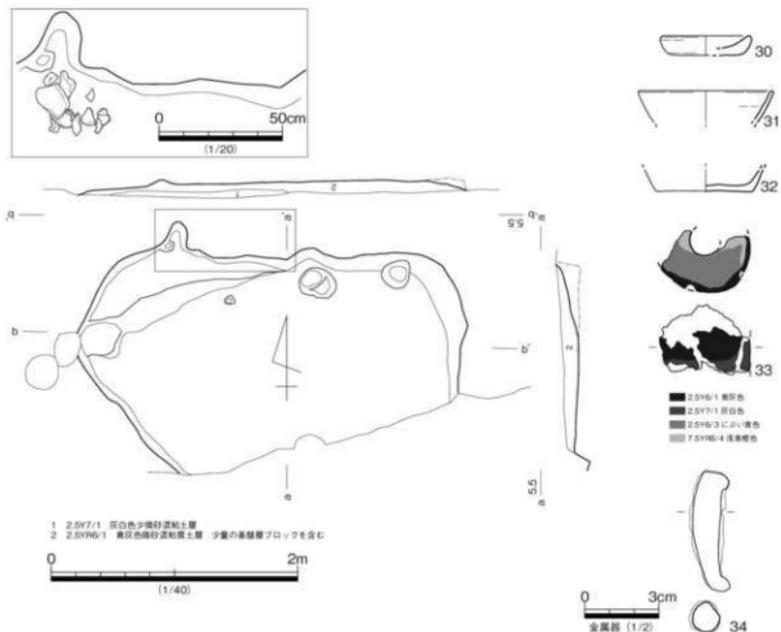
遺物 27は土師質土器椀、28は土師器甕である。

時期 27から12～13世紀の幅で建物の時期をとらえたい。

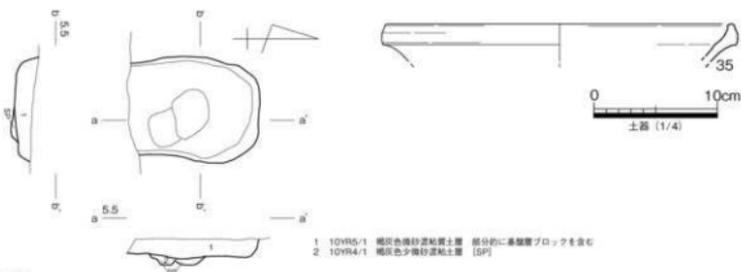
## SB111 (調査時遺構名：V区第1面SB11)

遺物 29は須恵器高杯である。本来は第2遺構面の遺構に伴うものだろう。

時期 同遺構面の他の建物と同じく12～13世紀としておきたい。



SK101



SK102

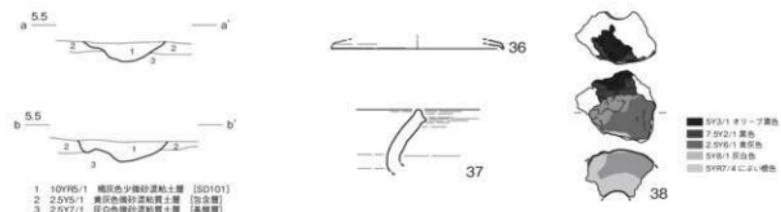
第15図 SK101・102 平・断面図、出土遺物

## 土坑

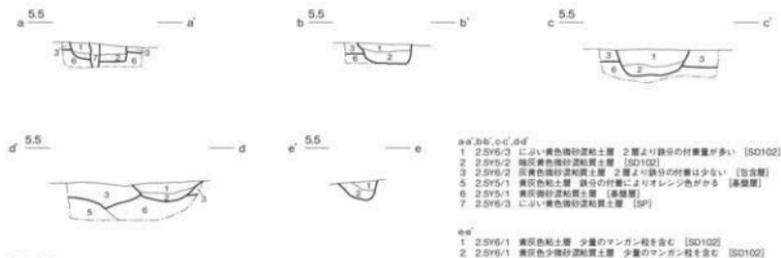
### SK101（調査時遺構名：V区第1面SK01）

V区南東部で検出した平面形不定形の土坑である。

遺物 30は土師質土器小皿、31・32は土師質土器杯である。32の底部外面には回転糸切り痕が確認できる。33は輪の羽口で外面は黄灰色～灰白色に変色し、断面にも色調の変化は表れている。34は鉄釘か。



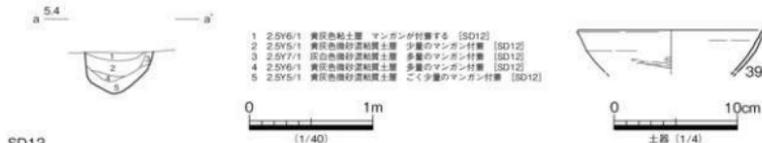
SD101



SD102



SD103



SD12

第16図 SD101・102・103・12 断面図、出土遺物

時期 30～32から12～13世紀と考えられる。

#### SK102 (調査時遺構名：V区第1面SK02)

V区南端で検出した平面長方形の土坑である。

遺物 35は東播系須恵器鉢の口縁部片である。

時期 35から12世紀と考えられる。

#### 溝

#### SD101 (調査時遺構名：V区第1面SD01)

V区西端部を地割に沿って流れる溝で、建物群を囲んで屈曲するようにもみえる。

遺物 36は須恵器蓋、37は須恵器甕である。輪の羽口38の片側端部付近は溶融のため黒色を呈している。

時期 第2遺構面に伴う蓋然性の高い36・37を除けば、出土遺物からの時期決定は困難だが、周辺遺構と同じく12～13世紀としておきたい。

#### SD12（調査時遺構名：V区SD05）

V区西端部で検出した屈曲する溝で、途中で直角に屈曲して北方では隣接するIV区の溝に連続する。

遺物 39は黒色土器か。内外面に加えて断面も黒色を呈する。内面の調整は摩滅のため判然としないうが、外面下半部にはヘラミガキがわずかに確認できる。

時期 39から12世紀後半と考えられる。

#### SD106（調査時遺構名：V区SD06）

V区北西部を東西に走る溝である。

遺物 40・41は須恵器椀である。40は摩滅が著しいが、内面にわずかなヘラミガキが確認できる。

時期 40・41から12世紀埋没の溝とみたい。

#### SP1062（調査時遺構名：V区SP62）

遺物 42は和泉型瓦器椀で、内面には格子状のヘラミガキが施される。43は須恵器椀、44は土師質土器椀である。

時期 42から12世紀後半と考えられる。

#### SP1134（調査時遺構名：V区SP134）

柱穴の中から土師質土器杯6点と銅銭3枚が出土した。

遺物 45～50は土師質土器杯である。46は底部外面に回転糸切りの痕跡が残る。内面には煤の付着と油の痕跡があり、灯明皿として使用されていたことがわかる。51は紹聖元宝（1094年鑄造）、52・53は元祐通宝（1086～1093年鑄造）である。

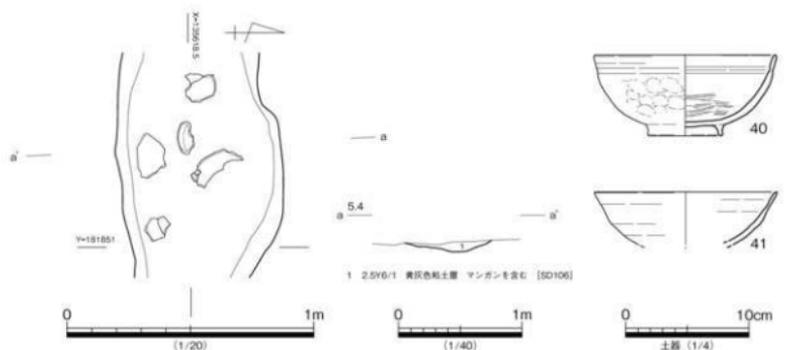
時期 出土した土師質土器杯から12世紀後半～13世紀前半と判断できる。

#### 柱穴・小穴出土遺物

鉄製品54は刃部らしき箇所をもつため鉄刀の可能性もある。棒状を呈する55は鉄釘の一部か。56～58・66・69は土師質土器小皿、59・60・63・65・67・68・70・73・74は土師質土器杯である。61は褐色を呈するが焼成不良の東播系須恵器鉢口縁部か。62・71は輪の羽口である。71の送風口から遠い箇所は灰白色を呈している。72は棒状の鉄製品である。土師器甕75は、本来は第2遺構面に伴うものだろう。

#### 遺構外出土遺物

須恵器杯76・平瓦79は第2遺構面の遺構に伴う蓋然性が高い。79は風化が著しく凸面の調整は確認できない。77は土師質土器小皿、78は土師質土器杯である。

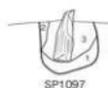


SD106

S 5.3 — N      N 5.3 — S      N 5.3 — S



SP1034  
1 10YR5/2 灰青褐色焼砂混粘質土層 [裏込め]  
2 N6/ 灰色粘土層 [柱裏]  
3 N7/ 灰白色粘土層 [裏込め]  
4 7.5YR6/1 褐色色少焼砂混粘質土層 [柱裏]  
5 N7/ 灰白色粘土層と同じだが、マンガン沈澱 [裏込め]



SP1097  
1 N7/ 灰白色粘土層 [裏込め]  
2 7.5YR6/1 褐色色少焼砂混粘質土層 [裏込め]  
3 N6/ 灰褐色砂混粘質土層 [柱裏]



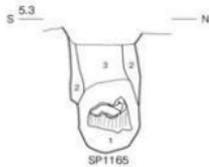
SP1150  
1 10YR5/2 灰青褐色焼砂混粘質土層 [裏込め]  
2 N6/ 灰色粘土層 [柱裏]  
3 7.5YR6/1 褐色色少焼砂混粘質土層 [柱裏]



SP1155  
1 10YR5/2 灰青褐色焼砂混粘質土層 [裏込め]  
2 N6/ 灰色粘土層 [柱裏]  
3 N6/ 灰色粘土層と同じだが、マンガンが少量含まれる [裏込め]

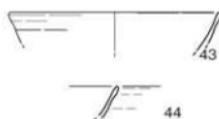
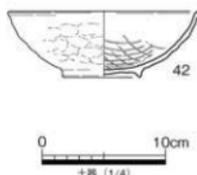
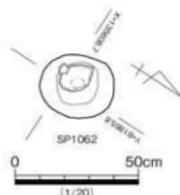


SP1160  
1 N6/ 灰色粘土層 [柱裏]  
2 7.5YR6/1 褐色色少焼砂混粘質土層 [裏込め]

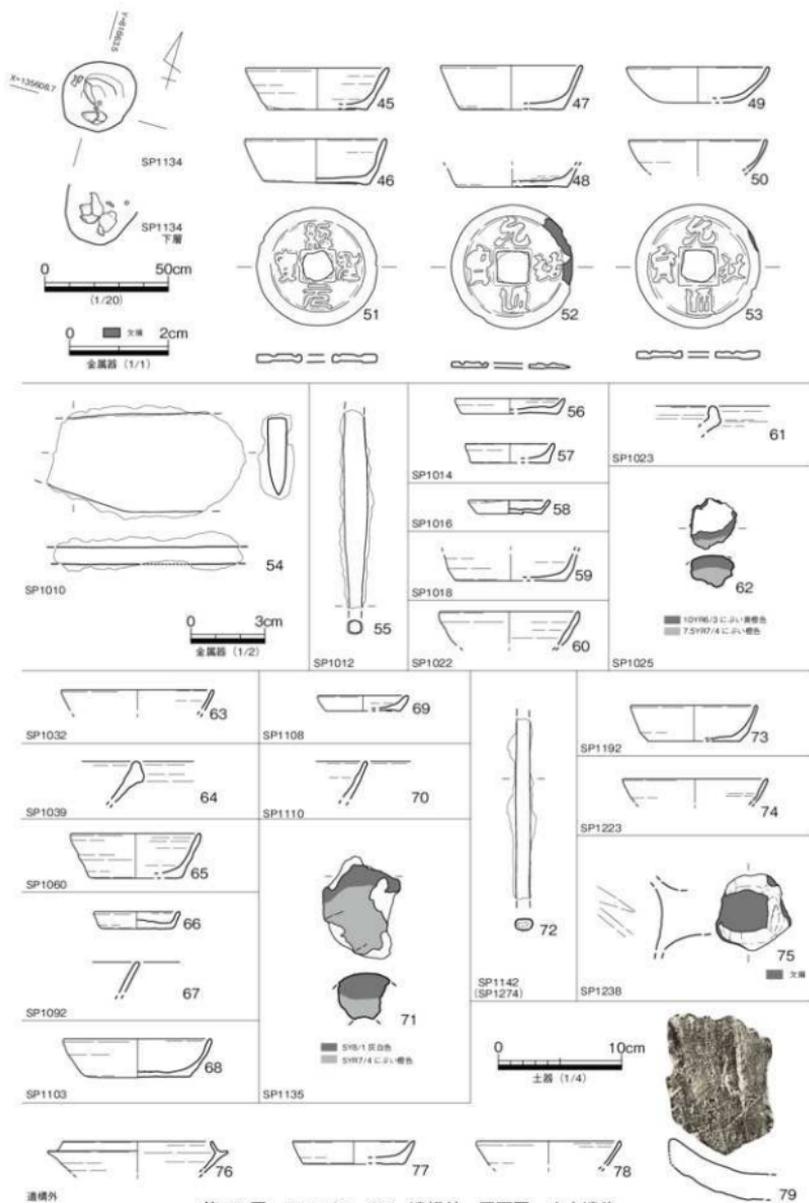


SP1165  
1 N6/ 灰色粘土層 [柱裏]  
2 10YR5/2 灰青褐色焼砂混粘質土層 [裏込め]  
3 N7/ 灰白色粘土層 [柱裏]

0 50cm  
(1/20)



第17図 SD106・SP1034・1097・1150・1155・  
1160・1165・1062 平・断面図、出土遺物



第18図 SP1134・SP・遺構外 平面図、出土遺物

## 第4章 総括

### 第1節 川北遺跡の古代掘立柱建物群

#### 1 従来の建物変遷案の問題点

川北遺跡では、今回の報告書に掲載したV区第2遺構面と、隣接するI～IV区で古代の遺構を確認した。I～IV区の遺構は「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第51冊 川北遺跡 三殿出口遺跡」(以下、「横断道報告」とする)で報告されており、「まとめ」では掘立柱建物群の変遷案が示されている(古野2004)。この変遷案は、溝出土遺物から全体の遺構を7世紀中葉、7世紀中葉～8世紀前半、8世紀前半の3時期に分けて、掘立柱建物をこれらの時期に当てはめるという方法を探る。しかし、この変遷案では建物の主軸方向を考慮せず、30～100年間に建て替えを認めない点に問題があり、本来の建物変遷とは隔たりのある蓋然性が高い。特に、建物主軸が周辺の条里型地割と合致する場合は条里施工時期の問題もはらむ。これに対して長井(2014)では、建物の主軸方向と遺跡全体の出土遺物から、7世紀後半と7世紀末～8世紀中葉の大きく2時期に分け、建物の重複関係から後者を7世紀末～8世紀前半、8世紀前葉～中葉の2時期に細分する。この細分案は、重複関係に基づき、後出する建物であれば8世紀前葉～中葉に入れる。細分時期内での建て替えを考慮しない素朴な見方を前提としており、この前提条件は疑うべきだろう。

本節では、I～IV区の再検討を踏まえて川北遺跡全体の掘立柱建物群の変遷案を提示したい。

#### 2 I区掘立柱建物群帰属時期の再検討

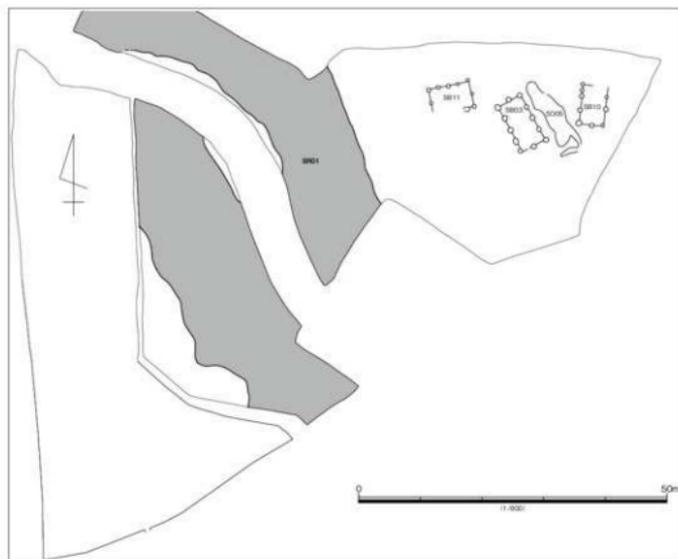
川北遺跡全体の掘立柱建物群は主軸方向で四つに大別可能で、それぞれを主軸グループ1～4とする。この主軸グループと出土遺物を勘案して建物時期を検討する。

主軸方位グループ1のSB10は出土している須恵器蓋(「横断道報告」25〔遺物番号、以下同じ〕)から7世紀中葉(様相2)(信里2002)と推測できる。

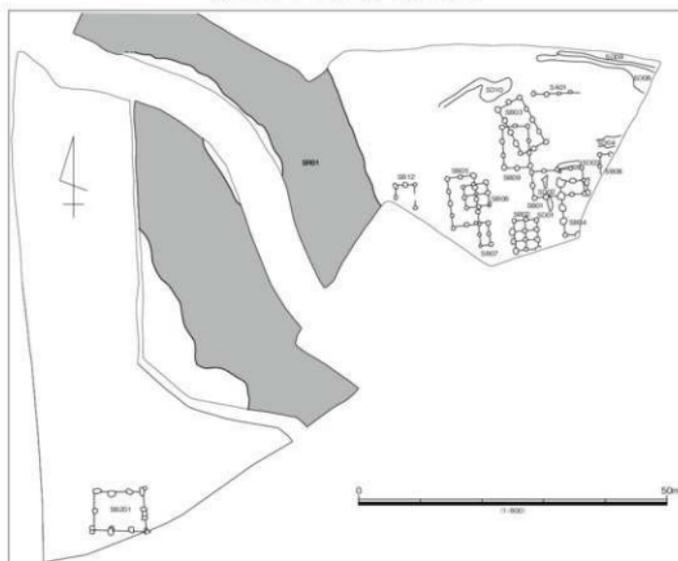
主軸方位グループ2のSB03の北東には主軸方向と同じく、SB03の東辺とはほぼ同距離の溝SD05がある。位置関係からSD05はSB03に伴うとみられる。溝SD05は8世紀前葉の須恵器蓋片(「横断道報告」57)1点を含むが、他は7世紀中葉～後葉の遺物であるため、溝の機能時期は7世紀中葉～後葉のどこかに位置づけるのが妥当であろう。ここではより新しい時期の7世紀後葉としておく。SD05と

第4表 古代建物一覧表

	梁間間数	桁行間数	梁間長(m)	桁行長(m)	梁間柱間距離(m)	桁行柱間距離(m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸グループ	遺物時期	時期	備考
SB01	2	4	4.4	8.4	2.2	2.1	37.0	3	8c前～中	8c前～中	
SB02	2	3	3.8	5.0	1.9	1.7	19.0	3		8c前～中	総柱
SB03	2	4	4.2	8.0	2.1	2.0	33.6	2	7c中～後	7c後	隣接するSD05の時期
SB04	2	4	4.6	8.4	2.3	2.1	38.6	3	8c前	8c前～中	SD01・02・03に囲まれる
SB05	2	4	4.4	8.0	2.2	2.0	35.2	3		8c前～中	
SB06	2	2	3.6	3.8	1.8	1.9	13.7	3	8c前～中	8c前～中	総柱
SB07	1	2	1.8	3.6	1.8	1.8	6.5	3		8c前～中	
SB08	1+	2+	1.8+	3.6+	1.8	1.8	6.5+	3	8c前～中	8c前～中	
SB09	2	4	4.2	6.4	2.1	1.6	26.9	3	8c前～中	8c前～中	
SB10	2	3+	4.0	6.4+	2.0	2.1	25.6+	1	7c中	7c中	
SB11	2	4	4.4	6.4	2.2	1.6	28.2	4		不明	
SB12	2	2+	3.2	3.8+	1.6	1.9	12.2+	3		8c前～中	
SEG01	2	3	6.2	8.2	3.1	2.7	50.8	3		8c前～中	桁行は2辺の平均値



第19図 7世紀中葉～後葉の遺構



第20図 8世紀前葉～中葉の遺構

SB03を同時期とするなら、SB03は7世紀後葉の建物と判断できる。

条里型地割に沿う主軸方位グループ3の建物は9棟ある。SB04は柱穴出土遺物から8世紀前葉（II-1佐藤1993）に位置づけられる。この建物の区画溝とみられるSD01・02・03も同時期だろう。柱穴の重複関係からSB04に後出することが明らかなSB01の出土遺物は8世紀前葉とみられるが中葉に下る可能性も含む。SB06・08・09からも遺物が出土しているが、いずれも8世紀前葉～中葉のどこかに属する。遺物が出土していない他の建物も同一主軸方位から8世紀中葉の可能性を含んだ8世紀前葉としておきたい。

主軸方位グループ4のSB11からは遺物が出土していないため時期特定は難しい。微妙だが、主軸グループ3に近い方位とみることもできるため、その場合は8世紀の建物になる。

主軸方位と出土遺物から再検討した結果、I区の掘立柱建物の時期をまとめると以下のようになる。

7世紀中葉	SB10
7世紀後葉	SB03
8世紀前葉～中葉	SB01・02・04～09・12
不明	SB11

### 3 V区掘立柱建物の時期

V区で検出した掘立柱建物SB201は柱穴の並びがややいびつなものの、主軸方位は南側の条里型地割と合致するグループ3である。2で検討したように、主軸方位グループ3の建物は8世紀前葉を中心とした時期になるため、SB201の構築時期も同時期と判断するのが妥当であろう。

## 第2節 川北遺跡の古代遺構変遷と条里施工時期

### 1 古代の遺構変遷

第1節での検討を踏まえて、第19・20図に調査地全体（I～V区）の遺構変遷を示した。

#### 7世紀中葉～後葉

調査地中央には谷とみられるSR01が横たわる。少ない出土遺物量からではあるが埋没時期は12世紀前後とみられる。地形を考慮すれば、深さはなくても古代以前にもこの位置に谷がある蓋然性は高い。

7世紀の掘立柱建物はSR01の左岸に構築される。7世紀中葉には掘立柱建物SB10が築かれ、SB03はおそらく7世紀後葉に下る。SB03に伴うであろうSD05も同時期である。それぞれの時期に建物は1棟ずつだが、包含層などから出土している多量の7世紀の遺物を鑑みれば、調査地外に同時期の建物群が存在する可能性はある。

#### 8世紀前葉～中葉

SR01左岸に8棟の掘立柱建物群が展開する。出土遺物から8世紀前葉～中葉を細分することが難

しいため、建物群はこの時期幅のなかで考えたい。また、重複するものもあるため、8棟は同時併存ではない。比較的規模の大きなSB04は北・西に巡る溝SD01～03をもつ。I区北端を弧状に走るSD08～10は地形に沿う溝だろう。

SR01右岸にはSB201が築かれるが、柱間の距離や面積などが左岸の建物群とはやや異なる。SR01を挟んで別々のまとまりの建物群と考えておきたい。なお、SB201は調査地際での検出のため、同時期の建物が存在する可能性はある。

## 2 川北遺跡周辺条里施工の時期

調査地南東の小海川右岸に広がる条里型地割は、主軸グループ3と地割方向を同じくする。主軸グループ3の建物9棟の構築時期は、さかのぼっても8世紀前葉に位置づけられる。引田郷の条里施工時期はこれまで明らかになっていないが、少なくとも小海川右岸の条里施工は8世紀前葉とみられる。丸亀平野での条里施工は7世紀末～8世紀前葉（森下1997）と考えられ、高松平野の一部では8世紀前葉とされている（乗松2015）。現在、条里型地割が確認できる地域すべてが同時期の条里施工とは考えにくい。郡を飛び越えて複数地域で施工される8世紀前葉前後は讃岐国における条里施工の画期とみたい。

### 参考文献

- 木下晴一 1999「引田城下町の歴史地理学的検討」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅱ』  
古野悠久 2004「まとめ」香川県埋蔵文化財センター編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第51冊 川北遺跡 三殿出口遺跡』  
長井博志 2014「川北遺跡の古代集落とその変遷」香川県埋蔵文化財センター編『香川県埋蔵文化財センター年報 平成25年度』  
乗松貞也 2015「立地と環境」香川県埋蔵文化財センター編『国道太田上町志度線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥北原西遺跡』  
森下英治 1997「丸亀平野条里型地割の考古学的検討」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要5』

### 発掘調査報告書

- 小海荒井遺跡：香川県教育委員会編 2003『香川県埋蔵文化財調査年報 平成14年度』  
川北遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2004『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第51冊 川北遺跡 三殿出口遺跡』

第5表 土器観察表

調査番号	調査地名	報告書番号	種類	器種	調整(外)	調整(内)	色調(外)・輪	色調(内)・粘土	石灰・炭石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	底径 (cm)	残存 高さ	残存 土高	備考
1	V区	SB100-SP048	土師貫土器	杯	同様ナナ	同様ナナ後部 で具蓋	75YR8.4 浅黄橙	75YR8.4 浅黄橙	中・並	中・並				(126)		1/8		
2	V区	SB102-SP064	須恵器	甕	同様ナナ	同様ナナ	5YR7.1 灰白	5YR7.1 灰白						(103)	20 (80)	1/8		
3	V区	SB102-SP064	土師貫土器	小皿	同様ナナ後部 同様ナナ	同様ナナ	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	中・並	中・少				(132)		1/8		
4	V区	SB102-SP064	須恵器	碗	同様ナナ	同様ナナ	N4 / 灰	25YR8.1 灰白						(120)		1/8		
5	V区	SB102-SP064	土師貫土器	杯	同様ナナ	同様ナナ	10YR8.2 灰白	10YR8.2 灰白								未測		
6	V区	SB102-SP064	土製品	管状土器	ナナ	ナナ	7.5YR7.8 黄橙	7.5YR7.8 黄橙	細・少	細・少				長 (17)	幅 (08)			30% 残存 重さ 0.77g
7	V区	SB102-SP064	土製品	管状土器	ナナ	ナナ	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	細・少	細・少				長 (43)	幅 (10)			90% 残存 重さ 3.72g
8	V区	SB102-SP064	土製品	管状土器	ナナ	ナナ	5Y4.1 灰	5Y4.1 灰	細・少	細・少				長 (31)	幅 (09)			50% 残存 重さ 1.81g
9	V区	SB102-SP064	土製品	管状土器	ナナ	ナナ	10YR6.1 黄灰	10YR6.1 黄灰	細・多	細・多				長 (52)	幅 (08)			90% 残存 重さ 3.12g
10	V区	SB102-SP064	土製品	管状土器	ナナ	ナナ	N3 / 黄灰	N3 / 黄灰	細・少	細・少				長 (25)	幅 (08)			70% 残存 重さ 2.09g
11	V区	SB102-SP064	土製品	管状土器	ナナ	ナナ	2.5Y4.1 黄ナリ 7灰	2.5Y4.1 黄ナリ 7灰	中・多	中・多				長 (56)	幅 (10)			100% 残存 重さ 5.96g
12	V区	SB102-SP064	土製品	管状土器	ナナ	ナナ	2.5Y6.1 黄灰	2.5Y6.1 黄灰	細・多	細・多				長 (48)	幅 (10)			100% 残存 重さ 4.61g
13	V区	SB102-SP064	土製品	管状土器	ナナ	ナナ	10YR8.4 浅黄橙	10YR8.4 浅黄橙	細・少	細・少				長 (57)	幅 (10)			90% 残存 重さ 4.77g
14	V区	SB102-SP064	土製品	管状土器	ナナ	ナナ	2.5YR.1 灰白	2.5YR.1 灰白	中・多	中・多				長 (48)	幅 (10)			100% 残存 重さ 5.10g
15	V区	SB102-SP064	土製品	管状土器	ナナ	ナナ	2.5Y4.1 黄灰	2.5Y4.1 黄灰	細・少	細・少				長 (25)	幅 (09)			40% 残存 重さ 1.71g
16	V区	SB102-SP064	土製品	管状土器	ナナ	ナナ	5YR.1 灰白	5YR.1 灰白	細・多	細・多				長 (31)	幅 (11)			50% 残存 重さ 3.45g
17	V区	SB104-SP028	土師貫土器	杯	同様ナナ後部 同様ナナ	同様ナナ	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	中・少	中・並				(112)	34 (72)	2/8		
18	V区	SB104-SP028	土師貫土器	杯	同様ナナ	同様ナナ	10YR8.4 浅黄橙	10YR8.4 浅黄橙	中・少	細・少				(120)		1/8		
19	V区	SB104-SP067	土師貫土器	杯	ヨコナナ	ヨコナナ	5YR7.6 橙	5YR7.6 橙	細・少	中・多				(122)		1/8		
20	V区	SB104-SP086	土製品	管状土器	ナナ	ナナ	2.5YR.2 灰白	2.5YR.2 灰白	細・多	細・多				長 (33)	幅 (10)			50% 残存 重さ 3.31g
21	V区	SB106-SP040	土師貫土器	杯	同様ナナ	同様ナナ	10YR7.4 に近い 黄橙	10YR7.4 に近い 黄橙	中・少	中・並				(155)		未測		
22	V区	SB106-SP127	土師貫土器	碗	ヘタミガキ	ヘタミガキ	2.5Y5.1 黄灰	2.5Y5.1 黄灰	細・少	細・並				(122)		1/8		
23	V区	SB106-SP056	土師貫土器	杯	同様ナナ	同様ナナ	7.5YR8.4 浅黄橙	7.5YR8.4 浅黄橙	中・並	中・並				(110)		1/8		
24	V区	SP067	土師貫土器	杯	ヨコナナ	ヨコナナ	10YR4.4 黄	10YR4.4 黄	細・多	中・並						1/8		
25	V区	SB107-SP058	土師貫土器	杯	同様ナナ後部 同様ナナ	同様ナナ	7.5YR6.3 に近い 黄橙	7.5YR6.3 に近い 黄橙	細・並	細・並				径 (20)	37 (90)	8/8		
26	V区	SB107-SP058	土師貫土器	足臺	ナナ	ナナ	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	中・並	中・並						破片		
27	V区	SB108-SP1166	土師貫土器	碗	同様ナナ	同様ナナ	10YR7.3 に近い 黄橙	10YR7.3 に近い 黄橙	細・並	細・並						2/8		
28	V区	SB108-SP1166	土師貫土器	甕	ヨコナナ	ヨコナナ	10YR7.3 に近い 黄橙	10YR7.3 に近い 黄橙	中・多	中・多						1/8		
29	V区	SB11-SP1033 (SP127)	須恵器	高杯	同様ナナ	同様ナナ	7.5Y7.1 灰白	7.5Y7.1 灰白								未測		

標本番号 番号	調査区名	報告場所名	種類	器種	調査(外)	調査(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	白色灰 灰土	赤色灰	黒四石	茶母	砂鉄	口径 (cm)	器高 (cm)	器径 (cm)	残存 率
30	V区 SK101	土師器	小皿	土師器	マメツ	マメツ	75YR8.4 浅黄橙	75YR7/4 に近い橙	細・少	細・少	細・少	細・少	細・少	170	16	62	2/8 未測
31	V区 SK101	土師貫土器	杯	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	細・並	細・並				(108)			1/8 未測
32	V区 SK101	土師貫土器	杯	同標ナナ・同 標茶切り	同標ナナ	同標ナナ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	細・少							78	5/8
33	V区 SK101	土師器	甕の口口	ナナ	ナナ	ナナ	2.5YR7/1 明赤橙	7.5YR8/4 浅黄橙	中・多	細・並							1/8 未測
35	V区 SK102	東播系須恵器	鉢	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少		(36.6)		1/8 未測
36	V区 SD101	須恵器	甕	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・多		(13.8)		1/8 未測
37	V区 SD101	須恵器	甕	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少				1/8 未測
38	V区 SD101	土製品	甕の口口				2.5Y6/1 黄灰	3YR7/4 に近い橙	細・並					(15.0)			1/8
39	V区 SD12	黒色土器	甕	ヨコナナ	ヨコナナ	ヨコナナ	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	細・少					(14.6)	6.6	(5.9)	1/8
40	V区 SD106	十亀山系須恵器	甕	指オヤエ・同 標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	5Y7/1 灰白・N4/ N7/ 灰白	中・並						(14.6)	6.6	(5.9)	1/8
41	V区 SD106	十亀山系須恵器	甕	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	N8/ 灰白	2.5Y7/2 黄					細・少	(14.8)			1/8
42	V区 SP1062	瓦器	甕	指オヤエ	指オヤエ	指オヤエ	5Y6/1 灰・5Y3/1 オリーブ黒	5Y3/1 オリーブ黒	細・少					(4.5)	5.4	6.1	5/8
43	V区 SP1062	須恵器	甕	不明(マメツ)	不明(マメツ)	不明(マメツ)	2.5Y8.2 灰白	2.5Y8.2 灰白					細・少	(17.0)			1/8 未測
44	V区 SP1062	土師貫土器	甕	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	10YR8.4 浅黄橙	10YR8.4 浅黄橙	中・多	中・少							1/8 未測
45	V区 SP1134	土師貫土器	杯	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	7.5YR8.2 灰白	7.5YR8.2 灰白	細・少					(11.6)	3.4	(8.2)	2/8
46	V区 SP1134	土師貫土器	杯	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	10YR7/2 に近い黄 橙	10YR7/2 に近い黄 橙	細・少	細・少				11.3	3.6	8.5	8/8
47	V区 SP1134	土師貫土器	杯	マメツ(同標 ナナ)	マメツ(同標 ナナ)	マメツ(同標 ナナ)	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	細・少	細・多				(11.4)	3.6	(8.2)	2/8
48	V区 SP1134	土師貫土器	杯	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	10YR8.1 灰白	2.5Y7/1 灰白	細・並					(1.88)	3.0	(6.4)	1/8
49	V区 SP1134	土師貫土器	杯	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	細・少	中・少				(1.10)			1/8
50	V区 SP1134	土師貫土器	杯	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	細・少					(8.8)	1.3	(7.6)	1/8
56	V区 SP1014	土師貫土器	小皿	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	細・中	中・少				(7.1)	1.6	(6.0)	1/8
57	V区 SP1014	土師貫土器	小皿	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	5YR7.6 橙	5YR7.6 橙	中・並	中・並				(6.6)	1.1	(5.2)	3/8
58	V区 SP1016	土師貫土器	小皿	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	7.5YR8.6 浅黄橙	7.5YR8.4 浅黄橙	中・中	中・並				(10.2)	2.2	(8.8)	1/8
59	V区 SP1016	土師貫土器	杯	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	10YR7/3 に近い黄 橙	10YR7/3 に近い黄 橙	中・少	中・少				(11.2)			1/8
60	V区 SP1022	土師貫土器	杯	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	中・並	中・並							1/8 未測
61	V区 SP1023	東播系須恵器	鉢	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	細・多	細・並							1/8 未測
62	V区 SP1025	土製品	甕の口口	ナナ	ナナ	ナナ	10YR6.3 に近い黄 橙		細・多	細・並				(12.2)			1/8 未測
63	V区 SP1032	土師貫土器	杯	同標ナナ	同標ナナ	同標ナナ	7.5YR8.4 浅黄橙	7.5YR8.4 浅黄橙	細・並	細・並							1/8 未測

報告書番号	報告書名称	種類	器種	調整(外)	調整(内)	色調(外)・輪	色調(内)・粘土	石灰・赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存土高	備考
64	V区 SP1009	東通系灰器	鉢	マメツ	マメツ	10YR8.4 灰黄	10YR8.4 灰黄				中・少				1/8	
65	V区 SP1060	土師貫土器	杯	同転ナ字後同転転ハタ切リ	同転ナ字	2.5YR8.1 灰白	2.5YR8.2 灰白	中・並			(84)	37	(74)		1/8	
66	V区 SP1092	土師貫土器	小皿	同転ナ字後同転ハタ切リ	同転ナ字	10YR8.3 灰黄	10YR8.3 灰黄	中・少・中・少			(68)	14	(58)		1/8	
67	V区 SP1092	土師貫土器	杯	同転ナ字	同転ナ字	7.5YR7.4 に赤い粒	7.5YR7.4 に赤い粒	中・少・中・少							1/8	
68	V区 SP1103	土師貫土器	杯	同転ナ字後同転ハタ切リ	同転ナ字	10YR8.3 灰黄	10YR8.3 灰黄	中・並			(120)	32	85	6・8	1/8	
69	V区 SP1108	土師貫土器	小皿	同転ナ字	同転ナ字	5YR7.6 黄	5YR7.6 黄	細・並・細・多			(72)	13	(60)		2/8	
70	V区 SP1110	土師貫土器	杯	同転ナ字	同転ナ字	10YR8.3 灰黄	10YR8.3 灰黄	細・少							1/8	
71	V区 SP1185	土製品	罐の口口	ナ字	同転ナ字	5YR7.4 に赤い粒	5YR7.4 に赤い粒	細・並・中・少							1/8	
73	V区 SP1192	土師貫土器	杯	同転ナ字後同転ハタ切リ	同転ナ字	10YR8.3 灰黄	10YR5.1 灰底	細・少			(82)	29	(74)		1/8	
74	V区 SP1223	土師貫土器	杯	同転ナ字	同転ナ字	10YR8.2 灰白	10YR8.2 灰白	細・並							1/8	
75	V区 SP1238	土師貫土器	皿	ナ字	転ナ字	7.5YR6.2 灰白	7.5YR6.1 灰底	細・少							1/8	
76	V区 遺構外	須恵器	杯	同転ナ字	同転ナ字	赤/灰	赤/灰白	細・多							未測	
77	V区 遺構外	土師貫土器	小皿	同転ナ字	同転ナ字	10YR6.3 に赤い黄	10YR6.3 に赤い黄	細・少							2/8	
78	V区 遺構外	土師貫土器	杯	同転ナ字	同転ナ字	10YR8.3 灰黄	10YR8.2 灰白	中・少・中・並			(96)	19	(80)		1/8	
												(11.6)			1/8	

第6表 瓦観察表

報告書番号	報告書名称	器種	調整(凸面)	調整(凹面)	色調(凸面)	色調(凹面)	白色砂粒	法面結晶	厚さ	残存率	
79	V区 遺構外	平瓦	マメツ	赤目	10YR8.3 灰黄	5Y8.1 灰白	細・並	(122)	86	2.1	破片

第7表 金属器観察表

報告書番号	報告書名称	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	備考
34	V区 SK101	釘?	49	1.5	1.2	1190	鉄	
51	V区 SP1134	鉄	24	24	0.15	2.24	鉄節固定	
52	V区 SP1134	鉄	25	25	0.1	2.60	元祐通定	
53	V区 SP1134	鉄	25	25	0.1	2.79	元祐通定	
54	V区 遺構外	鉄刀?	8.1	4.6	0.7	70.59	鉄	
58	V区 SP1012	釘?	8.1	1.4	0.5	13.12	鉄	
72	V区 SP1124		7.3	1.1	0.5	6.40	鉄	

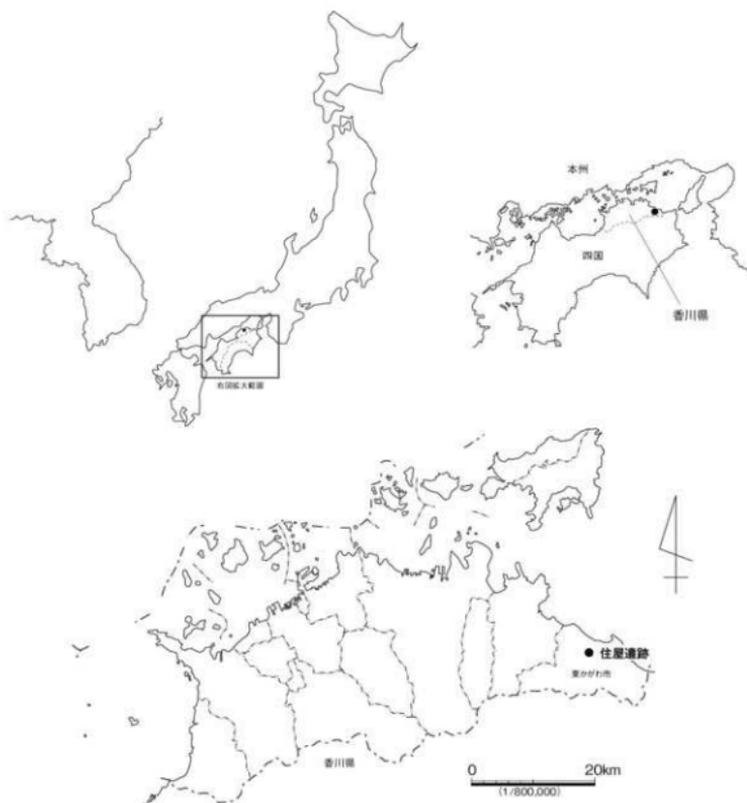
県道大内白鳥インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

## 住屋遺跡

## 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

住屋遺跡は大川郡大内町川東（現東かがわ市川東）に所在する。当時四国横断自動車道が整備途上であり、これに伴う大内白鳥インターチェンジから国道11号にアクセスするための県道大内白鳥インター線が建設されることとなった。これに先立ち、事業予定地内の埋蔵文化財包蔵状況を確認するため、平成8年9月および平成9年3月に香川県教育委員会文化行政課（現生涯学習・文化財課）によって試掘調査が実施された。その結果、試掘調査対象地のうち、2,475㎡で古墳時代を中心とした遺構・遺物を確認したため、住屋遺跡として文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断された。



第1図 日本地図

## 第2節 発掘調査および整理事業の経過

平成9年4月1日に財団法人香川県埋蔵文化財調査センター（当時）と香川県教育委員会との間で「埋蔵文化財調査契約書」が締結され、平成9年4月1日～8月31日の期間で1,275㎡を対象として調査を行った。その後平成10年4月1日にも同様の契約が締結され、平成10年4月1日～8月31日の期間で1,200㎡を対象に発掘調査した。調査は両年度とも直営方式により、調査員のべ6名で実施した。

整理事業は平成26・27年度の2カ年にわたって行い、平成26年10月～平成27年2月及び平成28年1月～3月の合計8カ月の期間で行った。平成26年度は主に基本データの整理及び出土遺物の実測を行い、平成27年度に作成図の浄書・原稿執筆・編集などを行った。平成26年度は出土遺物の実測・浄書の一部を業務委託し、業務の効率化を図った。

発掘調査及び整理事業の体制は第1表のとおりである。

第1表 体制表

平成9年度				平成10年度			
香川県教育委員会事務局 文化行政課				香川県教育委員会事務局 文化行政課			
総括	課長	菅原 良弘	総括	課長	小原 克己		
	課長補佐	北原 和利		課長補佐	北原 和利		
総務	係長	山崎 隆	総務	副主幹兼係長	西村 隆史		
	主査	星加 宏明（～531）		係長	中村 植伸		
	主査	松村 崇史（61～）		主査	三宅 陽子		
	主事	打越 和美		主査	松村 崇史		
埋蔵文化財	副主幹	渡部 明夫	埋蔵文化財	副主幹	渡部 明夫		
	文化財専門員	木下 晴一		係長	西村 尊文		
	技師	塩崎 誠司		主任技師	塩崎 誠司		
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター				財団法人香川県埋蔵文化財調査センター			
総括	所長	大森 忠彦	総括	所長	菅原 良弘		
	次長	小野 善範		次長	小野 善範		
総務	副主幹兼係長	田中 秀文（61～）	総務	副主幹兼係長	田中 秀文		
	係長	笹田 和也（～531）		主査	新 一郎（61～）		
	主任主事	西川 大		主任主事	西川 大（～531）		
調査	主任文化財専門員	大山 直光	調査	主任文化財専門員	大山 直光		
	文化財専門員	喜岡 永光		文化財専門員	池田 道雄		
	技師	小野 秀幸		技師	小野 秀幸		
	調査技術員	陶山 仁美		調査技術員	山坂 浩明		
平成26年度				平成27年度			
香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課				香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課			
総括	課長	増田 宏	総括	課長	増田 宏		
	副課長	川上 泰		副課長	小柳 和代		
総務	副主幹	松下 由美子	総務	課長補佐	愛染 伊知朗		
生涯学習	主任	白川 弘二	生涯学習	副主幹	松下 由美子		
推進グループ	主事	和木 麻住	推進グループ	副主幹	島 孝仁		
埋蔵文化財	課長補佐	片桐 孝浩		主任	石井 毅		
	主任文化財専門員	山下 平重		主任	白川 弘二		
	文化財専門員	松本 和彦		課長補佐	片桐 孝浩		
				主任文化財専門員	山下 平重		
				文化財専門員	兼松 真也		
香川県埋蔵文化財センター				香川県埋蔵文化財センター			
総括	所長	真鍋 昌宏	総括	所長	真鍋 昌宏		
	次長兼総務課長	前田 和也		次長兼総務課長	前田 和也		
総務課	主任	保野 英二	総務課	主任	寺岡 仁美		
	主任	寺岡 仁美		主任	高木 秀哉		
	主任	高木 秀哉		主任	中川 美江		
	主任	中川 美江		主任	丸尾 麻知子		
	主任	岩崎 昌平		主任	岩崎 昌平		
資料普及課	課長	森 悟也	資料普及課	課長	森 悟也		
	主任文化財専門員	森下 英治		文化財専門員	小野 秀幸		
	嘱託	市川 孝子		嘱託	伊藤 真紀		
	嘱託	中野 俊美		嘱託	岡本 光代		
	嘱託	原 節子		嘱託	合田 和子		
	嘱託	牧野 香織		嘱託	竹村 恵子		
				嘱託	原 節子		
				嘱託	森岡 愛子		

## 第2章 立地と環境

### 第1節 地理的環境

住屋遺跡は香川県東部に所在する東かがわ市川東にある。東かがわ市西部に広がる平野東端部の、標高97.1mを最高点とする前山から北西へ延びる丘陵の先端部、標高5.5～6m付近に位置する。遺跡西側約100mを2級河川古川が北流する。平野は遺跡近傍を流れる古川及び更に西方を北流する2級河川と田川などの河川に伴う氾濫原によって形成された沖積平野で、遺跡のベースを形成するとともに遺跡を覆う包含層をなす。これらの河川によって運ばれる土砂の供給源は、遺跡南方に広がる虎丸山をはじめとする阿讃山脈の分峰にある。先述の前山は、東側を流れる湊川流域と西側を流れる与田川流域を分かちように位置する、虎丸山から北へ派生する丘陵の一部である。

### 第2節 歴史的環境

住屋遺跡周辺では縄文時代から中世に至るまでの各時期の遺跡が知られている。旧石器時代については不明である。縄文時代については前期から晩期にかけての資料が各遺跡から出土している。前期の資料は平成9年度に四国横断自動車道建設に伴い調査された金毘羅山遺跡や県道大内白鳥インター線建設に伴い調査された原間遺跡で、後世の遺構埋土などに混入して土器片が微量出土している。与田川中流域にある金毘羅山遺跡では、流路中から玦状耳飾が1点出土している。中期の資料は、古川流域にある原間遺跡の流路埋土から若干出土しているほか、住屋遺跡下層からもごくわずかに当該期の土器が出土している。後期の資料は引き続き原間遺跡で少量出土する。ここでは、詳細な帰属時期が不明だが同流路底部に打設された杭が多数検出されており、漁労に伴う施設の存在が考えられている。平成20年度には国道11号大内白鳥バイパス建設に伴い仲戸遺跡が調査され、縄文時代後期の流路3条が検出された。根を張ったクヌギの木株や種子が確認され、当時の植生を伺うことができる良好な資料となっている。晩期の資料は金毘羅山遺跡や仲戸遺跡、平成20年度に調査された誉水中筋遺跡、平成25年度に調査された西村遺跡で土器が出土している。仲戸遺跡では確認された流路2条からの出土だが、他の遺跡では包含層や後世の遺構埋土からの出土である。包含層も弥生時代以降の遺構の地山層をなす場合が多く、これらの形成時期を示す資料となる。いずれにしても明確な遺構に乏しく、あまり転磨を受けていない遺物が見つかることが特徴である。

弥生時代については前期から後期までの資料が各遺跡から出土している。前期の遺跡は、昭和52年に農業基盤整備事業に伴い調査された落合遺跡が知られ、大量の土器が出土している。また、落合遺跡の東方の微高地を挟んで東側で確認された西村遺跡では、平成26年度に国道11号大内白鳥バイパス建設に伴い調査が行われ、流路中から前期末から中期初頭の遺物が大量に出土したほか、流路底部から中期初頭頃の竪穴建物1棟を含む複数の遺構を検出した。落合遺跡は番屋川流域に、西村遺跡は楠谷川流域に位置する。なお、仲戸遺跡では引き続き灌漑水路が確認されている。与田川中流に位置する水主神社遺跡では神社周辺で中期後半の遺物が採取されているほか、金毘羅山遺跡や原間遺跡でも若干出土している。後期に入ると遺跡の数が大幅に増える。集落域とともに墓域の存在が明確になった。主に与田川とその支流域に飛谷遺跡・別所遺跡・中善寺遺跡が知られていたが、平成9年度の四国横断自動車道建設に伴い調査された原間遺跡や金毘羅山遺跡などで、集落を構成する竪穴建物や掘立柱建物、灌漑水

路などがまとまって検出されている。西村遺跡では弥生時代中期初頭以降から終末期にかけて流路が埋没し、その上に灌漑水路が1条開削された。

古墳時代には前期から後期にかけて古墳が点在することが確認できている。前期古墳は、前山から西へ派生する丘陵上に県下最東部の前方後円墳として知られる大日山古墳が所在するほか、前山の北麓から東へ派生する丘陵上で県下最東端の前期古墳となる湊山下古墳が、国道11号大内白鳥バイパス建設に伴い平成24年度に調査が行われた。金毘羅山遺跡では当該期の堅穴建物1棟を含む複数の遺構が確認されている。中期古墳は原間遺跡の東西にある丘陵上を中心に分布しており、原間6号墳を首長墓とする11基が確認されている。この原間6号墳は埋葬施設に木槨を用い、副葬品には土器とともに短甲・斧・刀などの鉄製品が納められていた。鉄刀のうち一振は柄飾りに三累環を持つ。その他の埋葬施設は粘土槨・木槨・箱式石棺などからなり、副葬品はほとんどないが、刀・鎌などの鉄製品が土器に少量伴う。さらに原間遺跡東方の極端遺跡では極端1・2号墳が調査され、中期後半の粘土槨木棺墓を伴う古墳が確認できた。また、住屋遺跡の東方の丘陵から開墾中に出土した土器から当該期の古墳が存在した可能性が指摘されている。一方集落域については、西村遺跡で弥生時代終末期以降継続して使用されたと考えられる灌漑水路がほぼ埋没したのち、古墳時代中期のものと考えられる堅穴建物1棟が確認されている。残存状況から周辺に集落域が形成されていた可能性がある。また、原間遺跡でも2棟の堅穴建物が確認され、これは原間6号墳などの造墓集団の居住域であると考えられている。後期古墳については中期古墳が所在する丘陵上のやや低い位置に横穴式石室を持つ原間1号墳・2号墳が知られるほか、湊川へ面する東側に同じく横穴式石室を持つ神越2号墳が知られる。集落域は住屋遺跡を除くと、金毘羅山遺跡で堅穴建物1棟を含む複数の遺構が確認されている程度である。特筆すべき点として、前山西麓に位置し平成20年度に調査された仲戸東遺跡からは、6世紀初頭のものと考えられる埴輪焼成に伴う粘土採掘坑と流路に投棄された埴輪片多数が確認された。埴輪は円筒埴輪をはじめ、船形埴輪など形象埴輪が確認されている。

古代については原間遺跡で7世紀から8世紀代の堅穴建物・掘立柱建物からなる集落が確認されているほか、仲戸遺跡で溝が確認されている。また、西村遺跡では概ね10世紀代を中心とした掘立柱建物群とともに銅の溶解炉並びに鉄の鍛冶炉が確認されており、生産関連の遺跡であると考えられる。住屋遺跡でも7世紀代の堅穴建物が数棟確認できるほか、柱穴内や流路埋土から8～9世紀の遺物が出土している。

中世については蓄水中筋遺跡で古代末から鎌倉時代にかけての掘立柱建物群や溝・井戸などが確認されているほか、原間遺跡・金毘羅山遺跡・西村遺跡・西谷遺跡（平成9年度調査）で少数の掘立柱建物と条里地割の方向に合致した溝が確認されている。





(『東かがわ市都市計画図8～10・15～17』に加筆して使用)

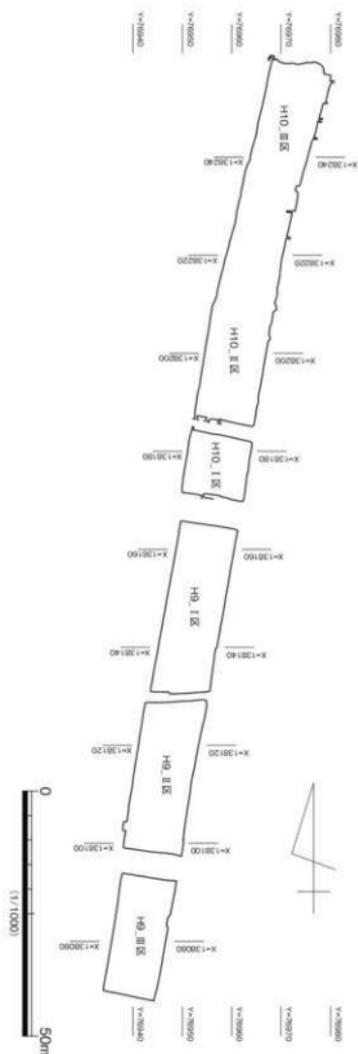
## 第3章 調査の成果

### 第1節 調査の方法

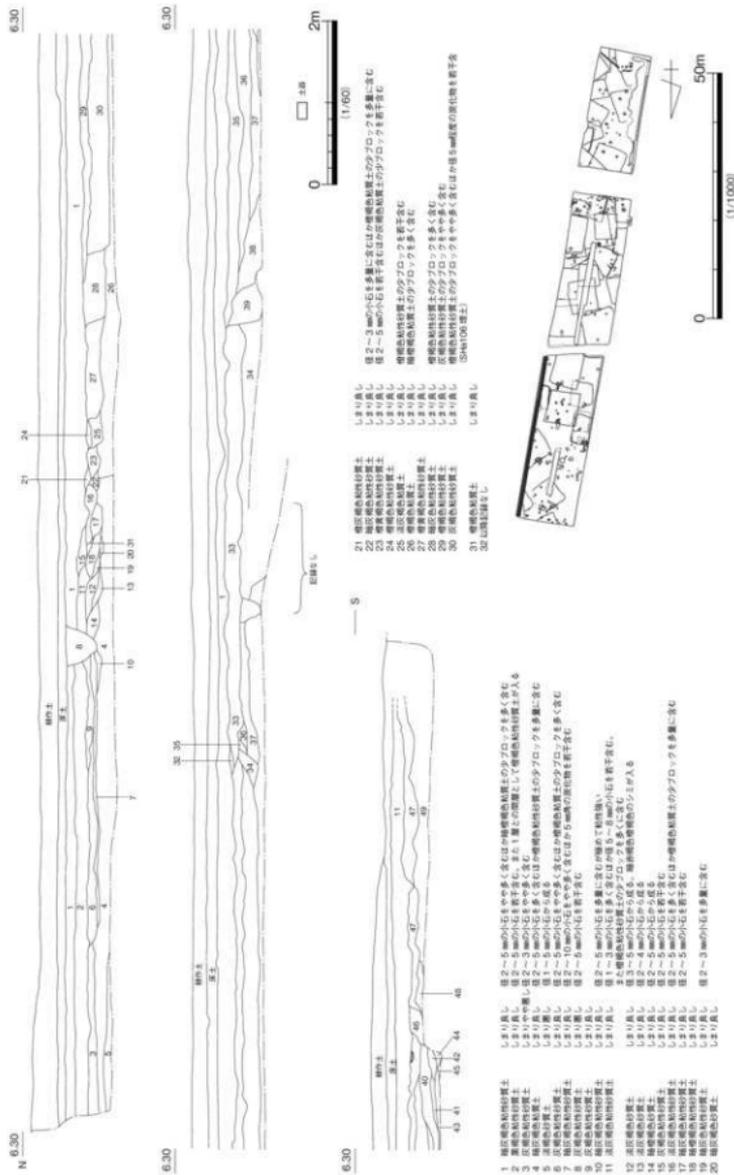
調査は概ね地筆の単位を基に調査区割を行った。平成9年度は南から北へⅢ区・Ⅱ区・Ⅰ区とした。平成10年度も基本的な区割りは地筆単位によるが、宅地が隣接していたため進入路の確保が必要であったことから、調査区を南からⅠ～Ⅵ区に分けて調査を行った。最終的に右図のように調査区を遺跡全体を通して整理した。遺構名は各調査区単位で添付した。竪穴建物の掘削に際しては、検出後、カマドが確認出来る場合、カマド部を台状に残し、残りを南北軸・東西軸を設定したうえで4分割し、各軸に沿ってトレンチを掘削し、その後掘方まで完掘した。その後それぞれの区画ごとに掘削を行った。遺物の取り上げも概ねその区画毎に行った。

### 第2節 層序

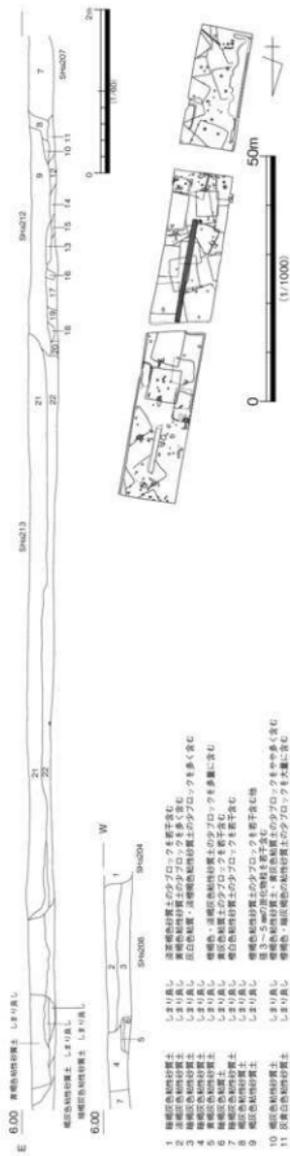
遺跡の標高は南端で約6.4m、北端で約5.4mを測り、約1mの比高差がある。一部造成土が敷きならされており、標高の高いところが認められるが、耕作土の上面で比較すると南から北へ緩やかに勾配を持つことがわかる。各調査区ともに約0.3mの耕作土・床土層が認められ、その下0.05～0.2m程度で遺構面に達する。遺構面を形成するのは概ね橙褐色～灰褐色系の細礫混じり粘質土である。全面的に同系・同質の土が堆積するのではなく、色調・土質ともに変化が著しく、1調査区内でも変化が認められる。東から延伸してくる丘陵の裾部に近いが、安定した岩盤の風化土壌ではなく、粒径に級化は認められないが河川堆積によるものと考えられる。また耕作土直下は、後世の耕作と高い地下水位の影響で深さ約0.3mにわたりマンガンが沈着しており、本来の土色・土質を判別するのが困難であった。



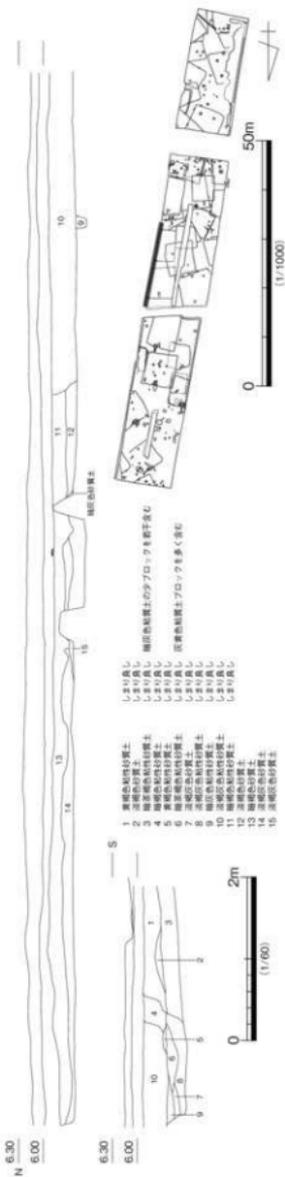
第3図 調査区割図



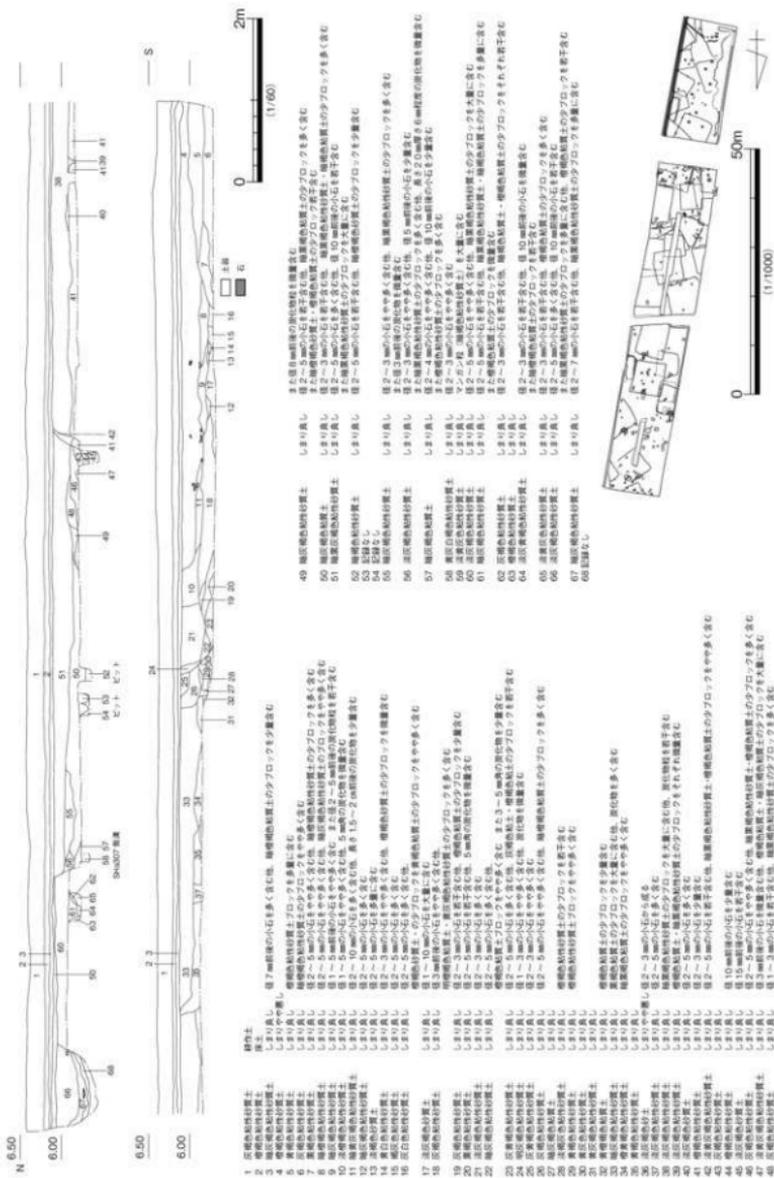
第4図 H9 I区東壁土層図



第5図 H9 II区トレンチ土層図

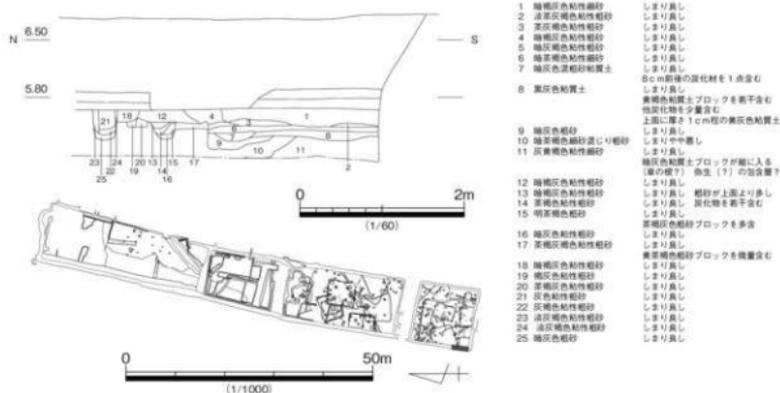


第6図 H9 II区東壁土層図

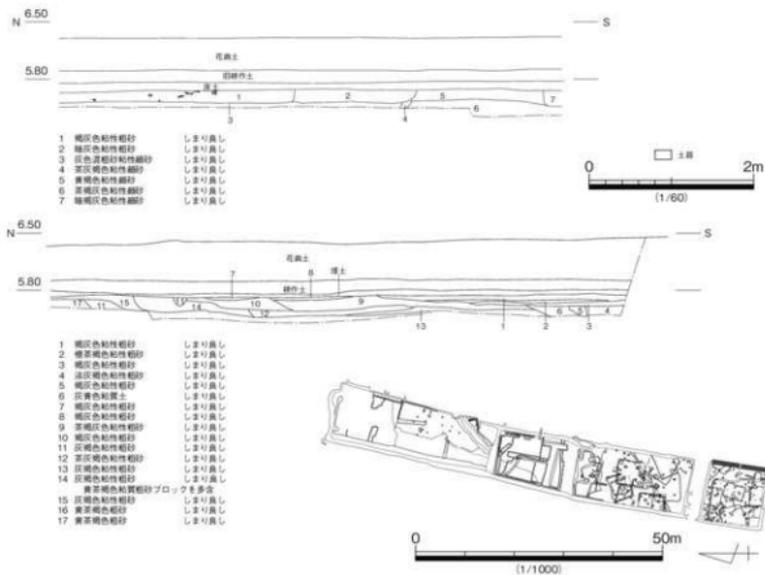


第7図 H9 III区東土層図

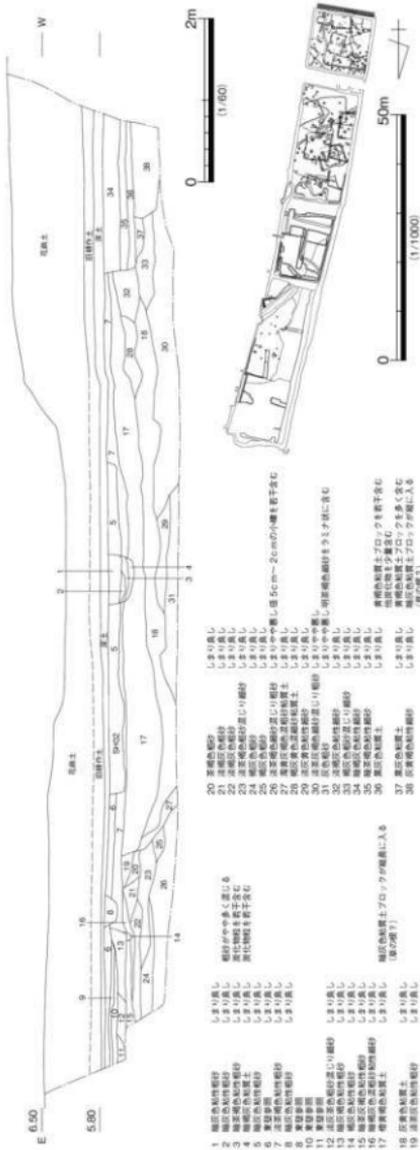




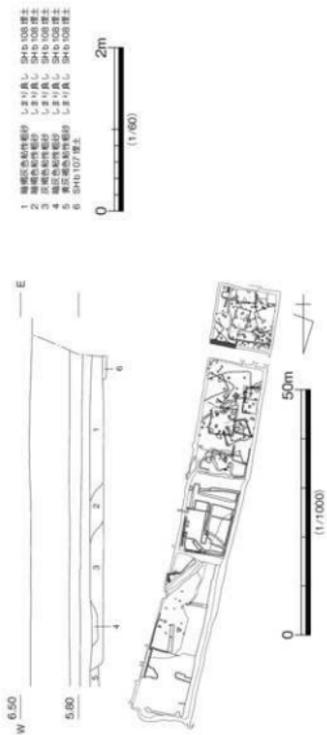
第10図 H10 I区西壁土層図



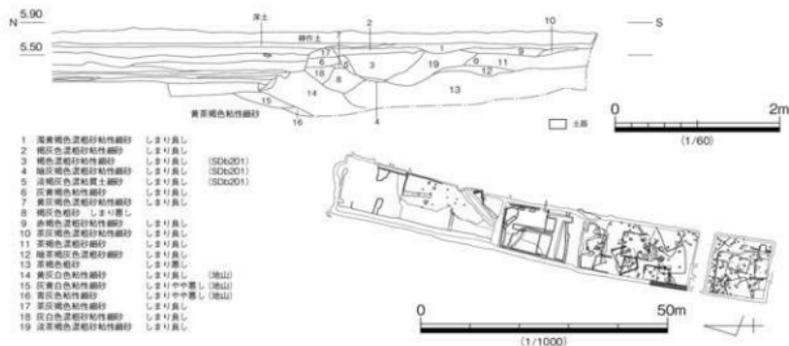
第11図 H10 I区東壁土層図



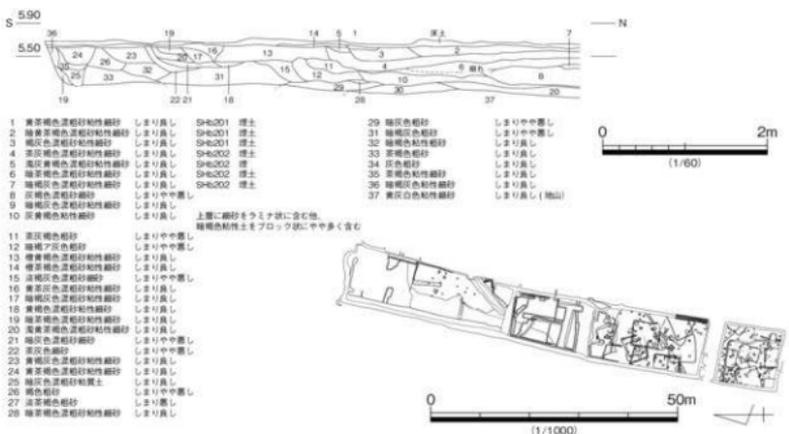
第12図 H10 I区南壁土層図



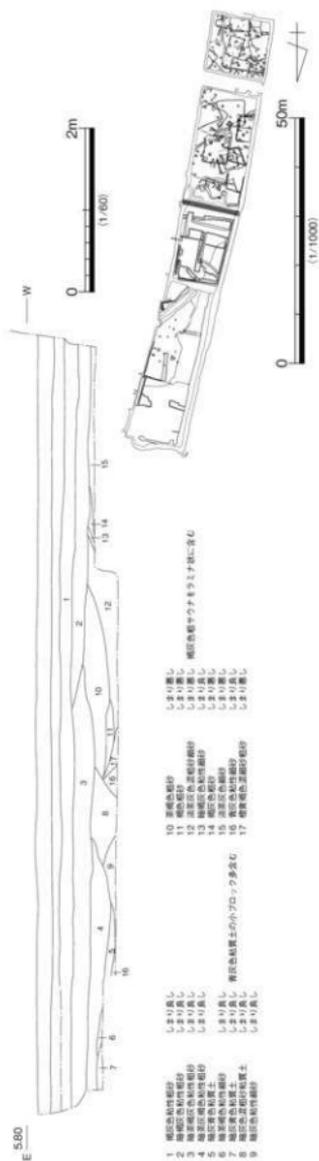
第13図 H10 I区北壁土層図



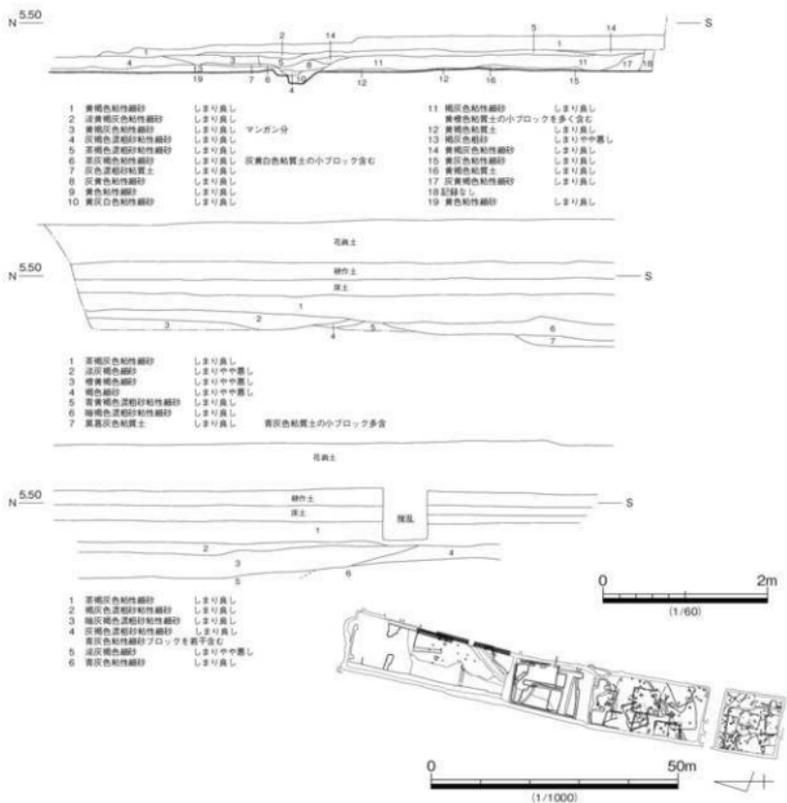
第14図 H10 II区西壁土層図



第15図 H10 II区東壁土層図



第16図 H10 II区北壕土層図



第17図 H10 III区東壁土層図



### 第3節 遺構、遺物

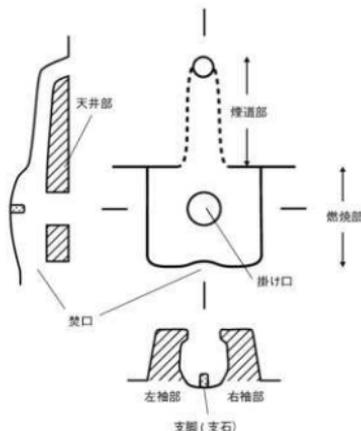
検出した遺構については、種別毎にまとめて報告する。遺物については、各遺構出土分は当該遺構の部分で、帰属する遺構がない包含層出土分については調査区毎にまとめて記載する。なお、各調査区で添付した遺構名は2桁の通し番号で記録したが、今回の報告書作成に当たり3桁の通し番号とし、調査区名を3桁目に、通しの遺構名を2桁以下とする。ただし、整理作業を経て遺構から解除したものについては欠番とせず番号を繰り上げている。また、平成9年度調査区をaに、平成10年度調査区をbとしそれぞれアルファベット小文字で表記した。

（例：平成9年度Ⅱ区竪穴建物SH14 → SHa214、平成10年度Ⅲ区柱穴SP20 → SPb320）

#### 1. 竪穴建物

合計55棟検出した。弥生時代後期のものを1棟含む以外は、古墳時代中期以降のもので、特に古墳時代後期後半期のものが主体である。規模・主軸方位の計測は図上で行った。規模は原則四辺のうち現存する最大値を表し、カマドの本体や煙道部で張り出した部分については最大値に含めていない。また、主軸方位の計測は国土座標軸の北に対する角度を用いた。計測はカマドの取り付く壁を基準に、カマドが確認できないものは北面する壁を基準に行っている。なお、基本的に角度の計測は建物の隅部が直角をなす部分を基準として行い、各辺が直線ではなく隅部が直角をなさない場合は各辺の両端部と頂部が二等辺三角形を描くように配置したその底辺を基準に計測した。

作り付けカマドの記載は建物内側を基準とし、第19図の通りの名称を用いる。部位の名称は谷匂氏（谷1981）の呼称に従う。また、各建物のカマドは以下の通りで調査を進めた。まず、平面精査により検出できた煙道や焼土からその位置と範囲を推定し、一旦その周辺の埋土を残したうえで残りの建物埋土を除去する。その後、台状に残したカマド部にトレンチを開け、①建物埋土②カマド内埋土③カマド構築土の関係を検討しながら、概ね番号の順に掘削した。

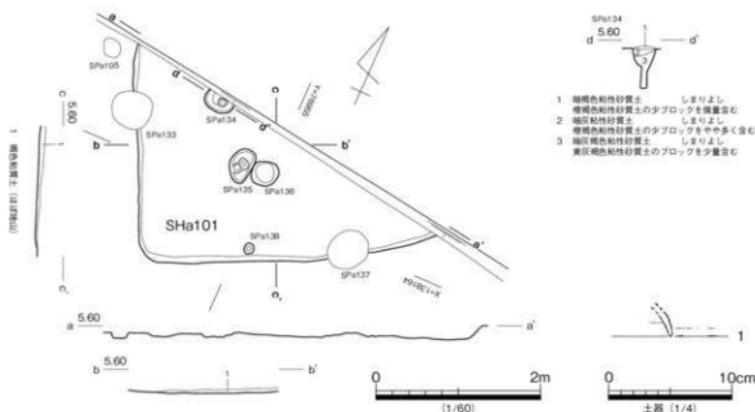


第19図 カマド模式図

## SHa101

平成9年度I区の北端で検出した。調査区外へ延びるため平面形状は不明であるが、隅丸方形を呈すると思われる。南北2.7m×東西3.6m、残存深度は0.05mを測る。主軸方位はN25°Wを測る。壁溝などの存在は確認できず、残存状況は不良であるが、2本の直交する直線により構成される平面形から竪穴建物と判断した。この範囲内にあるSPa136は、その位置から主柱穴と考えられる。

出土遺物は図示し得るものはわずかで、須恵器杯蓋(1)が認められる。形状から6世紀第4四半期頃のものと考えられ、建物の時期も概ねその頃のものと考えられる。



第20図 SHa101 平・断面図、出土遺物

## SHa102

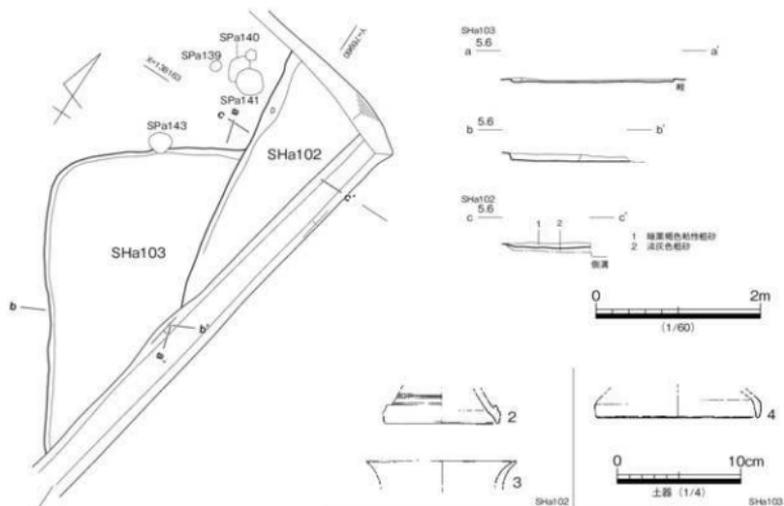
平成9年度I区の北東隅で検出した。調査区外へ延びるため平面形状は不明であるが、隅丸方形を呈すると思われる。南北3.5m×東西1.2m、残存深度は0.05mを測る。主軸方位はN9°Wを測る。壁溝などの存在は確認できず、残存状況は不良であるが、直線的な掘方を持つ平面形から竪穴建物と判断した。

出土遺物はわずかで、須恵器高坏(2)、土師器甕(3)を図化した。須恵器から見ると6世紀前半頃のものと考えられるが、遺構の切り合いから見るとSHa103に後出するものであると考えられる。

## SHa103

平成9年度I区の北東隅で検出した。調査区外へ延びるため平面形状は不明であるが、隅丸方形を呈すると思われる。南北3.7m×東西3.4m、残存深度は0.05mを測る。主軸方位はN32°Wを測る。壁溝などの存在は確認できず、残存状況は不良であるが、2本の直交する直線により構成される平面形から竪穴建物と判断した。

出土遺物は図示し得るものはわずかで、須恵器杯蓋(4)が認められる程度である。小片のため詳細不明であるが、6世紀第4四半期頃のものと考えられ、建物の時期も概ねその頃のものと考えられる。



第21図 SHa102・103 平・断面図、出土遺物

## SHa104

平成9年度Ⅰ区の北端で検出した。東辺部の残存状況が不良であるが、平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北5.5m×東西4.7m、残存深度は0.05mを測る。主軸方位はN53°Wを測る。壁溝などの存在は確認できず残存状況は不良であるが、北辺に作り付けカマドの残骸が認められることから竪穴建物と判断した。カマドは調査時の認識が甘く袖部の検出が出来ていないが、焼部底部の状況から置土により構築されたものと考えられる。SPa150とSPa154は、その位置から主柱穴と考えられるが、出土遺物がやや新しい要素を含む。

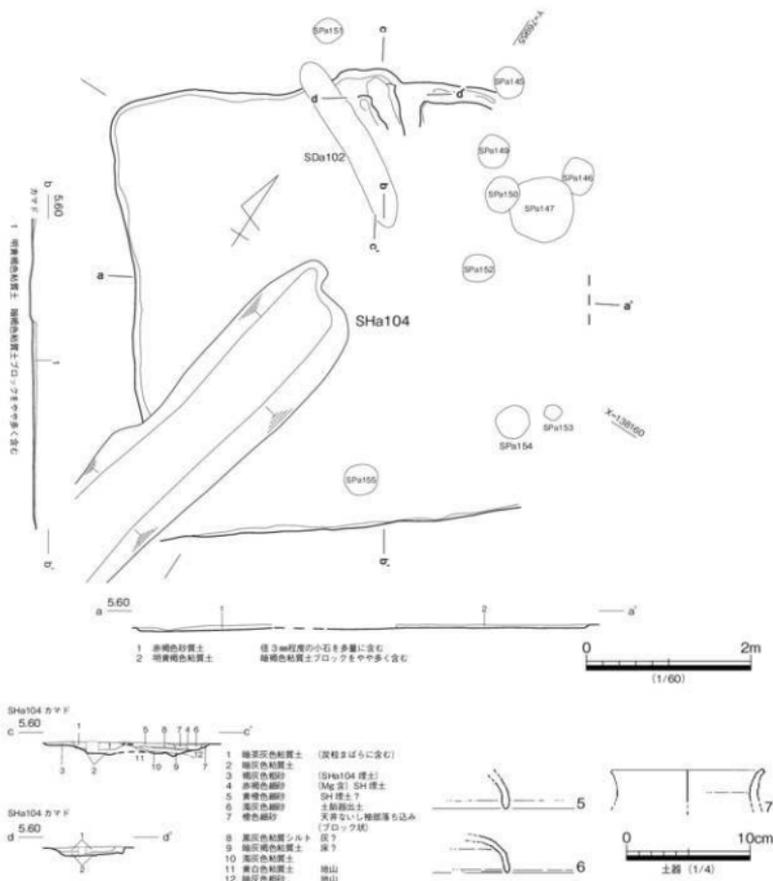
出土遺物はあまり多くなく図化しうるものもわずかだが、須恵器杯蓋(5・6)、土師器甕(7)を図示した。ともに小片であり詳細不明であるが、須恵器の形状から6世紀第4四半期頃のものと考えられ、建物の時期も概ねその頃のものと考えられる。

## SHa105

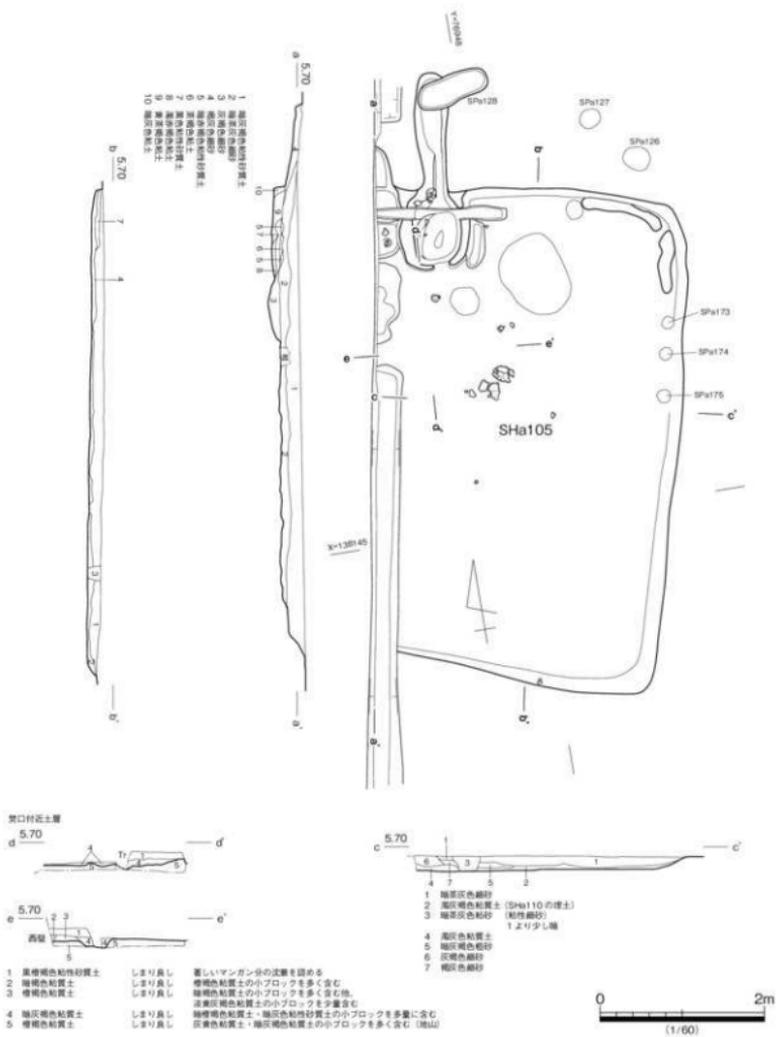
平成9年度Ⅰ区の中央西寄りで検出した。西半部が対象地外へ延びるため全体の形状は不明であるが、平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北6.2m×東西3.8m、残存深度は0.10mを測る。主軸方位はN14°Eを測る。北東隅部に壁溝が確認できたほか、北辺に作り付けカマドの残骸が2基分認められる。煙道部は共に建物の主軸と方位を合わせるが、西側のもの(カマド2)は半分が調査区外にあり、全容が不明である。東側のもの(カマド1)は全体が見える状態にあるが、左側の袖部が残存状況不良であった。調査時の所見ではカマド2が古く、カマド1が新しく構築されたものと考えていたが、焼部底部はカマド2がより明瞭に焼けているうえ、カマド1の西袖は西面が明瞭に焼けていることから、カマド2のほうが新しいと考えてよい。なお、カマド2焼部内には須恵器の高坏脚部が正置されてい

た。明瞭な被熱痕が見られず実用されたものかどうか不明であるが、支脚として転用されたと判断した。カマド1の焚口手前約1m付近は周辺より5cm程度低くなる場所があり、暗灰色系の埋土が入っていた。作業空間として機能させるか、灰の掻き出し等に伴い窪んだ可能性がある。

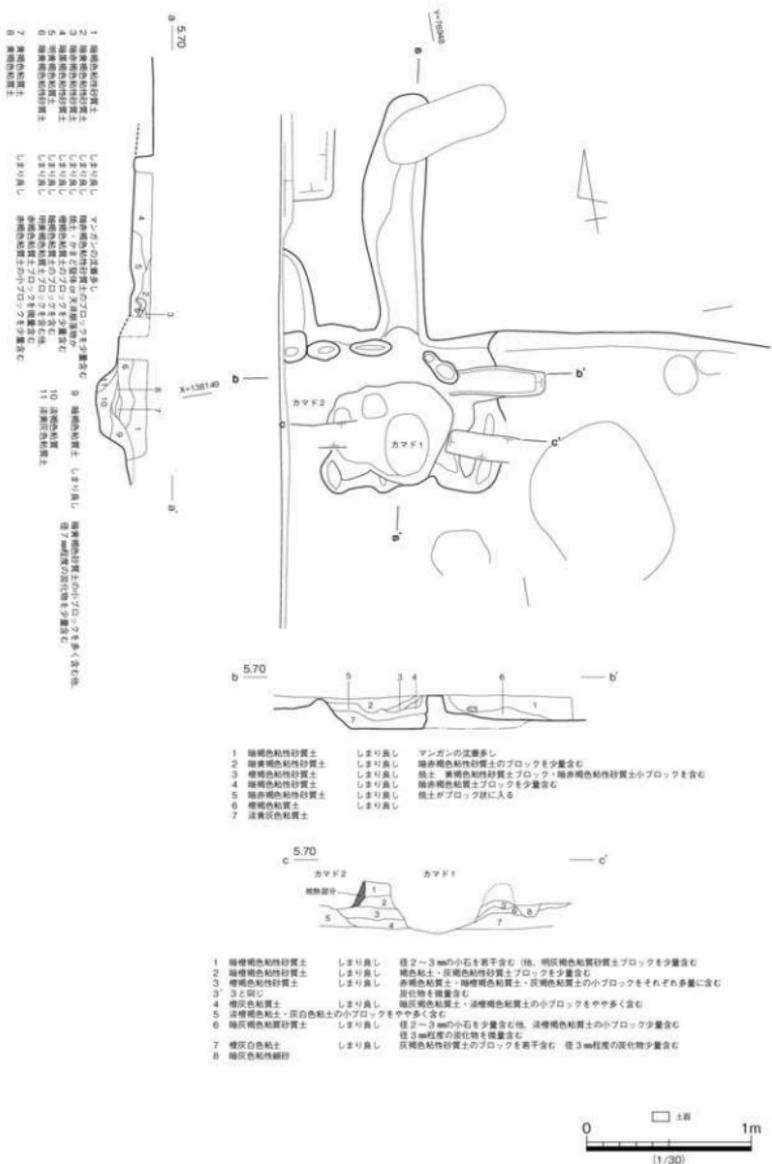
出土遺物は須恵器・土師器が認められ、須恵器杯蓋(8)、杯身(9・10)、高坏(11・12)、土師器高坏(13・14)、甕(15・16)、瓶(17)、メノウ製丸玉(18)を図化した。11はカマド支脚として転用された可能性を持つもので、使用～廃絶までの時期を反映するものと考えられる。これらの資料は6世紀第4四半期頃のものであり、建物の時期も概ねその頃のものと考えられる。



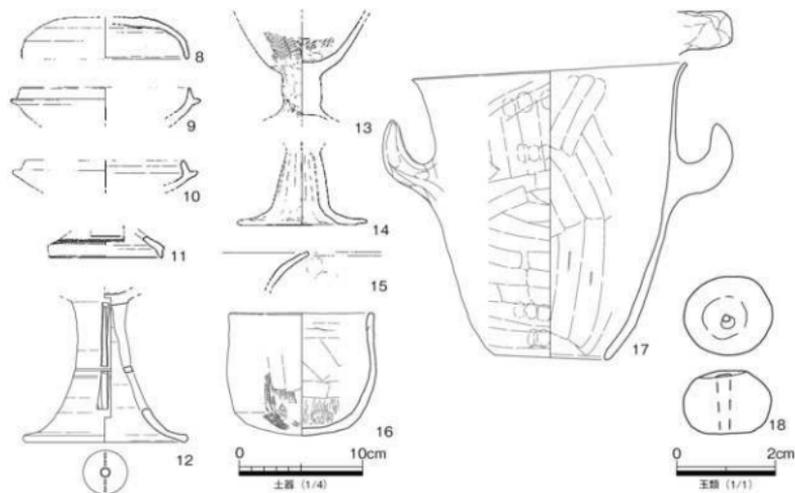
第22図 SHa104 平・断面図、出土遺物



第23図 SHa105 平・断面図



第24図 ShHa105 カマド平・断面図

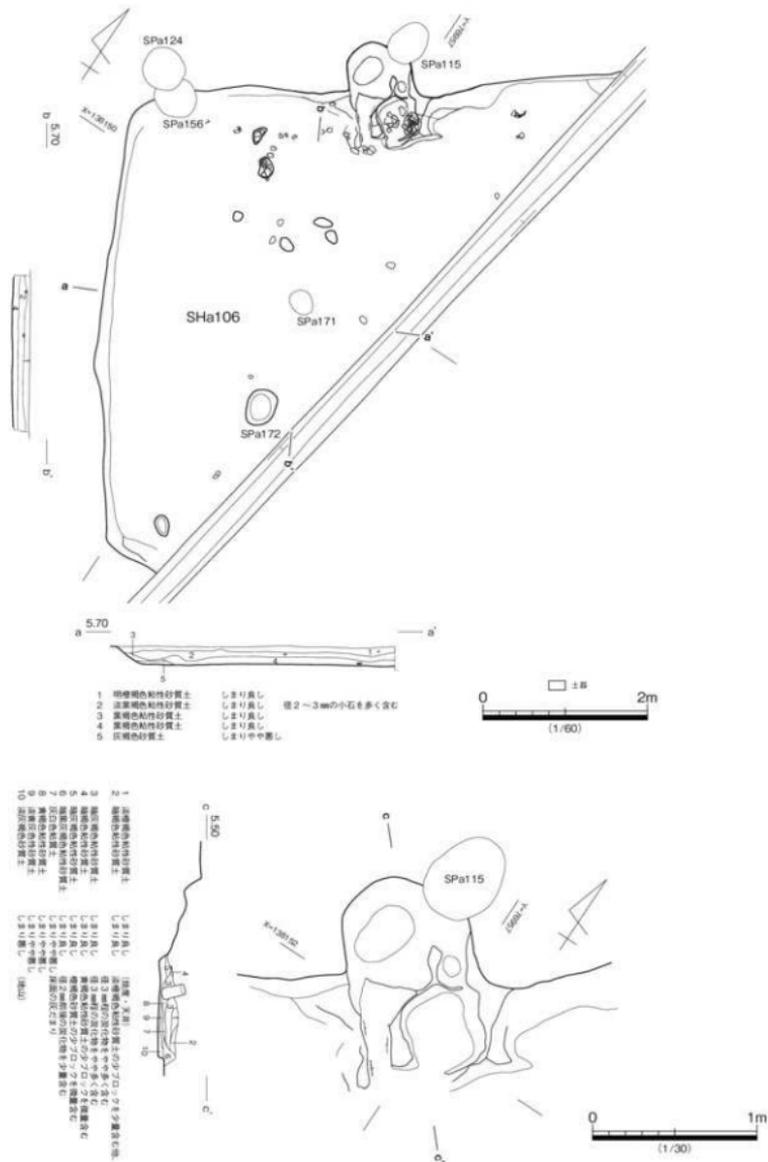


第25図 SHa105 出土遺物

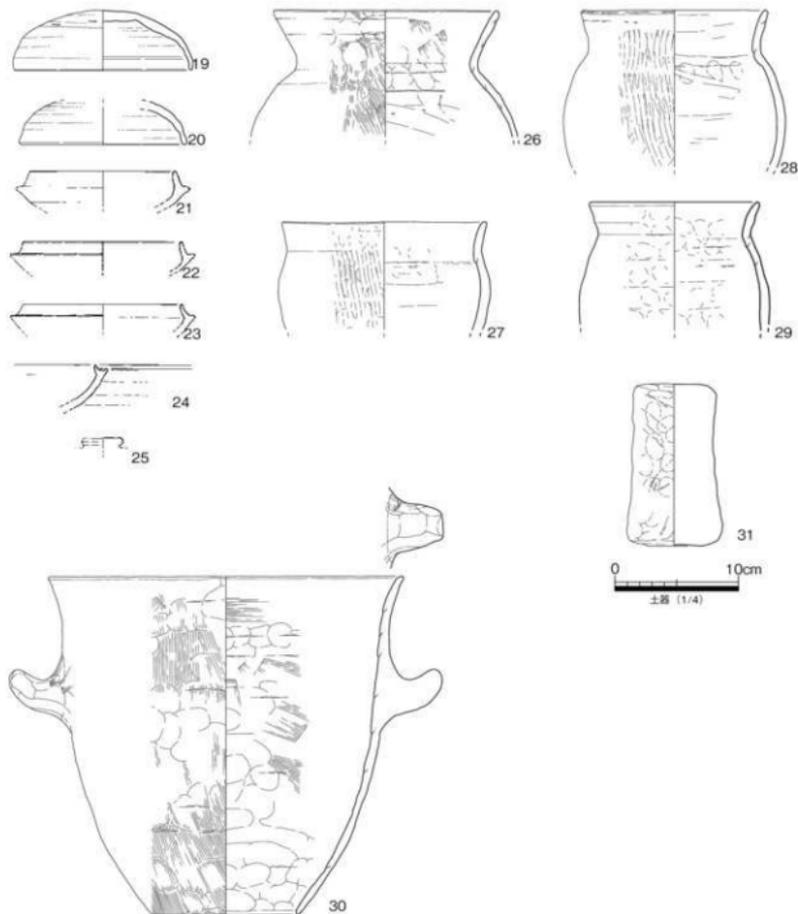
## SHa106

平成9年度Ⅰ区の東辺中央部で検出した。東半が調査区外に延びるが、平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北6.0m×東西6.0m、残存深度は0.22mを測る。主軸方位はN31°Wを測る。北辺に作り付けカマドの残骸が認められる以外、主柱穴や壁溝などの付随する施設が確認できていないが、竪穴建物と判断した。カマドは、第26図では両袖部が残存しているように表現しているが、左袖部としたものはカマド天井かいずれかの袖部が燃焼部内に崩落したものと考えられる。燃焼部底部は床面から約0.1m下げたところに設定されており、中心部に土製支脚が据えられる。カマド構築時に粘土を貼る際据えたものと考えられ、2cmほど粘土(カマド内土層8層)の中に埋まっていた。北壁に短く幅広く、やや底面の勾配の強い煙道が取り付く。SPa172は、その位置から主柱穴の可能性が考えられる。

出土遺物は比較的多く出土している。須恵器杯蓋(19・20)、杯身(21～24)、蓋摘み(25)、土師器甕(26～29)、甌(30)のほか、カマド内から土製支脚(31)を図示した。須恵器杯の形状は複数の時期が入り混じるが、19・24は6世紀第4四半期のものと考えられ、建物の時期もその頃のものと考えられる。



第26図 SHa106 平・断面図、カマド平・断面図



第 27 図 SHa106 出土遺物

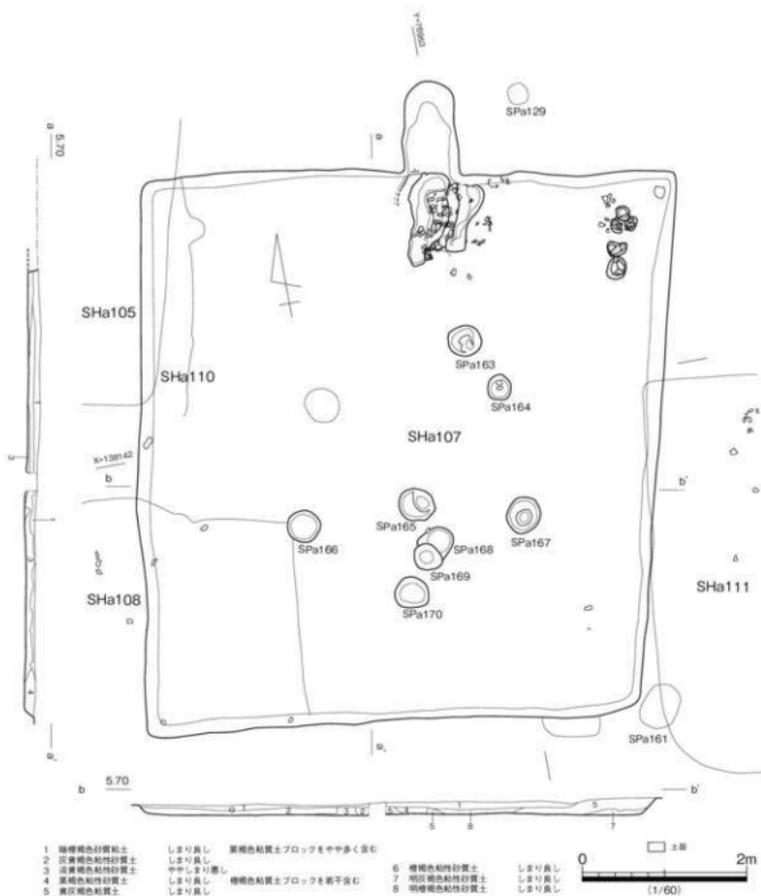
### SHa107

平成9年度Ⅰ区の中央南寄りで検出した。平面形状は隅丸方形を呈する。南北6.8m×東西6.3m、残存深度は0.15mを測る。主軸方位はN8°Eを測る。北辺に作り付けカマドが認められる以外、主柱穴や壁溝などの付随する施設が確認できていないが、堅穴建物と判断した。カマドは調査時の認識が甘く袖部の検出が不十分であるが、燃焼部底部は床面とはほぼ同じレベルに設定されており、長さ約1m、幅約0.8mで底面が平坦な煙道が取り付く。SPa166ならびにSPa167は、その位置から主柱穴の可能性

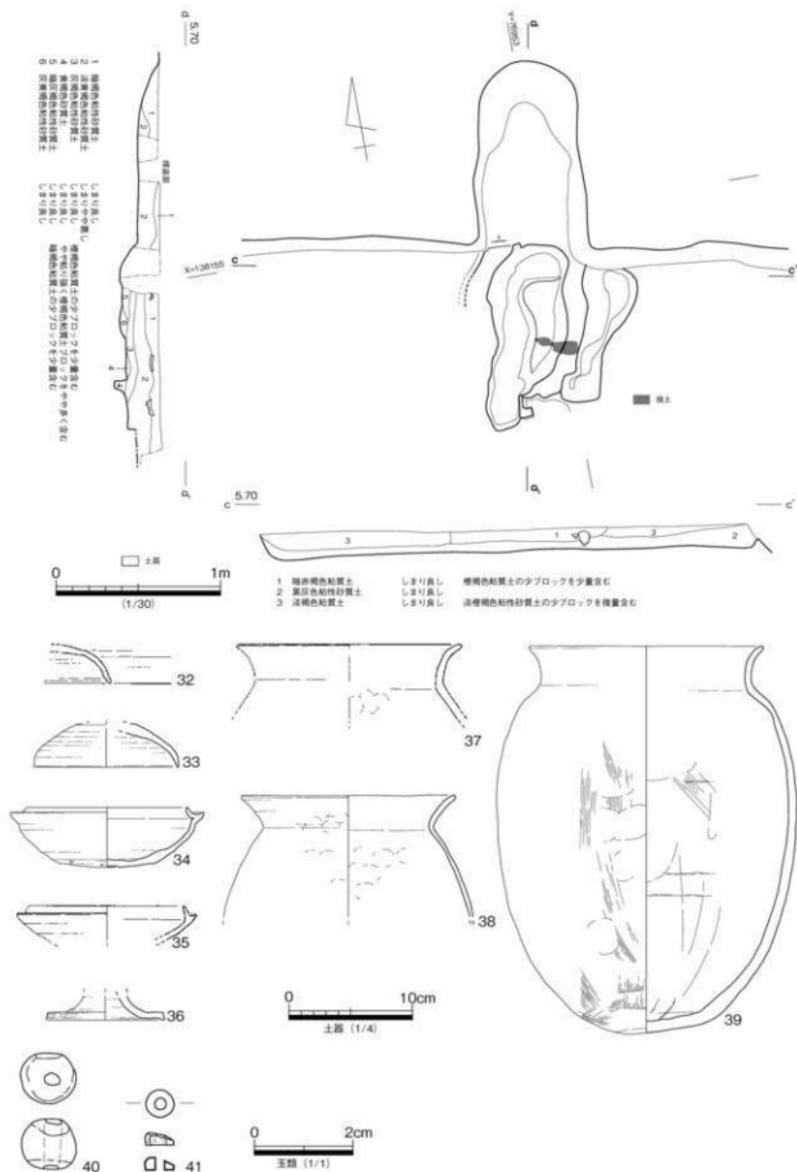
が考えられる。

出土遺物は比較的多数出土している。須恵器杯蓋 (32・33)、杯身 (34・35)、高坏 (36)、土師器甕 (37～39)、土製丸玉 (40)、滑石製白玉 (41) を図示した。

南西隅で SHa108 と、東辺中央付近で SHa111 とそれぞれ重複するが、切り合いから SHa107 が最も新しいと考える。33・36 がカマド内から出土しており、これらの特徴から 7 世紀第 1 四半期頃の建物と考えておく。



第28図 SHa107 平・断面図



第29図 SHa107 カマド平・断面図、出土遺物

## SHA108

平成9年度I区の南半西寄りで検出した。平面形状は隅丸方形を呈する。南北5.0m×東西4.5m、残存深度は0.20mを測る。主軸方位はN1°Eを測る。北辺に作り付けカマドが認められる以外、主柱穴や壁溝などの付随する施設が確認できていないが、堅穴建物と判断した。カマドは調査時の認識が甘く袖部の検出が不十分であるが、燃焼部底部は床面から約0.1m下げたところに設定されている。カマドの取り付く部分が外側へ膨らむものの、煙道は残存していない。

出土遺物は、須恵器杯身(42～44)、高坏(45)、土師器甕(46)を図化した。45がやや新しい要素であるが、上位にあるSHA107の時期と合致することから、本来そちらに含まれていた遺物であった可能性がある。SHA108はこれらの状況と須恵器杯身の形状から6世紀第3四半期のものと考えておく。

## SHA109

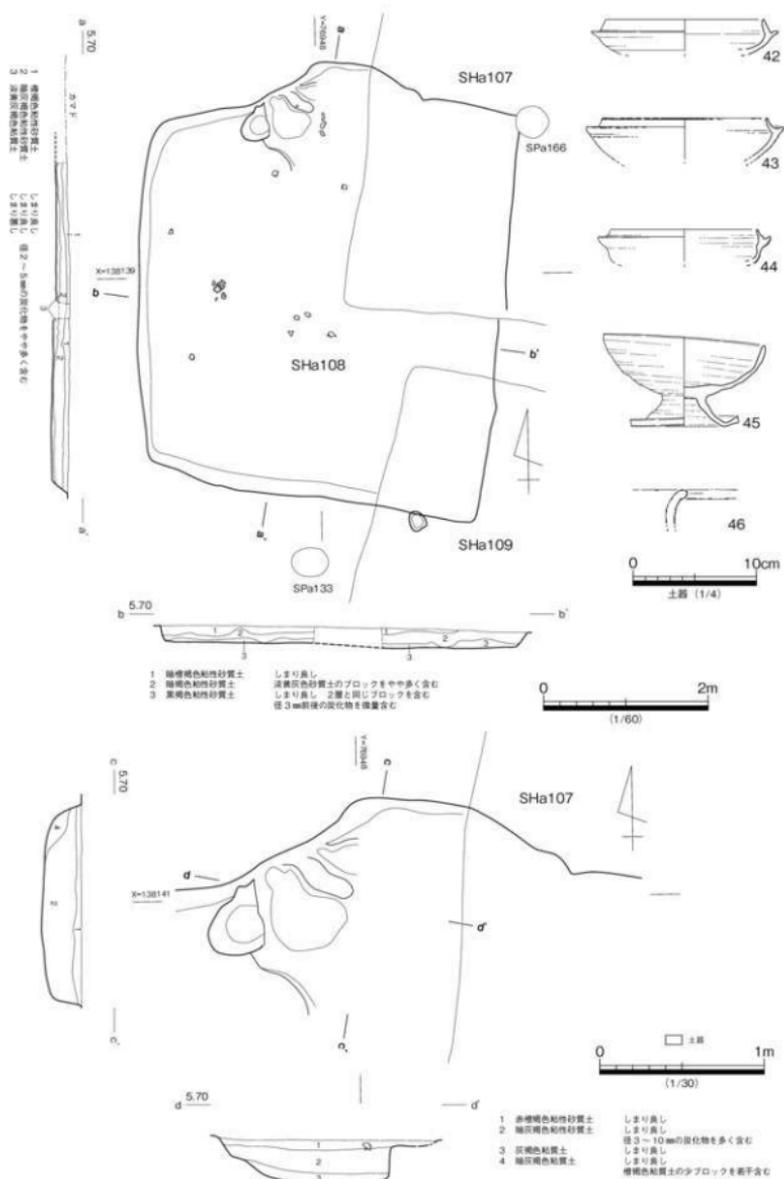
平成9年度I区の南端中央で検出した。南端部が調査区外へ延びるが、平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北7.7m×東西5.9m、残存深度は0.15mを測る。主軸方位はN155°Eを測る。北辺に作り付けカマドが認められる以外、主柱穴や壁溝などの付随する施設が確認できていないが、堅穴建物と判断した。カマド部は遺構検出の段階で袖部とそこにある焼土ブロックを認識しており、それを基準に調査を進めたものの、袖部を地山削り出しとして調査したため、置土で構築した部分を埋土として掘削している。また、貼床の認識が不十分であったことから、これに相当する部分も埋土として掘削している。遺物の出土状況やカマドの完掘状況の写真を見ると共に床面から浮き上がっていることから、調査時に床面としたものは掘方であり本来の床面は削平したと判断した。この観点でカマド内の状況を見ると、燃焼部は本来の床面を5cmほど下げていることがわかる。また、袖部の基部は地山削り出しによると考えられ、堅穴建物設営時にカマドの位置を予め設定していたと考えられる。煙道は燃焼部底部から概ね水平に連なり、0.9mで途切れる。端部は浅く上がる。幅はやや先細るが、取り付け部では概ね0.5mを測る。主柱穴は検出に努めたが、確認できていない。

出土遺物は、須恵器杯蓋(47・48)、杯身(49～52)、高坏(53)、土師器甕(54)を図化した。図示し得なかったものを含め、出土遺物の時期にバラつきがあるが、51が床面直上から出土しており、その形状から概ね6世紀第4四半期頃のものと考えられ、建物の時期もその頃のものと考えておく。

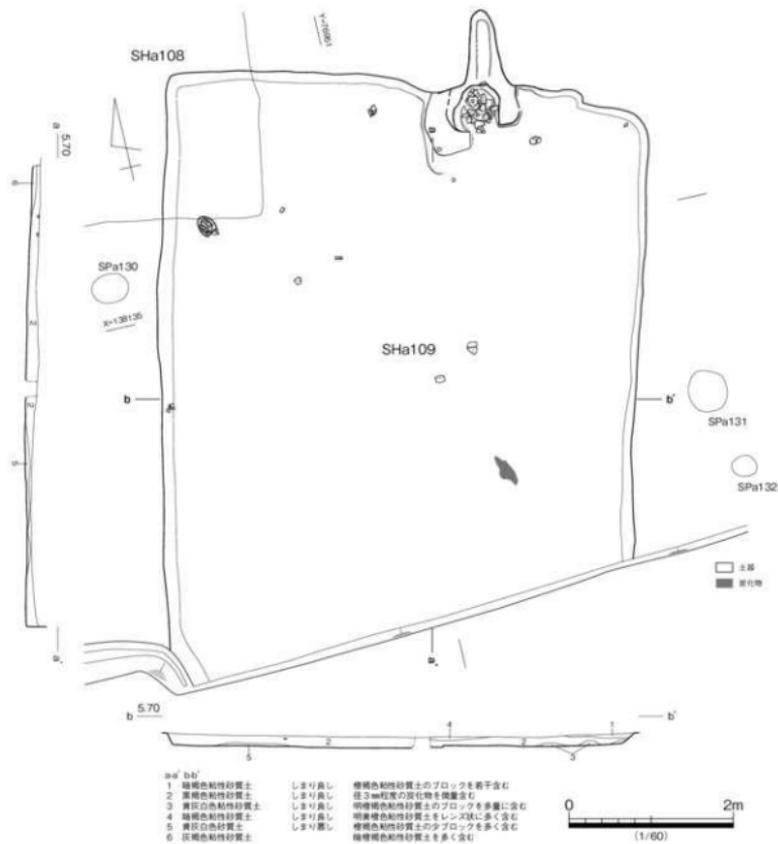
## SHA110

平成9年度I区の中央西寄りで検出した。平面形状は隅丸方形を呈する。南北4.3m×東西3.3m、残存深度は0.15mを測る。主軸方位はN6°Eを測る。カマドや主柱穴、壁溝などの付随する施設が確認できていないが、平面形状から堅穴建物と判断した。東辺中央やや北寄りで東へ向けて幅0.3m、長さ0.2mの張り出しがあり、煙道の残骸と考えられるほか、その南側の東壁に接する位置で床面直上に甕と甕が1点ずつ残存していたことから、当該付近にカマドが存在していた可能性がある。

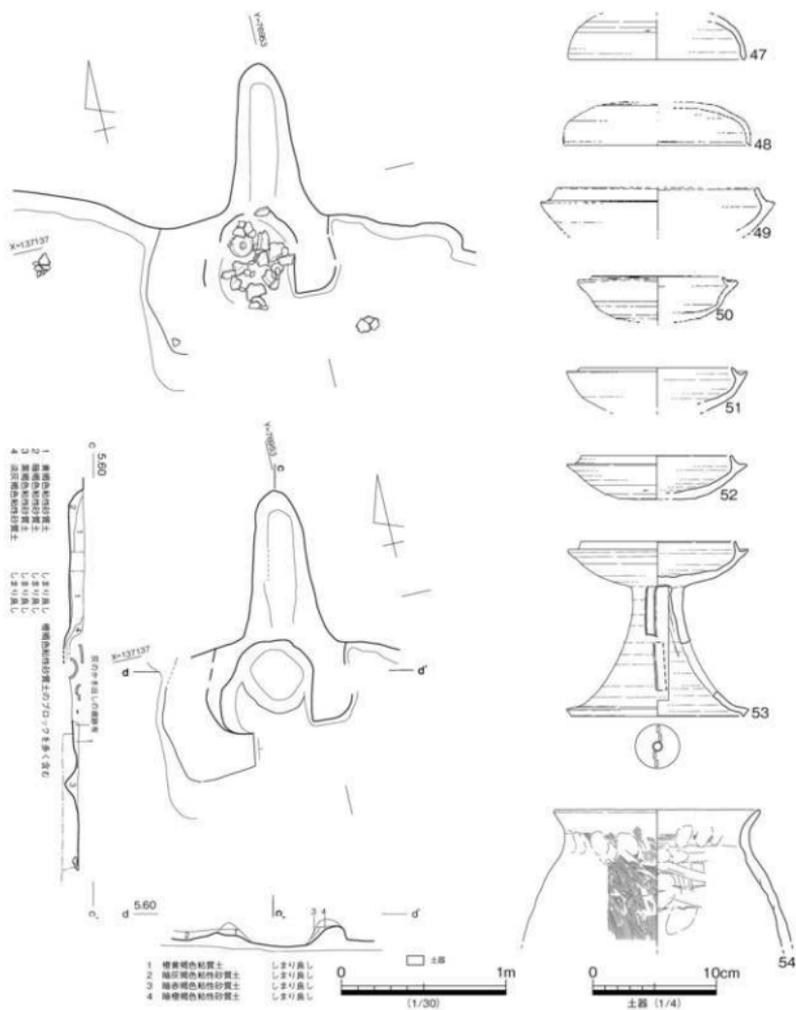
出土遺物は、土師器甕(55～57)、甕(58)と鉄製鋤先(59)を図示した。59は鍛造した鉄板の両端を折り曲げ、木製の鋤先に装着したものと考えられる。先端部は劣化して薄くなっているが、着装部には木質が残る。図示し得なかった遺物の中に短頸の須恵器甕片を含むことから、6世紀前半代の建物の可能性を持つ。



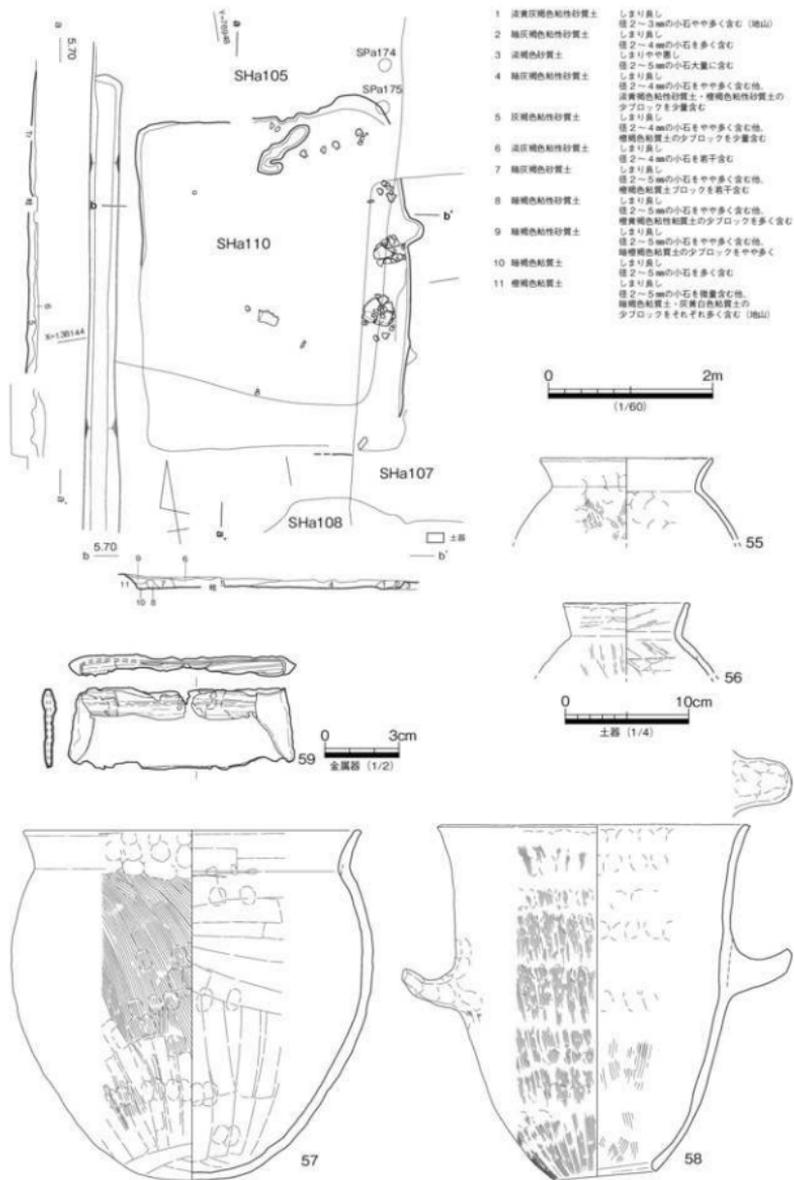
第 30 図 SHa108 平・断面図、カマド平・断面図、出土遺物



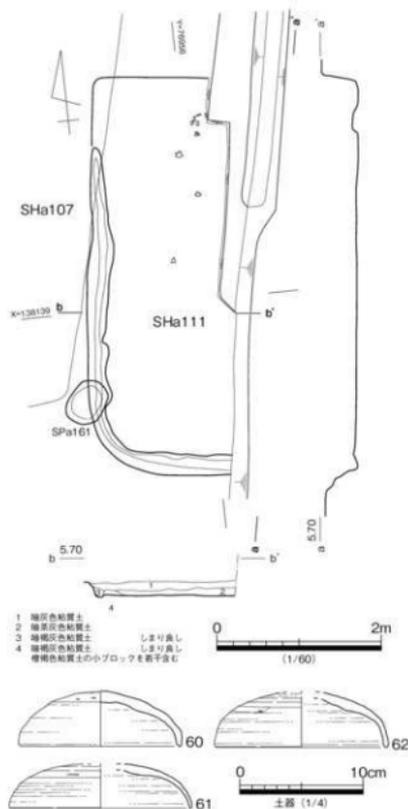
第31図 SHa109 平・断面図



第32図 SHa109 カマド平・断面図、出土遺物



第33図 SHa110 平・断面図、出土遺物



第34図 SHa111 平・断面図、出土遺物

うよりもカマド上に置いていたものが崩落して被さったと考えられる。焚口付近では須恵器杯片・土師器甕片などがまとまって出土した。

出土遺物は、カマド周辺にある程度まとまりを見せるほか、床面でも幾らか認められる。須恵器杯蓋(63～65)、杯身(66～68)、蓋摘み(69)、土師器高坏(70)、甕(71～75)のほか、カマド支石(76・77)を図化した。支石は四角錐(76)及び方柱状(77)を呈する砂岩の直角礫を利用しており、いずれも平坦面を受部としていた。共に赤変部と黒変部が認められるが、77はさらに被熱に伴う剥落面が認められる。須恵器杯の形状からややバラつきは認められるものの、未報告遺物も含め概ね6世紀第3四半期頃のものと考えられ、建物の時期もその頃のものと考えておく。なお、土師器甕74は接合作業の結果、SHa204に分布の主体を持つ個体であることが判明した。本建物側ではカマド周辺や床面で少量出土しており、SHa204側では埋土中である。最短距離で約1.5m離れており両者に重複関係はないうえ、

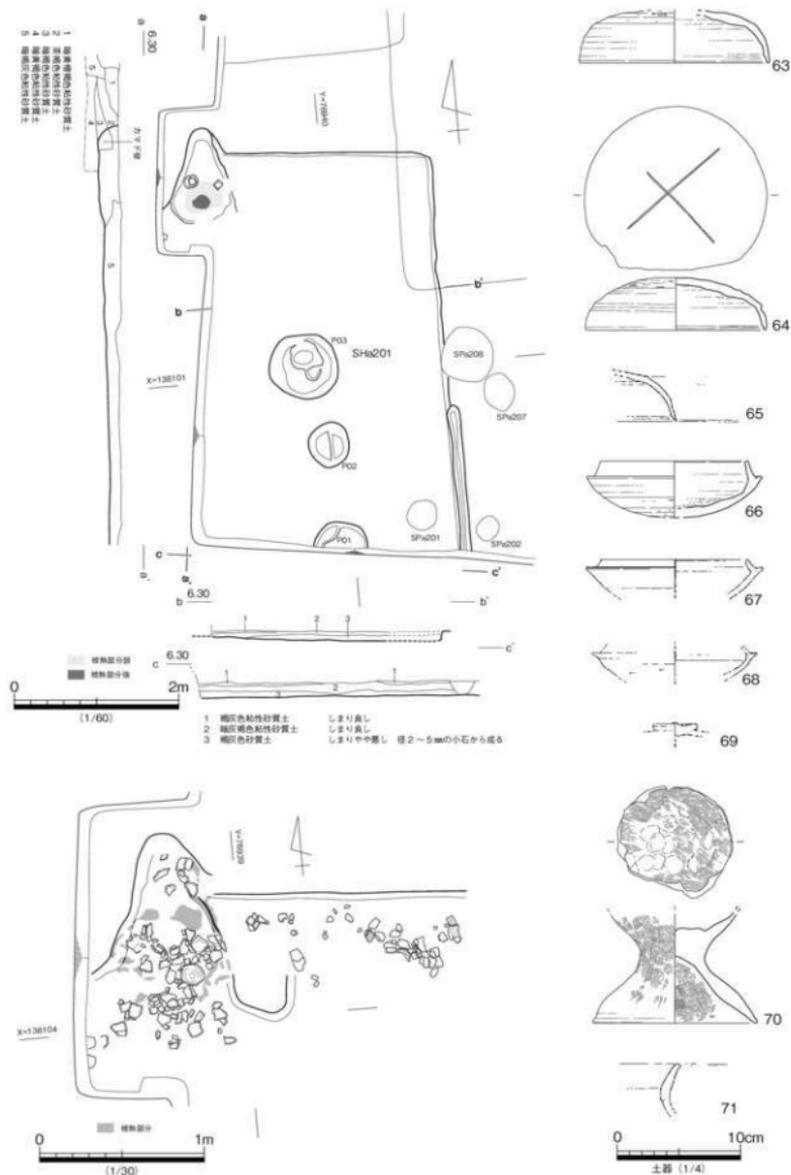
### SHa111

平成9年度I区の東辺で検出した。第2面として下層流路を掘削中に存在が判明し、東壁の土層で確認をとったところ、第1面に帰属するものであることがわかった。東半分が調査区外へ延びるが、平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北4.8m×東西2.0m、残存深度は0.40mを測る。主軸方位はN6°Eを測る。カマドや支柱穴などの付随する施設が確認できていないが、西壁から南壁にかけて壁溝を確認した。

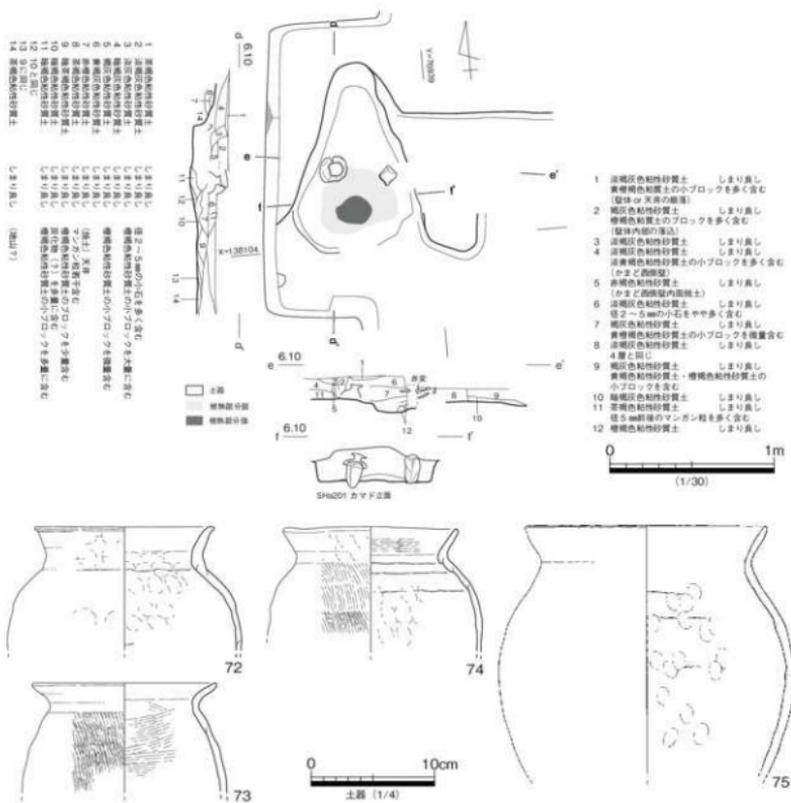
出土遺物はあまり多くは認められないが、須恵器杯蓋(60～62)を図化した。これらの形状から概ね6世紀第4四半期頃のものと考えられ、建物もその頃のものと考えておく。

### SHa201

平成9年度II区の南西隅で検出した。概ね建物の北東部のみを検出しており、残りは調査区外へ延びる。平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北5.0m×東西3.2m、残存深度は0.22mを測る。主軸方位はN2°Eを測る。北壁でカマドを確認した。基底部のみが残存し、袖部はわずかに確認できる程度であるが、支石が2本残存する。支石は共に被熱に伴う赤化面が認められるほか、支石間と焚口間の床面は明瞭な被熱痕が確認できた。なお、西側の支石上には土師器高坏脚部が被っていたが、支石と高坏の間に焼土が挟まっており、意図的に乗せたとい



第35図 SHa201 平・断面図、カマド平面図、出土遺物1



第36図 SHa201 カマド平・断面図、出土遺物2

遺物を取り上げた時期も異なるため混入も考えにくい。現状では両遺構の埋没がほぼ同時であったと考えておきたい。

### SHa202

平成9年度Ⅱ区の南半西側で検出した。建物東部のみを検出しており、残りは調査区外へ延びる。平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北5.5m×東西2.3m、残存深度は0.22mを測る。主軸方位はN82°Eを測る。カマドや支柱穴、壁溝などの付随する施設が確認できていないが、平面形状から竪穴建物と判断した。

出土遺物は微量であり、須恵器杯身(78)、高坏(79)、土師器管状土錘(80)を図化した。78は形

状から6世紀第3四半期頃のものと考えられ、建物の時期も概ね同じ頃のものとする。

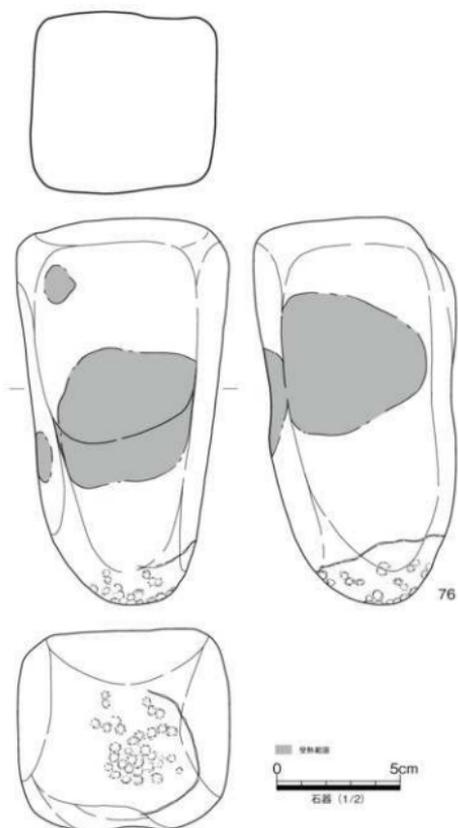
### SHa203

平成9年度Ⅱ区の南半西側で検出した。平面形状は隅丸方形を呈する。南北5.3m×東西4.6m、残存深度は0.12mを測る。主軸方位はN18°Wを測る。支柱穴、壁溝などの付随する施設が確認できていないが、カマドと考えられる焼土が伴うことと検出した平面形状から竪穴建物と判断した。北壁中央付近に煙道の痕跡と思われる長さ1m、幅0.25mの張り出しが、その根元部分に焼土面がそれぞれ認められ、カマドが作りつけられていたと判断した。袖部はほとんど残存しておらず、焼土の状況からみて、掘り窪めた燃焼室底部がかろうじて残存している状況であろう。

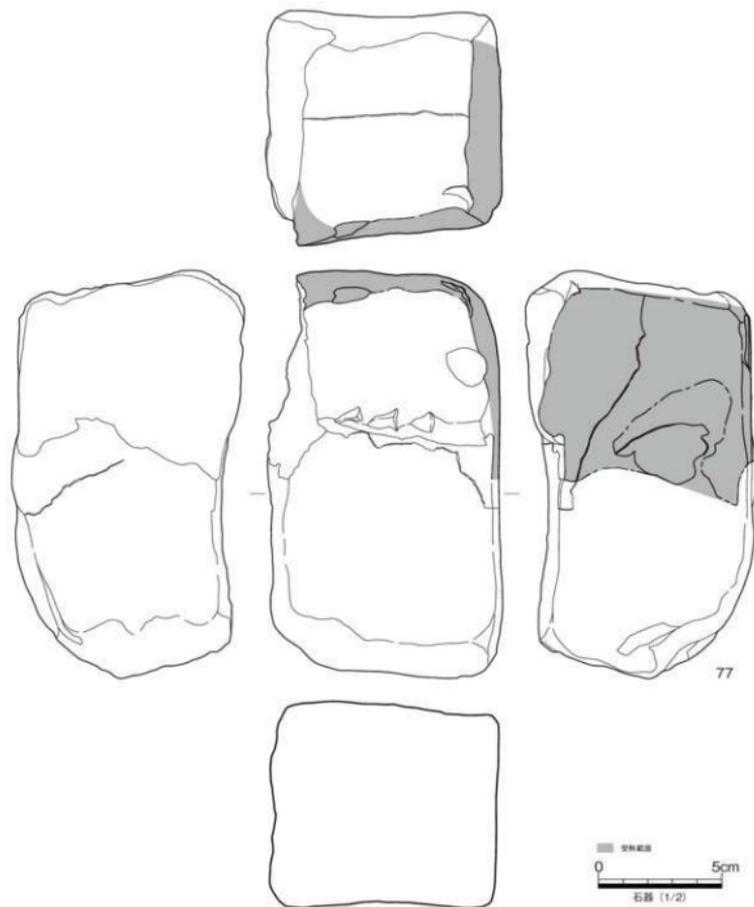
出土遺物は、須恵器杯身(81~85)、蓋拵み(86)、無蓋高坏(87)、土師器高坏(88・89)を図化した。調査時に下位に存在する建物の埋土を一部掘りこんでいる可能性があり、81・86・87は混入品であろう。その他の遺物から概ね6世紀第3~第4四半期頃のものとして主体であり、建物の時期も概ねその頃のものとする。なお、西側1/3を除くほぼ全面がSHa204と重複するほか、西辺の両端でSHa201及びSHa202と重複する。また、南東隅部ではSHa211と重複する。このうち、SHa204と211は出土遺物から本建物より古い建物であることは間違いないが、残り2棟との関係は近接した時期とみられ、前後関係が不明である。本建物の出土遺物がやや新しい要素を含んでいると考えられ、調査時の判断とは前後関係が逆になる。

### SHa204

平成9年度Ⅱ区の南半中央で検出した。平面形状は隅丸方形を呈する。南北6.2m×東西5.7m、残存深度は0.35mを測る。主軸方位はN8.5°Wを測る。SHa203・205・206・208・211と重複関係にあるが、



第37図 SHa201 出土遺物3



第38図 SHa201 出土遺物4

SHa208・211 は本建物に先行するものである。主柱穴、壁溝などの付随する施設が確認できていないが、検出した平面形状と北壁に作り出されたカマドから堅穴建物と判断した。カマドは比較的良好的に袖部が残存するほか、燃焼部内には炭が残置される。また、中心部燃焼室床面に礎が伏せ置かれていた。

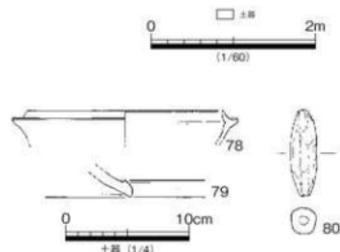
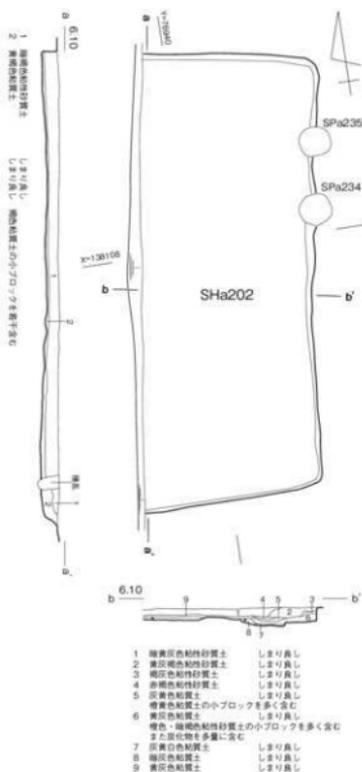
出土遺物は比較的多量認められる。須恵器杯蓋 (90・91)、杯身 (92～99)、蓋摘み (100)、高坏 (101～105)、甕 (106)、甕 (107)、土師器壺 (108)、甕 (109～111) のほか、土製支脚 (112) を図化した。

た。92～94、101～105はやや古い様相を示しており、下位のSHa208・211の遺物が混在していると見られる。カマド内に伏せ置かれた107の形状から概ね6世紀第3四半期頃のものが主体となると考えられ、建物の時期も概ねその頃のものと考えておく。先述した通り、SHa201出土遺物との間に接合関係が認められることから、共時性があるか近接した時期の建物であるといえる。

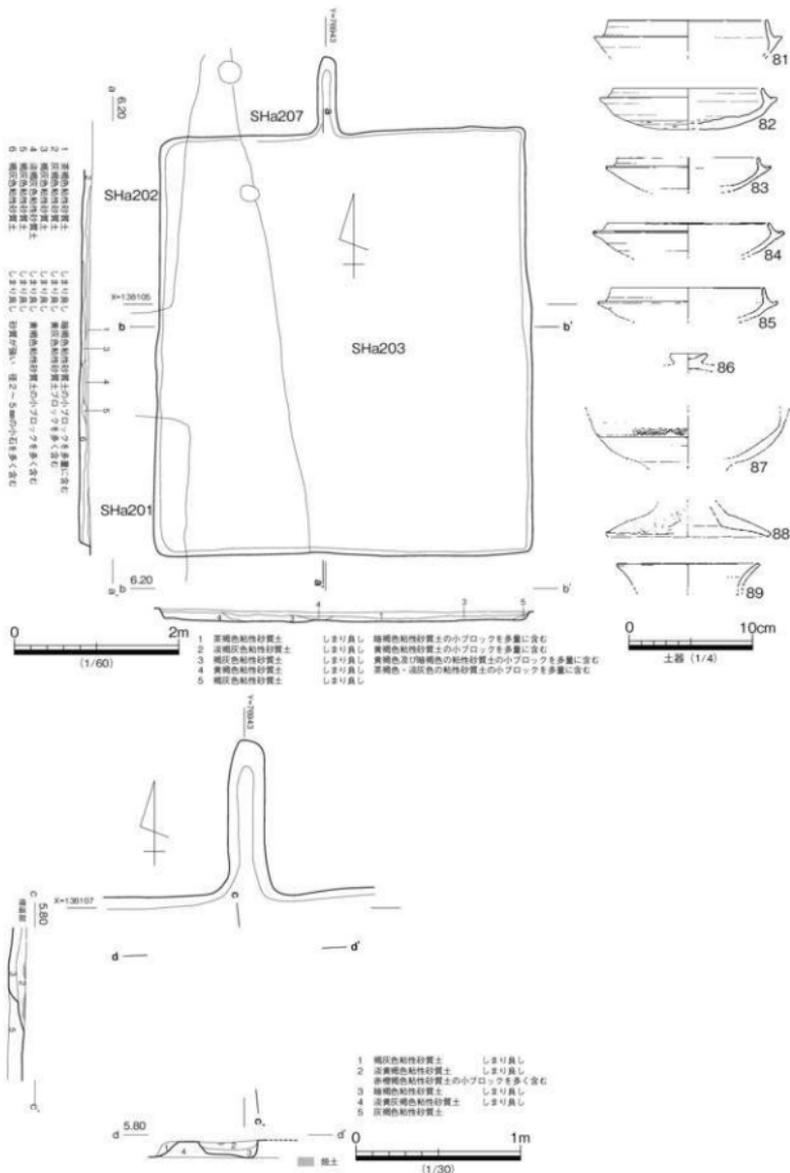
### SHa205

平成9年度Ⅱ区の南半東壁際で検出した。平面形状は隅丸方形を呈する。南北7.5m×東西3.7m、残存深度は0.40mを測る。主軸方位はN9°Eを測る。SHa204・206と重複関係にあり、いずれも本建物に先行するものである。主柱穴、壁溝などの付随する施設が確認できていないが、検出した平面形状と北壁に作り出されたカマドから竪穴建物と判断した。カマドは比較的良好に袖部が残存していたが、建物埋土との境界を十分とらえきれないほか、右袖部が調査区外へ延びる。燃焼部は北壁を削り込んで作り出しており、そのまま煙道へとつながっていたと考えられる。明瞭な煙道は認められない。カマド内は袖部及び天井部の構築土と内面の焼けた土が落ち込んだもので充填される。

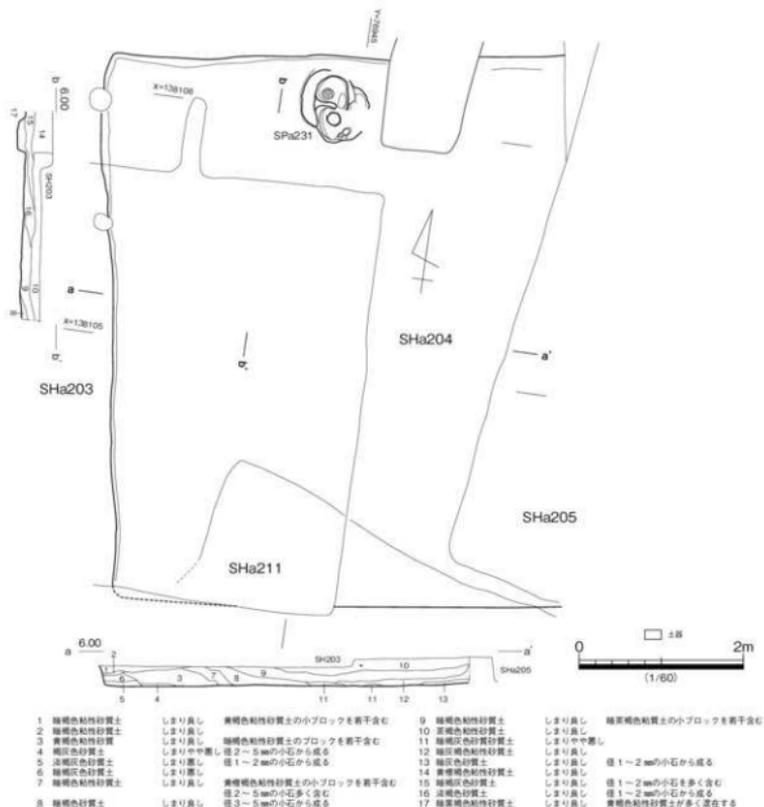
出土遺物は比較的多量認められる。須恵器杯蓋(113～117)、杯身(118～133)、盤(134～135)、甕(136)、土師器横瓶(137)・甕(138～140)、高坏(141)、土製支脚(142)、管状土錘(143)を図化した。また、検出位置が記録できていないが、柱材と考えられる芯持材(144)を図化した。劣化が著しく詳細な図化が困難であるが、取り上げ時の記録写真では材の接地面が平坦であることが見て取れる。117や132を含むことから6世紀末～7世紀第1四半期頃の廃絶時期を考えておく。



第39図 SHa202 平・断面図、出土遺物



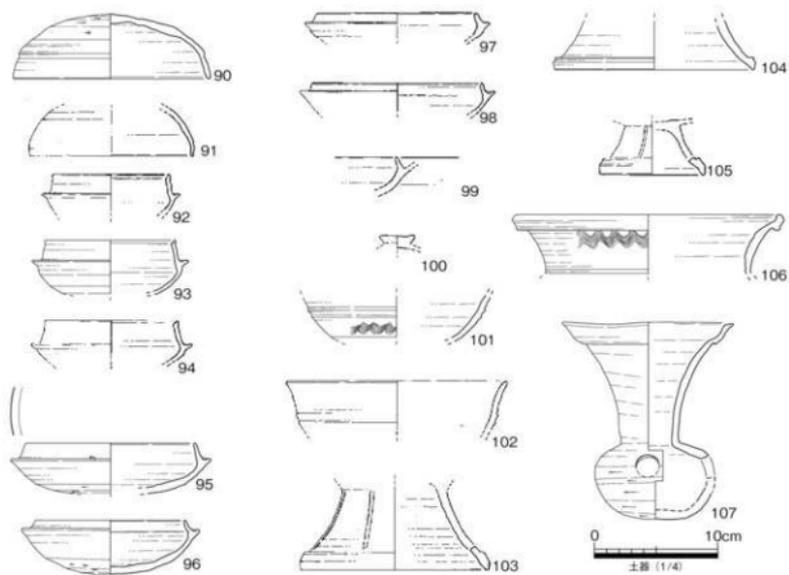
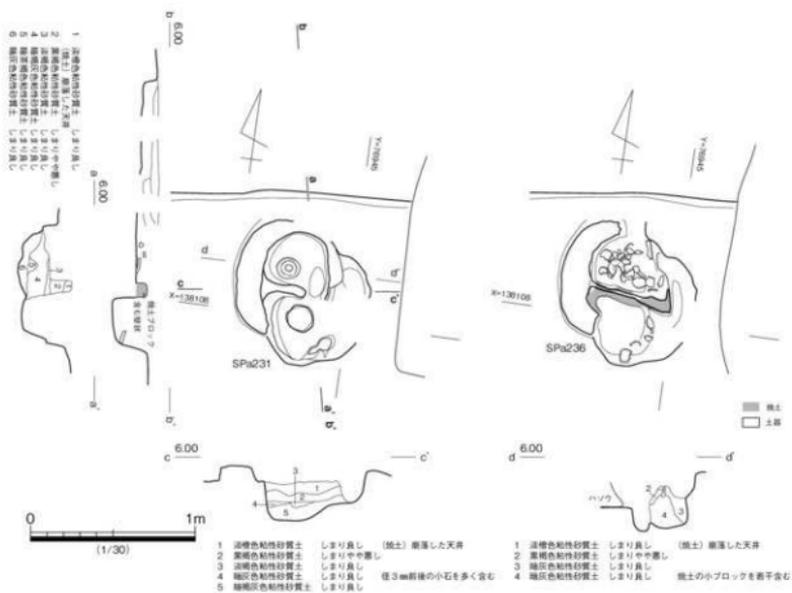
第40図 SHa203 平・断面図、カマド平・断面図、出土遺物



第41図 SHa204 平・断面図

## SHa206

平成9年度Ⅱ区の東辺中央付近で検出した。東半が調査区外へ延びるほか、SHa205と重複するため北辺部が残存するのみであるが、平面形状は隅丸方形を呈する。南北3.0m×東西4.5m、残存深度は0.25mを測る。主軸方位はN9°Wを測る。検出した平面形状と作り付けカマドの存在から竪穴建物と判断した。カマドは概ね北壁中央に作り付けられたと考えられ、外側に約1mの煙道が取り付く。袖部は平面検出時に明瞭に識別でき、地山と類似した色調であったことから全体が地山削り出しによるものと考えた。ただし、残存状況から基底部のみを削り出し、壁は粘土積み上げにより構築したと考えられる。燃焼室内には焼土層があり、一定期間使用されたことがうかがえる。中心部に須臾器高坏が、左袖裾に土師器甕の口縁部がそれぞれ逆位で出土した。支脚として転用されたものと考えられるが、被熱痕が認



第42図 SHa204 カマド平・断面図、出土遺物1

められないことから別の目的で置かれた可能性も考えられる。壁溝は右袖部側に確認出来たが、左袖部では不明である。

出土遺物は全体的に SHa205 に削平されていることから少量である。須恵器杯蓋(145・146)、高坏(147～149)、土師器甕(150)を図化した。複数の時期の遺物が混在しているが、カマド内に伏せ置かれた148の存在から6世紀第4四半期頃に廃絶した建物であると判断した。

#### SHa207

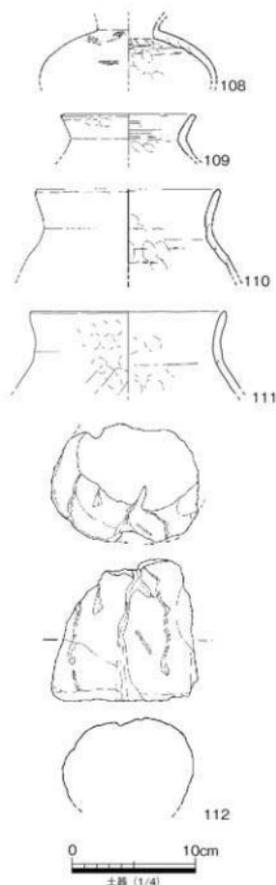
平成9年度Ⅱ区の中央部で検出した。複数の堅穴建物と重複するため残存部が限られるが、南辺と西辺が概ね直交し、平面形状は隅丸方形を呈する。南北5.1 m × 東西5.1 m、残存深度は0.30 mを測る。主軸方位はN 28° Wを測る。南辺床面で壁溝と考えられる溝状の落ち込みが確認できた。

遺物は少量出土している。須恵器杯蓋(151・152)、杯身(153)、土師器杯(154)を図化した。複数の時期の遺物が混在しており、152についてはSHa208の遺物を誤認して取り上げている可能性がある。151・153から概ね6世紀第2四半期頃のものと同判断し、建物の廃絶時期もその頃のものとする。

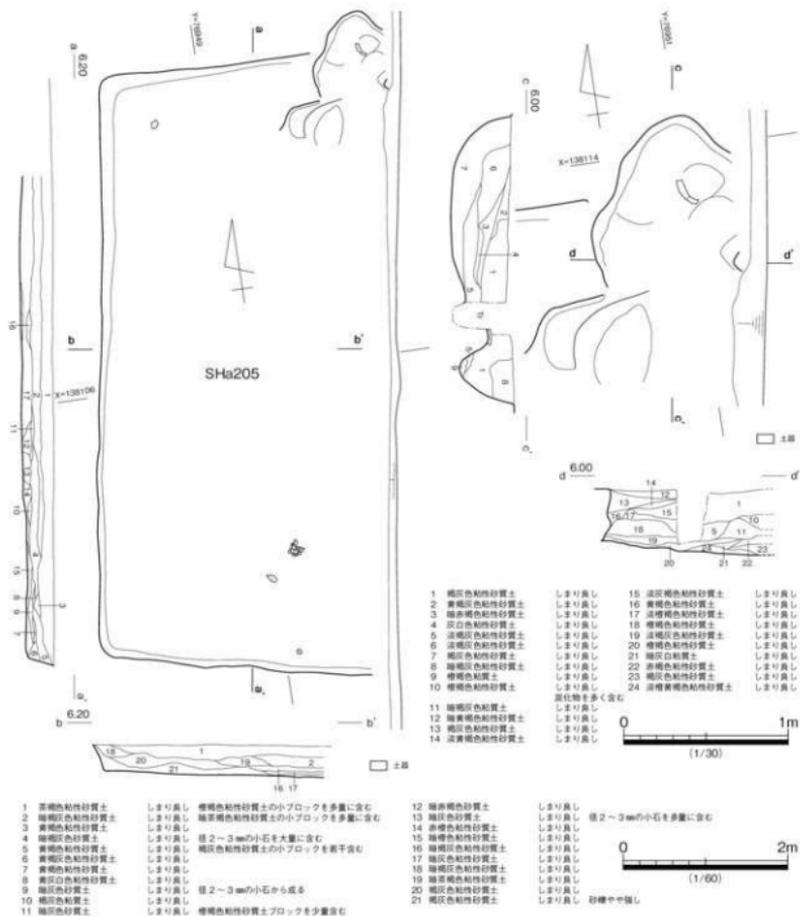
#### SHa208

平成9年度Ⅱ区の中央部で検出した。複数の堅穴建物と重複するが、残存状況からみて、平面形状は隅丸方形を呈する。南北5.7 m × 東西5.5 m、残存深度は0.25 mを測る。主軸方位はN 65.8° Wを測る。調査時の遺構検出が不十分で複数の堅穴建物に分けて掘削したため、遺物の取り上げや土層の記録に問題が残る。主柱穴2基と壁溝を確認したほか、作り付けカマドが残存することから、堅穴建物と判断した。主柱穴は本来4基あったと考えられるが、残り2基については確認しきれなかった。カマドは西辺中央に作り付けられ、燃焼部は奥行約0.85 m、幅最大1 mを測る。約0.8 mの煙道が取り付く。煙道は建物壁との接合部で0.3 mの幅を持ち、最深部で0.15 mを測る。断面観察では煙道と燃焼部の境に小さな高まりが認められたが、平面では検出されなかった。雨水を遮断する構造であった可能性がある。両袖部は比較的良好に残存する。調査時には地山削り出しと判断していたが、地山に比べるとやや濁った色調を呈し、置土により構築されたものと考えられる。燃焼部内には支石が2本設置される。焚口側の床面がそれぞれの支石の前で赤変しており、掛け口は2カ所あったと考えられる。支石は砂岩並びに花崗岩を使用しており、花崗岩は劣化して原型を留めない。

遺物は比較的多量出土しており、カマド周辺の壁際でまとまった出土が確認できた。特に土師器にそ

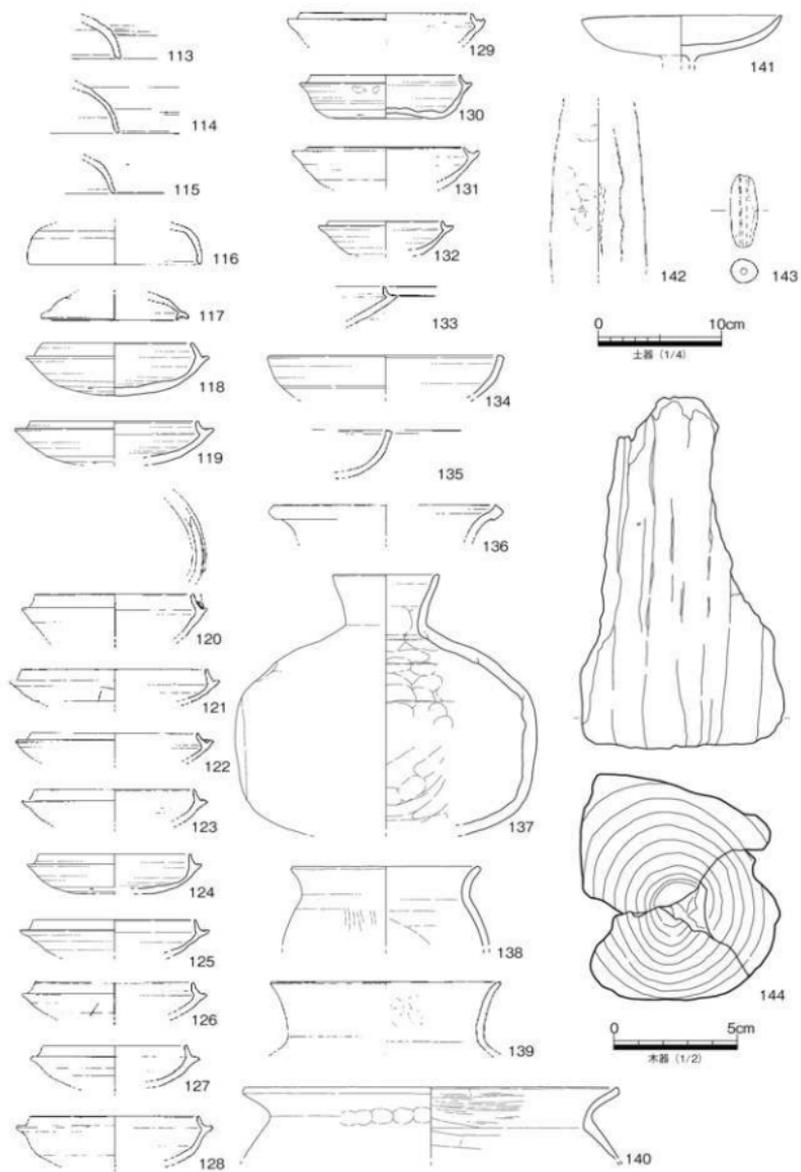


第43図 SHa204 出土遺物2

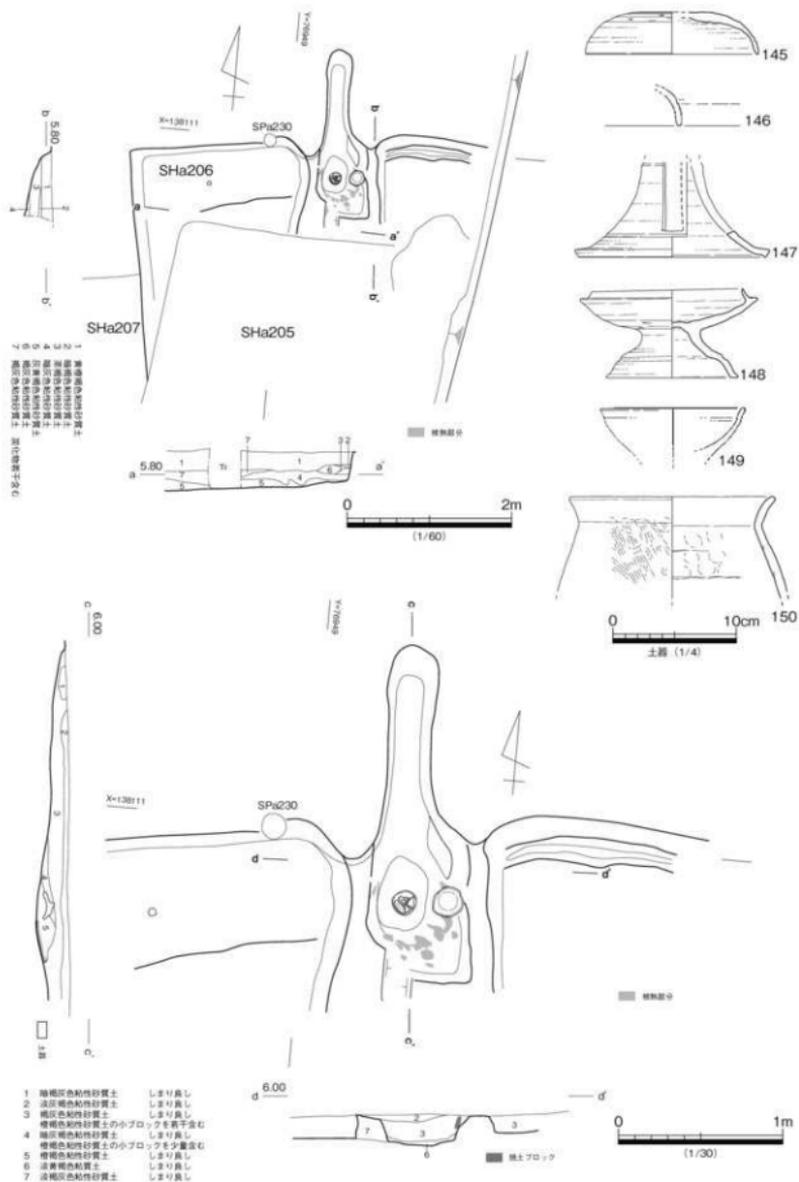


第44図 SHa205 平・断面図、カマド平・断面図

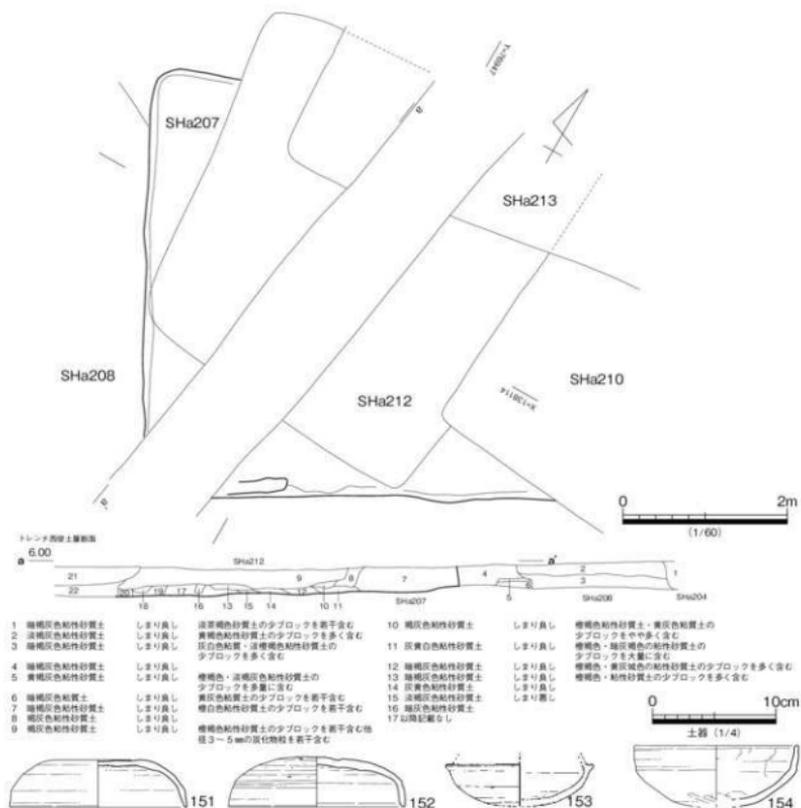
の傾向が強い。須恵器杯蓋（155～159）、杯身（160～163）、蓋（164・165）、高坏（166・167）、土師器甕（168～178）、椀（179～184）、ミニチュア土器鉢（185）、土師器甌（186）のほか、砂岩製支石（187）を図化した。大半が破片資料であるが、168はほぼ完形に復元できる。これらを構成する破片は主にSHa211側にあり、本建物側には少量分布するのみである。破片を共有することから埋没時期が同時であった可能性がある。須恵器から見る限りでは未報告遺物も含め、時期的なまとまりをもったもの



第45図 SHa205 出土遺物



第46図 SHa206 平・断面図、カマド平・断面図、出土遺物

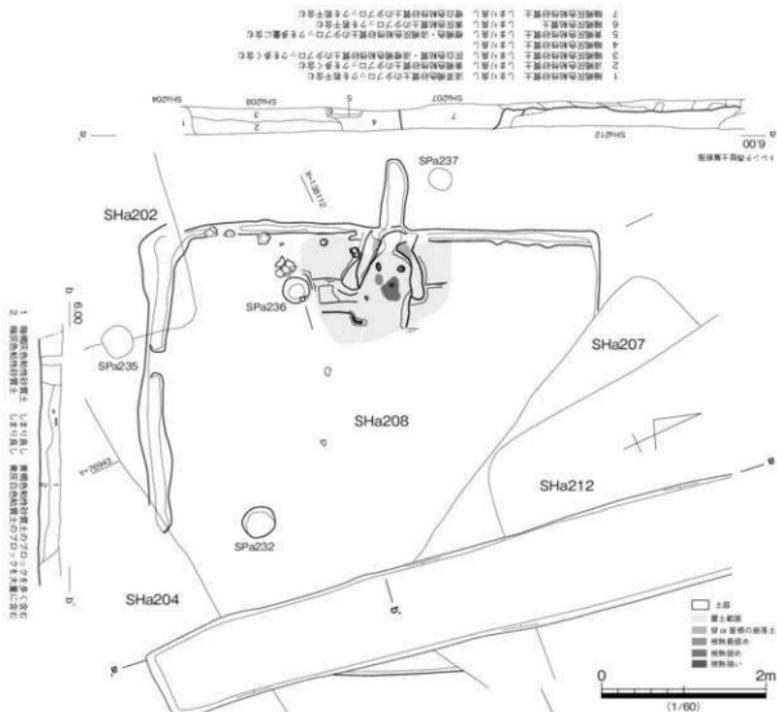


第47図 SHa207 平・断面図、出土遺物

と考えられ、概ね6世紀第1四半期頃のものと考えられる。建物の廃絶時期もこの頃であろう。

### SHa209

平成9年度Ⅱ区の南東隅で検出した。調査時の遺構検出が不十分で、異なるプランで掘削をしたことから遺物の取り上げや土層の記録が不十分である。SHa211と重複するが、これに後出する建物としてSHa209を掘削中、南東隅でカマドを検出したためプランの誤認が判明し、再検出を行った結果、北辺の一部が残存していた。本来、北西隅部が残存していたとみられる。南北1.6m×東西3.0mが辛うじて残存し、深度は0.27mを測る。主軸方位はN15°Eを測る。主柱穴と壁溝は確認できなかったが、作り付けカマドが残存することから、竪穴建物と判断した。カマドは調査区東壁に半分埋まっているが北



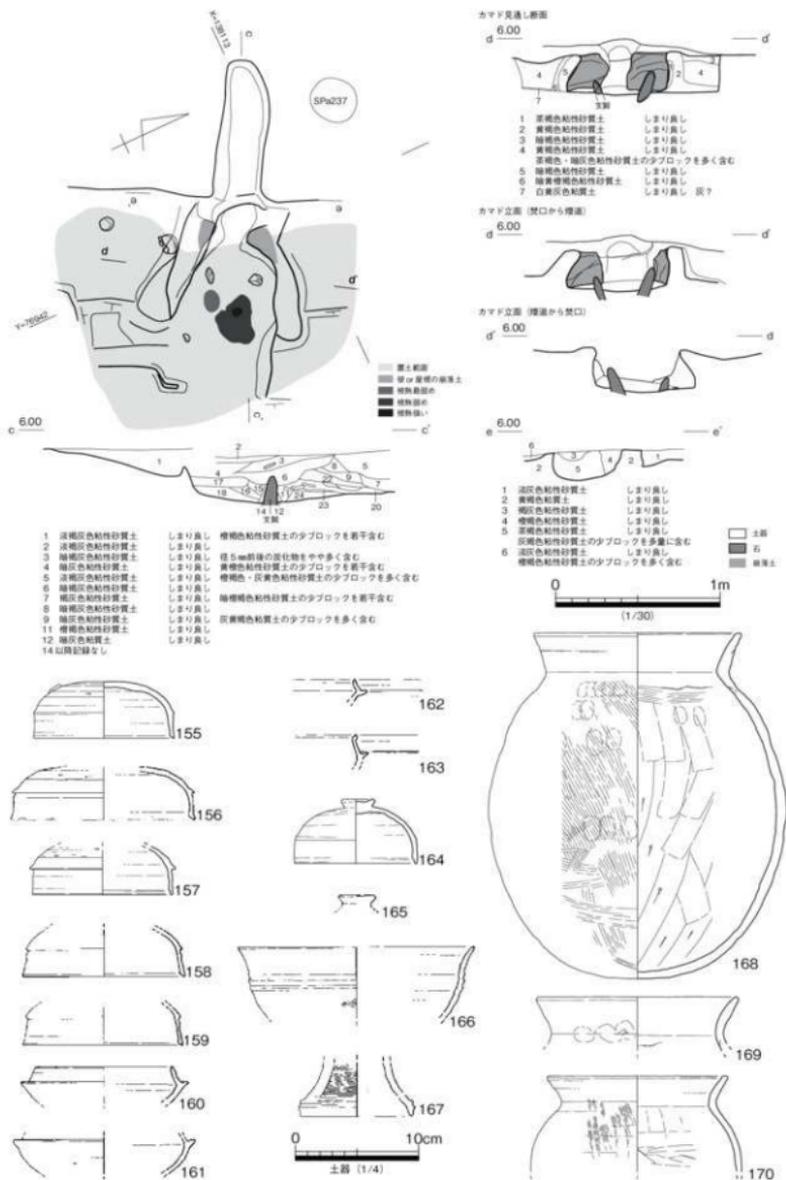
第48図 SHa208 平・断面図

辺中央に作り付けられたと考えられ、燃焼部は奥行約1mを測り、約1mの煙道が取り付く。袖部の残存は不良である。

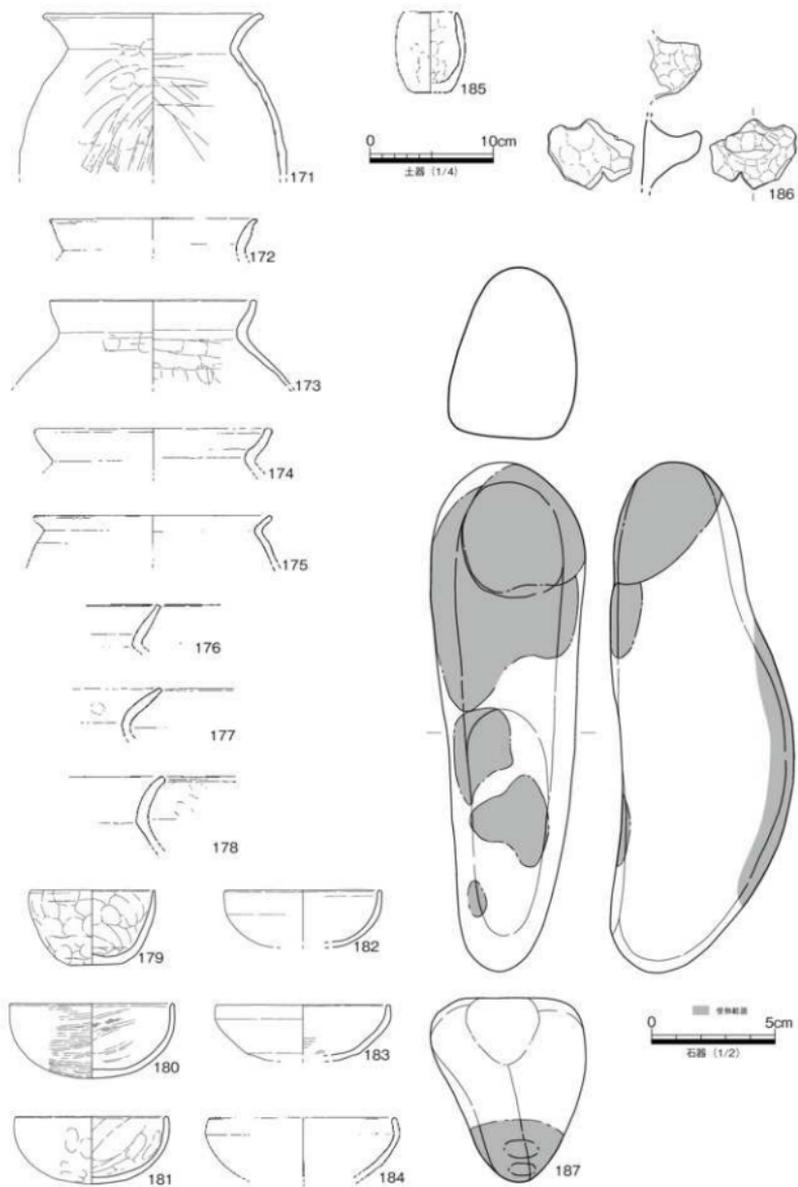
遺物は若干量出土しており、カマド周辺でまとまった出土が確認できた。須恵器杯蓋(188)、蓋(189)、土師器甕(190～192)、鉢(193)のほか、鉄製鋤先(194)を図化した。遺物の時期の主体は資料が少なく明確にしがたいが、188から6世紀第4四半期頃のものとする。建物の廃絶時期もこの頃であろう。

### SHa210

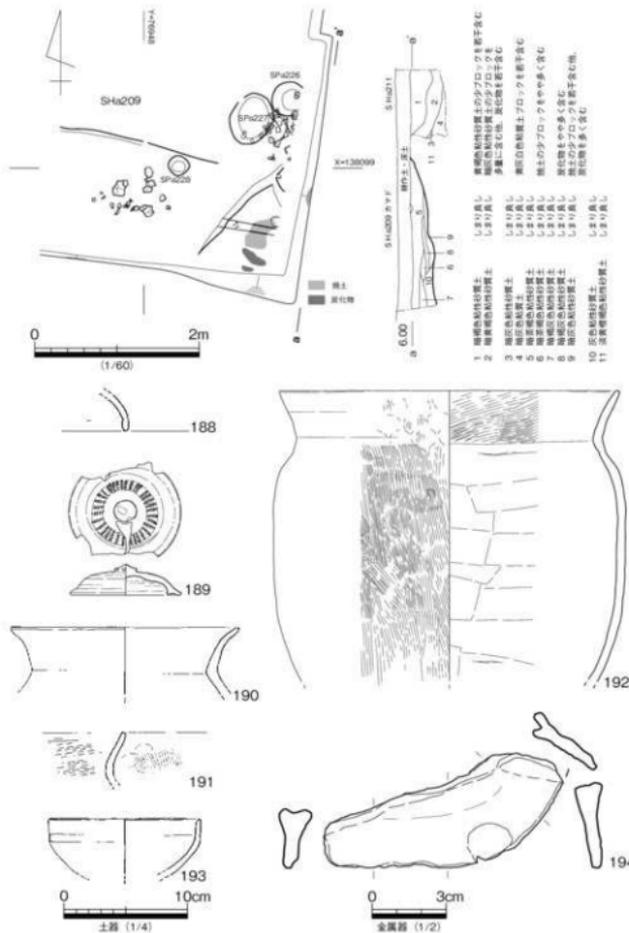
平成9年度Ⅱ区の東辺中央部で検出した。東辺が調査区外へ延びるほか、SHa207・212・213と一部重複するため詳細な形状は不明であるが、残存状況からみて平面形状は隅丸方形を呈する。埋土の状況から南北6.6m×東西3.8m、残存深度は0.20mを測る。主軸方位はN5°Eを測る。建物を構成する



第49図 SHa208 カマド平・断・立面図、出土遺物1



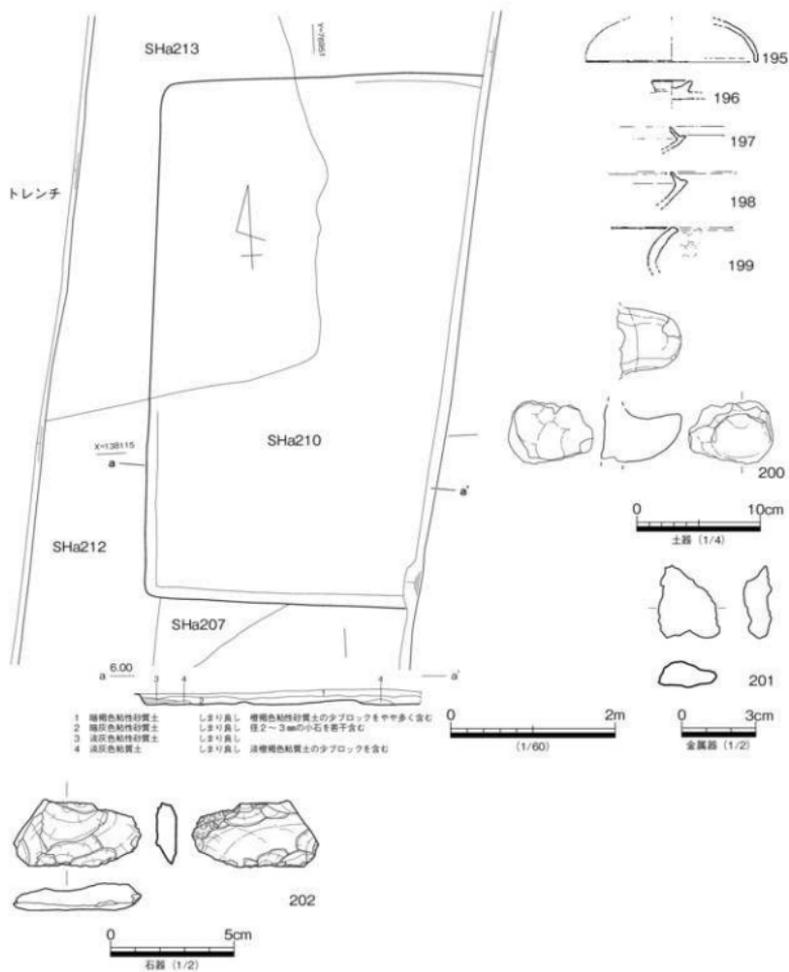
第50図 SHa208 出土遺物2



第51図 SHa209 平・断面図、出土遺物

支柱穴・壁溝・カマドなどの施設は検出できなかった。

遺物は少量出土している。須志器杯蓋(195)、蓋(196)、杯身(197-198)、土器器寛(199)、飯把手(200)のほか、鉄鍔片(201)、楔状石核(202)を図化した。遺物の時期の主体は資料が少なく明確にしがたいが、195から6世紀第4四半期頃のものとする。建物の廃絶時期もこの頃であろう。



第 52 図 SHa210 平・断面図、出土遺物

### SHa211

平成9年度Ⅱ区の南端東半部で検出した。SHa209が南部で大きく重複するほか、SHa203・204と一部重複するため詳細な形状は不明であるが、調査区東壁際で一部東壁下底部が残存しており、現状からみて平面形状は方形を呈する。南北5.0m×東西7.2m、残存深度は0.35mを測る。主軸方位はN78°Wを測る。遺構検出が不十分で複数の竪穴建物に分けて掘削したため、土層の記録や遺物の取り上げが上手く行っていない。また、本建物の北壁は少なくともSHa203・204によって削平されているが、調査中に把握できなかった。同様に南半でSHa209と大きく重複が認められるが、このような状況の中での調査となったため、遺物の取り上げに一部齟齬がある。明確な主柱穴は確認できなかったが、西壁際及び東壁際で壁溝を確認したほか、SHa203との接点で焼土が集中する場所を確認した。建物の北西隅に近い部分に相当するが、本来作り付けカマドが存在したと判断した。カマドの形状は保たれておらず、破壊されたものと考えられる。なお、断面観察の結果、カマドが想定される堆積の下部に西壁際の壁溝が観察されることから、カマド構築に先立ち壁溝が掘削されたと考えられる。カマド周辺からはまとまった遺物の出土が確認できた。また、東壁の中央付近の床面に土坑K01が認められた。壁溝との先後関係は不明であるが、多量に投棄された土器が壁溝付近まで広がっており、最終的には壁溝を壊していると思われる。

遺物は比較的少量出土している。特にカマドと想定する周辺部とK01内から残存状況の良好な資料が出土している。須恵器蓋(203・204)、杯蓋(205・206)、杯身(207～216)、高坏(217・218)、土師器杯(219)、碗(220～222)、埴(223)、壺(224・225)、高坏(226)、甕(227～231)のほか、磨減痕ある石器(232)、鉄製鎖断片(233)を図化した。216と219については、掘削時に後出する遺構のものが混入したものと考えられる。なお、204・208・211・223がカマド及びその周辺から、206・207・214・225・227・228がK01からそれぞれ一括で出土した資料である。共に6世紀第1四半期頃のものと考えられ、概ね両者の間には時間的に齟齬がなく一括性が高い資料とみることができる。カマドが破棄されることと、その対辺にあるK01に破損した土器が投棄されていることから、建物廃絶の時期も同じ頃のものと考えられる。

### SHa212

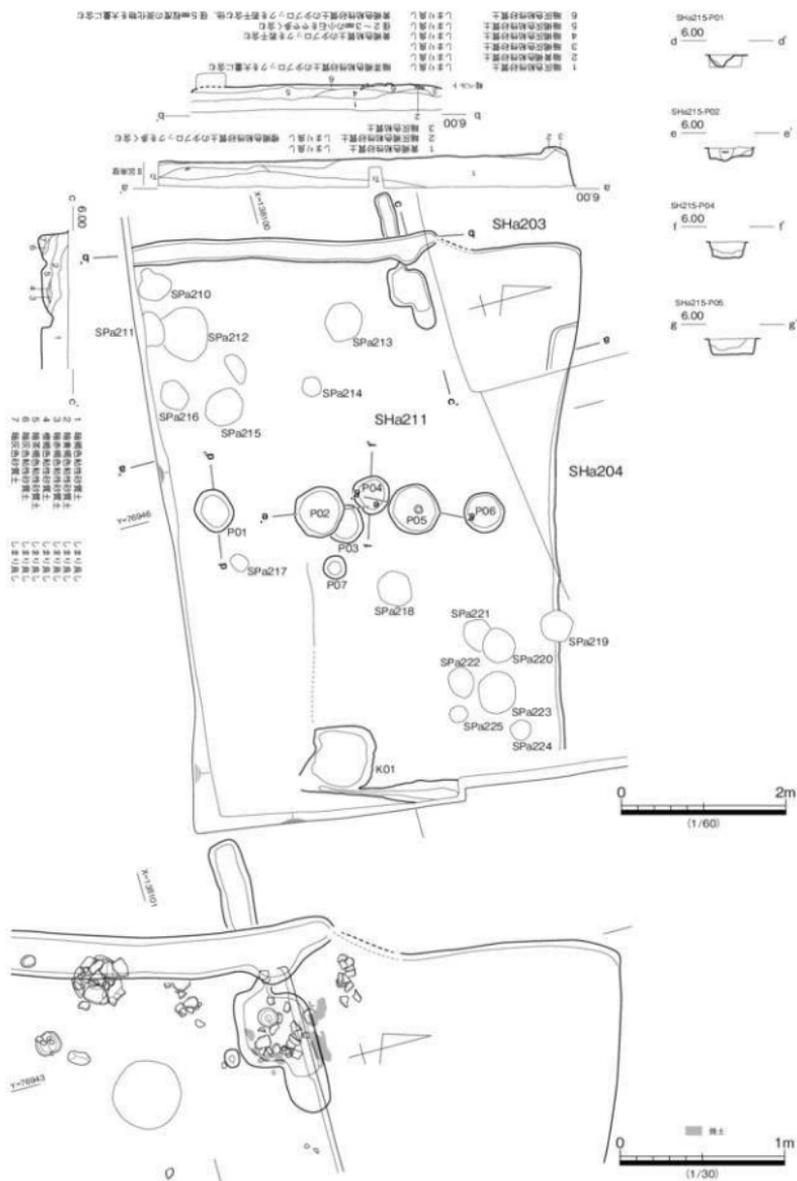
平成9年度Ⅱ区の中央部で検出した。複数の竪穴建物と重複するが、残存状況からみて、平面形状は隅丸方形を呈する。南北4.3m×東西4.0m、残存深度は0.20mを測る。主軸方位はN58°Eを測る。主柱穴や壁溝、カマドなどの施設は検出できなかった。

遺物は少量出土している。須恵器杯蓋(234～236)、杯身(237・238)、甕(239)、土師器甕(240・241)のほか、サヌカイト製石匙(242)を図化した。遺物の時期の主体は資料が少なく明確にしがたいが、238から6世紀第3四半期頃のものとする。建物の廃絶時期もこの頃であろう。

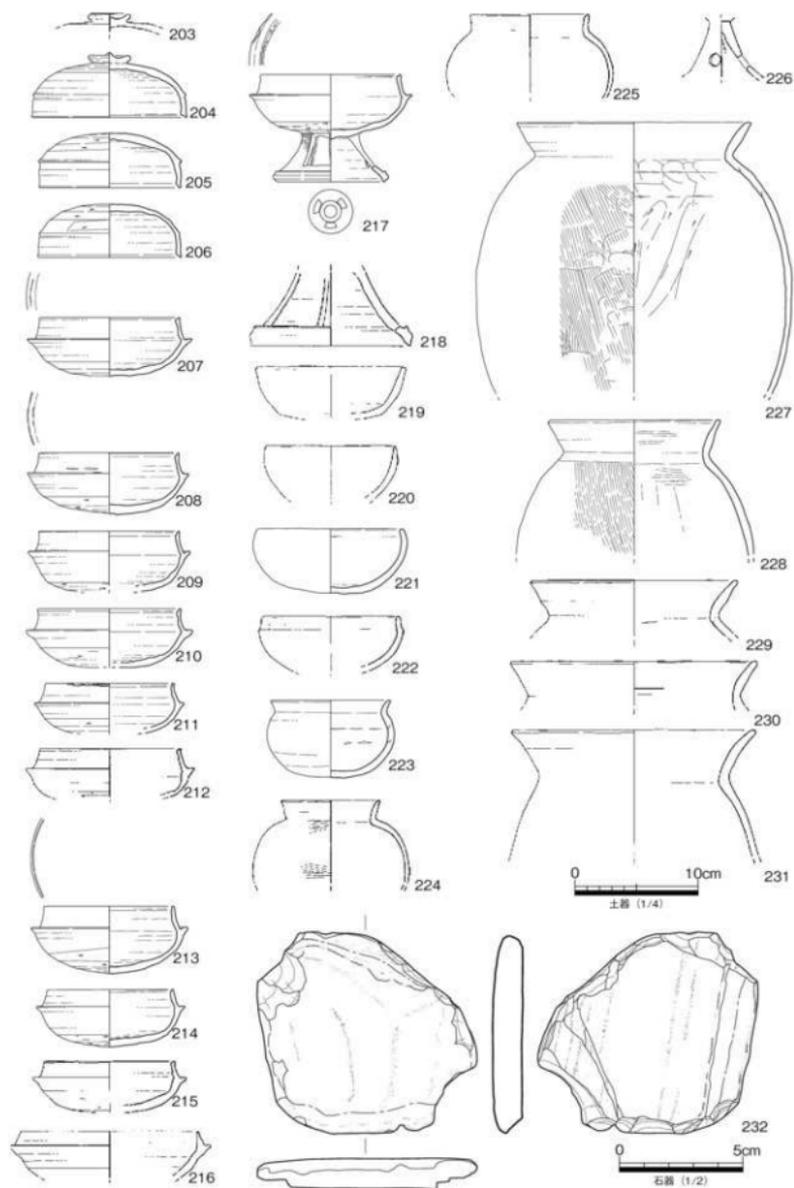
### SHa213

平成9年度Ⅱ区の中央北寄りで検出した。平面形状は隅丸方形を呈する。南北6.7m×東西5.7m、残存深度は0.30mを測る。主軸方位はN85°Wを測る。作り付けカマドや壁溝の状況は不明であるが、主柱穴を3基確認したことと平面形状により竪穴建物と判断した。

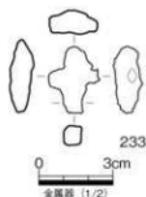
出土遺物はやや多く認められた。須恵器杯蓋(243～246)、杯身(247)、高坏(248)、甕(249)、土



第53図 SHa211 平・断面図、カマド平面図



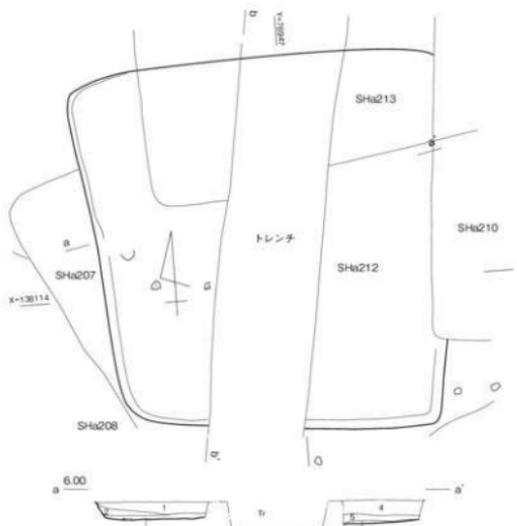
第54図 SHa211 出土遺物1



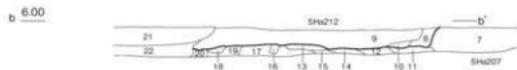
第55図 SHa211

出土遺物2

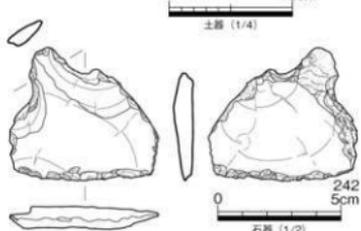
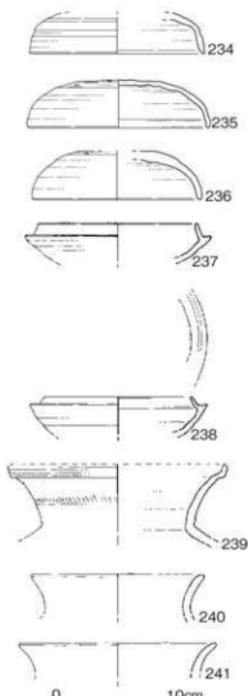
師器椀 (250)、高坏 (251)、甕 (252~256) のほか、ササカイト製石鏃 (257) を図化した。252~254のように下層を中心に5世紀代の遺物を含むなど、やや遺物の時期に差があるが、須恵器については6世紀第1~第2四半期頃のものが多い。ただし、重複関係にある周辺のSHa210・212・216との間に時期的な点で産産が認められる。これらの新旧関係はSHa213(古)→SHa212→SHa210・216(新)と変遷すると考えておく。



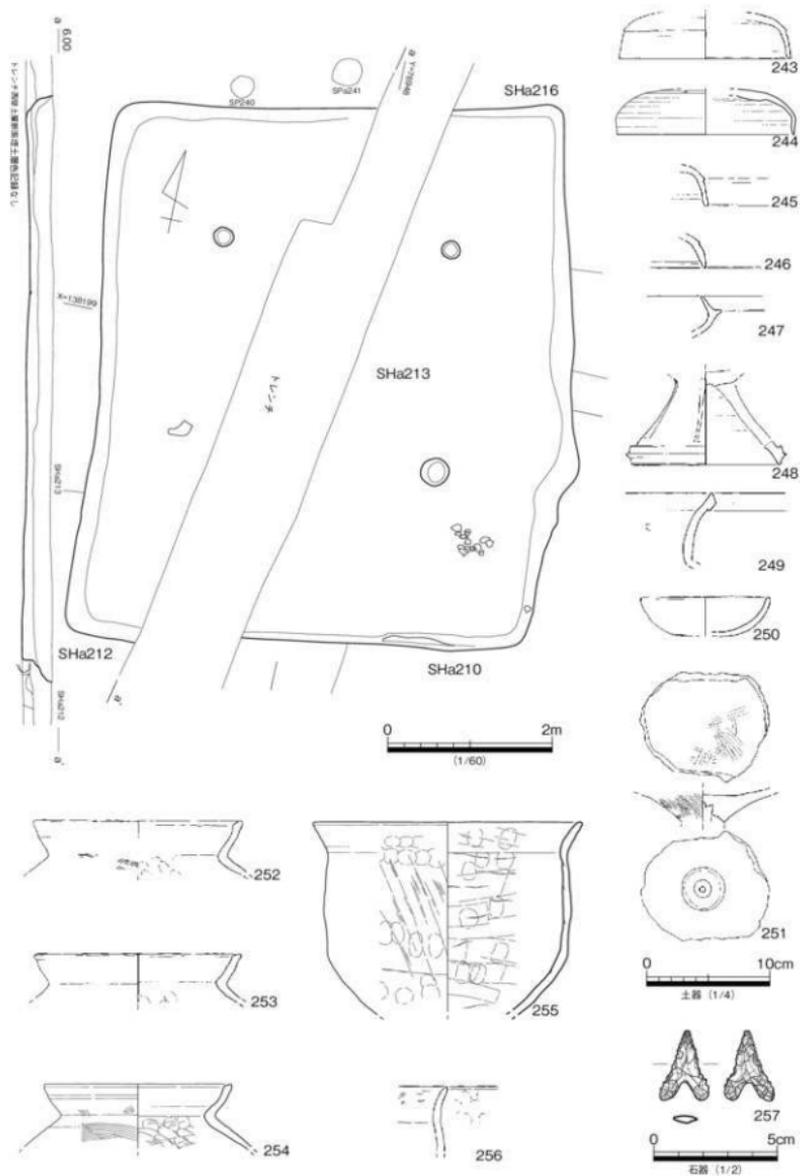
- |   |          |       |                                       |
|---|----------|-------|---------------------------------------|
| 1 | 緑褐色粘り砂質土 | しまりよし | 径2~3mmの小石を若干含む<br>緑褐色粘り砂質土の少ブロックを散見含む |
| 2 | 緑褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄灰色粘り砂質土の少ブロックを少量含む                   |
| 3 | 緑褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄灰色粘り砂質土の少ブロックを多く含む                   |
| 4 | 緑褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄灰色粘り砂質土の少ブロックを若干含む                   |
| 5 | 緑褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを多く含む                   |
| 6 | 黄褐色粘り砂質土 | しまりよし | 径2~3mmの小石をやや多く含む                      |



- |    |          |       |                            |
|----|----------|-------|----------------------------|
| 1  | 緑褐色粘り砂質土 | しまりよし | 淡茶褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む       |
| 2  | 緑褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを多く含む        |
| 3  | 緑褐色粘り砂質土 | しまりよし | 灰白色粘り・淡茶褐色粘り砂質土の少ブロックを多く含む |
| 4  | 緑褐色粘り砂質土 | しまりよし | 緑褐色・淡茶褐色粘り砂質土の少ブロックを多量に含む  |
| 5  | 黄褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |
| 6  | 緑褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |
| 7  | 緑褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |
| 8  | 黄褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |
| 9  | 黄褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |
| 10 | 黄褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |
| 11 | 黄褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |
| 12 | 黄褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |
| 13 | 黄褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |
| 14 | 黄褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |
| 15 | 黄褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |
| 16 | 黄褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |
| 17 | 緑褐色粘り砂質土 | しまりよし | 黄褐色粘り砂質土の少ブロックを若干含む        |



第56図 SHa212 平・断面図、出土遺物



第57図 SHa213 平・断面図、出土遺物

## SHa214

平成9年度Ⅱ区の北西隅で検出した。北端部が調査区外に延びるが、三辺とそれらのなす角度から隅丸方形を呈すると判断した。南北7.1m×東西7.1m、残存深度は0.60mを測る。主軸方位はN 17.5°Wである。壁溝の状況は不明であるが、調査区北西隅で焼土塊を認めることから作り付けカマドが想定できるほか、主柱穴と考えられる柱穴を確認したことから竪穴建物と判断した。焼土塊がカマドの残骸であれば、これがほぼ北辺に相当すると考えられることから、大きく北へ延びる建物ではなくほぼ正方形に近い平面形となり、北辺中央にカマドが作り付けられたものとなろう。カマドの残存状況は不良で、燃焼部の基底部が辛うじて残存する。袖部は盛土によって構築されたものである。なお、調査時に十分解釈できなかったが、調査区北壁を観察すると建物東壁に沿う部分で地山削り出しとみられる段差が確認できた。この段差の中を埋める埋土（北壁土層7・8）については、調査段階では建物下層の流路埋土として解釈していたが、カマド上面を8層が覆っており、建物埋土として理解するべきかもしれない。しかし、後述するⅠ区下層流路SRa101の延伸する方向がこのSHa214下位に相当することから考えて、下層出土遺物の一部についてはこのSRa101起源のものと考えてもよい。

出土遺物は比較的多量認められる。周辺から須恵器杯・土師器甕などが出土したほか、土製支脚の破片（309）が確認できた。須恵器杯身（258～271、296～303）、杯蓋（284～294）、高坏（272・273）、蓋（295）、壺（274）、甕（275・305）、横瓶（304）、土師器甕（276～278、306・307）、甌（279～283・308）を図化した。284～310は下層埋土並びに流路遺物として取り上げたものである。全体的に6世紀第2四半期頃のもの为主体となると考えられるが、これらはSRa101最終埋没層に関連しており、下層遺物の中にある285・286・298・299・302など6世紀第4四半期頃のものにはSHa214の掘り残しと考えるべき。なお、瓦（310）が混じるが上面から掘りこまれた遺構に本来伴っていた遺物であろう。以上から建物の廃絶時期は6世紀第4四半期頃と考える。

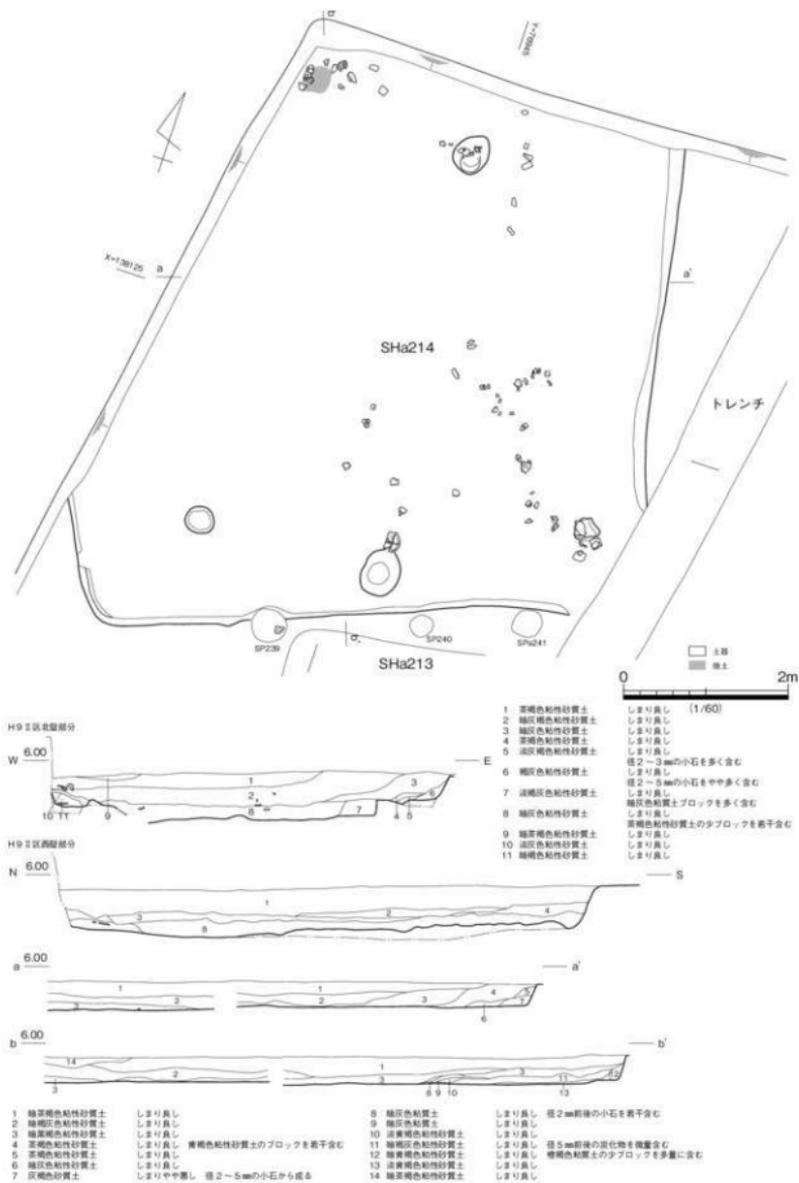
## SHa215

平成9年度Ⅱ区の西辺中央で検出した。大半がSHa217により削平されるため全体の形状は不明である。南北0.5m×東西1.4m、残存深度は0.30mを測る。主軸方位はN 4°Wを測る。周辺で明確なコーナー部を持つ遺構が竪穴建物以外に認められないことから、竪穴建物に分類した。出土遺物がほとんど認められず、帰属時期は不明である。

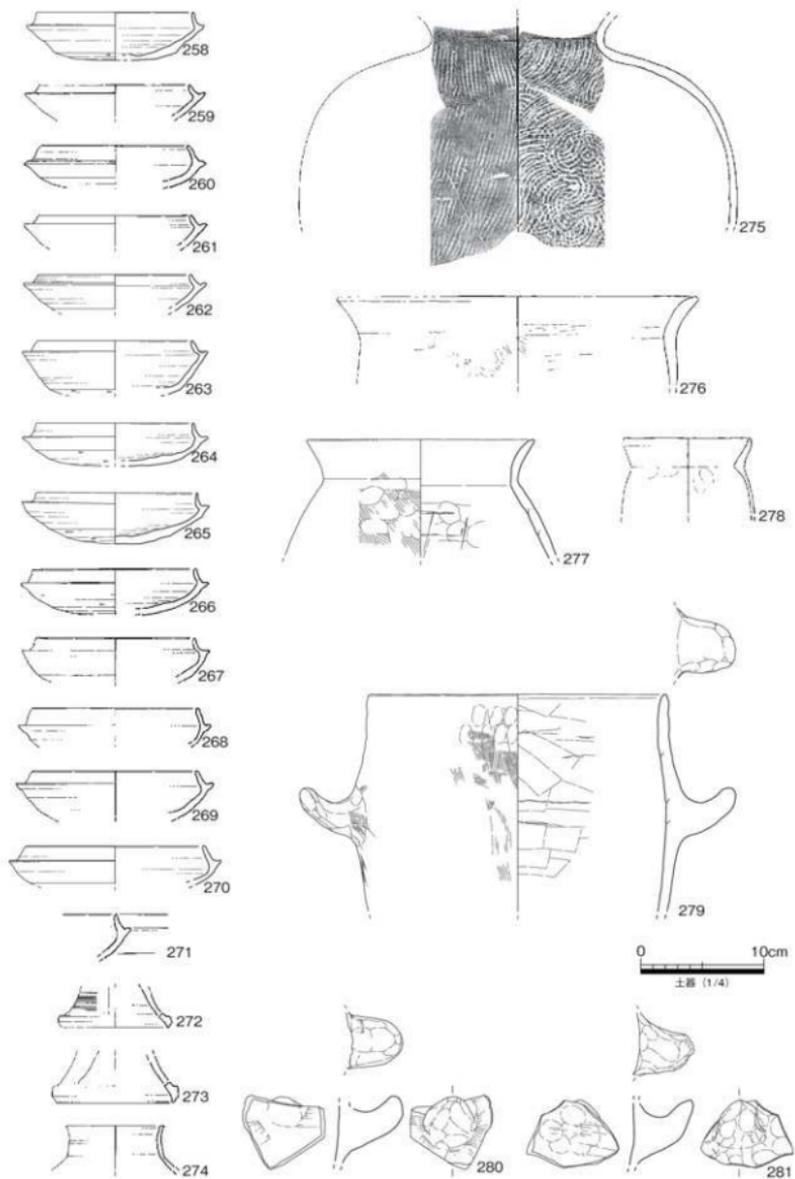
## SHa217

平成9年度Ⅱ区の西辺中央付近で検出した。西半部が調査区外に延びるため全体の形状は不明であるが、残存する三辺とそれらのなす角度から平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北5.4m×東西2.8m、残存深度は0.35mを測る。主軸方位はN 15°Wを測る。付随施設の状況は不明であるが平面形状から竪穴建物と判断した。

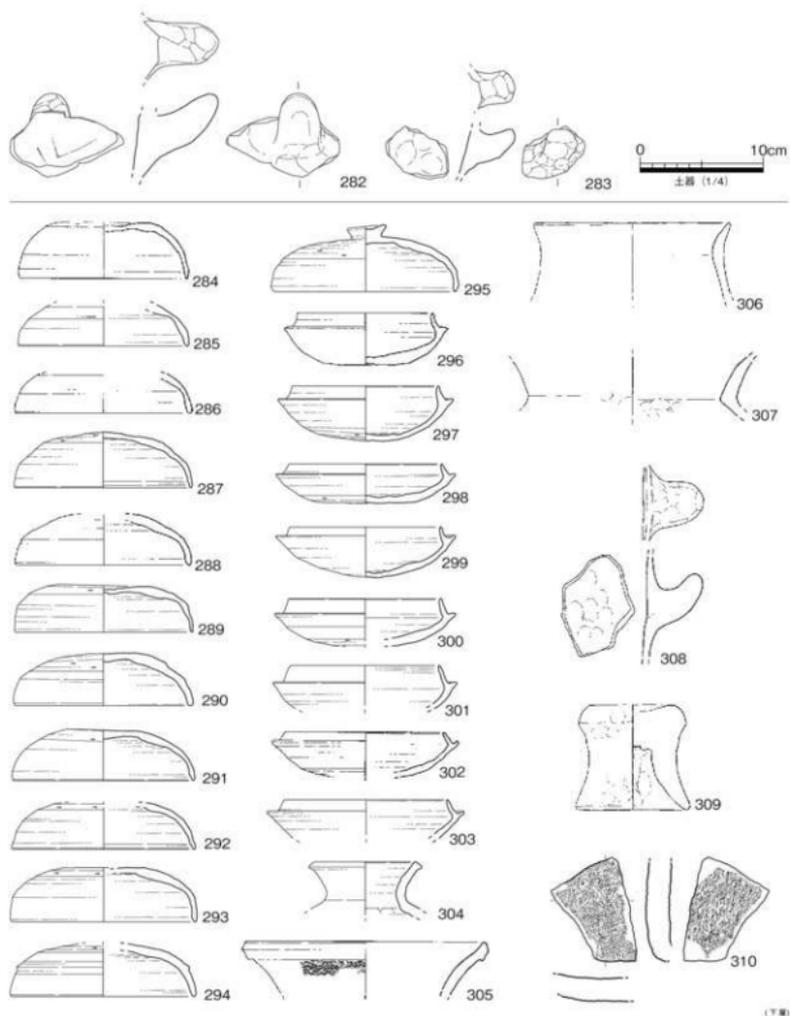
ややまとまった遺物が認められ、須恵器杯蓋（314）、杯身（315～318）、高坏（319・320）、壺（321）、土師器甕（322）のほか、滑石製有孔円盤（323）、サヌカイト製石鏃（324）を図化した。遺物は時期幅があるが、314・318の存在から6世紀第4四半期頃の廃絶と考える。やや古い時期の遺物は下位にあるSHa215に帰属する可能性も考えられる。



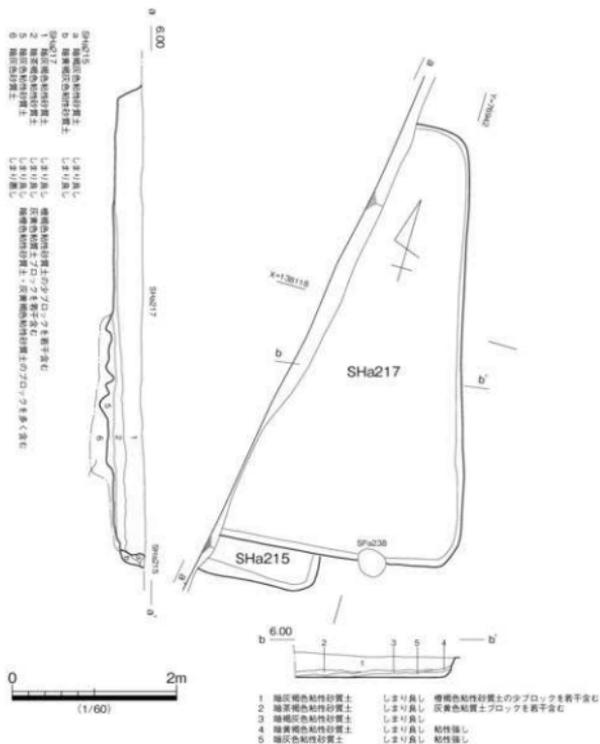
第58図 SHa214 平・断面図



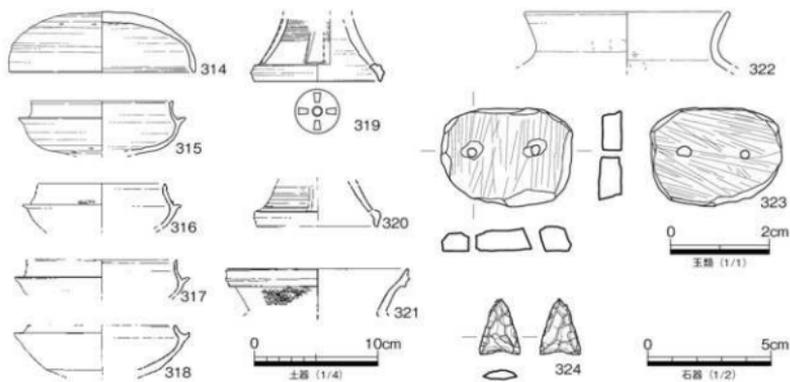
第59図 SHa214 出土遺物1



第60図 SHa214 出土遺物2



第 61 図 SHa215・SHa217 平・断面図

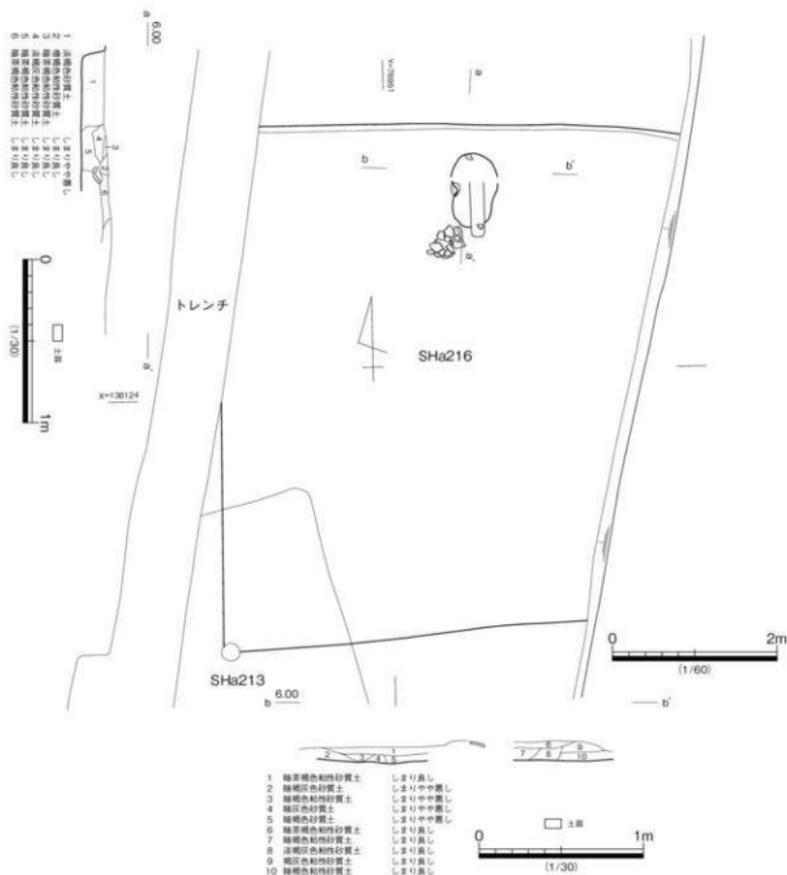


第 62 図 SHa217 出土遺物

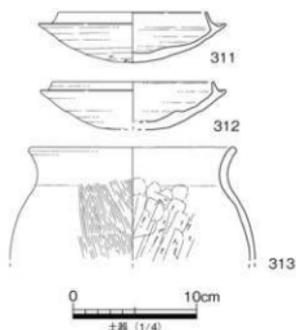
## SHa216

平成9年度Ⅱ区の北東隅付近で検出した。西辺が試掘トレンチで削平されるほか、東辺が調査区外に延びるため全体の形状は不明であるが、南北両辺が直線をなし概ね平行することから平面形状は方形ないし隅丸方形を呈すると判断した。南北65m×東西5.2m、残存深度は0.15mを測る。主軸方位は真北となる。主柱穴や壁溝の状況は不明であるが、北辺で焼土塊を伴うことから作り付けカマドが想定でき、これにより堅穴建物と判断した。カマドの残存状況は不良で、燃焼部底部のみが残存する。焚口付近からは須恵器杯身と土師器甕が出土している。

出土遺物は少量で図化に耐えうるものは限られる。須恵器杯身(311・312)、土師器甕(313)を図化した。須恵器の形状から6世紀第4四半期の廃絶時期を充てておく。



第63図 SHa216 平面図、カマド部拡大断面図



第64図 SHa216 出土遺物

## SHa301

平成9年度Ⅲ区の南東隅で検出した。東半が調査区外へ延びるが、北辺と西辺が概ね直交しており、平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北3.8m×東西4.2m、残存深度は0.25mを測る。主軸方位はN35°Wを測る。残存状況が不良であり、主柱穴を始め構成する施設が確認できなかったが、平面形状から竪穴建物と判断した。床面と判断した平坦面を有し、須恵器杯・土師器壺などの破片が散乱して出土している。総量としては比較的多量の遺物が出土しており、須恵器杯蓋(325～333)、杯身(334～336)、甕(337・338)、土師器甕(339・340)のほか、滑石製紡錘車(341)、サヌカイト製石織(342・343)を図化した。須恵器の特徴から概ね6世紀第4四半期のものと考えられ、建物の廃絶時期もその頃として考えられる。

## SHa302

平成9年度Ⅲ区の南東隅で検出した。東半が調査区外へ延びるが、北西隅部の状況から平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北5.1m×東西3.2m、残存深度は0.30mを測る。主軸方位はN3°Wを測る。SHa301による削平を受けて残存状況が不良であり、主柱穴を始め構成する施設が確認できなかったが、平面形状から竪穴建物と判断した。

出土遺物は少量である。須恵器杯蓋(344)、杯身(345)を図化した。これらから概ね6世紀第4四半期頃のものと考えられる。

## SHa303

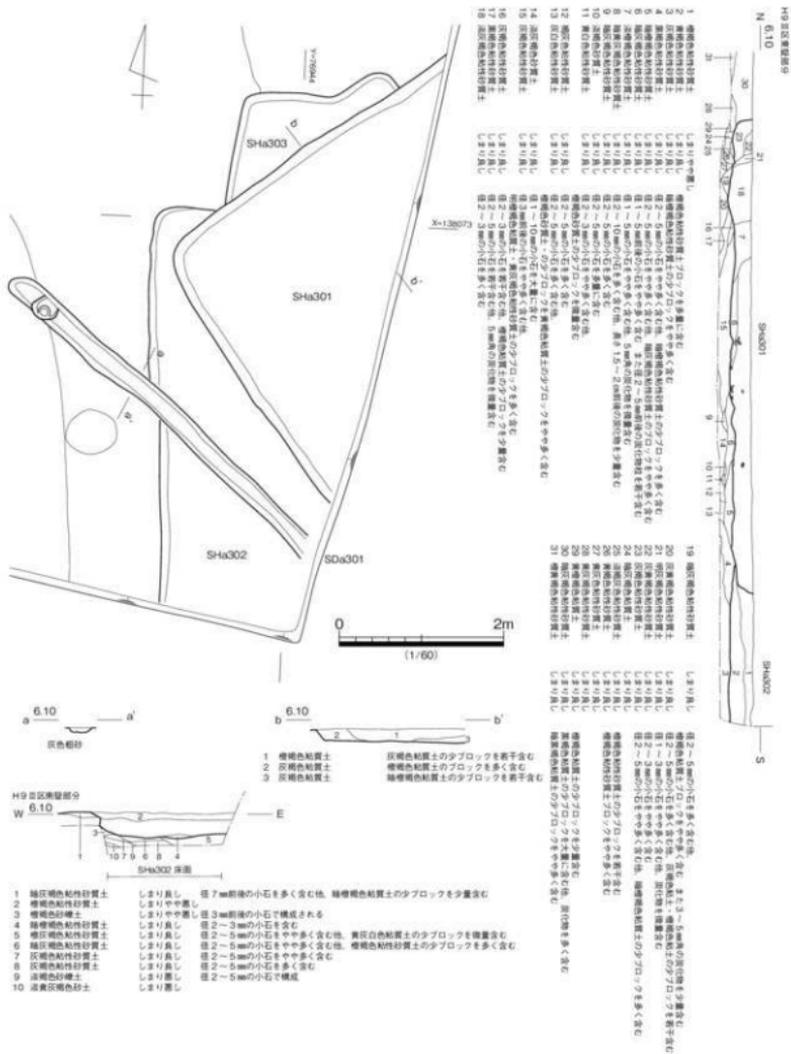
平成9年度Ⅲ区の南東隅付近で検出した。SHa301・302と重複し、北端のごく一部が確認できたのみである。北壁が外側へ膨らむことから作り付けカマドの痕跡の可能性を考え、竪穴建物と判断した。

出土遺物は微量で帰属時期を判断する資料が無い。切り合いからSHa301に先行する建物であると判断した。

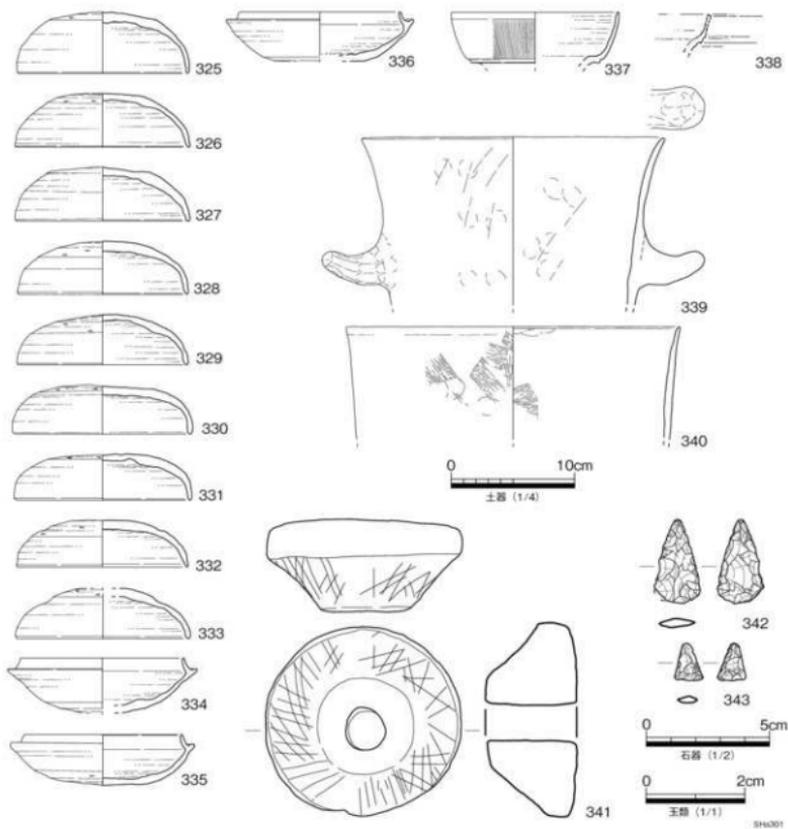
## SHa304

平成9年度Ⅲ区の東辺中央付近で検出した。東側が調査区外へ延びるほか、南端がSHa303・301により切られているが、北西隅部と概ね直交する北辺と西辺の状況から、平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北3.7m×東西4.0m、残存深度は0.25mを測る。主軸方位はN125°Wを測る。作り付けカマドや壁溝などの施設が認められないものの、平面形状から竪穴建物と判断した。床面と判断したレベルでP01・P02を確認し、これらはSHa304に付随するものと考え、P02については主柱穴であろう。調査区東壁の土層観察からSHa304が後出する建物であると判断した。

出土遺物は微量で帰属時期を判断する材料に乏しい。遺構の切り合いからSHa301・303に先行する建物であると判断した。



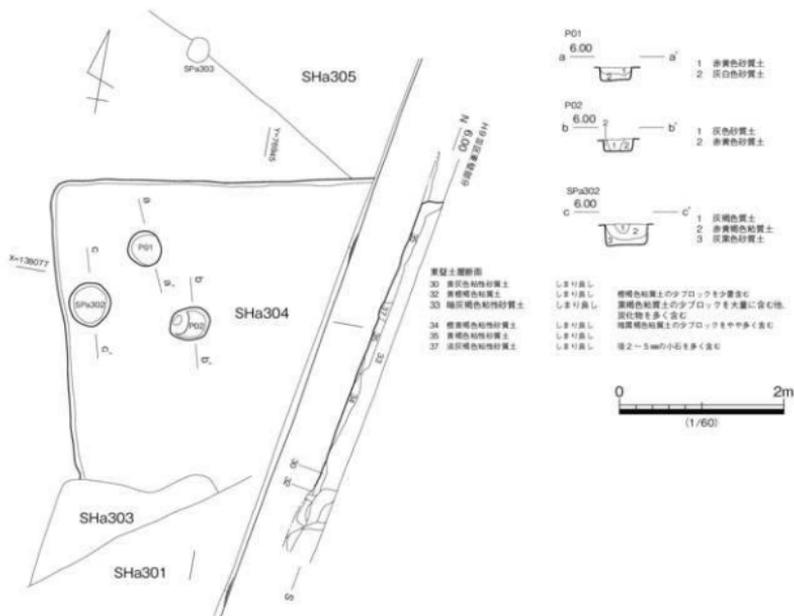
第 65 図 SHa301・302・303・SDa301 平・断面図



第 66 図 SHa301 出土遺物



第 67 図 SHa302 出土遺物

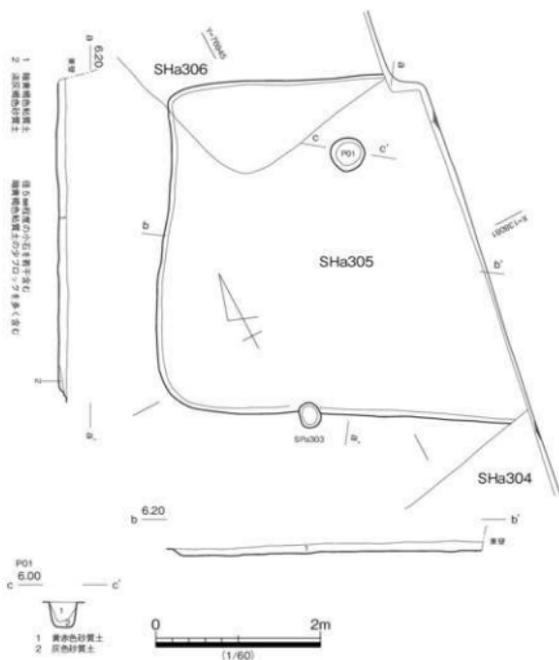


### Sha305

平成9年度Ⅲ区の東辺中央付近で検出した。東側が調査区外へ延びるほか、北辺がSha306により切られているが、南西隅部と概ね直交する南辺と西辺の状況から、平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北4.2m×東西4.6m、残存深度は0.20mを測る。主軸方位はN 28° Eを測る。作り付けカマドや壁溝などの施設が認められないものの、平面形状から竪穴建物と判断した。床面と考えるレベルで柱穴P01を確認し、主柱穴の一部と判断した。遺構の残存状況は不良で出土遺物も微量であることから、帰属時期を判断する材料に乏しい。

### Sha306

平成9年度Ⅲ区の東辺中央北寄りで検出した。東側が調査区外へ延びるため平面形状は不明であるが、残存する三辺とそれらのなす角度の状況から、平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北4.0m×東西4.8m、残存深度は0.25mを測る。主軸方位はN 18° Wを測る。主柱穴・壁溝などは不明であったが、北辺に作り付けカマドと考えられる焼土塊が認められたことと、平面形状から竪穴建物と判断した。カマド想定範囲の左右に土器集中部が認められた。これらは出土状況から貼床上面の遺物と考えられる。縦断土層5層が貼床層であると考えられる。その上に燃焼部底部に相当する6層があり、炭層を挟んで天井



第 69 図 SHa305 平・断面図

m、残存深度は0.30 mを測る。主軸方位はN 125° Eを測る。主柱穴などは不明であったが、各辺に沿って壁溝が認められたことと、平面形状から堅穴建物と判断した。上層はSHa306が大きく重複しており、削平が著しい。

遺物は少量出土しており、土師器碗（353）、高坏（354・355）、甕（356）を図化した。未報告遺物の中には須恵器の小片が混じる。帰属時期を判断する材料に乏しいが、概ね6世紀第3四半期頃のものと考えられる。

### SHa308

平成9年度Ⅲ区の北東隅で検出した。北側と東側が調査区外へ延びるため平面形状は不明である。南北3.4 m×東西6.8 m、残存深度は0.15 mを測る。主軸方位はN 32° Eを測る。南辺が直線状になることから堅穴建物と判断した。当初中央部にSHa308を切り込む別遺構が存在するとして調査を進めたが、遺物の出土状況とその時期から別遺構としたものは埋土の単位の差によるものであると結論づけた。主柱穴などの施設は検出しきれていない。

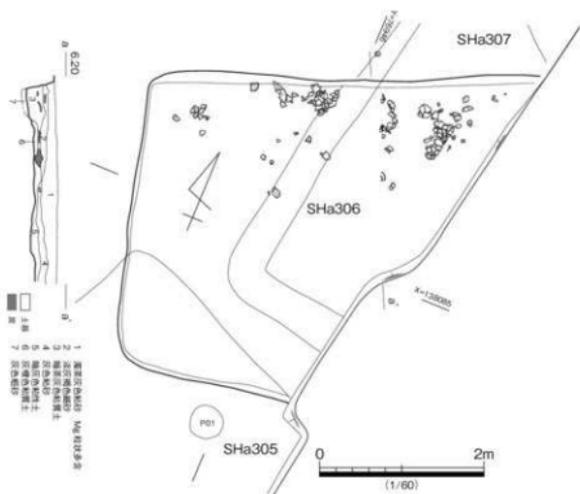
遺物は比較的多数出土している。中心部に大きな土器溜りがあり、調査時には性格不明遺構としてとらえていたが、埋土の一単位としてとらえなおした。須恵器杯蓋（357・358）、杯身（359・360）、提瓶（361・

崩落土などが堆積する。

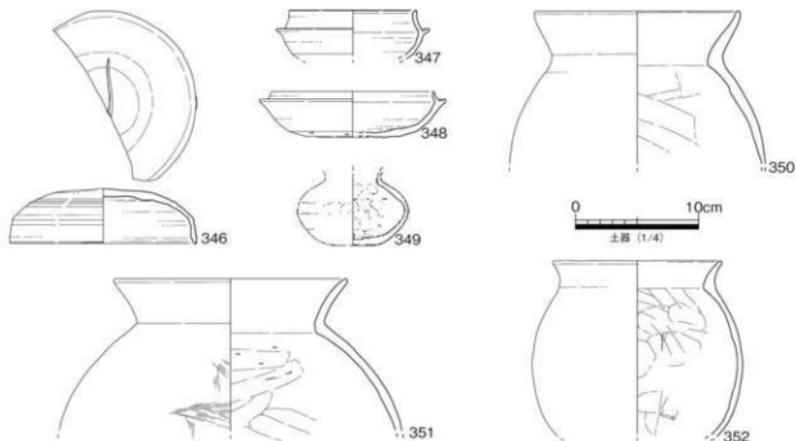
遺物は若干量出土しており、須恵器杯蓋（346）、杯身（347・348）、土師器小型丸底壺（349）、甕（350～352）を図化した。甕は主にカマドの左右から出土している。出土遺物の時期が5世紀代から6世紀代へとばらつきがあるが、348の形状から6世紀第3～第4四半期が建物廃絶の時期と判断する。

### SHa307

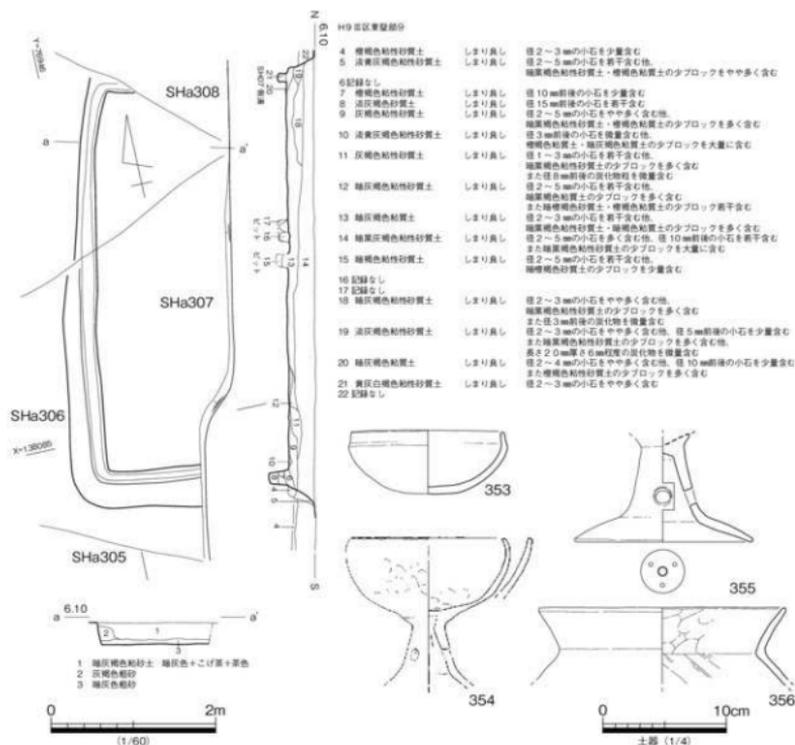
平成9年度Ⅲ区の東辺中央北寄りで検出した。東側が調査区外へ延びるため平面形状は不明であるが、残存する三辺とそれらのなす角度の状況から、平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北5.2 m×東西2.1



第70図 SHa306 平・断面図



第71図 SHa306 出土遺物

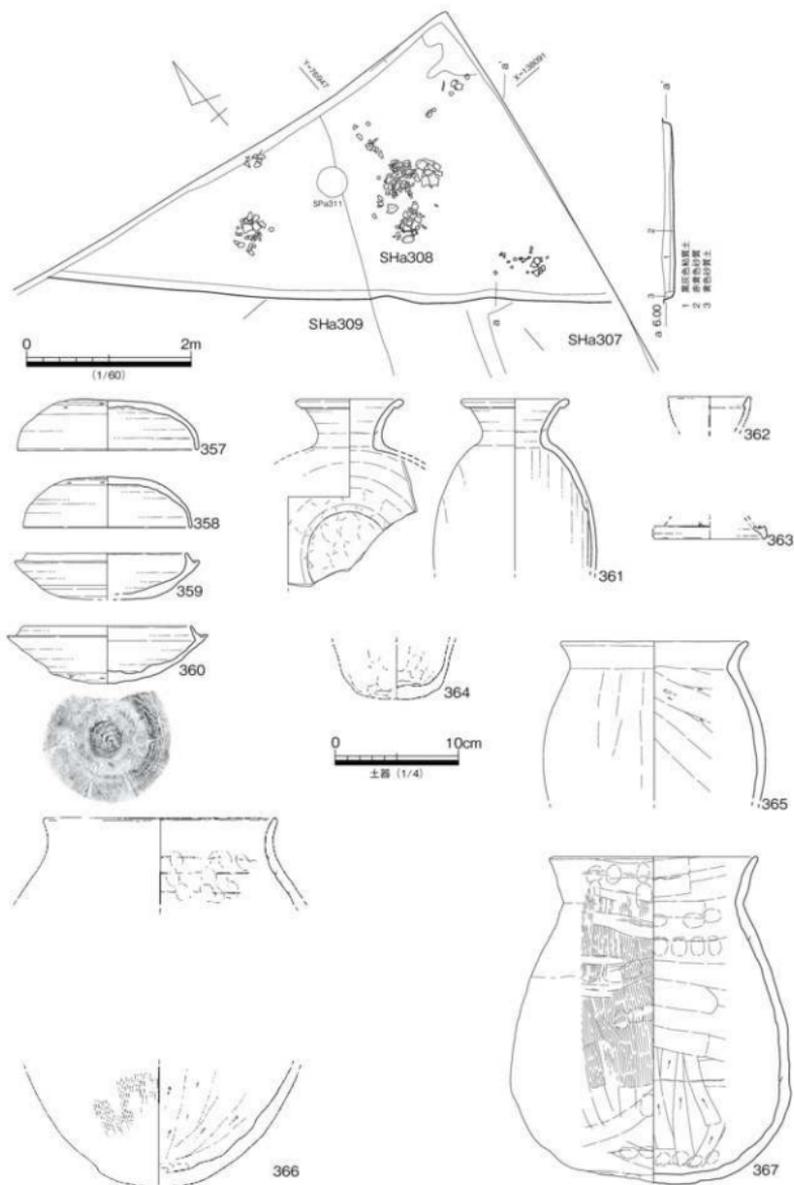


第72図 SHa307 平・断面図、出土遺物

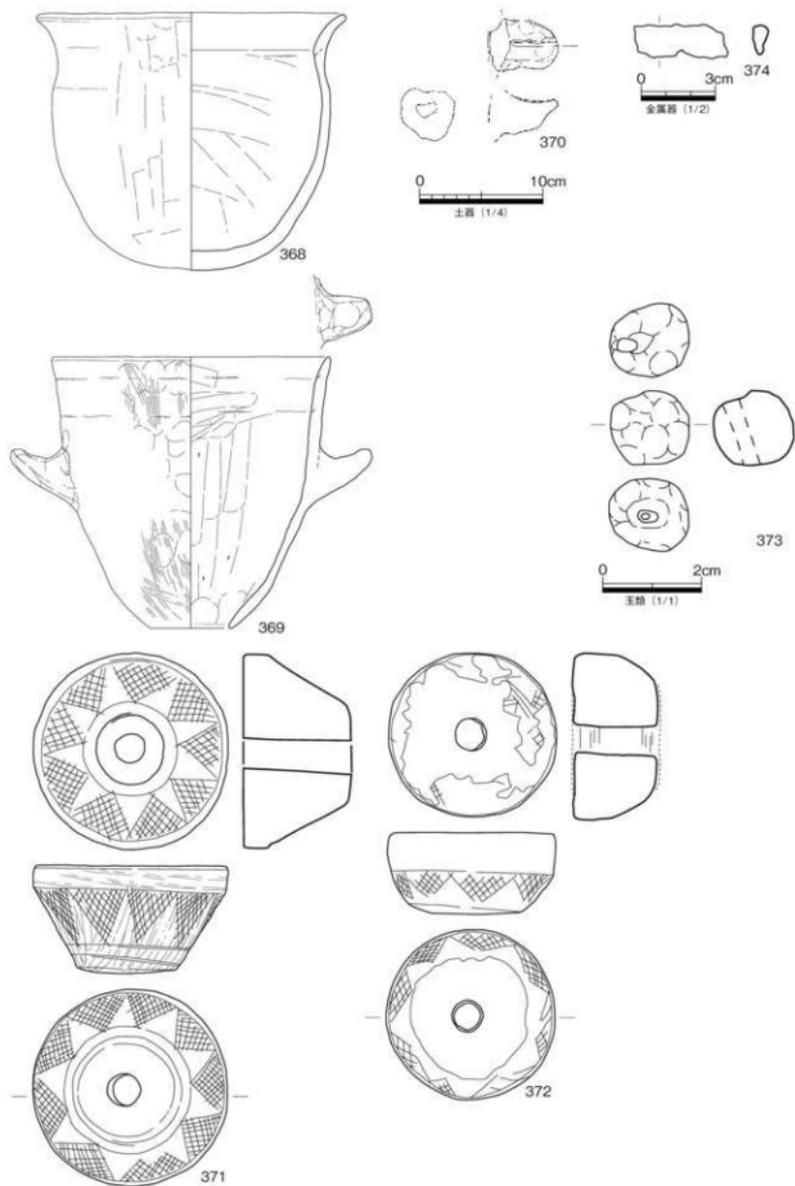
362)、高坏 (363)、土師器壺 (364)、甕 (365 ~ 368)、甗 (369 ~ 370) のほかに、滑石製紡錘車 (371・372)、土玉 (373)、鉄製刀子 (374) を図化した。須惠器杯の形状から、概ね6世紀第3 ~ 第4四半期のものと考えられ、建物の廃絶時期もその頃のものと考えられる。

### SHa309

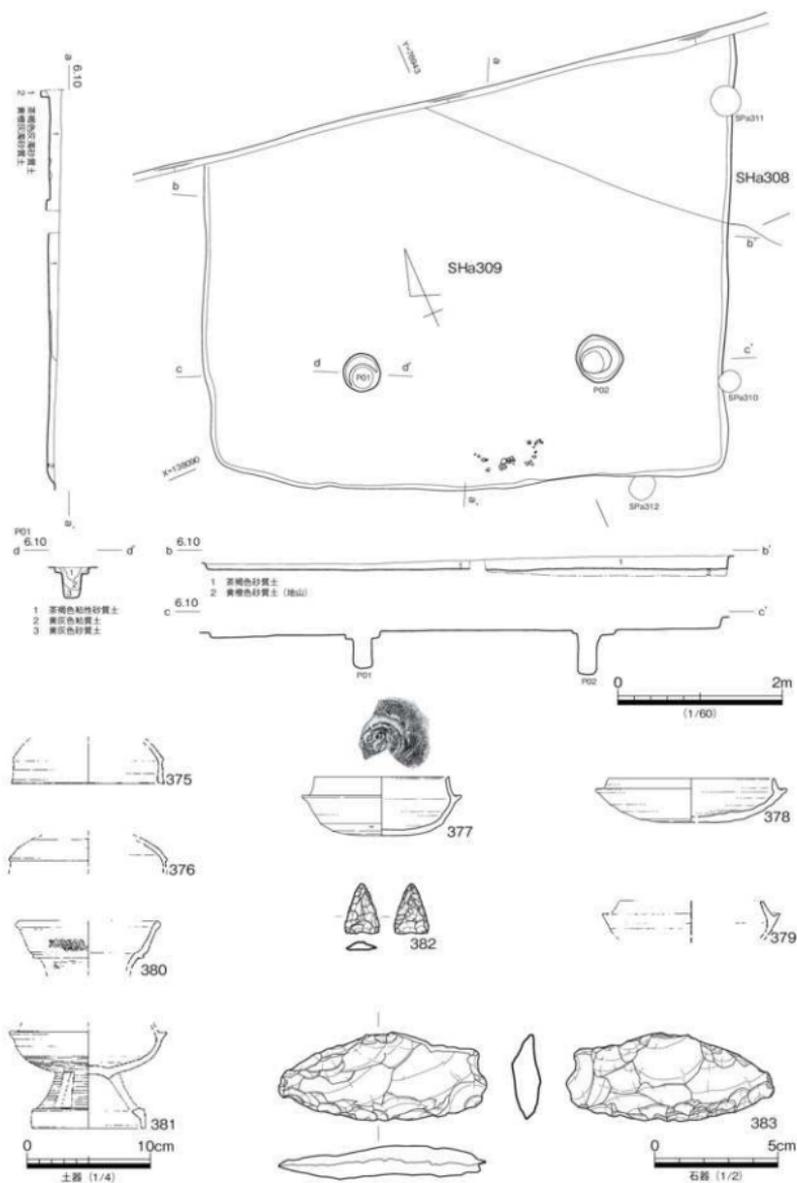
平成9年度Ⅲ区の北辺中央で検出した。北側が調査区外へ延びるが、三辺とそれらのなす角度から平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北5.5m×東西6.3m、残存深度は0.17mを測る。主軸方位はN24°Eを測る。付随施設の状況が不明であるが、主柱穴が確認できたことから竪穴建物と判断した。当初中央部にSHa308に後出する竪穴建物として調査を進めたが、南辺部に近接して出土した遺物が埋土内のものでなく床面直上の遺物である可能性が高く、SHa308出土遺物の時期とは逆転することからSHa309が先行する建物であると結論づけた。主柱穴はその位置から本来4基あったと考えられるが、



第73図 SHa308 平・断面図、出土遺物1



第74図 SHa308 出土遺物2



第75図 SHa309 平・断面図、出土遺物

内1基は調査区外にあり、もう1基はSHa308に削平され残存しないと考えられる。

遺物は若干量出土している。須恵器杯蓋（375・376）、杯身（377～379）、甕（380）、高坏（381）のほか、サヌカイト製石鏃（382）、スクレイパー（383）を図化した。遺物が複数の時期に分かれるが、377及び381、383の出土位置についてはSHa308の範囲と重複しており、誤って取り上げたものであると判断した。

### SHa310

平成9年度Ⅲ区の中央付近で検出した。建物全体、特に西半部がSRa301により削剥されるが、残存する三辺とそれらのなす角度から平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北6.6m×東西4.4m、残存深度は0.15mを測る。主軸方位はN155°Wを測る。付随施設の状況は不明であるが支柱穴が確認できたことから堅穴建物と判断した。支柱穴はその位置から本来4基あったと考えられるが、内2基はSRa301に削剥され残存しない。なお、南辺中央付近に位置するK01は当初支柱穴として調査していたが、土坑として再評価した。他の建物でもカマドの対辺に土坑が掘削される事例が散見され、量の多寡はあるものの廃棄土坑状に遺物を伴うことから、この建物の事例も同様のものであると判断した。

遺物はやや多量出土している。須恵器杯蓋（384～392）、杯身（393～396）、甕（397）、高坏（398）、土師器甕（399）のほか、ガラス製小玉（400）を図化した。後世の流路SRa301が重複しており、それらの遺物が若干混入している可能性があるが、5世紀代～6世紀第3四半期頃までの遺物があるとみられる。支柱穴埋土から出土した389の形状を基準とし、6世紀第3四半期を建物廃絶の時期としておきたい。

### SHa311

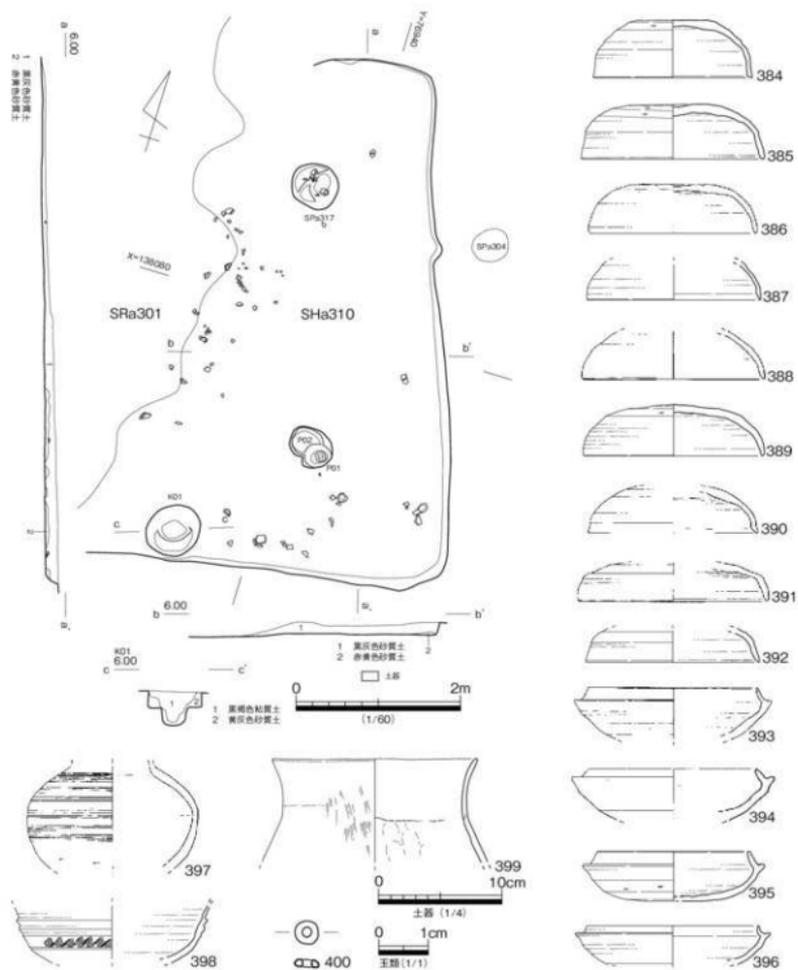
平成9年度Ⅲ区の南半中央付近で検出した。建物全体、特に西半部がSRa301により削剥されるが、残存する三辺とそれらのなす角度から平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北3.2m×東西2.5m、残存深度は0.15mを測る。主軸方位はN185°Wを測る。

遺物は少量出土しているが図化に耐えうるものがほとんどなく、帰属時期を判断する材料に乏しい。須恵器杯蓋（401）を図化した。報告対象外の遺物中に6世紀第3四半期頃のもの認められることから、図示しているものよりも新しい時期に廃絶した建物であると考えられる。

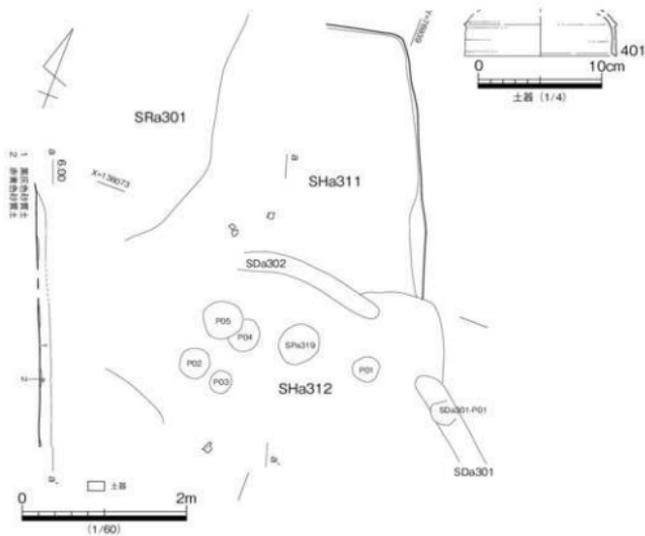
### SHa312

平成9年度Ⅲ区の南辺中央付近で検出した。建物全体、特に西半部がSRa301により削剥されるほか、南辺が調査区外に延び全体の形状は不明であるが、北東にコーナーを持ち東辺が直線状を呈することから平面形状は隅丸方形を呈すると判断した。南北4.7m×東西3.1m、残存深度は0.10mを測る。主軸方位はN115°Wを測る。付随施設の状況は不明であるが平面形状から堅穴建物と判断した。

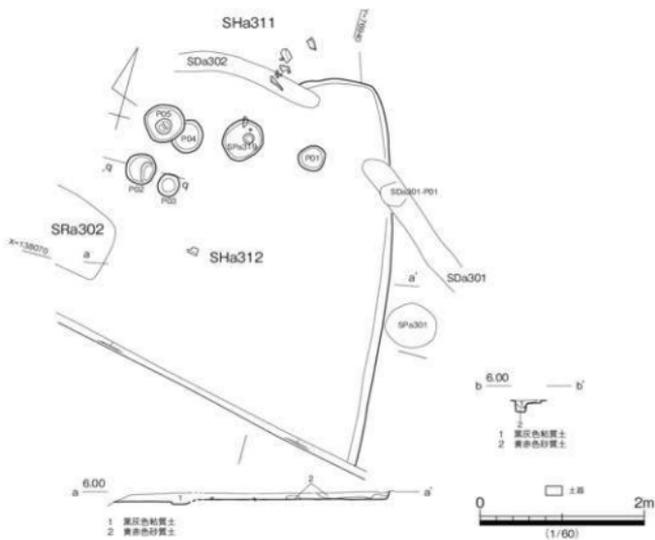
遺物は少量出土しているが、図化に耐えうるものが少なく帰属時期を判断する材料に乏しい。土師器甕（402）、カマド（403・404）を図化した。なお、図示しなかったが、輪の羽口片が出土している。



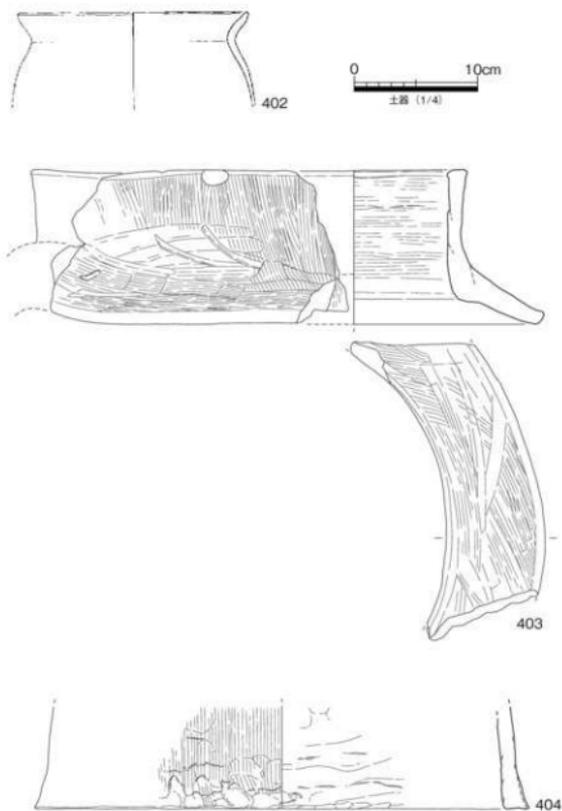
第76図 SHa310 平・断面図、出土遺物



第77図 SHa311 平・断面図、出土遺物



第78図 SHa312 平・断面図

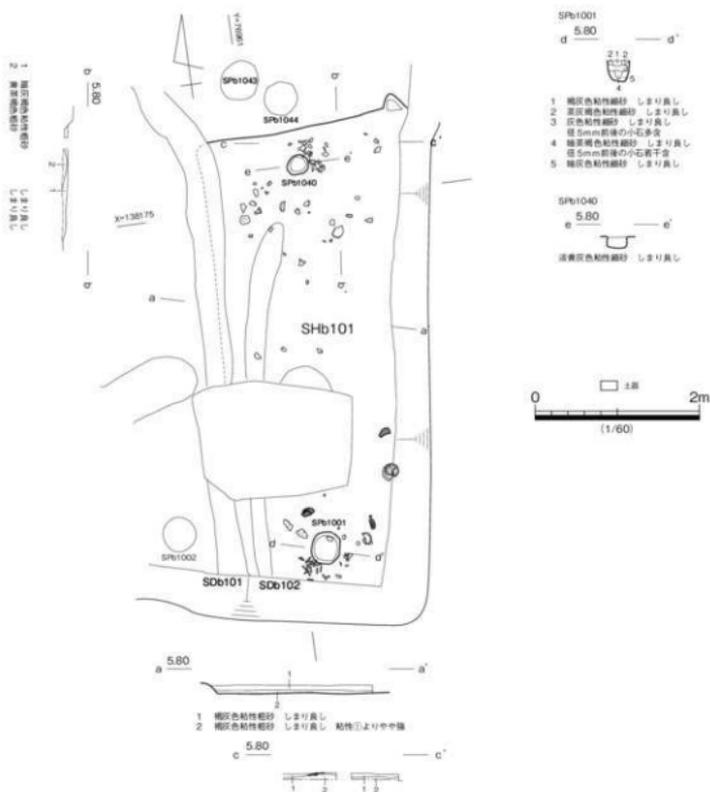


第79図 SHa312 出土遺物

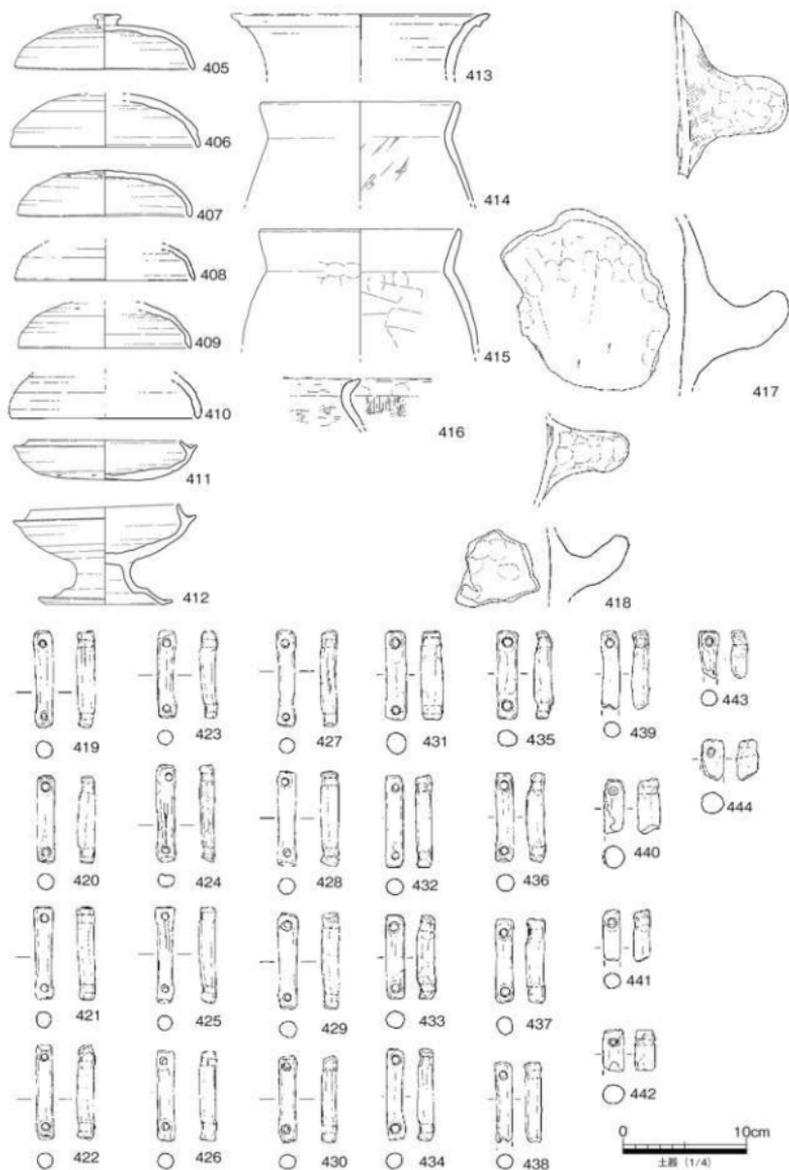
## SHb101

平成10年度I区の南東隅で検出した。建物東半並びに南辺が調査区外に延びるため、全体の形状は不明であるが、平面形は概ね方形を呈すると考えられる。西壁もSdb101により削平されている。南北5.7m×東西2.7m、残存深度は0.10mを測る。主軸方位はN1°Wを測る。建物の埋土は2層に分けたが、上位の層を埋土とし、下位の層は貼床に伴うものと考えられる。遺物は主にこの貼床面上からの出土である。壁溝は確認できなかったが、カマドの基底部と床面の柱穴の位置から竈穴建物と判断した。カマドは火床が辛うじて残存している程度で、構造把握は困難である。

出土遺物は比較的図化に耐えうるものが多く、須恵器蓋(405)、杯蓋(406～410)、杯身(411)有蓋高坏(412)、甕(413)、土師器甕(414～416)、甕把手(417・418)を図化した。また、特筆する点として、棒状土鍾が26点出土しており、中でも南側床面では21点(421～438・440～442・444)が集中して出土している。検出レベルがほぼ同一であり、平坦な分布を示すことから、概ね原位置が保た

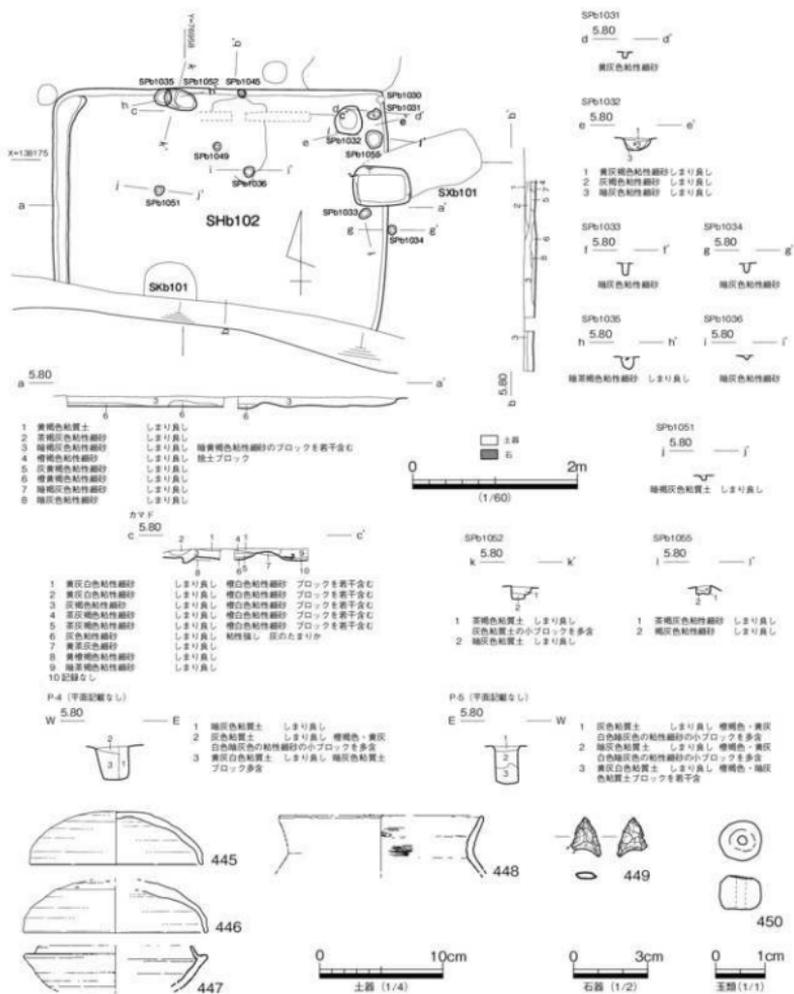


第80図 SHb101 平・断面図



第81図 SHb101 出土遺物

れていると考えられる。調査時にはすでにその痕跡も不明であったが、網に着装された状態で埋没した可能性がある。本来もう少し分布が広がると考えられるが、近接する SPb1001 が掘削された際にかく乱されたようである。SPb1001 の埋土中に調整や色調が酷似した棒状土錘が含まれており、埋め戻し土の中に混入したものと考えられる。若干遺物の時期に差はあるが、概ね 6 世紀第 4 四半期頃のものと考えられ、建物の廃絶時期も同じ頃のものとする。



第 82 図 SHb102 平・断面図、出土遺物

## SHb102

平成10年度I区南辺中央で検出した。建物南半が調査区外へ延びるため全体の形状は不明であるが、確認出来る三辺とそれらのなす角度から隅丸方形の平面形を呈すると判断した。南北2.9m×東西4.2m、残存深度は0.15mを測る。主軸は真北である。北辺に作り付けカマドが認められるほか、一部に壁溝が残存することから、堅穴建物であると判断した。カマドの残存状況はあまり良好ではない。主柱穴は調査工程の都合で平面の記録が取れなかったが、P04・05がこれに相当する。床面の汚れと柱穴埋土最上層の色調が酷似しており、調査の最終段階でようやく確認できたものである。

出土遺物は微量で時期を判断する材料に乏しい。須恵器杯蓋(445・446)、杯身(447)、土師器甕(448)のほか、サヌカイト製石鏝(449)、ガラス製白玉(450)を図化した。須恵器の形状から概ね6世紀第4四半期頃のものと考えられ、建物の廃絶時期もその頃であると考ええる。

## SHb103

平成10年度I区中央付近で検出した。建物の大半が他の建物と重複し、全体の形状は不明であるが、残存する北西隅部の形状から隅丸方形を呈する堅穴建物であると判断した。

出土遺物は少量で、時期を判断する材料に乏しい。

## SHb104

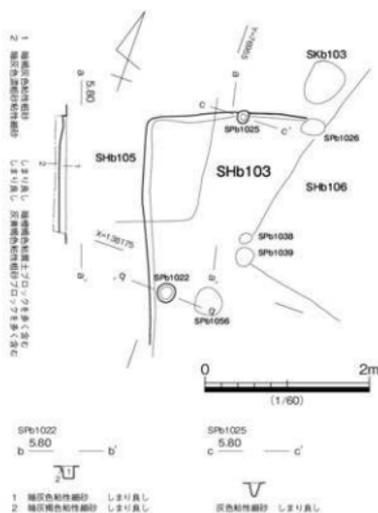
平成10年度I区南西隅で検出した。建物の3/4が調査区外へ延びるが、残存する北東隅部の形状から隅丸方形を呈する堅穴建物であると判断した。

出土遺物は少量で、時期を判断する材料に乏しい。須恵器杯身(451)、土師器甕(452・453)を図化した。6世紀第2～第3四半期頃のものと考えられ、建物の廃絶時期もその頃のものとする。

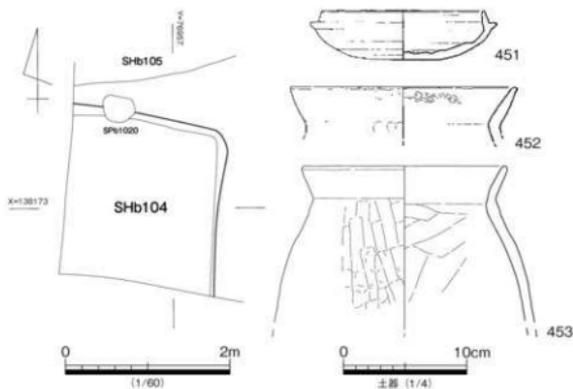
## SHb105

平成10年度I区西壁中央で検出した。西側が調査区外へ延びるため全体の形状は不明であるが、確認出来る三辺とそれらのなす角度から隅丸方形の平面形を呈すると判断した。南北5.0m×東西4.7m、残存深度は0.10mを測る。主軸はN16.5°Wを測る。北壁に沿って壁溝が確認できるほか、床面で数基の柱穴を確認した。これと平面形を合わせ、堅穴建物としてとらえた。当初1層を埋土として認識していたが、これ以下は貼床層であると判断した。

遺物は比較的多量出土しており、須恵器杯蓋(454～460)、杯身(461～464)、高坏(465)、土師器甕(466)を図化した。459は建物埋没後に掘削された柱穴を見落としたものに含まれていた可能性がある。出土



第83図 SHb103 平・断面図



第84図 SHb104 平面図、出土遺物

遺物の時期に幅が見られるが、概ね6世紀第3四半期頃のものと考えられ、建物の廃絶時期もその頃のものとする。

#### SHb106

平成10年度I区中央で検出した。南北4.0m×東西3.1m、残存深度は0.15mを測る。主軸はN75°Eを測る。東壁に近接して焼土層が認められ、作り付けカマドの残骸と判断したが、壁溝と主柱穴は観察できなかった。これ

と平面形を合わせ、堅穴建物としてとらえた。埋土は大きく2層に分けたが、南北断面2層を埋土、3層を貼床としてとらえられるかもしれない。作り付けカマドは焼成部の基部と煙道の一部が辛うじて残存している。特に南側袖部はI区を南北に分割して調査した際の境界付近に当たり、機械掘削時に破壊してしまっている。断面観察からは、火床と煙道底部は緩やかな傾斜で連続しているように見える。

遺物はやや多量出土しており、須恵器蓋(467～470)、杯身(471)土師器甕(472・473)のほか、管状土錘(474)を図化した。概ね7世紀第1四半期頃のものと考えられ、建物の廃絶時期もその頃のものとする。

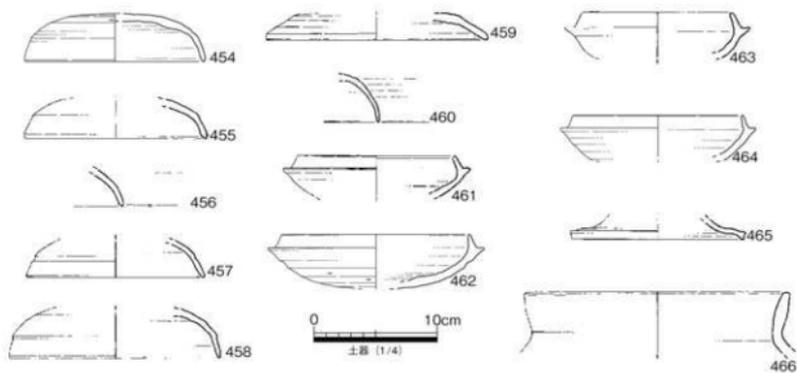
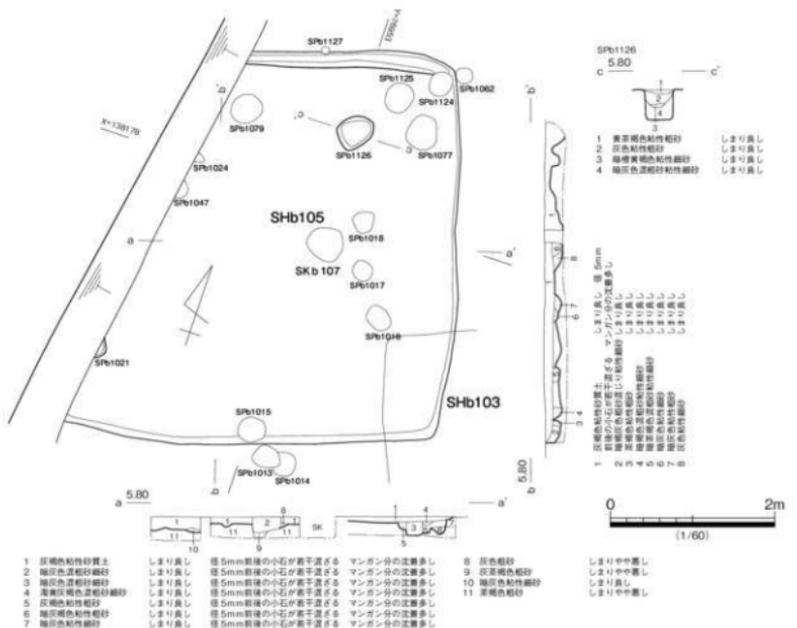
#### SHb107

平成10年度I区北東隅で検出した。大半が調査区外へ延びることから平面形状は不明であるが、残存部分は南北3.5m×東西2.4m、残存深度は0.20mを測る。主軸はN37°Eを測る。作り付けカマドや主柱穴、壁溝などの施設は確認できなかった。土層の観察からSHb108に先行する建物であるが、遺物の出土が認められず、詳細な時期については不明である。

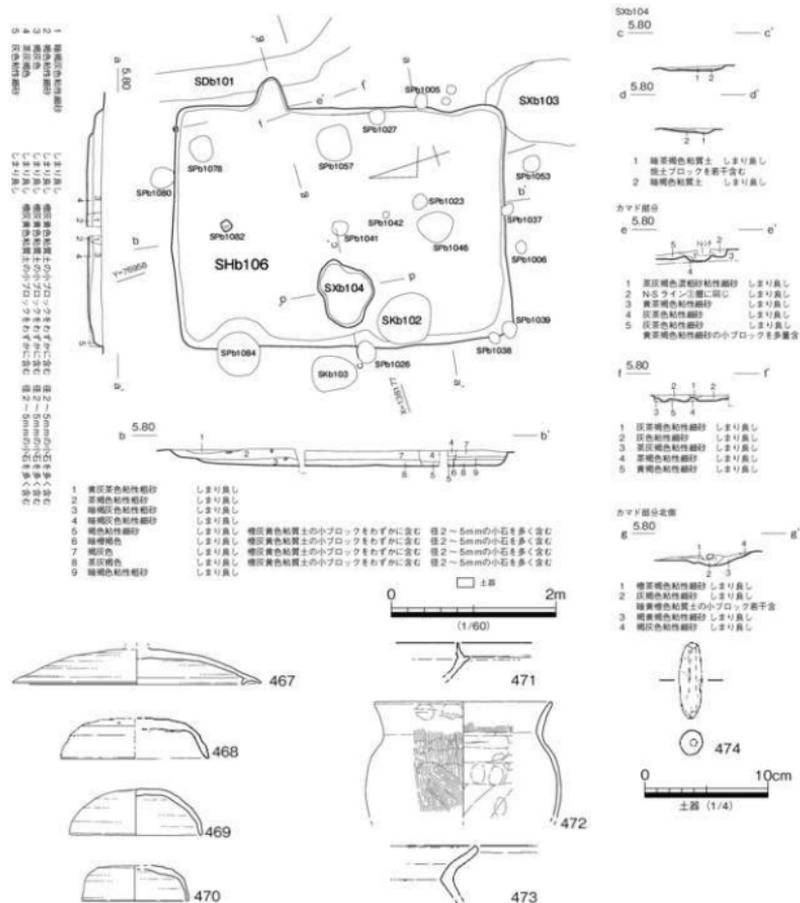
#### SHb108

平成10年度I区北東隅で検出した。三辺が調査区外へ延びることから平面形状は不明であるが、残存部分は南北2.2m×東西4.8m、残存深度は0.15mを測る。主軸はN47.5°Eを測る。II区の南東隅部で当初SXb203として調査した遺構が、位置的に見て当該建物の北東隅部に相当する可能性がある。作り付けカマドや主柱穴、壁溝などの施設は確認できなかった。

出土遺物は少量であるが、須恵器蓋坏身(475・476)が出土している。概ね6世紀第1～2四半期頃のものと考えられ、建物の廃絶時期もその頃のものと考えられる。



第85図 SHb105 平・断面図、出土遺物

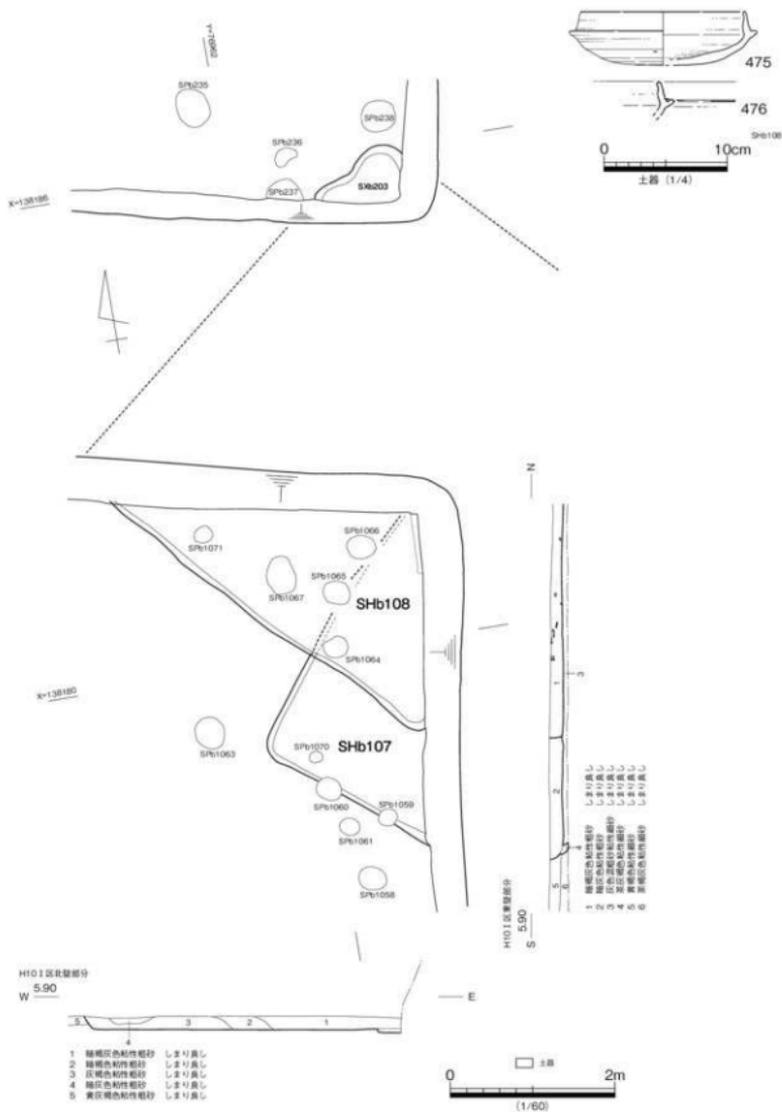


第86図 SHb106 平・断面図、出土遺物

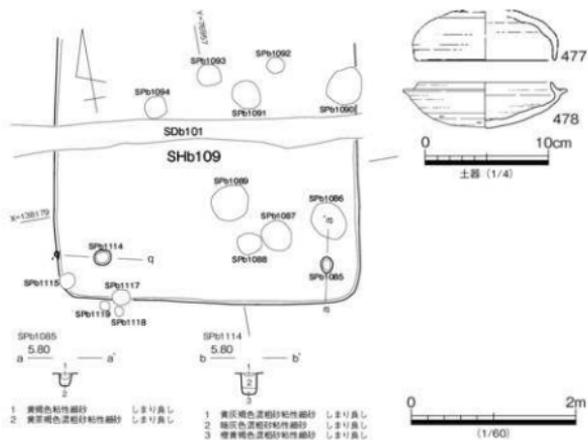
SHb109

平成10年度I区北壁中央で検出した。南北3.2m×東西3.7m、残存深度は0.05mを測る。主軸はN 105° Eを測る。上面はほとんど削平されており、掘方の表層に辛うじて貼床が残存している程度と考えられる。この状況から壁溝や主柱穴の存在が確認できなかった。重複する柱穴のうち、南側の両隅部にある2基の柱穴が該当する可能性があるほかは、それと分かる配置のものが認められない。平面形の状況から竪穴建物としてとらえた。

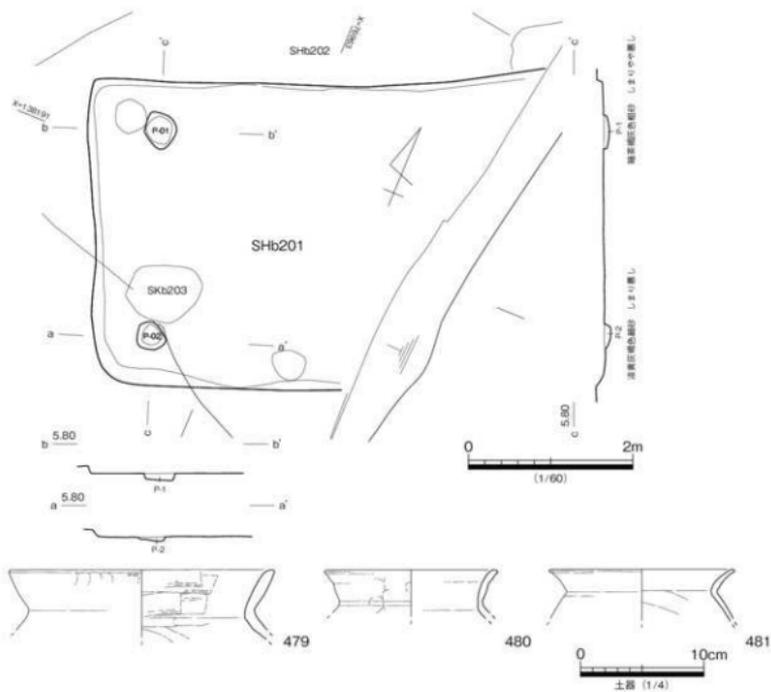
出土遺物は微量で帰属時期を判断する材料に乏しい。須恵器蓋坏(477・478)を図化した。概ね6世紀第4四半期頃のものと考えられ、建物の廃絶時期もその頃のものとする。



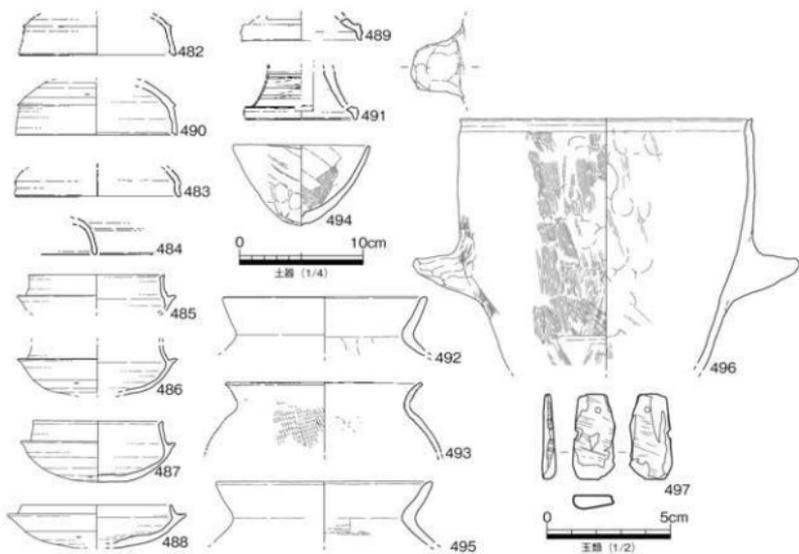
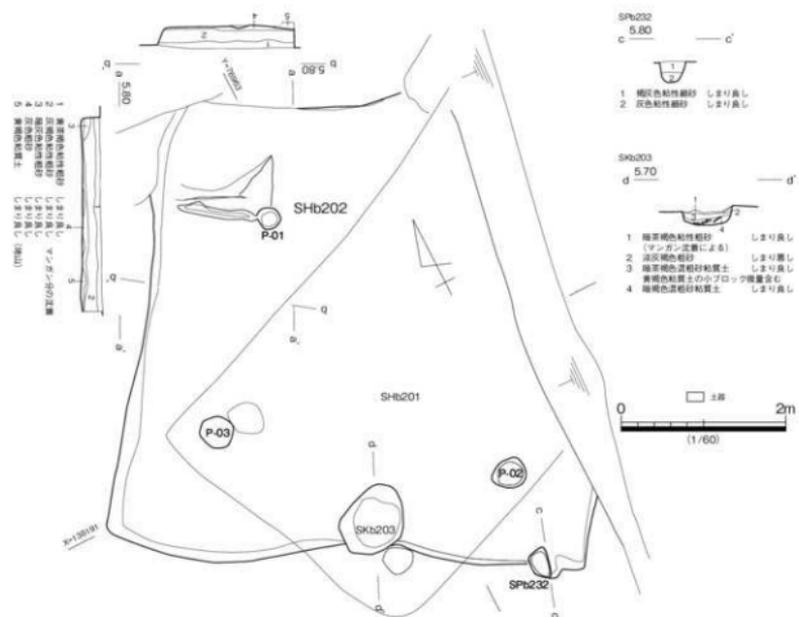
第 87 図 SHb107・108 平・断面図、出土遺物



第88図 SHb109 平・断面図、出土遺物



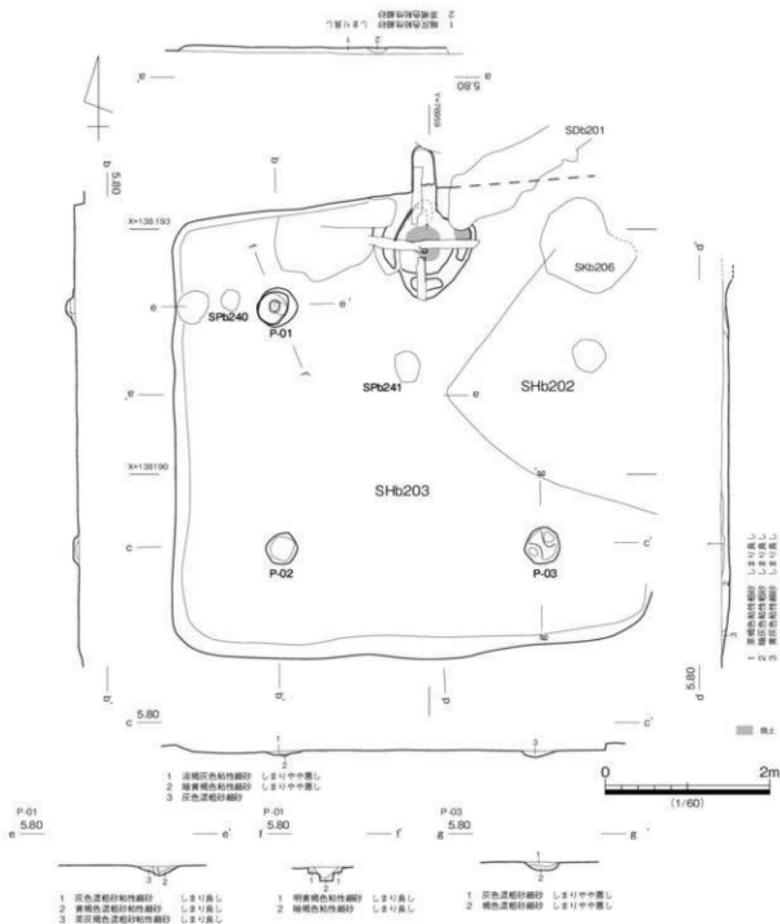
第89図 SHb201 平・断面図、出土遺物



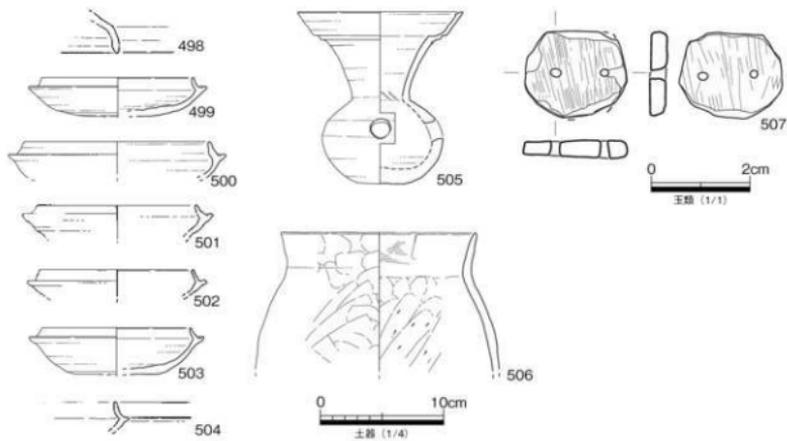
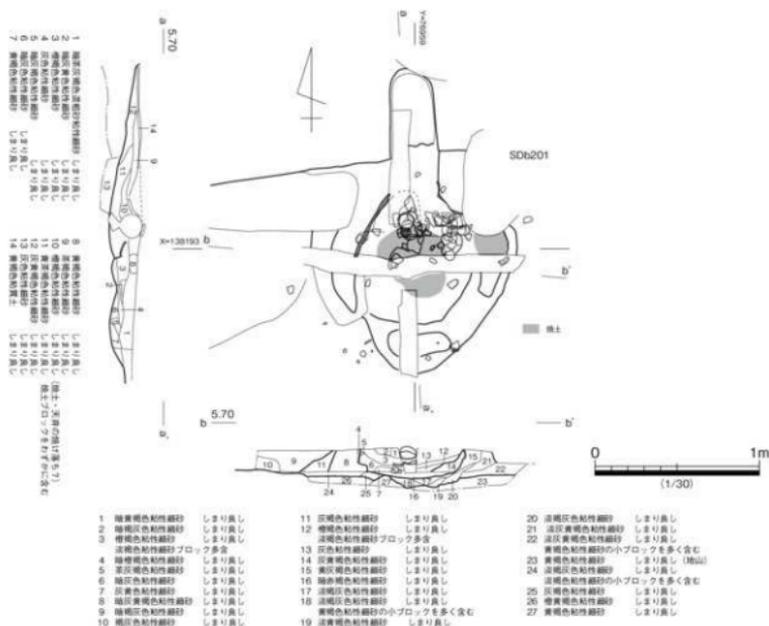
第90図 SHb202 平・断面図、出土遺物

SHb201

平成 10 年度Ⅱ区南半東寄で検出した。東辺が調査区外へ延びることから全体の形状は不明であるが、南北 3.8 m × 東西 5.6 m、残存深度は 0.10 m を測る。主軸は N 23.5° W を測る。SHb202 とほぼ全面が重複する。埋土の状況から当該建物が後出し、SHb202 が先行する建物であると判断できる。西壁際で 2 基柱穴を確認しており、これらが主柱穴であると判断した。作り付けカマド・壁溝は確認できなかった。これらと平面形の状況を合わせ、堅穴建物としてとらえた。埋土はほぼ単層で、貼床層であった可能性がある。



第 91 図 SHb203 平・断面図



第92図 SHb203 カマド平・断面図、出土遺物

遺物は若干量出土しているが、時期を判断する材料に乏しい。土師器甕（479～481）を図化した。図示し得なかった遺物の中に5世紀後半～6世紀第1四半期頃に属すると考えられるものが認められるが、遺物の出土状況から判断すると下位のSHb202の遺物が混入している可能性が高い。帰属時期はそれ以降であることは間違いないが、詳細な時期は不明である。

### SHb202

平成10年度Ⅱ区南半東寄で検出した。東辺が調査区外へ延びることから全体の形状は不明であるが、南北5.7m×東西5.8m、残存深度は0.25mを測る。主軸はN34°Eを測る。SHb201とはほぼ全面が重複するほか、SHb203の一部とも重複する。埋土の状況からSHb201が後出し、SHb202が先行する建物であると判断した。一方、SHb203は当初SHb202に先行する建物として調査を行ったが、切り合いの検討が不十分で新旧が逆になる。重複する3棟の建物の新旧関係は次の通りである。

SHb202（古）→SHb203→SHb201（新）

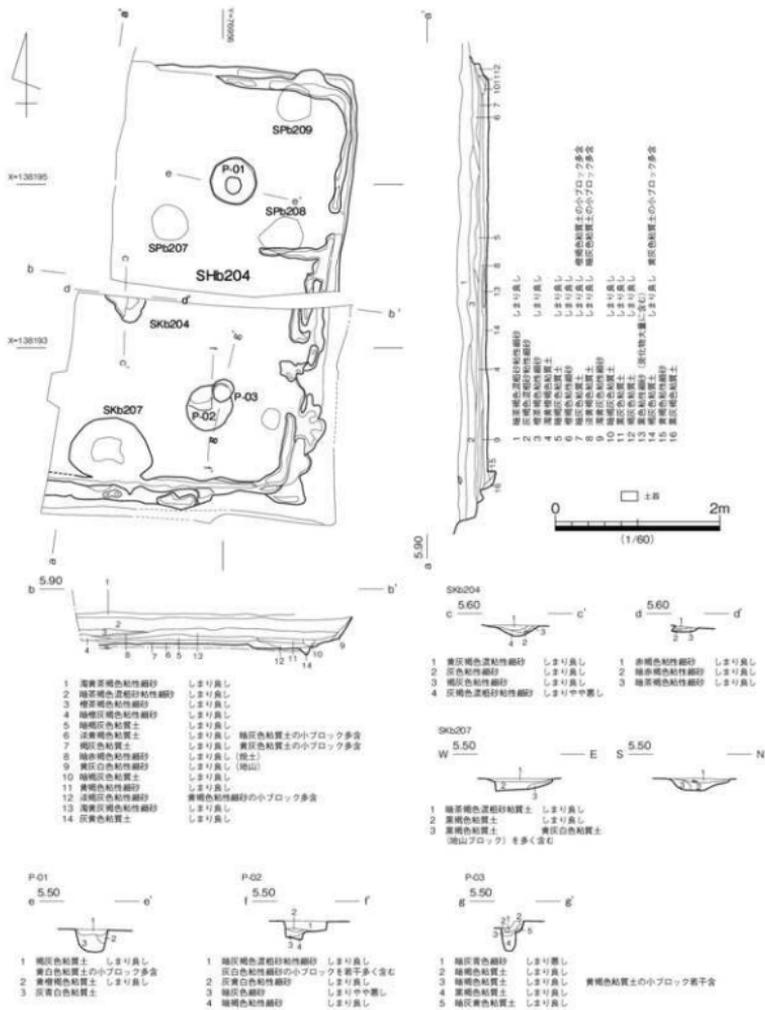
さて、SHb202は床面で3基柱穴を確認しており、これらが主柱穴であると判断した。作り付けカマド・壁溝は確認できなかった。これらと平面形の状況を合わせ、堅穴建物としてとらえた。埋土は大きく3層に分層でき、上2層が埋土で最下層が貼床層であると考えられる。建物南壁中央に接して不整形な櫓門を呈するSKb203を確認した。底部から須恵器蓋環・高坏、土師器甕などが出土している。

出土遺物は比較的多量認められる。須恵器杯蓋（482～484・490）、杯身（485～488）、高坏（489・491）、土師器甕（492～493・495）、甕（496）のほか、弥生土器鉢（494）、滑石製有孔石製品（497）を図化した。483・488については後出するSHb203の遺物の混入である。494は調査区東壁際のSHb201・202の両北壁が接する当り、ちょうど本遺跡の堅穴建物が通常作り付けカマドを備える可能性がある位置から出土している。混入とみるには遺物の残存状態が良好であるが、下位に存在した遺構出土遺物を誤認して取り上げた可能性がある。以上、誤認で取り上げた遺物を除くと概ね6世紀第1四半期頃のものが主体となり、建物の廃絶時期もその頃のものと考えられる。

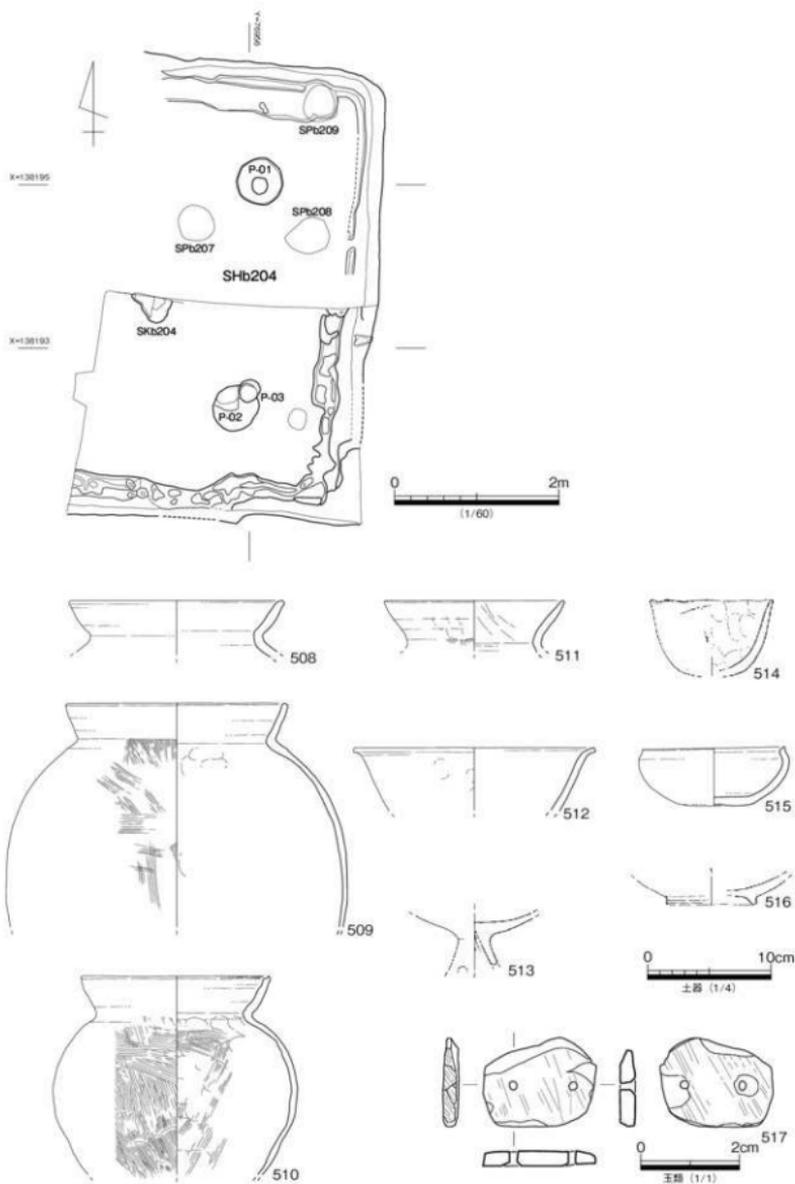
### SHb203

平成10年度Ⅱ区南半中央で検出した。南北5.5m×東西5.7m、残存深度は0.10mを測る。主軸は真北である。北東1/4ほどがSHb201・202と重複する。3棟の前後関係は上述のとおりである。床面で3基柱穴を確認しており、これらが主柱穴であると判断した。北壁中央で作り付けカマドを確認したが、壁溝は確認できなかった。これらと平面形の状況を合わせ、堅穴建物としてとらえた。埋土はほぼ単層で、貼床層が残存しているものと考えられる。この上面にカマドが作り付けられているが、袖部の高さが約15cm残存していた。袖部は黄色系の粘性細砂を用いて構築する。燃焼部底部は周囲の床からわずかに窪まる程度である。燃焼部はほぼ中央に竈（505）が逆位で残置しており、支脚として転用されていた可能性が考えられる。煙道は削平の影響であまり良好に残存していない。燃焼部床面からそのまま緩やかに煙道へとつながる。

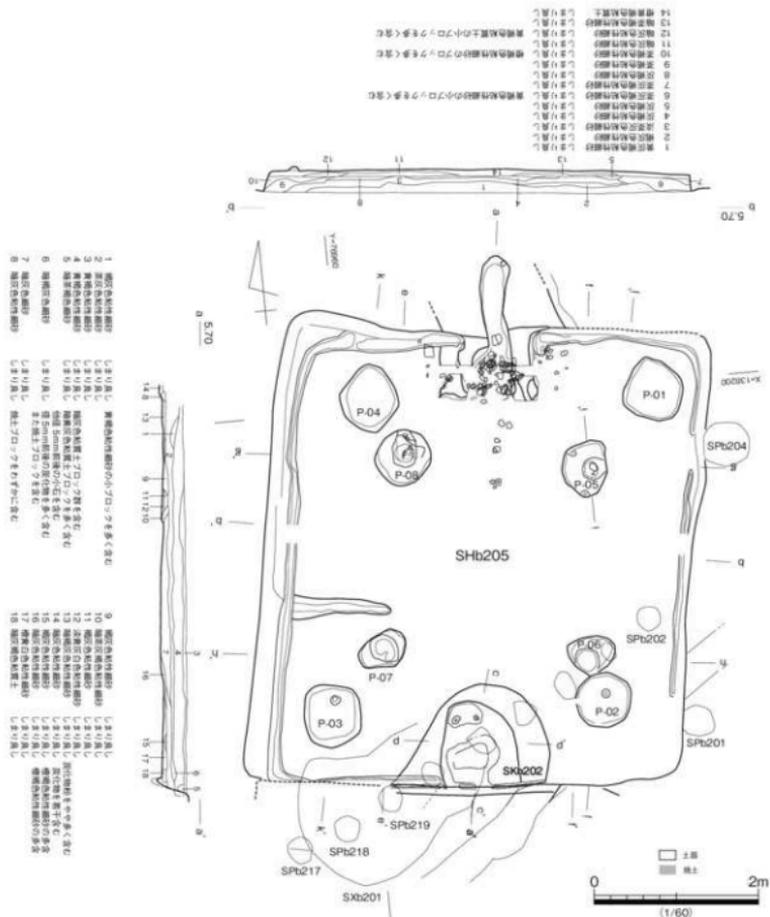
遺物は比較的多量出土しており、須恵器杯蓋（498）、杯身（499～504）、竈（505）、土師器甕（506）のほか、滑石製有孔円盤（507）を図化した。須恵器の形状から6世紀第3四半期のものと考えられ、建物の廃絶時期もその頃であると考えられる。



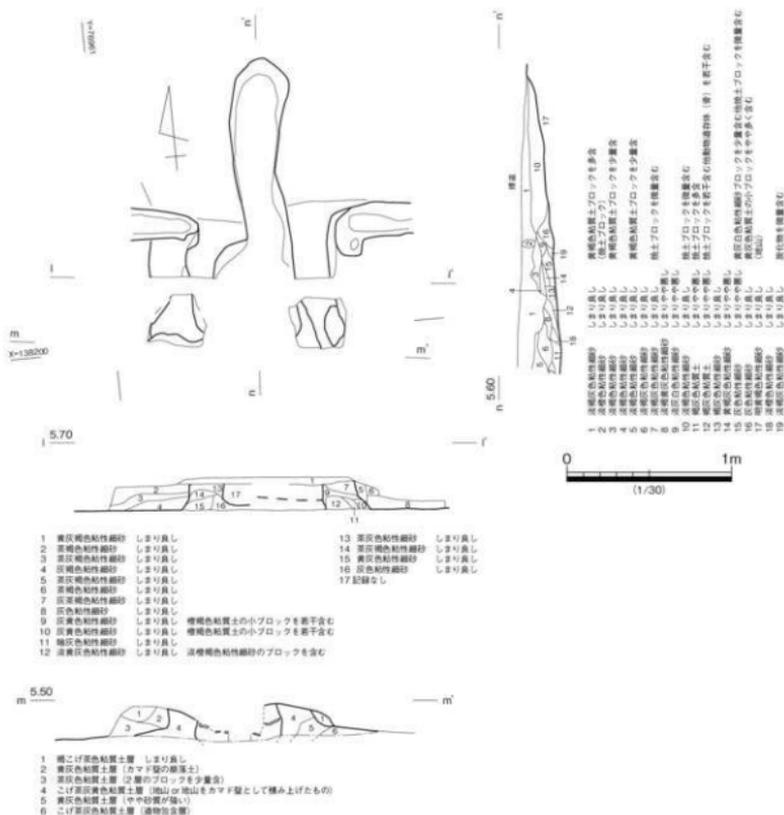
第93図 SHb204 平・断面図



第94図 SHb204 平面図、出土遺物



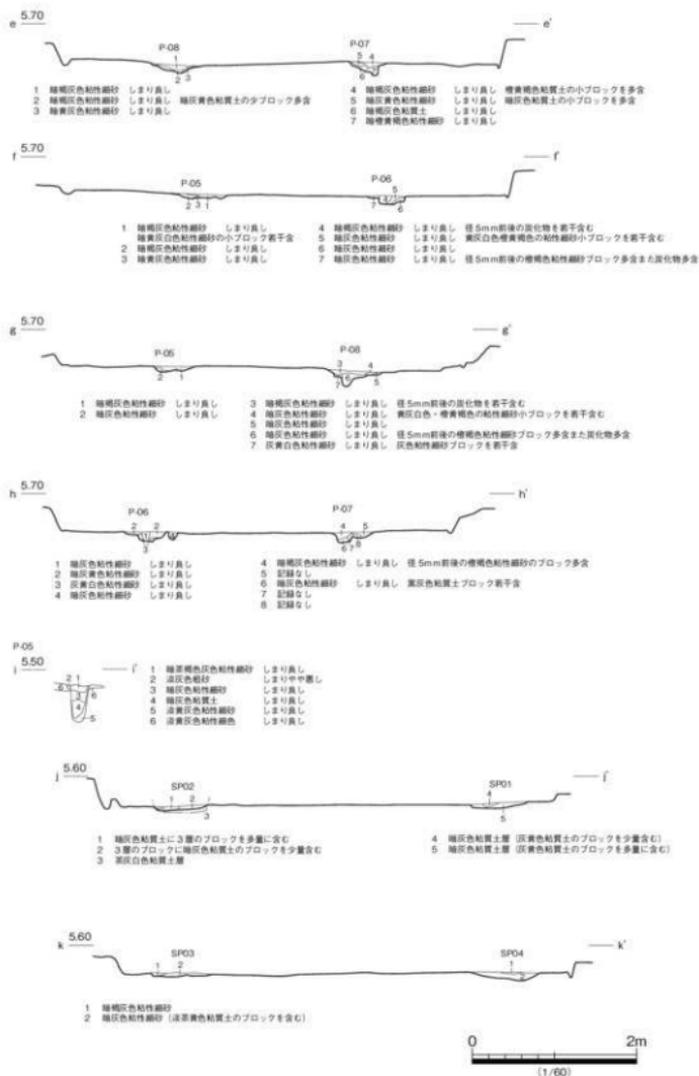
第95図 SHb205 平・断面図



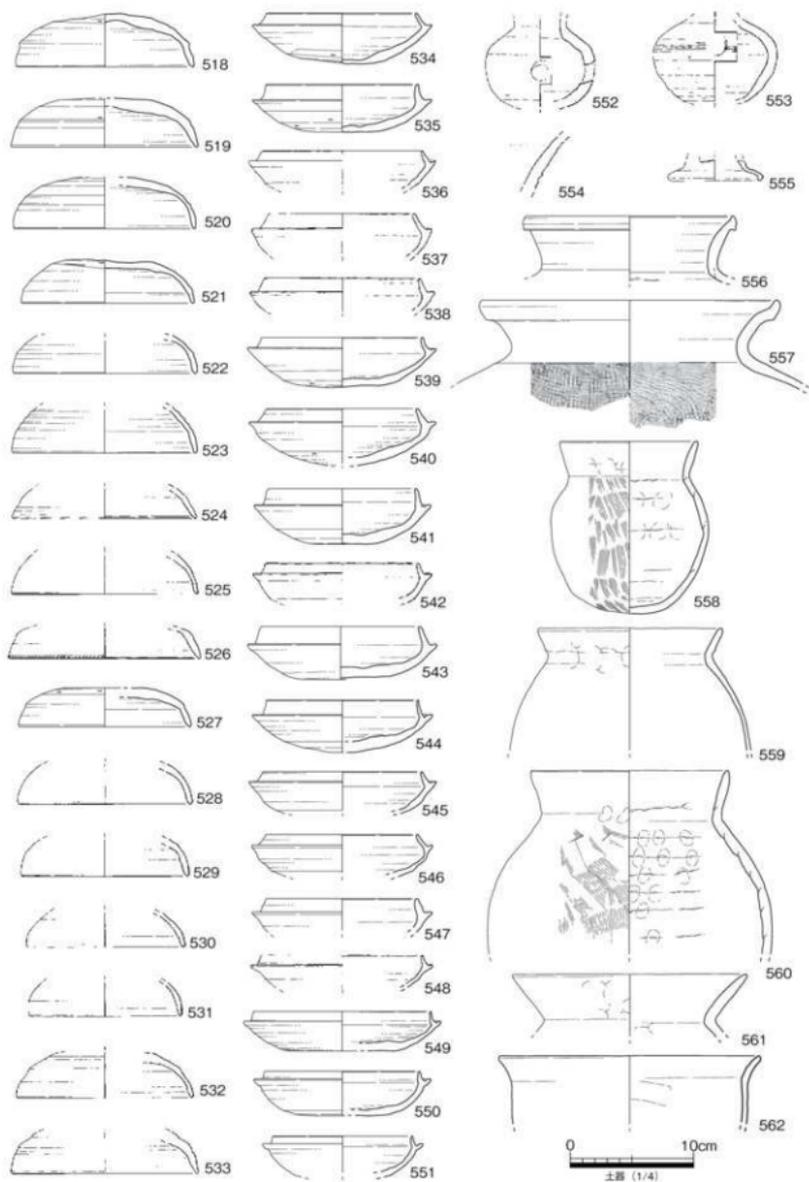
第96図 SHb205 カマダ平・断面図

## SHb204

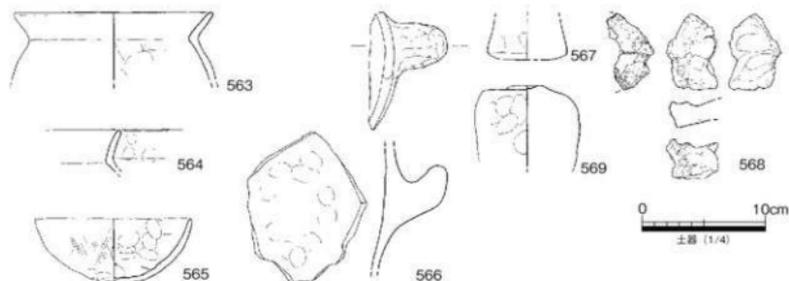
平成10年度Ⅱ区西壁中央で検出した。西半が調査区外へ延びるが、南北5.7m×東西3.3m、残存深度は0.35mを測る。主軸はN35°Eである。南東隅部がSHb203と重複する。埋土や出土遺物の状況からSHb203は後出する建物であると判断した。床面で2基柱穴を確認しており、これらが主柱穴であると判断した。作り付けカマダは確認できなかった。貼床層を2枚確認しており、2回の床面補修を行った可能性がある。建物東壁と南壁は壁溝の位置からやや外側へ離れる傾向にあり、建物の立て直しを行い、それに伴って貼床を行った可能性も考えられる。建物中央付近で焼土坑SKb204を検出したが、北半分の平面プランを押さえることができなかった。



第97図 SHb205 断面図



第98図 SHb205 出土遺物1



第99図 SHb205 出土遺物2

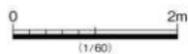
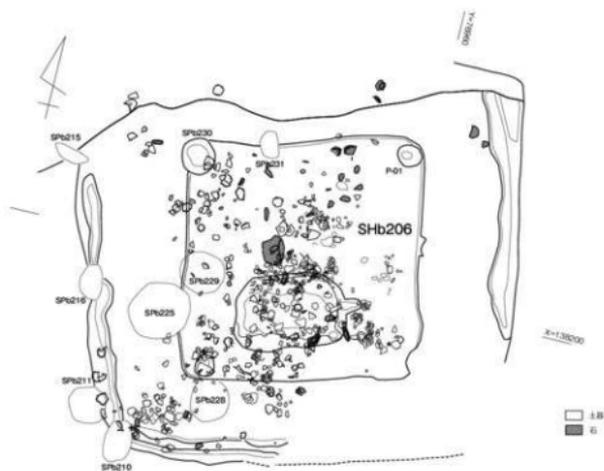
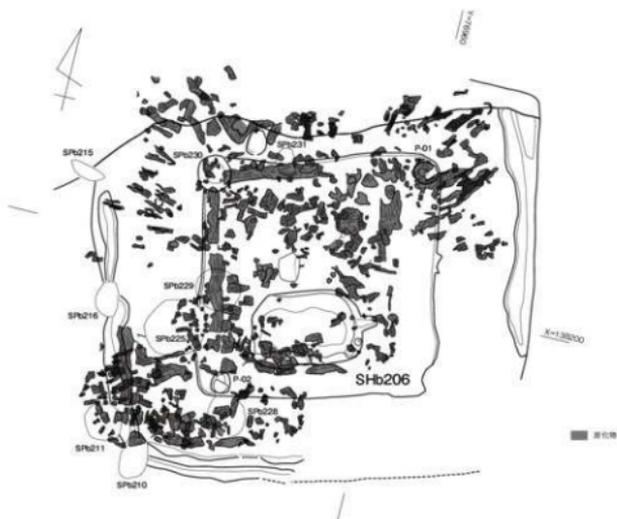
遺物はやや多く出土している。掘削時に切り合い関係にある遺構の掘削が不十分であったためか、新しい時期の遺物をやや多く含むが、床面付近の遺物には混じりはないと考えられる。明らかに混入したと考えられるものを除くと、出土遺物に須恵器を交えないのが特徴となる。土師器甕 (508～511)、高坏 (512・513)、鉢 (514)、椀 (515) を図化したほか、新しい時期の柱穴の掘り残しから出たとみられる土師器椀 (516)、壁溝内から出土した滑石裂有孔円盤 (517) を図化した。

#### SHb205

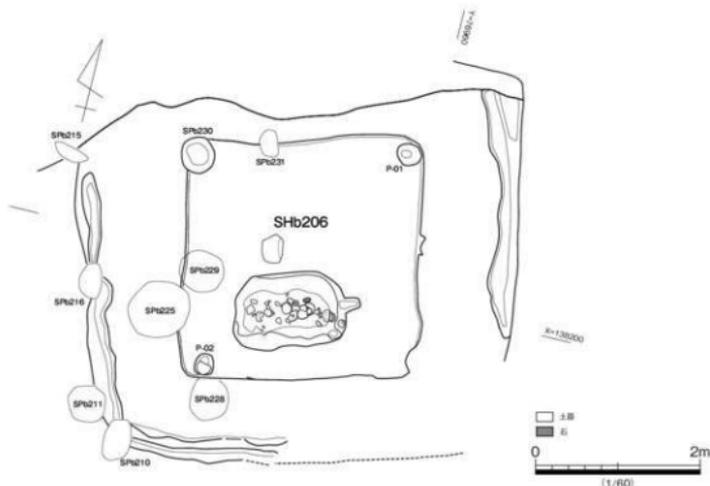
平成10年度Ⅱ区中央で検出した。南北5.7m×東西5.3m、残存深度は0.25mを測る。主軸はN 9.5°Eを測る。北西1/4ほどがSHb206と重複する。SKb201に切られるほかは大きな遺構による削平はなく、残存状況が比較的良好なものである。床面で8基柱穴を確認しており、これらが主柱穴であると判断した。内側に4基一組、外側にもう一組という組み合わせが想定でき、建て替えを行っていた可能性が考えられる。いずれの柱穴も浅く、深いもので約0.2m程度、大半が0.1m前後である。ほぼ全周にわたって壁溝が確認できたが、床面に掘削されたSKb202に係る部分から南東隅部とカマド部分には確認できなかった。北壁中央で作り付けカマドを確認した。袖部は置土により構築され、0.2mの高さで残存している。焚口付近の袖端部の本来の形状は明らかにできなかった。燃焼部は周りより0.05mほど掘り下げられ、そこから底部が煙道へ向けて緩やかに上がってゆく。断面観察では燃焼部と煙道の境に0.05mほどの盛り上がりが作られていたが、平面では十分に確認できなかった。この前後で堆積状況が変わることから、意図的に土を置いた可能性が考えられる。

遺物は比較的多量出土しており、須恵器杯蓋 (518～533)、杯身 (534～551)、甕 (552・553)、甕 (554・556・557)、高坏 (555)、土師器甕 (558～564)、椀 (565)、瓶 (566) のほか、土製支脚 (567・569)、輪羽口 (568) を図化した。遺物は複数の時期のものが認められ、詳細な時期は不明であるが、6世紀第3四半期頃のものが多く認められることから、概ねこの頃のものであると考える。531・550・551などやや新しいものが含まれるが、上層遺物であることから、最終埋没層に含まれたものであると判断した。





第101図 SHb206 炭化物・土器出土状況

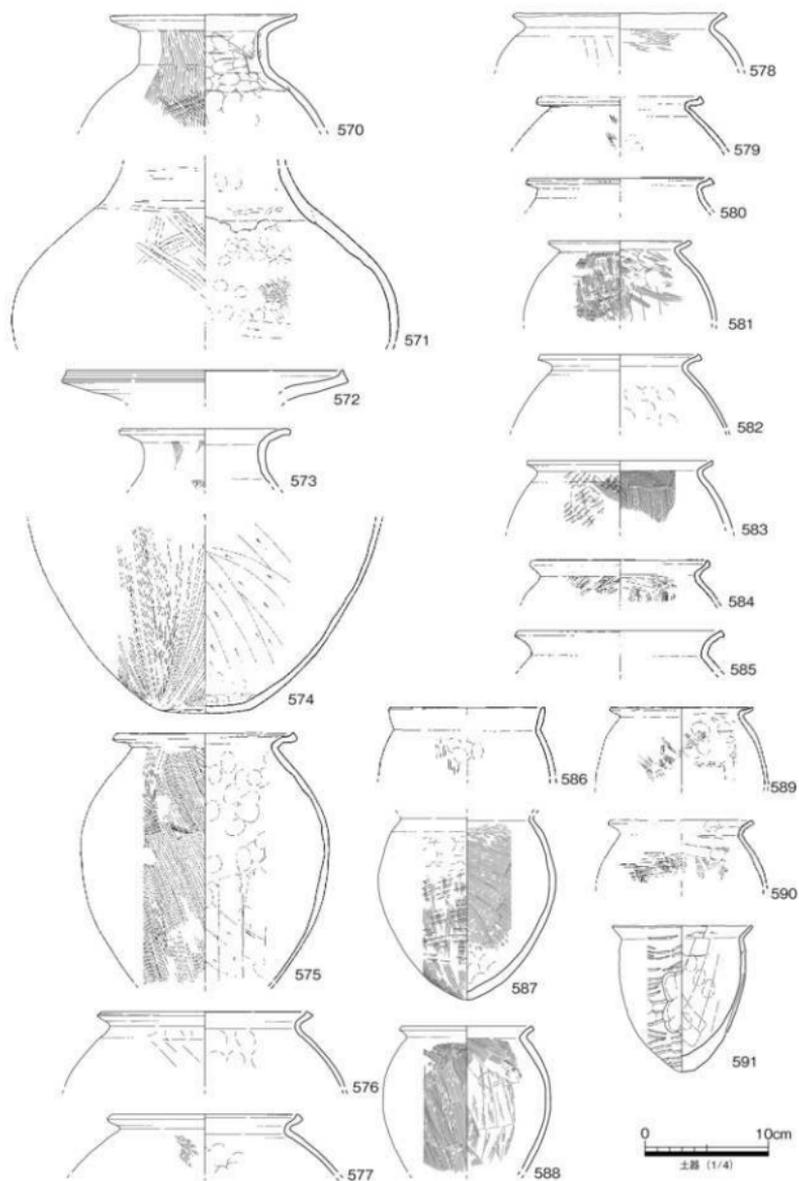


第102図 SHb206 平面図

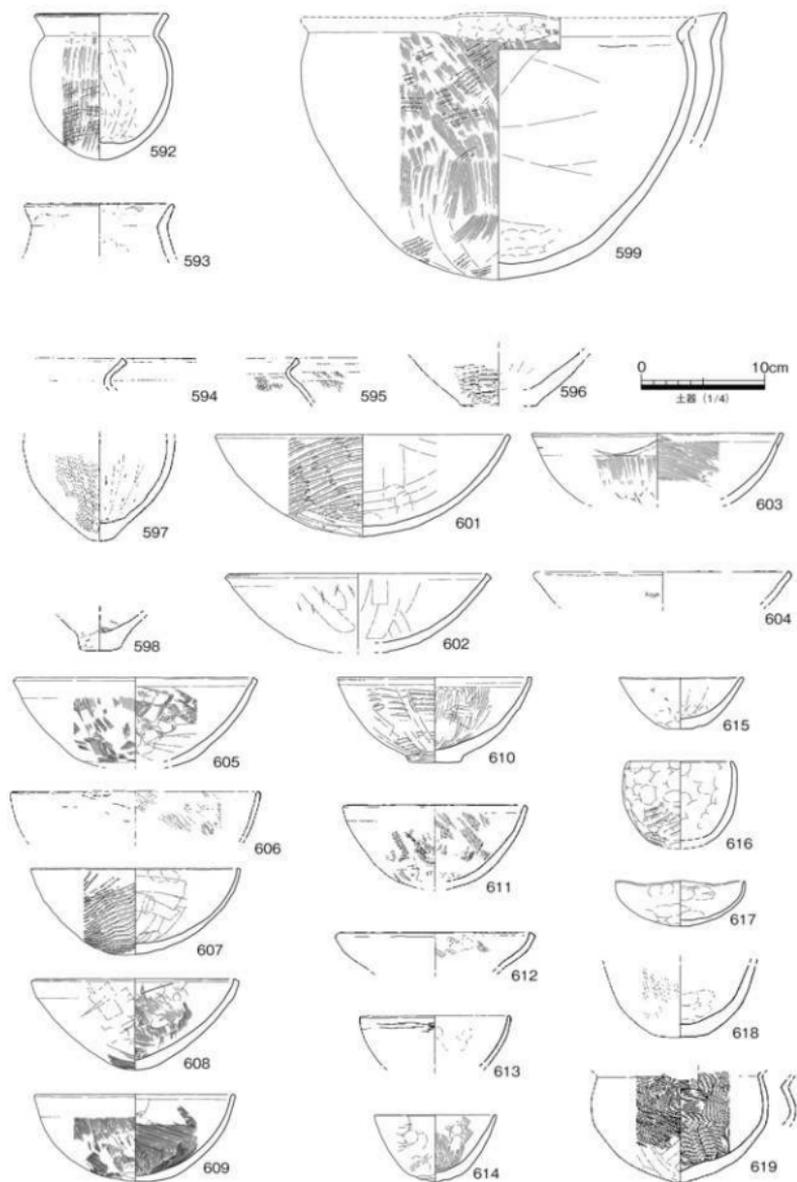
## SHb206

平成10年度Ⅱ区中央西寄りで検出した。南北5.0m×東西5.3m、残存深度は0.40mを測る。主軸方位はN135°Wを測る。南東1/4ほどがSHb205と重複し、削平を受ける。残存肩部から0.2mほど下がった高さから大量の炭化材を検出した。いずれも建物中心方向へ延びる軸を持つことから、建物の屋根垂木材が焼け落ちたものと考えられる。これらの下から幅1.0～1.2m程度、高さ0.2mのベッド状遺構を確認した。基盤層と類似した土からなるが、やや色調に濁りが認められることから、置土により構築したものとする。ベッド状遺構上面にはSHb205の削平を受けた箇所を除き炭化材が広がり、一部の材についてはこのベッド状遺構下段まで延伸する。建物の中心から放射状に広がることから垂木材と考えられる。また、炭化材の一部はベッド状遺構に平行して出土している。これについては、垂木材ではなく四辺をなす桁材であるとする。炭化材を除去すると中央土坑及び台石を確認した。さらに3基の柱穴を確認した。南東隅の柱穴は確認できなかったが、桁材が四辺分想定できることも合わせ本来は4基あったとみてよい。中央土坑の上面では炭化材は認められず内部に集中しており、屋根材が焼け落ちた際中央土坑内に入り込み、その後、埋没過程で最も下位にある炭化材から順に埋まった結果であろう。中央土坑内は顕著な赤変が認められず、炉などの火処として想定しにくい。しかしながら、周辺の床面においても被熱痕が認められないことから、これが炉と考えうる。周辺には堤など確認できていない。

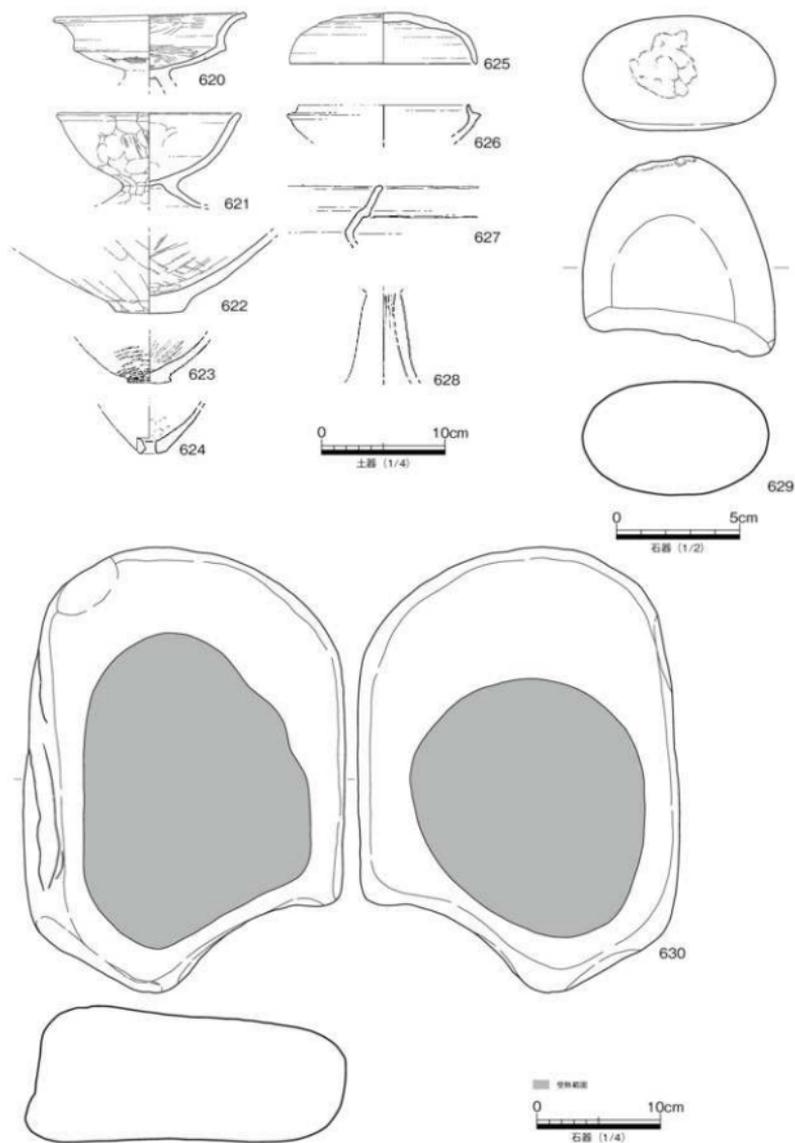
出土物は多数認められ、その多くがベッド状遺構上に分布する。完形に復元できないものが多く、埋め戻しに伴い投棄されたものが主体となると考えられるが、炭化材の下部から出土するものが一定量



第103図 SHb206 出土遺物1



第 104 図 SHb206 出土遺物 2



第105図 SHb206 出土遺物3

認められ、これらは焼け落ちる前に建物内に残置されたものであると考えられる。弥生土器壺(570~574)、甕(575~598)、鉢(599・601~619、622・623)、高坏(620・621)、底部穿孔土器(624)のほか、上層埋土中に含まれた須恵器(625・626)、土師器(627・628)を図化した。また、中央土坑内から出土した砂岩裂印石(629)、中央土坑脇の床面に残置されていた砂岩裂台石(630)を合わせて図化した。出土遺物から弥生時代終末期頃のものと考え、廃絶の時期も概ねその頃であると判断した。

## 2. 掘立柱建物

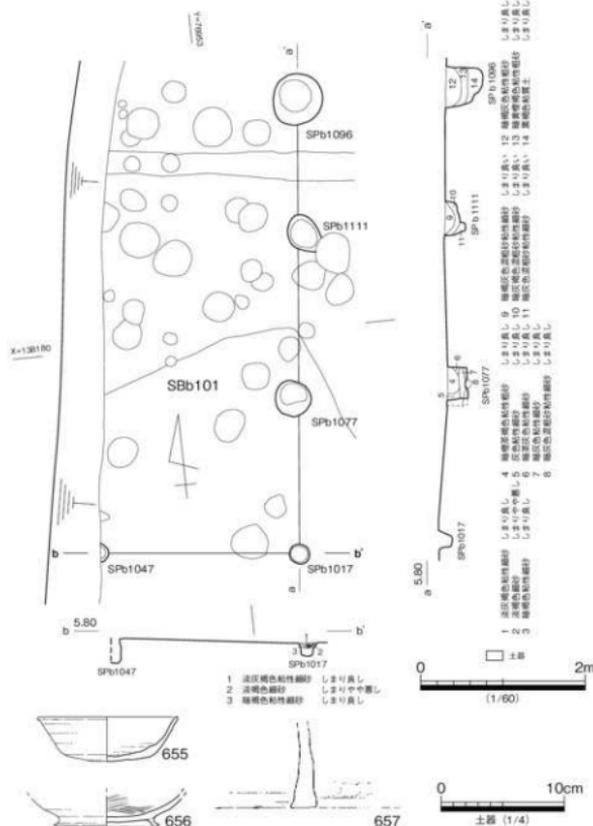
合計4棟確認できた。いずれも平成10年度調査区に所在する。I区で3棟、II区で1棟の内訳である。

主軸方位が東へ5~10°偏向し、大内平野で認められる条里型地割の方向に概ね合致する。調査区外へ延びるものがほとんどで、規模は不明なものばかりである。

### SBb101

平成10年度I区北西隅で検出した。調査区外へ延びるため詳細な規模は不明であるが、南北5.6m以上×東西2.4m以上、主軸方位はN55°Eを測る建物として復元した。柱穴の規模は直径0.2~0.5m、深さは0.15~0.45mを測る。南側柱列をなす柱穴の規模が著しく小型で、建物をなすには不都合かもしれない。

出土遺物は微量で時期を判断する材料に乏しい。SPb1017で土師器杯(655)、黑色土器碗(656)、土師器移動式カマド片(657)が

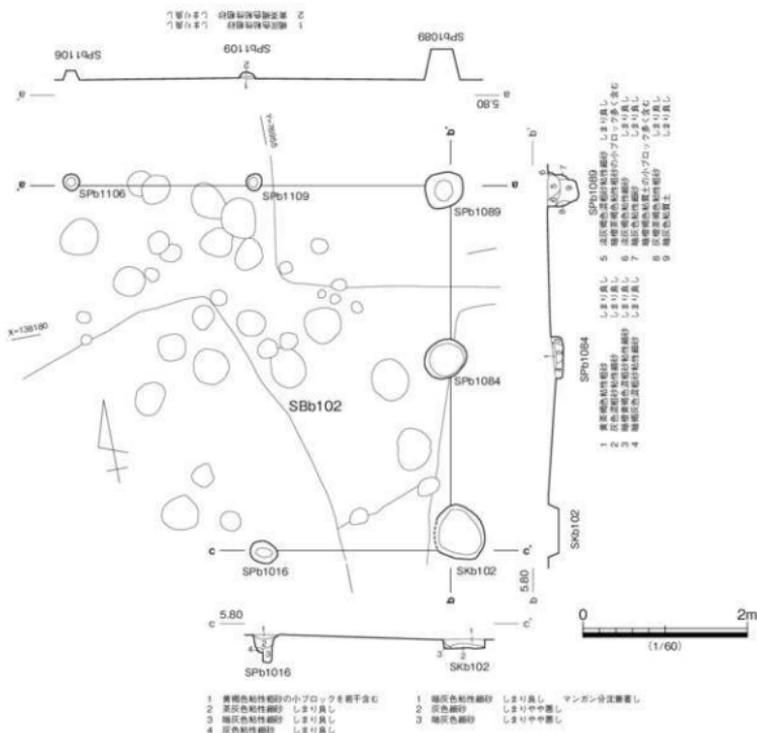


第106図 SBb101 平・断面図

出土している。SPb1017の埋土中・下層から炭化物と焼土塊が多量出土した。図化し得なかったが、655・656とともに著しく被熱した砥石片が出土しており、埋め戻しに際し、これらが投棄されたと考えられる。ほかの柱穴では同じ状況は認められなかった。出土資料から概ね11世紀代のものと考えられる。

### SBb102

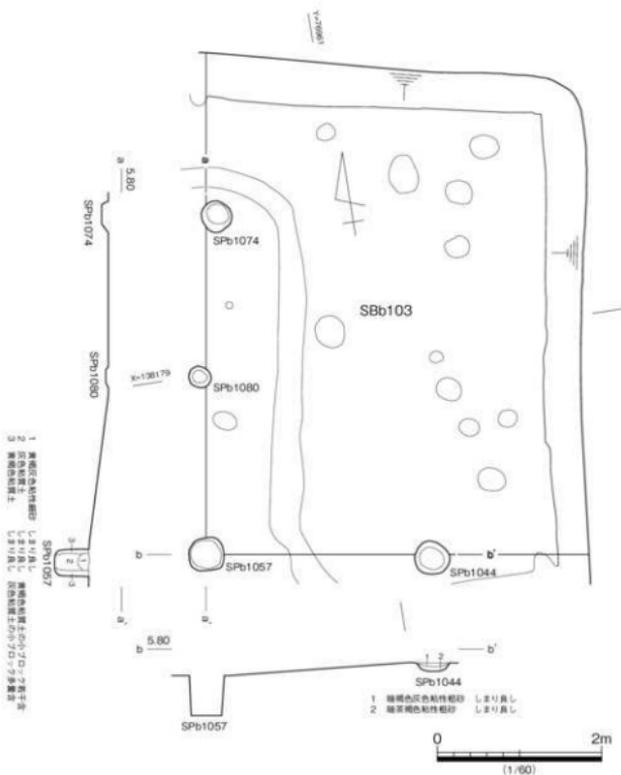
平成10年度I区北西隅で検出した。調査区外へ延びるため詳細な規模は不明であるが、南北4.4m×東西4.6m以上、主軸方位はN10°Eを測る建物として復元した。柱穴の規模は直径0.2～0.7m、深さは0.1～0.35mを測る。東側柱列をなす柱穴の規模とその他の差が著しく、建物をなすには不都合かもしれない。出土遺物が微量で時期を判断する材料に乏しい。堅穴建物を切っていることから、古墳時代以降のものであると考えられる。



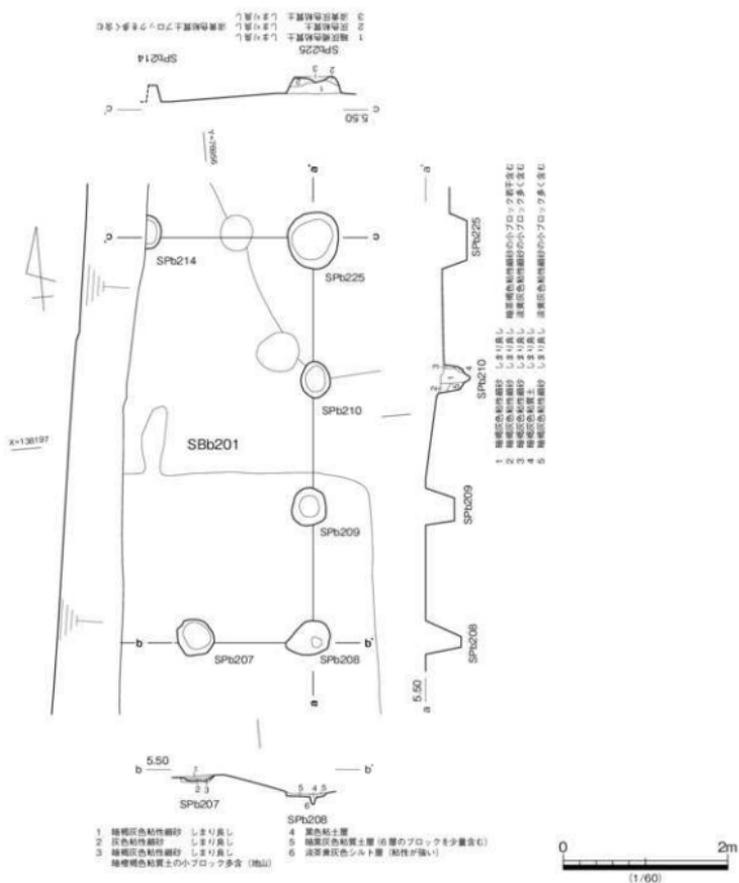
第107図 SBb102 平・断面図

SBb103

平成10年度I区北東隅で検出した。調査区外へ延びるため詳細な規模は不明であるが、南北4.2m以上×東西2.7m以上、主軸方位はN9°Eを測る建物として復元した。柱穴の規模は直径0.2～0.4m、深さは0.05～0.45mを測る。建物の隅柱がしっかりするのに対し、その他の柱穴がかなり浅い構造となる。出土遺物が微量で時期を判断する材料に乏しい。



第108図 SBb103 平・断面図



第109図 SBb201 平・断面図

## SBb201

平成10年度Ⅱ区南半西壁際で検出した。調査区外へ延びるため詳細な規模は不明であるが、南北5m×東西2m以上、主軸方位はN6°Eを測る建物として復元した。柱穴の規模は直径0.35～0.7m、深さは0.1～0.45mを測る。南側柱穴列の東から2基目のみが著しく浅く、建物を構成する柱穴ではない可能性がある。出土遺物が微量で時期を判断する材料に乏しい。古墳時代中期末の堅穴建物を切っていることから、それ以降のものであると考えられる。

### 3. 土坑

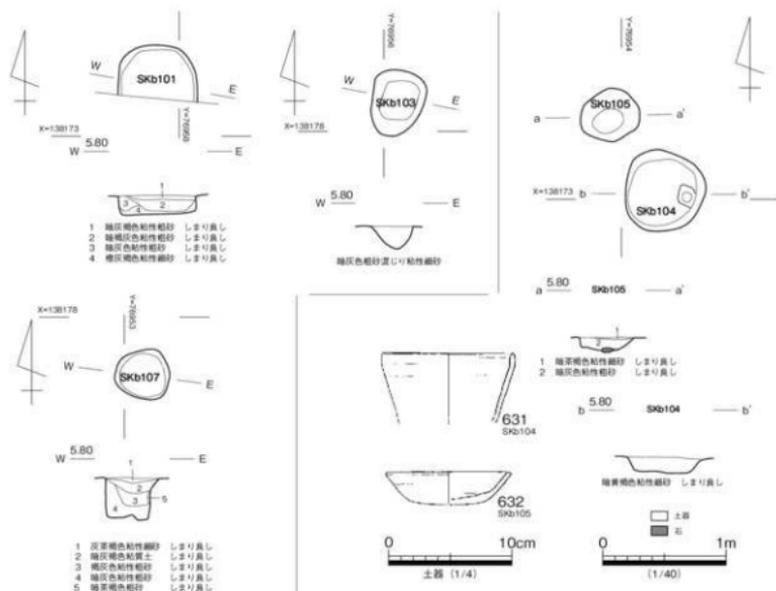
合計 40 基検出した。柱穴との規模に差を認めがたい。平成 10 年度検出の遺構を中心に報告する。

#### SKb104

I 区南端中央寄りで検出した。平面形は直径約 0.7 m のいびつな円形を呈し、皿状の断面形状で残存深度は 0.12 m を測る。埋土は単層で、微量の遺物を含む。須恵器平瓶口縁部（631）が出土している。遺物が微量で時期を判断する材料に乏しいが、概ね古墳時代後期以降のものと考えておく。

#### SKb105

SKb104 の北西に隣接して検出した。平面形は長径 0.5 m × 短径 0.4 m のいびつな楕円形を呈し、皿状の断面形状で残存深度は 0.1 m を測る。埋土は 2 層に分層出来るが、1 層はほとんど残存しない。出土遺物は微量で時期を判断する材料に乏しいが、土師器杯（632）が出土しており、11 世紀頃のものであると判断する。



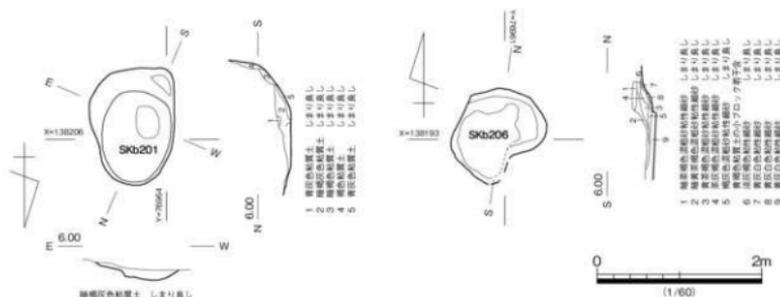
第 110 図 SKb101・103・104・105・107 平・断面図、出土遺物

## SKb201

Ⅱ区北東部で検出した。周辺は後述する北包含層として調査しており、Ⅱ区南半の堅穴建物密集部とは状況を変え、極めて遺構密度が低い範囲となる。埋土の状況から湿地帯になっていたと考えられ、その落ち際に掘削された遺構である。遺構検出時には確認できておらず、包含層掘削時にその存在が判明したため、北半部の大半を破壊している。長径1.4m×短径1mのいびつな楕円形を呈しており、断面形状は碗状で残存深度は約0.7mを測る。土器は出土しておらず、帰属時期は不明である。特筆すべき点は埋土中に多量の桃核と見られる種子が含まれていたことである。出土位置を記録しておらず、詳細な出土状況はメモ写真でわずかに確認できる程度であるが、73点を報告対象とする。これとは別に北包含層で取り上げた33点があり、本来、SKb201に含まれていた可能性がある。

## SKb206

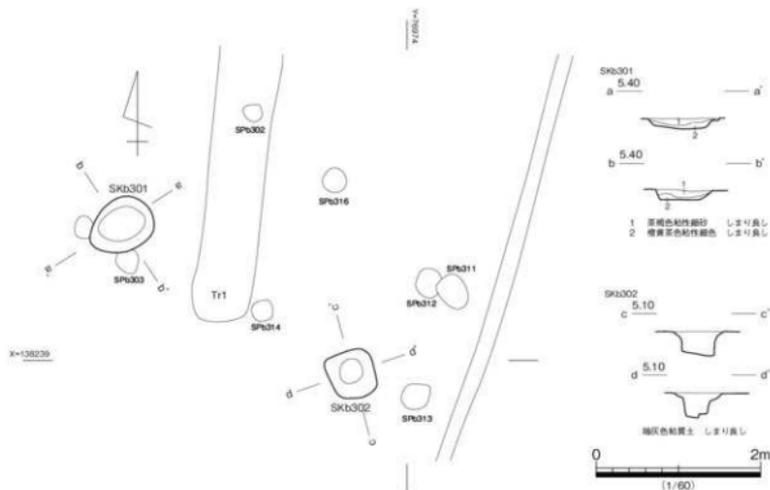
Ⅱ区南半中央付近で検出した。SHb202・203が重複する部分で検出している。SKb206はこれらの遺構の後に掘削されたものである。残存規模は長軸1.0m、短軸0.7mの不整形な楕円形を呈し、最深度で0.3mを測る。出土遺物は団化可能なものが確認できず、帰属時期は不明である。遺構の切り合いから6世紀後半以降のものと考えられる。



第111図 SKb201・206 平・断面図

## SKb301・302

Ⅲ区中央付近で検出した。周辺は少量の柱穴と旧河道に囲まれる。SKb301は平面形が長径0.8m×短径0.65mの卵形、断面形状が残存深度0.15mの皿状を呈し、SKb302は一辺約0.6m、断面形状が残存深度0.3mの箱形を呈する。SKb301は上下2層、SKb302は単層の埋土を持つ。遺物はSKb301では少量認められるが、SKb302では認められない。SKb301については遺物の状況から時期を判断する材料に乏しいが、須恵器杯の天井部ないし底部片が出土していることと、当初堅穴建物の可能性を想定しながら調査を行った包含層があり、6世紀代中頃の遺物が出土していることから、当該期のものであると考える。



第112図 SKb301・302 平・断面図

#### 4. 柱穴

合計236基検出した。全体的に見ると散漫な分布を示すが、平成9年度Ⅰ区北端、Ⅱ区南端、平成10年度Ⅰ区に密度のやや高い範囲が認められる。ただし、建物を構成させられる柱穴が限られ、平成10年度調査区Ⅰ・Ⅱ区でわずかに認められるのみである。各調査区とも、遺構面をやや削り下げており、その結果、いずれの柱穴についても残存状況がより不良となっている。ここでは先述した掘立柱建物を構成しないものを中心に報告する。

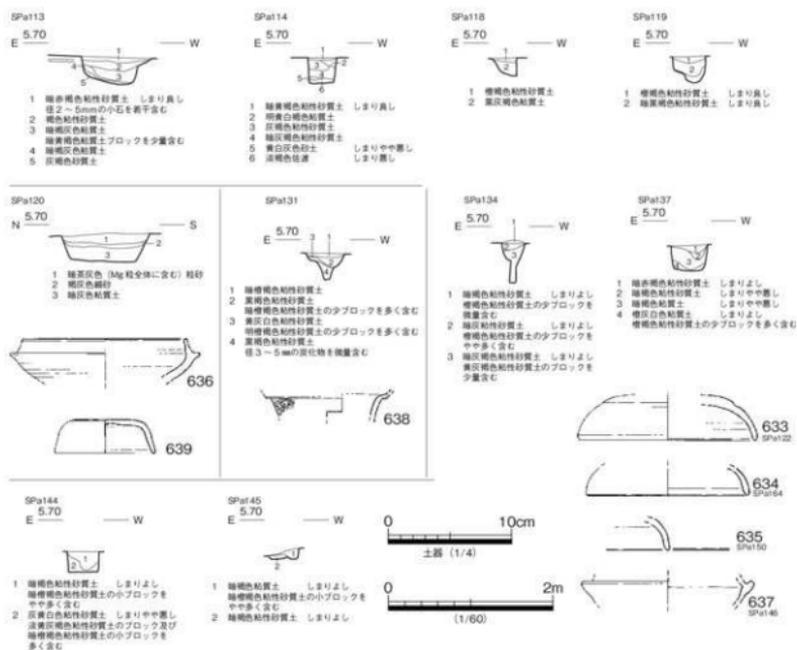
平成9年度Ⅰ区は堅穴建物と重複関係にあるSPa150・164と重複関係にないSPa120・122・131・146に分けて報告する。SPa150はSHa104と、SPa164はSHa107と重複する。SPa131は須恵器甕(638)を伴うが、形状から6世紀前半以前のもと考えられる。SPa146・150はそれぞれ須恵器杯身(637)、杯蓋(635)を含む。位置的にSHa104の主柱穴の可能性を想定したが、堅穴建物の時期よりもやや新しく、遺構としても堅穴建物を切る遺構である可能性が高い。SPa164からは須恵器杯蓋(634)が出土しているが、堅穴建物SHa107の時期に近い遺物であり、関連する遺構の可能性がある。SPa120からは須恵器杯身(636)、蓋(639)が出土している。杯身の形状から概ね6世紀第2四半期頃のものと考えられる。639は口縁端部の形状から杯身の可能性があり、7世紀第1四半期頃のものとも考えられる。

平成9年度Ⅱ区の柱穴は、堅穴建物と重複するSPa212・226と建物から離れるSPa207に分かれる。前者は共にSHa211と重複する。SPa207はⅡ区南端中央付近で検出しており、641から概ね9世紀第4四半期に帰属すると考えられる。当該期の掘立柱建物が存在した可能性が高いが、十分検出できていない。

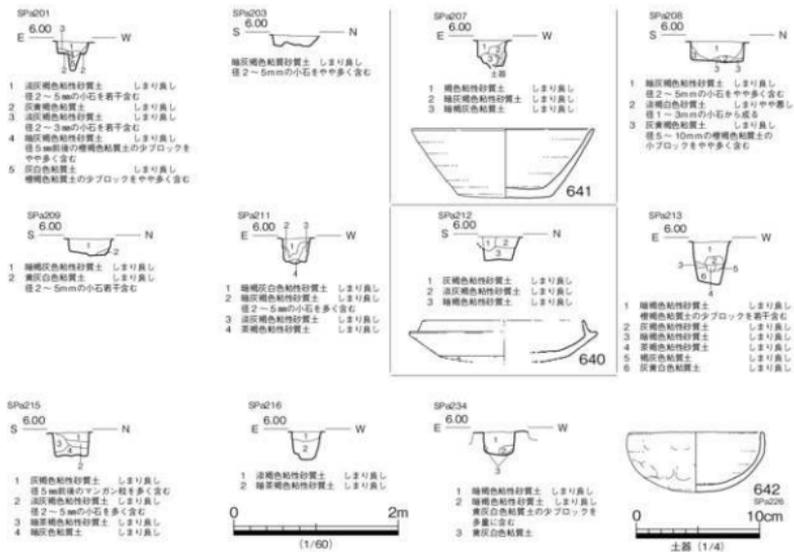
平成9年度Ⅲ区では低い密度で散漫な分布を示す。SPa313は調査区北部中央で検出しており、643

が出土している。概ね8世紀後半頃のものとする。当該期の掘立柱建物の存在が想定できるが、周辺に組み合う柱穴は認められない。

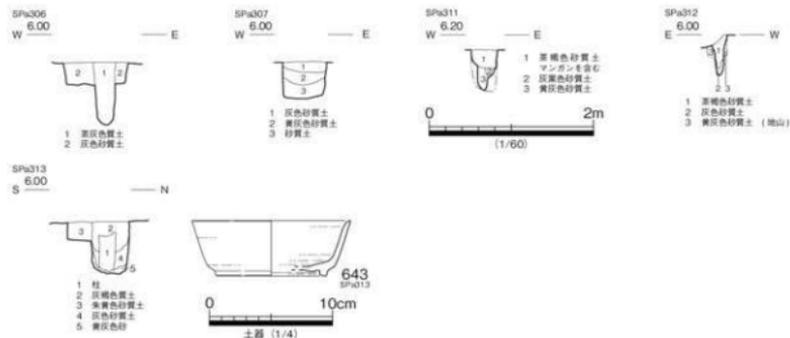
平成10年度I区においては、掘立柱建物を構成するもの以外にも多数柱穴を確認した。これらは堅穴建物に後出するものが多いとみられるが、堅穴建物の残存状態が不良で上層が削平された結果、残存する主柱穴であったものが含まれる可能性がある。SPb1110はSBb101を構成するSPb1111を切っていることから、SBb101に後出すると考えられる。SPb1098出土の須恵器蓋(646)は周辺の包含層からの巻き上げによると考えられ、柱穴自体は11世紀代以降のものであろう。SPb1087はSHb109を、SPb1001はSHb101をそれぞれ切る。SPb1087出土の650は6世紀第2・3四半期頃のものと考えられ、堅穴建物よりも古い遺物を伴うことから周辺の包含層からの遺物を巻き込んだものと考えられる。また、SPb1001は658を伴うことから、SHb101よりも新しいことがわかるほか、659の土鍾はSHb101床面に残存した土鍾集中部の遺物を巻き上げたものであると考えられる。



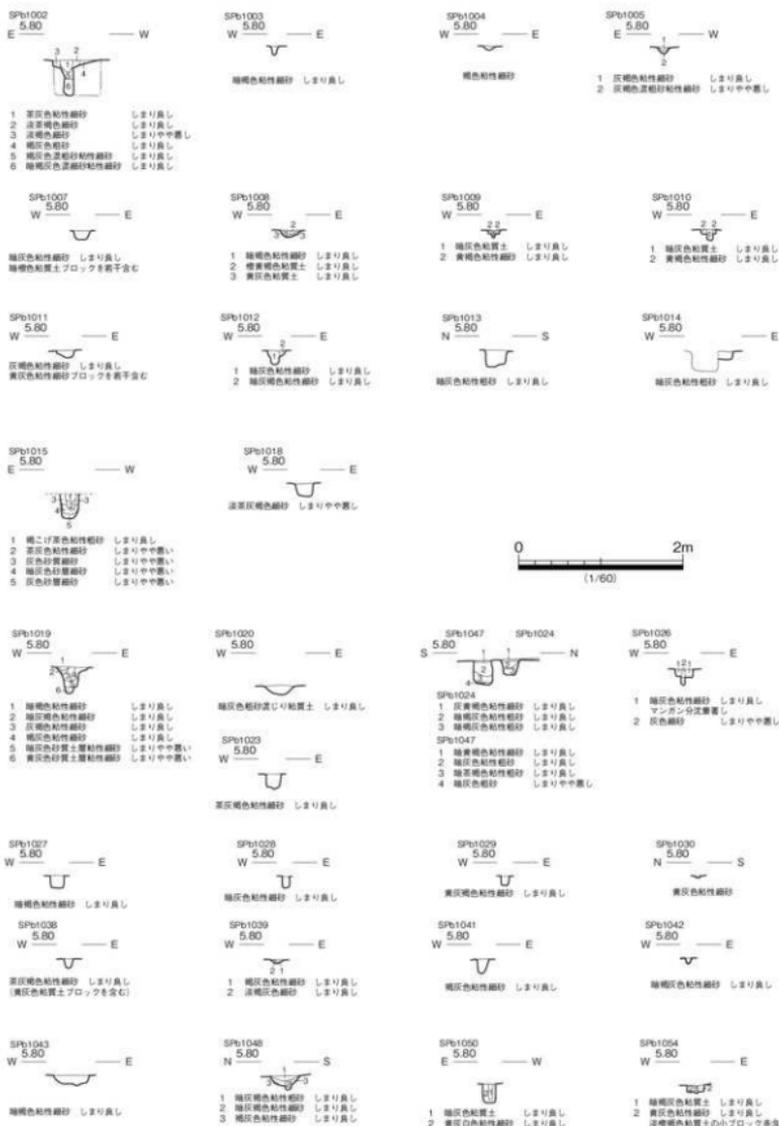
第113図 H9 I区SP 断面図、出土遺物



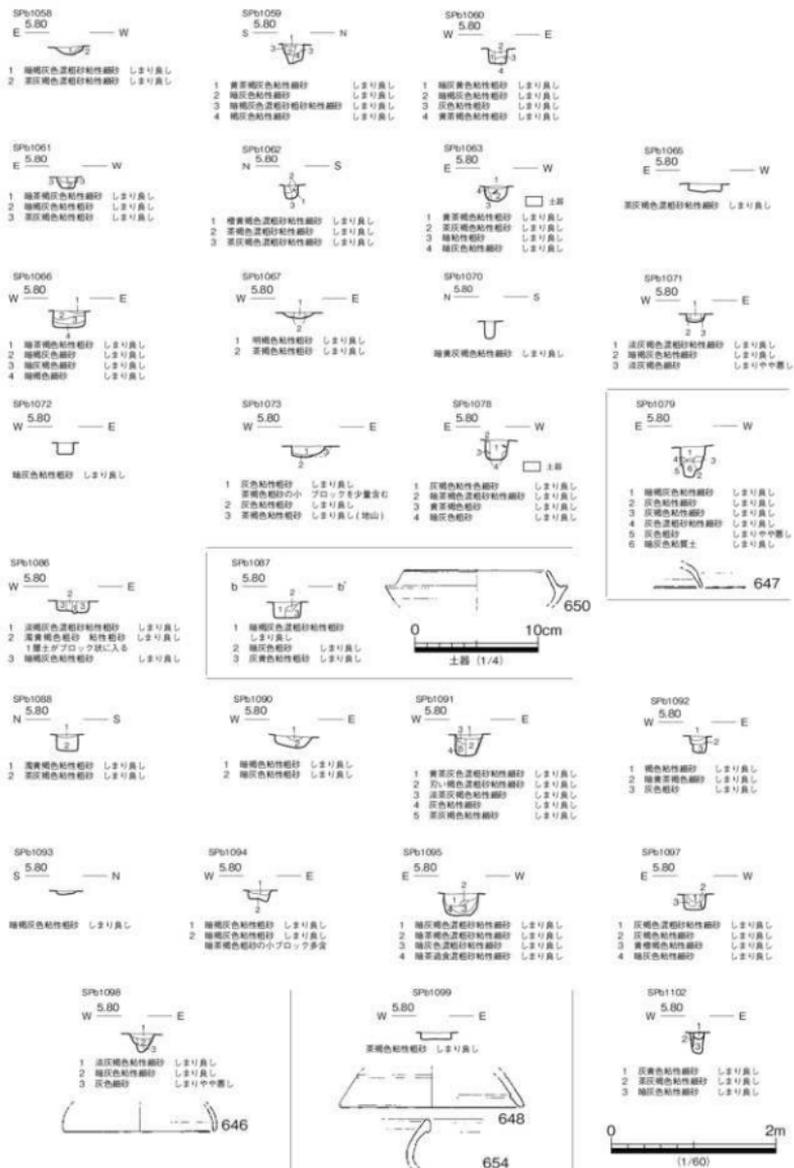
第114図 H9 II区 SP 断面図、出土遺物



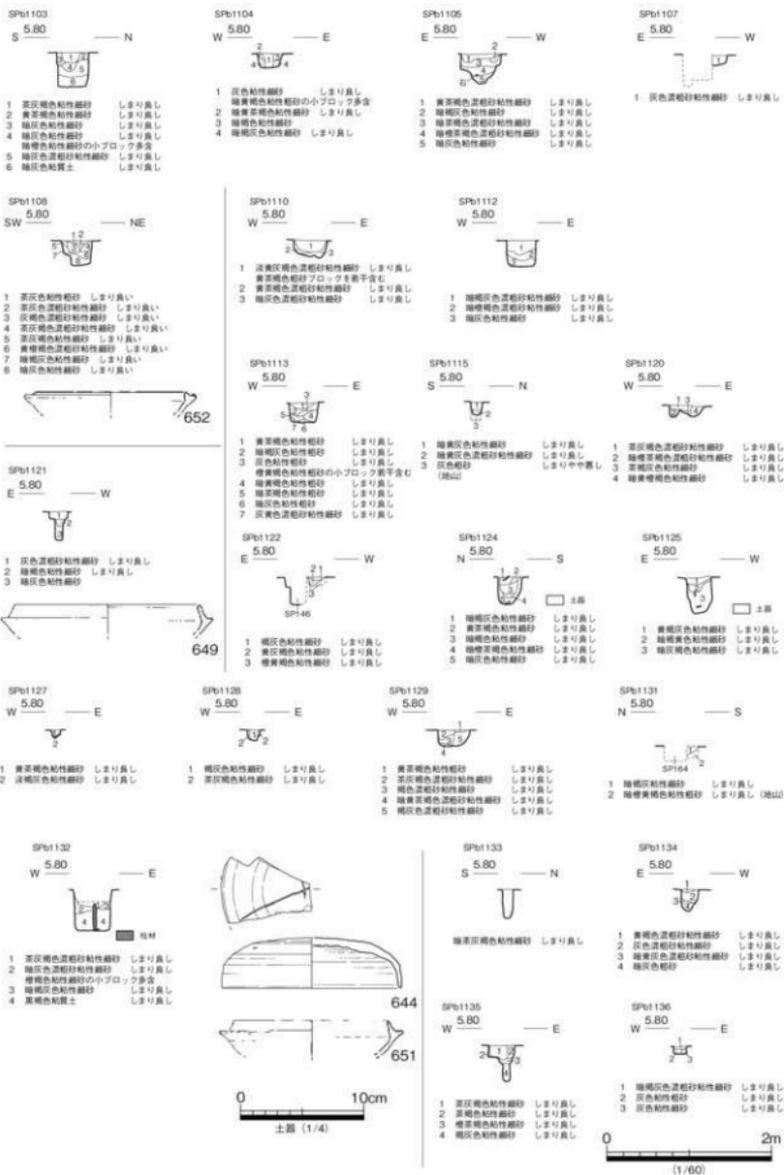
第115図 H9 III区 SP 断面図、出土遺物



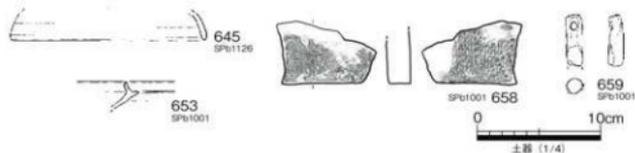
第116図 H10 I区SP 断面図、出土遺物1



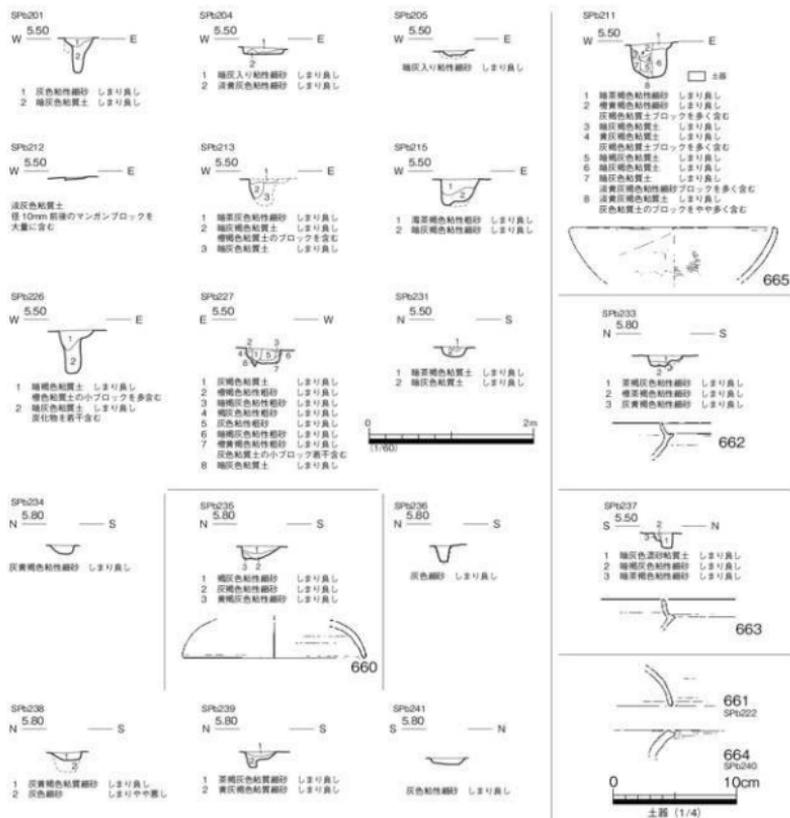
第117図 H10 I区SP 断面図、出土遺物2



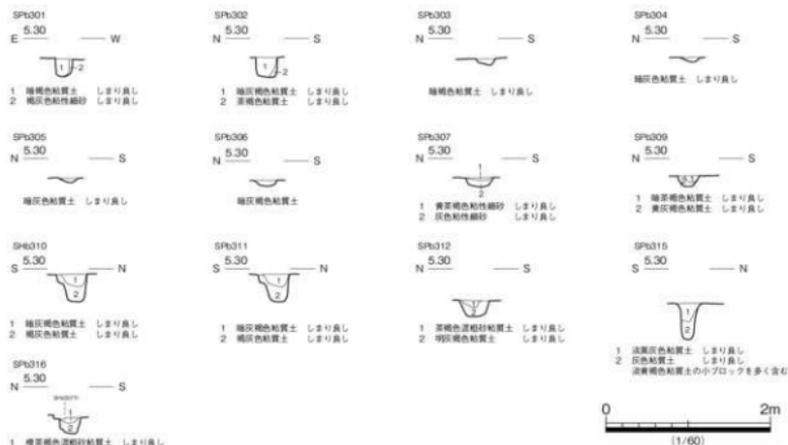
第118図 H10 I区SP 断面図、出土遺物3



第 119 図 H10 I 区 SP 出土遺物 4



第 120 図 H10 II区 SP 断面図、出土遺物



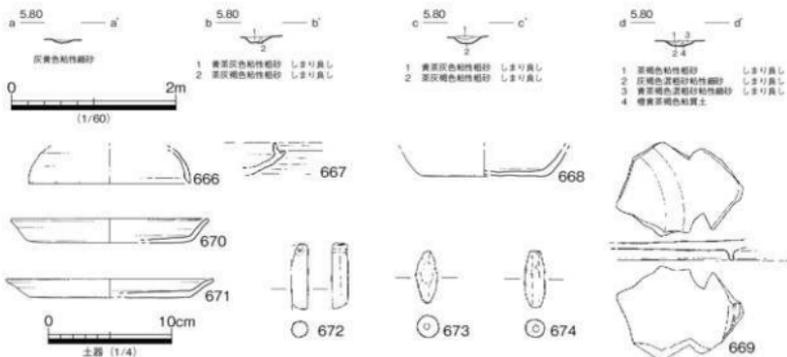
第121図 H10 Ⅲ区 SP 断面図

## 5. 溝状遺構

## SDb101

平成10年度Ⅰ区東壁及び北壁にはほぼ並行して検出した。総延長約19m、幅は0.2～0.4mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは約0.1mを測る。南から北進し、調査区北東付近で西へ方向を変えそのまま西壁から調査区外へ延びており、調査区南西部に区画されるものがあることが想定できるが、溝と軸を揃えたうえでこの中に完結するとみられる遺構は確認できなかった。SHb101・109を切っており、少なくとも6世紀第4半期以降のものと考えられる。

一方、遺構出土遺物を見ると一定量が認められ、須恵器杯蓋(666)、杯身(667)、須恵器杯(668)、土師器高台付皿(669)、皿(670・671)のほか、棒状土錘(672)、管状土錘(673・674)を図化した。



第122図 SDb101 断面図、出土遺物

土師器皿類の形状から概ね9世紀～10世紀頃のものと考えられる。

## 6. 旧河道

大きく6本の旧河道を確認した。遺跡南端の平成9年度Ⅲ区内で西壁沿いに確認したSRa301・302、平成9年度Ⅰ区第2面で確認したSRa101、遺跡北端の平成10年度Ⅲ区内で西壁沿いに確認したSRb301、それに切られて調査区南西隅から北東方向へ延びるSRb302、北端で東西方向の落ちとして確認したSRb303がある。内、SRb303は図示に耐えうる遺物が認められなかったため、時期は不明である。遺構の切り合いからSRb301より新しいことだけがわかる。

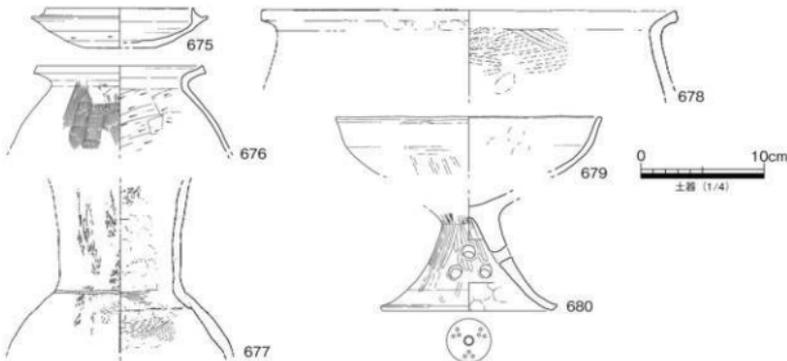
### SRa101

平成9年度Ⅰ区南端で検出した、南西隅から北東方向へ延びる幅4.5～6.5m、深さ約0.4mの浅い皿状の断面を持つ流路である。上面をSHa107～109・111によって削平されており、6世紀第3四半期以前に埋没した旧河道であると考えられる。粘質土系の埋土を中心としており、湿地状堆積にみえることから上記の規模は最終埋没の単位を示し、下層で見える堆積層も本来は流路の埋土である可能性が高い。Ⅱ区北西隅で検出したSHa214の下層へ一部延びていると考えられるが、明確なプランは確認できなかった。ただし、同建物の下層埋土出土遺物のうち6世紀第4四半期の遺物を除けば、上記の埋没時期は矛盾なく理解できる。

Ⅰ区第2面 最終確認試験トレンチ



- |              |         |   |
|--------------|---------|---|
| 1 淡灰黄褐色粘質砂質土 | しまり無し   | 緑灰褐色粘質土・淡灰褐色粘質土ブロック及び暗褐色粘質砂質土の少ブロックを多く含む        |
| 2 灰褐色粘質土     | しまり無し   | 径1～3mmの小石を含む                                    |
| 3 淡黄灰褐色粘質土   | しまりやや弱し | 径1～3mmの小石を少量に含む                                 |
| 4 緑灰褐色粘質砂質土  | しまり無し   | 径1～3mmの小石を若干含む他、暗褐色粘質砂質土・淡灰褐色粘質砂質土の少ブロックをやや多く含む |
| 5 暗黄褐色粘質土    | しまり無し   | 暗褐色粘質土・灰褐色粘質土の少ブロックを若干含む                        |
| 6 淡灰褐色粘質砂質土  | しまり無し   | 暗褐色粘質土・暗褐色粘質土・暗褐色粘質土の少ブロックを多く含む                 |
| 7 緑灰褐色粘質土    | しまり弱し   | 径2～3mmの小石を多く含む                                  |
| 8 淡黄褐色粘質砂質土  | しまり無し   | 径2～3mmの小石を若干含む他、暗灰褐色粘質土・淡褐色粘質砂質土のブロックを若干含む      |
| 9 暗灰褐色粘質砂質土  | しまり無し   |   |
| 10 暗黄褐色粘質粘質土 | しまり無し   | 径2～3mmの小石を若干含む                                  |
| 11 暗黄褐色粘質砂質土 | しまり無し   | 径2～3mmの小石をやや多く含む他、暗褐色粘質砂質土の少ブロックを多く含む           |
| 12 暗黄褐色粘質土   | しまり無し   |   |



第123図 SRa101 断面図、出土遺物

遺物は、675の須恵器以外は粘質土層を中心に出土しており、比較的まとまっている。遺物量はあまり多くない。675は本来 SHb111 に帰属する可能性がある。弥生土器甕 (676)、壺 (677)、鉢 (678)、土師器高坏 (679・680) を図化した。

### SRa301

平成9年度Ⅲ区西壁沿いで検出した、南北方向に延びる流路である。南西隅に端を發し西壁北寄りで調査区外へ消える。検出幅は深い部分で幅約2mであるが、浅く広がる部分まで含めると約6mとなる。検出面から約1mの深さを測る。上層は粘質土系の埋土で埋まり、下層は細砂と粘質土系の互層で堆積する。部分的に粗砂をラミナ状に含む。断面形状から見て、流路の底部までは出ておらず、流路の中位・上位を掘削していると考えられる。遺跡の約100m西に古川という小河川が存在する。現在は河川改修により直線的に流下するように付け替えられているが、本来は蛇行し、その一部がSRa301として表れている可能性がある。

上層埋土は一部 SHa310 と重複している。遺物は比較的多量出土し、大きく1～7層(Ⅱ層)と8～14層(Ⅲ層)、肩部(SHa310付近)に分けて取り上げている。出土量はⅡ層で取り上げたものの割合が高く、Ⅲ層はあまり多く認められない。須恵器は杯蓋(681～686)、杯身(687～696)、壺(697)、高坏(698)、甕(699・700)を図化した。蓋坏が多く認められ、帰属時期に幅がある。6世紀代のものが中心であるが、図示し得なかったものの中に5世紀代にさかのぼる可能性のある杯身の破片が認められる。土師器は杯(705)、甕(706～708)、瓶(709・710)を図化した。土製品は支脚(711)、管状土錘(712～718)を図化した。瓦類は破片資料が若干量出土している。丸瓦(719)、平瓦(720～726)を図化した。721は、焼台として使用したと考えられる須恵器甕の破片が融着している。以上の遺物は概ねⅡ層・Ⅲ層から出土しており、平瓦がⅢ層に含まれるなど、堆積時期を押さえるのは困難である。Ⅱ層で瓦器碗(701)や黒色土器碗(702～704)が含まれることから少なくとも11世紀以降の埋没時期が想定できる。なお、1層からは帯金具鉈尾(727)が出土している。

### SRa302

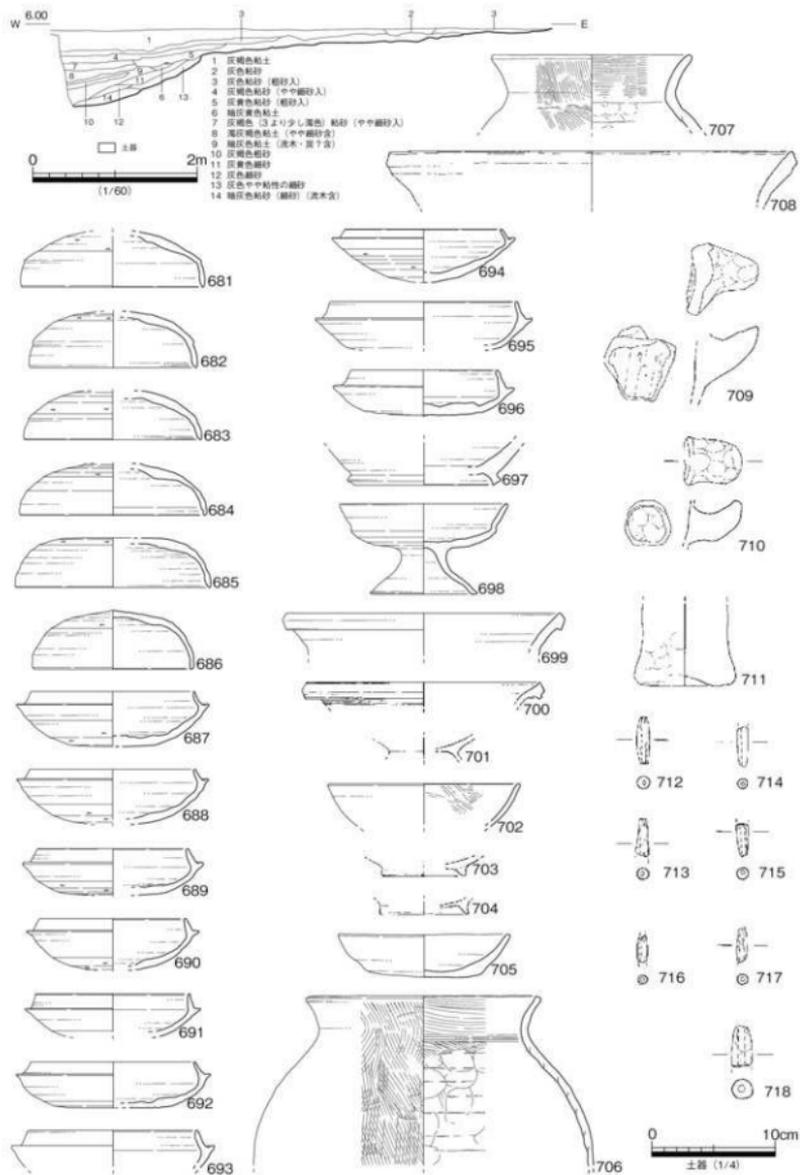
平成9年度Ⅲ区南西隅に部分的にかかる旧河道として調査した。SRa301との前後関係は不明で、本来は同一流路である可能性を残す。SHa312を切ることから、それ以降の流路であると判断できる。

出土遺物は少量で、須恵器蓋坏身(729)、杯(730)、甕(731)、土師器甕(732)、平瓦(733)を図化した。遺物の構成はSRa301と概ね同様である。

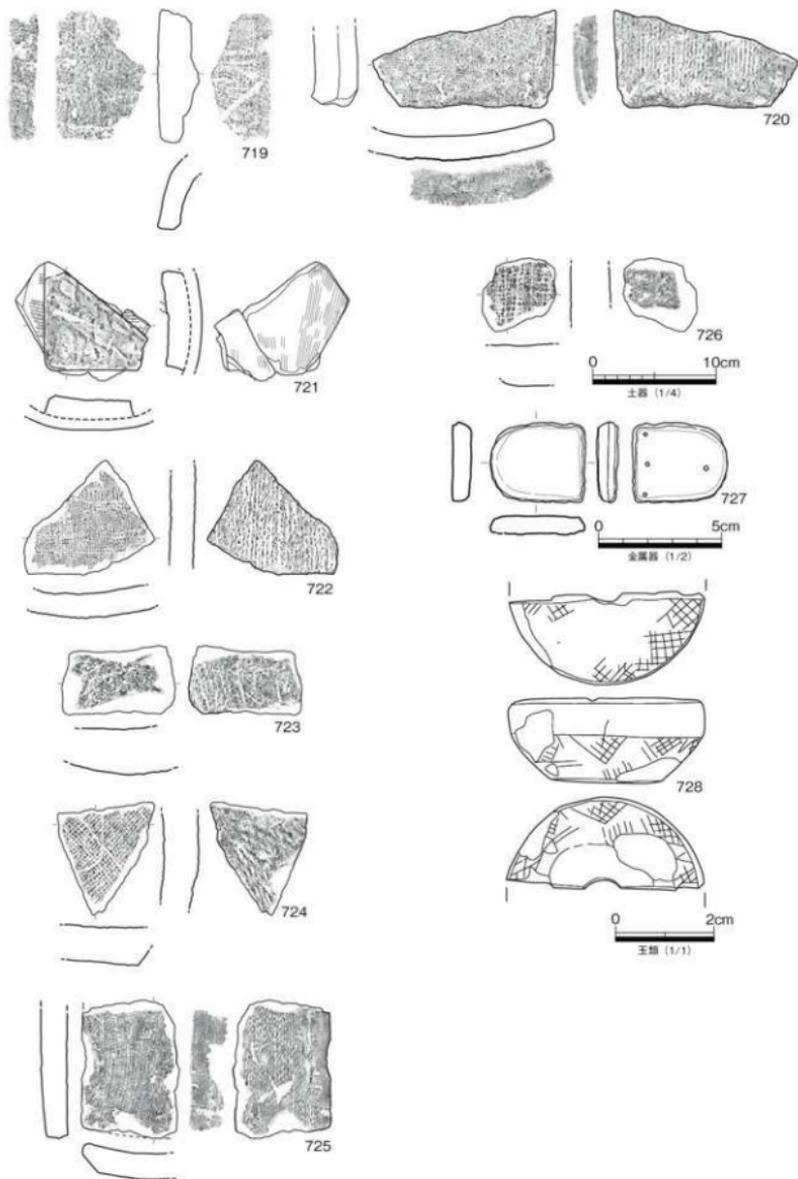
### SRb301

平成10年度Ⅲ区の西壁沿いで検出した。Ⅲ区北部で後出するSRb303に削平される。総延長31m以上、幅最大5mを測る。深さは約0.8mを測る。上層では砂質土が堆積するが、下層では粘質土が堆積する。下層では滞水気味の環境であったものが上層堆積時に流水環境となったと考えられる。調査時の所見では1層が7～8世紀代の包含層で7・8層が6世紀末～7世紀初頭の包含層となっているが、遺物の取り上げ時に層序を反映させていない。

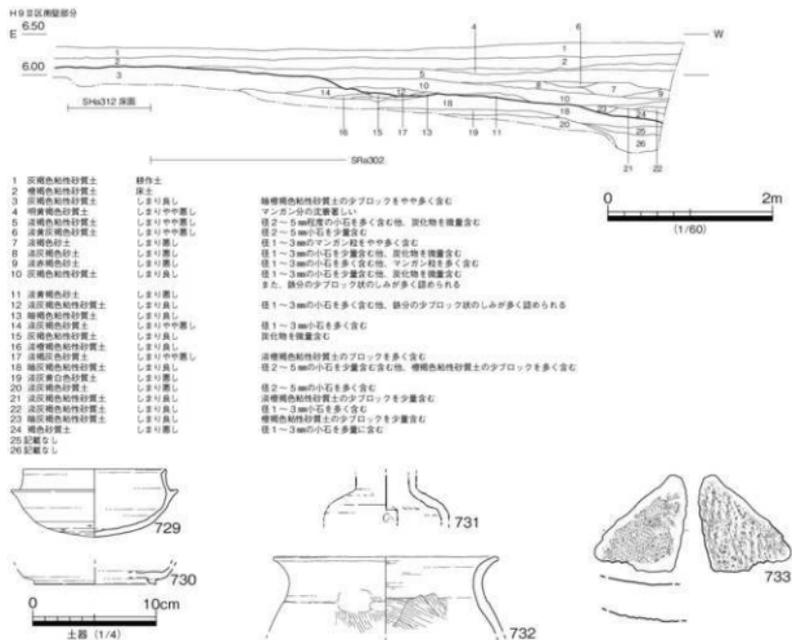
遺物はやや多量出土し、須恵器杯蓋(734～736)、杯(737)、盤(738)、黒色土器碗(739)、土師器足釜(740・741)のほか、棒状土錘(742～744)、管状土錘(745～747)、丸瓦(748)、平瓦(749～



第124図 SRa301 断面図、出土遺物1



第125図 SRa301 出土遺物2

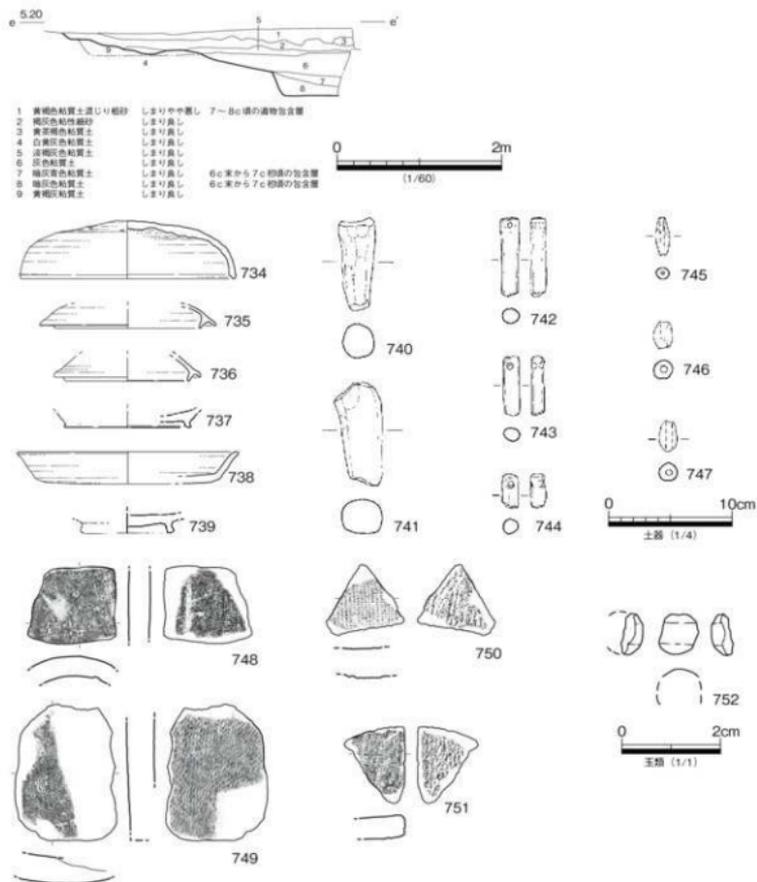


第126図 SRa302 断面図、出土遺物

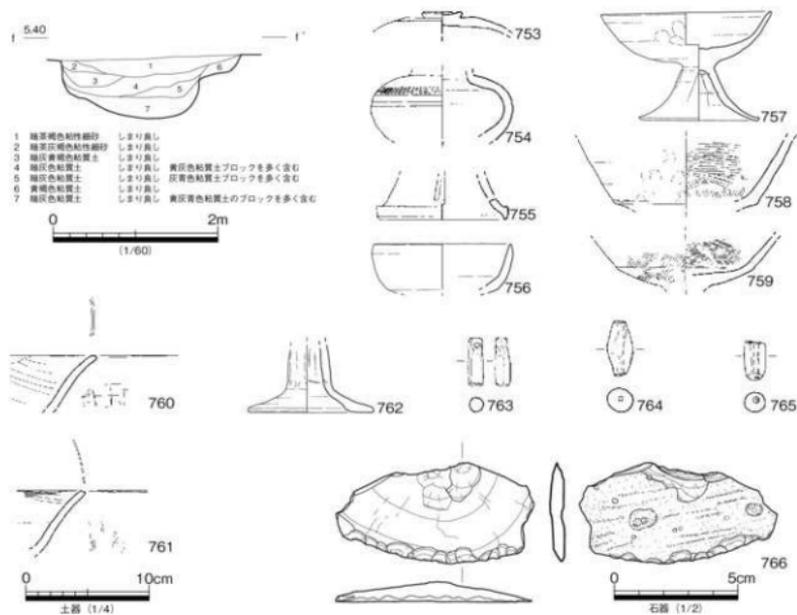
751)、ガラス玉(752)を図化した。足釜が出土していることから13世紀以降の堆積層があるが、どの層位に相当するか不明である。

### SRb302

平成10年度Ⅲ区中央南寄りで検出した。長さ10m、幅約2mを測り、深さ約0.8mの椀状の断面形状を呈する。埋土は上層に細砂が、下層に粘質土が堆積する。検出範囲が直線状を呈し、南西から北東方向へ流下する。大きな目で見ると遺跡南東にある前山の裾部に沿うように見え、ある程度流路が機能していた頃の地形に規制された流路である可能性もある。一方、調査地が全体的に南から北へ、東から西へ緩やかに傾斜する地形であるため、等高線に平行する流れとなり、自然流路と判断するより人工的に掘削された大溝の可能性も考えられる。遺物はやや多量出土し、須臾器蓋(753)、甕(754)、高坏(755)、土師器椀(756)、高坏(757～762)のほか、棒状土錘(763)、管状土錘(764・765)、サヌカイト製スクレイパー(766)を図化した。全体的に古墳時代中期以前のものが主体となるようだが、やや新しい要素(753)が下層で混じるため、詳細な時期を決定するのが困難である。



第127図 SRb301 断面図、出土遺物



第128図 SRb302 断面図、出土遺物

性格不明遺構

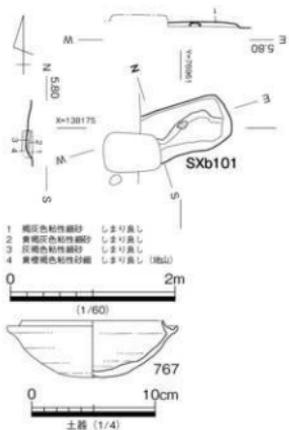
SXb101

平成10年度Ⅰ区南東部で検出した。SHb102を切っており、これに後出する遺構である。平面形は長軸1.1m以上、短軸0.6mを測る隅丸長方形、断面形状は残存深度0.1mを測る浅い皿状を呈する。長軸側を主軸とした方位はN76°Eとなる。

出土遺物は微量で、須恵器杯身(767)を図化したほかは、良好な遺物の出土を認めない。遺構中央の底部に正置された状態で出土した。

SXb201

平成10年度Ⅱ区中央付近で検出した。SHb205を切っており、これに後出する遺構である。平面形はひょうたん形で長軸約2.3m、短軸最大1.8mを測る。断面形

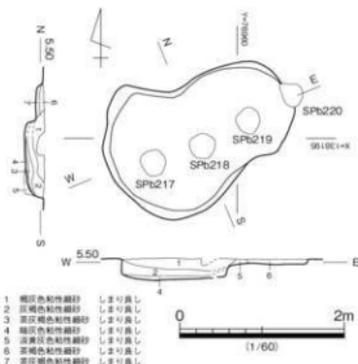


第129図 SXb101 平・断面図、出土遺物

状は西側で深く東側で浅い箱型を呈し、最深部で0.25 mを測る。図化可能な遺物が認められず、詳細な時期については不明である。

### 包含層

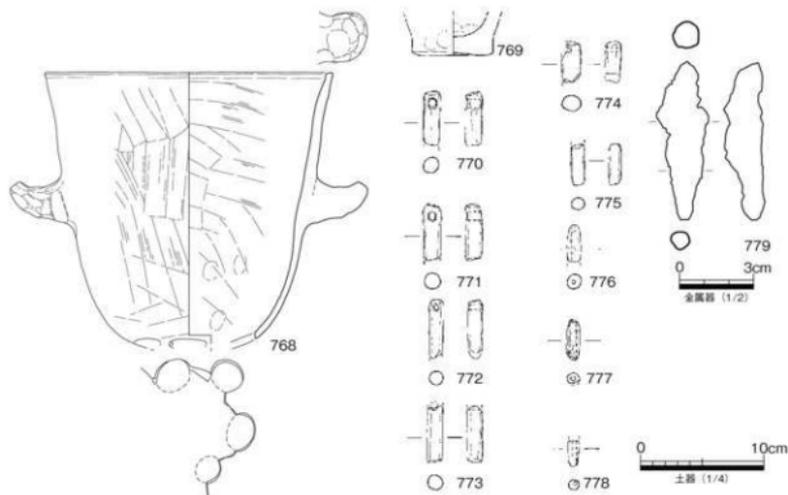
各調査区とも機械掘削時に出土したものを報告する。約30cmの耕作土以下、概ね5cmから20cmの包含層が遺構面を覆っており、主に機械によって除去し、部分的に作業が及ばなかったところを人力によって掘削した。平成9年度の調査では、当初マンガンの沈着などにより土の差異を判別しがたかったことから正確な遺構面が把握できず、機械により10cm近く遺構面を下けている。このことから、包含層出土土器の中に堅穴建物に伴う遺物を含んでいる。特に平成9年度のⅠ区・Ⅲ区は顕著である。



第130図 SXb201 平・断面図

### 平成9年度Ⅰ区

第1層として取り上げた遺物である。土師器瓶(768)は底部まで復元できる資料の中で、唯一複数の蒸気孔が観察できる個体である。769は弥生土器底部、770～775は棒状土錘、776～778は管状土錘を図化した。779は長頭鎌の中子である。



第131図 H9 Ⅰ区包含層 出土遺物

### 平成9年度Ⅱ区

機械掘削時に遊離した遺物と、堅穴建物の可能性を含みながら遺構認定を解除した部分から出土した遺物がある。総量としては比較的多量である。須恵器杯身（780～785）、無蓋高坏（786・787）、甕（788）、甕（789・790）のほか、棒状土錘（791・792）、管状土錘（793）、丸瓦（794）、平瓦（795～799）を図化した。

### 平成9年度Ⅲ区

あまり図化に耐えうるものがなかった。土師器甕（800）、平瓦（801）のほか、サヌカイト裂石匙（802）、剣型と思われる滑石裂模造品（803）を図化した。

### 平成10年度Ⅰ区

ほぼ耕作土直下であり、機械掘削などで堅穴建物由来の遺物を含めて取り上げている可能性がある。須恵器杯身（804・805）・土師器甕（807）はSHb102とSHb106の間で出土した遺物である。当初堅穴建物が存在するとして調査を行ったが、残存状況が芳しくないことから包含層遺物とした。特に807についてはほぼ完形に復元できる状態で潰れており、床面直上の遺物である可能性が想定できる資料であった。土師器高坏（806）はSHb105とSHb104の間の地山層から出土している。古墳時代前期のものと考えられ、堅穴建物の地山層の形成年代を知る手がかりとなる可能性がある。棒状土錘（808）、土玉（809）は機械掘削時に出土したほか、砥石（810）はSHb103・105間で出土している。

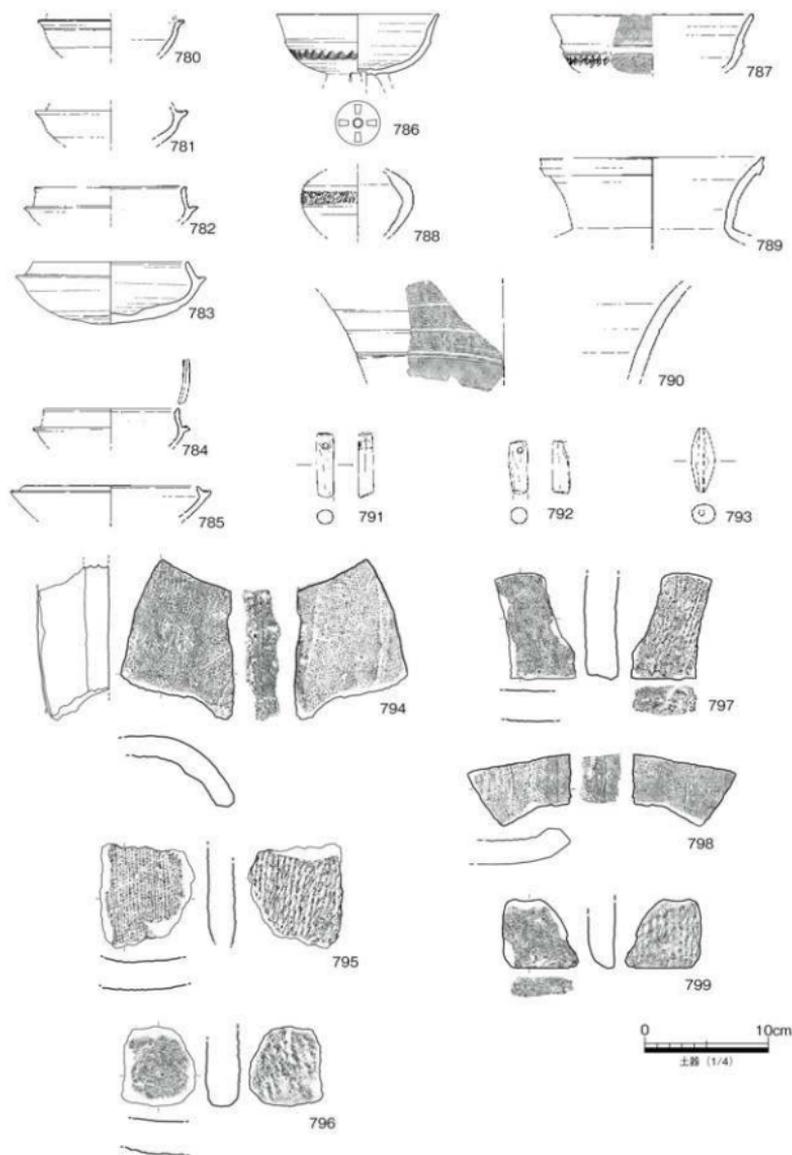
### 平成10年度Ⅱ区

南半と北半で遺構密度が極端に異なる。南半は弥生時代終末期並びに古墳時代中期のものを含む堅穴建物が集中する一方、北半からⅢ区にかけては浅い谷状になっており、遺物の包含層が形成されていた。特にⅡ区北半は谷地形の落ち際となっており、比較的遺物がまとまって出土している。この部分については北包含層として、別にまとめている。図化したのは須恵器杯蓋（811）、杯身（812）、蓋摘み（813・814）、高坏（815）、弥生土器鉢（816・817）、縄文土器（818）、棒状土錘（819・820）、管状土錘（821～823）、丸瓦（826）、平瓦（824・825・827）である。811・815・819～821・824は機械掘削及び平面精査で出土したものであるが、822・823・826・827は本来北包含層で報告すべき遺物の可能性がある。818は縄文時代後期の鉢である。小片のため器形は不明である。

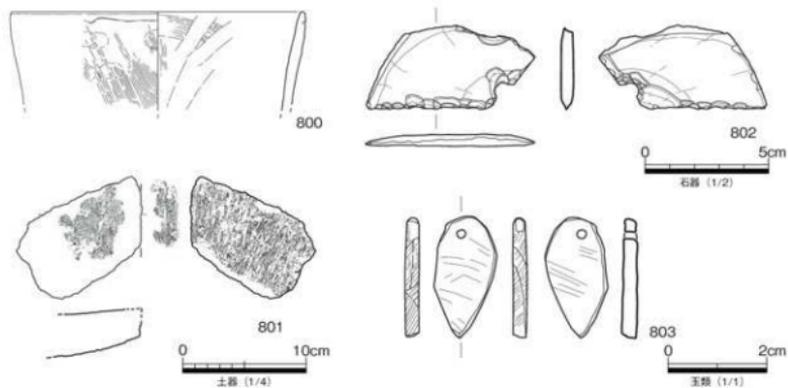
### 平成10年度Ⅲ区

旧河道を中心とする北側大半と、南端部のⅡ区から続く谷地形とに分けられる。南端部は本来北包含層としてくっついている資料と同時に報告する必要があったと考える。

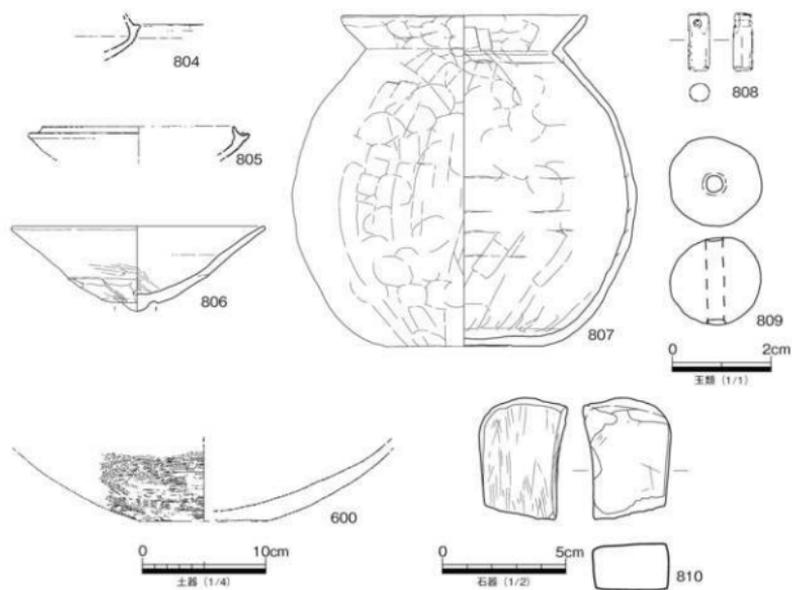
須恵器杯蓋（828～834、842）、杯身（836～839）、高坏（835・840・841）、提瓶（843）、壺（844・845・847）、甕（846）、土師器杯（848・851・852）、皿（849・850）、高坏（853・854）、壺（855）、甕（856～858）、移動式カマド（859）のほか、棒状土錘（860～872）、管状土錘（873～875）、滑石裂有孔円盤（876）、丸瓦（877・878）、平瓦（879～881）を図化した。比較的古墳時代のものが多いが、堅穴建物の数が少ない7世紀第1四半期頃のものと考えられる須恵器を一定量含む（828・829・836）ほか、8世紀代以降の須恵器（837～839）及び土師器（848～850）、瓦類が認められるため、古代以降の堆



第132図 H9 II区包含層 出土遺物



第133図 H9 III区包含層 出土遺物

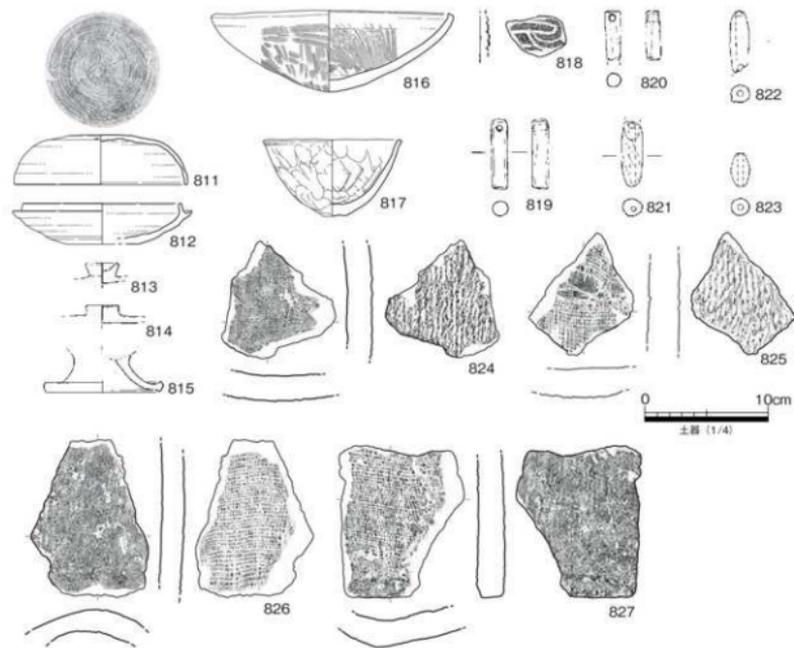


第134図 H10 I区包含層 出土遺物

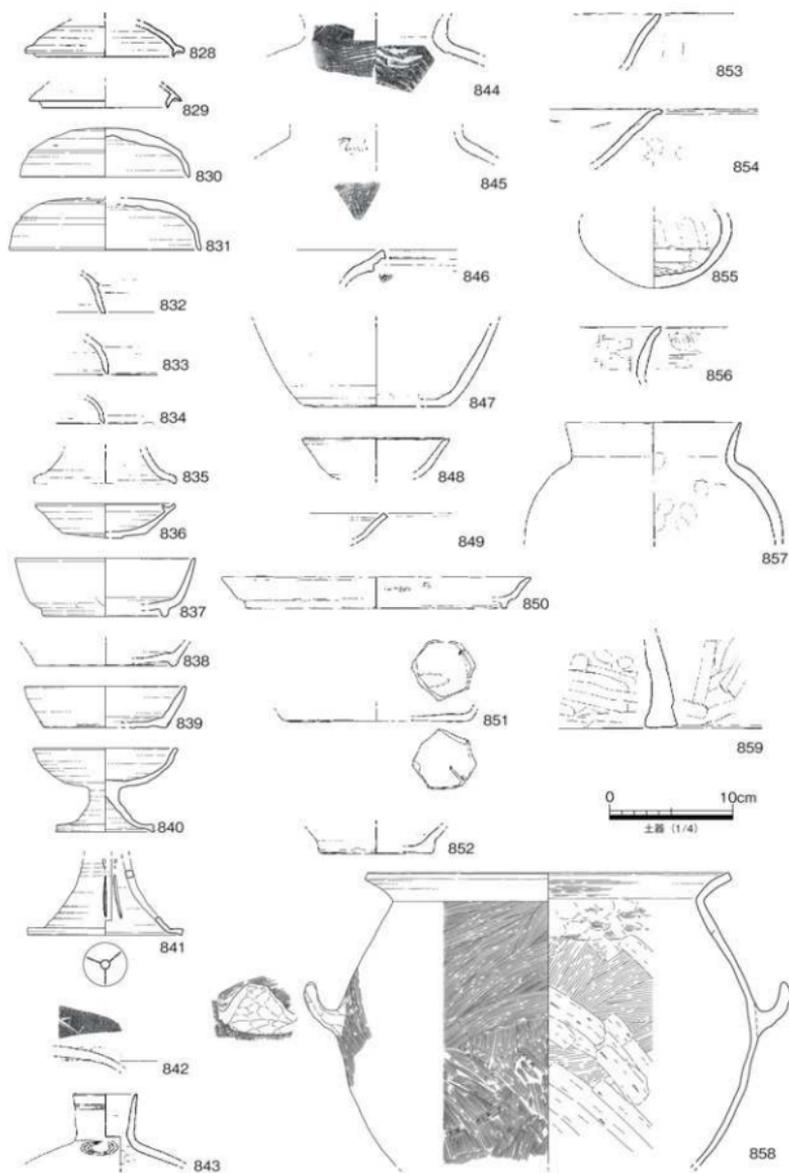
積であると判断できる。この状況は後述する北包含層のものとも類似する。

#### 平成10年度Ⅱ区北包含層

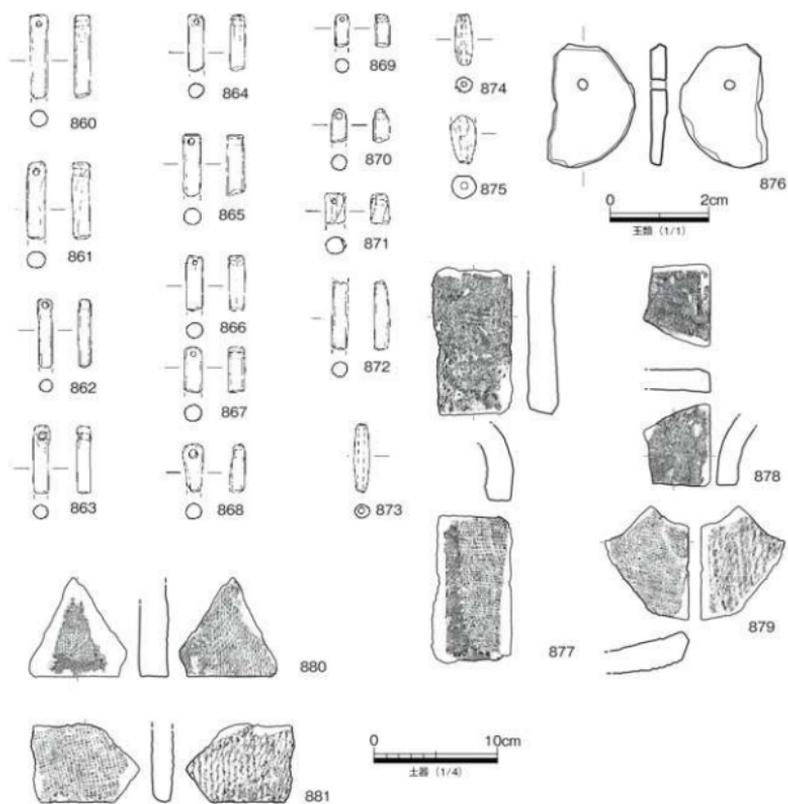
谷地形落ち際に堆積した包含層である。南側に纏まる堅穴建物が削平されていると考えられる。全体的に粘質土が堆積しており、湿地状を呈していたと考えられる。須恵器甕(882)、高坏(883)、黒色土器碗(884)のほか、棒状土錘(885～897)、管状土錘(898～901)、滑石製紡錘車(902)、勾玉形模造品(903)、平瓦(904～906)を図化した。黒色土器碗や瓦の存在から古代以降の堆積であると判断できる。



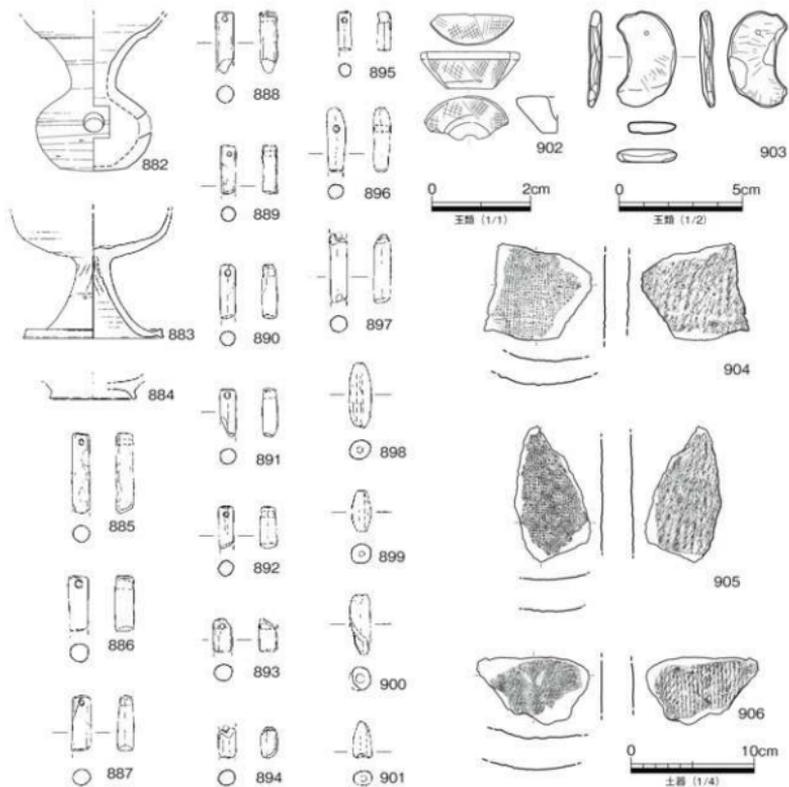
第135図 H10 Ⅱ区包含層 出土遺物



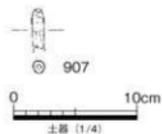
第 136 図 H10 Ⅲ区包含層 出土遺物 1



第137図 H10 III区包含層 出土遺物2



第138図 H10 II区北包含層 出土遺物



第139図 その他 出土遺物

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 住屋遺跡出土玉類の蛍光X線分析

藤根 久・竹原弘展（パレオ・ラボ）

#### 1. はじめに

住屋遺跡より出土した玉類について、岩石学的特徴と蛍光X線分析による石材の特徴について検討した。

#### 2. 試料と方法

分析対象は、石製丸玉1点である（第2表、第140図）。

第2表 分析対象一覧

試料No.	遺跡名	所在地	根文番号	出土遺構	種類	時期	重量 (g)	
1	住屋遺跡	東かがわ市川東	18	I区	SHa105	丸玉	古墳時代後期	5.31

分析は、実体顕微鏡による石材の特徴観察、非破壊によるエネルギー分散型蛍光X線分析である。

蛍光X線分析は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1000  $\mu$ A のロジウム (Rh) ターゲット、X線照射径が8mmまたは1mm、X線検出器はSDD検出器である。この装置は、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することでS/N比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム (Na) ～ウラン (U) であるが、軽元素の感度は蛍光X線分析装置の性質上若干低く、特に定量分析におけるナトリウムの精度は低い。測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが15kV（一次フィルタ無し）・50kV（一次フィルタPb測定用・Cd測定用）の計3条件で、測定時間は各条件500～1000s、管電流自動設定、照射径8mm（平均的な化学組成を調べるため）、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダードFP法による半定量分析を行った。

また、各試料の空気中重量と水中重量を測定し、下記の式に基いて比重を算出した。

$$\text{比重} = \text{空気中重量} / (\text{空気中重量} - \text{水中重量})$$

#### 3. 結果および考察

第3表に石製玉類の半定量分析結果を示す。また、第141図に蛍光X線スペクトル図を示す。

第3表 玉類の半定量分析結果（重量%）

試料No.	比重	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	SO <sub>3</sub>	CaO	TiO <sub>2</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	石材
1	2.6	0.06	0.93	98.11	0.59	0.09	0.08	0.06	0.08	メノウ（玉髄）

#### 【丸玉（試料No.1）】

大きくは乳白色と淡褐色からなり、いずれも微細な縞状構造の硬質な石材である。なお、レンズ状に水晶も見られる。蛍光X線分析では、酸化ケイ素 (SiO<sub>2</sub>) が98.11%と圧倒的に多い。その他では酸化

リン（ $P_2O_5$ ）が0.59%含まれていた。ケイ素主体の組成であり、綿状構造を示すことからメノウ（玉髄）である。

第4表 分析試料と産地推定

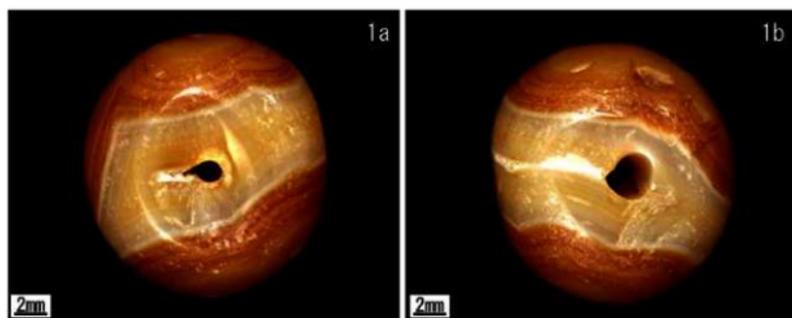
試料No.	遺跡名	所在地	報文番号	出土遺構	種類	時期	産地推定
1	住居遺跡	東かがわ市川東	18	I区	SHa105	丸玉	古墳時代後期 不明

引用・参考文献

地学団体研究会・新編地学辞典編集委員会（2003）地学辞典．平凡社，1443p.

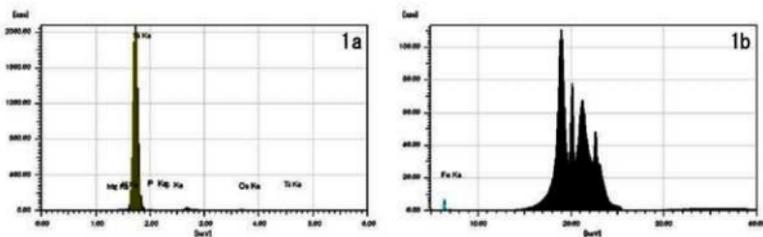
黒田吉益・諏訪兼位（1989）偏光顕微鏡と岩石鉱物〔第2版〕．共立出版，343p.

中井 泉編（2005）蛍光X線分析の実際．朝倉書店，242p.



第140図 分析を行った玉類

1a-b. 丸玉（試料No.1）



第141図 蛍光X線分析スペクトル図

1a-b. 丸玉（試料No.1）

## 第2節 住屋遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也 (パレオ・ラボ)

## 1. はじめに

東かがわ市川東に所在する住屋遺跡の竪穴建物で出土した炭化材について、樹種同定を行った。

## 2. 試料と方法

試料は、竪穴建物である SHb206 から出土した炭化材で、垂木材が5点、桁材が3点の計8点である。発掘調査所見によれば、SHb206 は弥生時代後期後半の竪穴建物と考えられている。

炭化材の樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柃目)について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡(日本電子(株)製 JSM-5900LV)にて検鏡および写真撮影を行った。

## 3. 結果

同定の結果、針葉樹であるマツ属複雑管束亜属と、広葉樹であるコナラ属クスギ節(以下クスギ節と呼ぶ)、クスノキ科の、計3分類群がみられた。クスギ節が最も多く6点で、マツ属複雑管束亜属とクスノキ科は各1点であった。同定結果を第5表に、一覧を第6表に示す。

第5表 住屋遺跡出土炭化材の樹種同定結果

樹種	遺構 器種	SHb206		合計
		垂木材	桁材	
マツ属複雑管束亜属		1	1	
コナラ属クスギ節		5	1	6
クスノキ科			1	1
	合計	5	3	8

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) マツ属複雑管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科 第142図 1a-1c (No. 8)

仮道管と放射組織、放射仮道管、垂直および水平樹脂道で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列のものと水平樹脂道を含む多列のものがみられる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側に向かって鋸歯状に肥厚する。

マツ属複雑管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育する。どちらも材質は重硬だが、切削等の加工は容易である。

(2) コナラ属クスギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 第142図 2a-2c (No. 1)

年輪のはじめに大型の道管が1~2列並び、晩材部では急に径を減じた、厚壁で丸い道管が放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クスギ節にはクスギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

## (3) クスノキ科 Lauraceae 第142図 3a-3c (No. 7)

小型の道管が単独ないし2~3個複合し、やや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、1~2列となる。放射組織

および木部繊維では、油細胞が認められる。

クスノキ科にはニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属などがあり、暖帯を中心に分布する、主に常緑性の高木または低木である。

#### 4. 考察

竪穴建物 SHb206 出土の炭化材のうち、垂木材の5点はいずれもクスギ節であった。なお、試料 No. 4と5は、軸の方向は少し異なっていたものの、近接して出土しており、共にクスギ節であるため、同一の垂木材であった可能性がある。クスギ節は重硬な樹種であり（伊東ほか, 2011）、荷重のかかる垂木材に選択的に用いられた可能性がある。

また、桁材には、マツ属複雑維管束亜属とクスギ節、クスノキ科が各1点みられた。マツ属複雑維管束亜属は真っ直ぐに生育する素直な材で、クスノキ科は耐朽性が高いという材質を持つ（伊東ほか, 2011）。桁材では特定の樹種が選択されるという傾向はみられなかった。

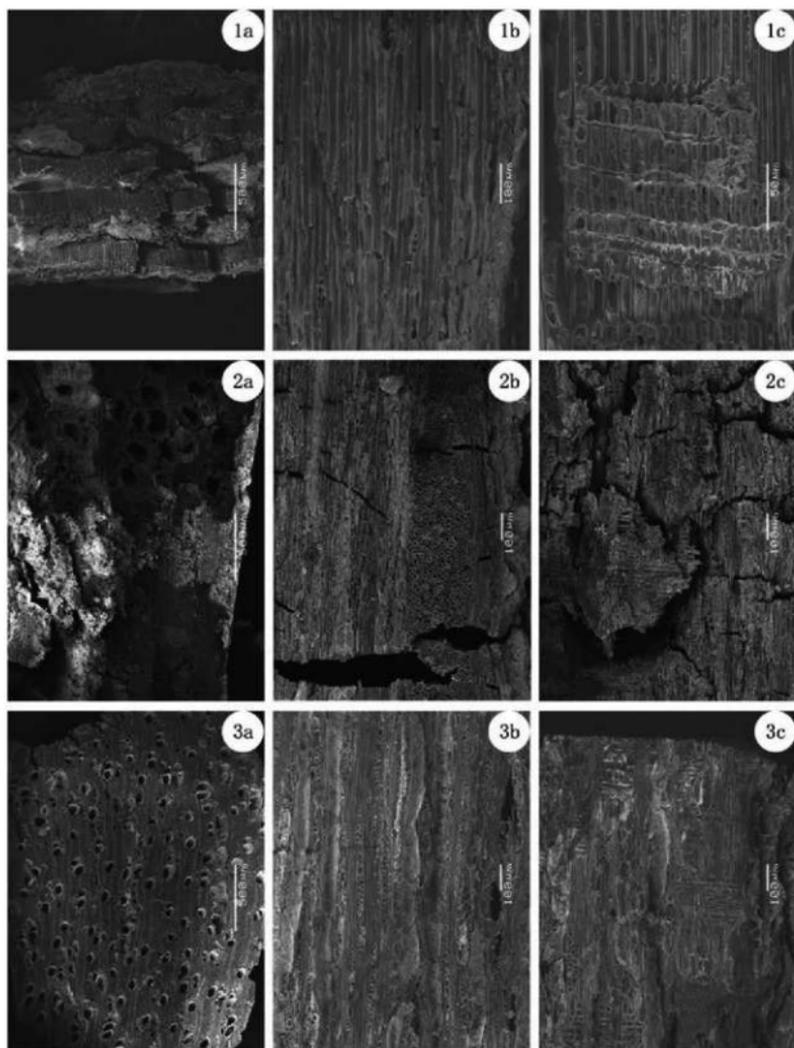
東かがわ市の原間遺跡で、弥生時代後期末頃の竪穴建物から出土した梁材と推定される炭化材は、クスギ節が2点、コナラ属アカガシ亜属とクスノキ科が各1点であった（植田, 2005）。住屋遺跡を含む周辺地域では、弥生時代後期後半および末頃の竪穴建物の垂木材に重硬な樹種を選択し、梁材および桁材については、特定の樹種の選択が行われていなかった可能性が考えられる。

#### 参考文献

- 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和徳（2011）日本有用樹木誌、238p、海青社。  
 植田弥生（2005）原間遺跡（平成11年度）焼失家屋 SH303 出土炭化材の樹種同定。香川県埋蔵文化財センター編「原間遺跡」：228-231p、香川県教育委員会・香川県埋蔵文化財センター。

第6表 住屋遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

試料 No.	取上番号	台帳番号	地区	出土遺構	器種	樹種	時期
1	サンプル1	KOS2-H0654	平成10年度 II区	SHb206	垂木材	コナラ属クスギ節	弥生土器 後期後半
2	サンプル2	KOS2-H0655			垂木材	コナラ属クスギ節	
3	サンプル3	KOS2-H0656			垂木材	コナラ属クスギ節	
4	サンプル6	KOS2-H0659			垂木材	コナラ属クスギ節	
5	サンプル7	KOS2-H0660			垂木材	コナラ属クスギ節	
6	サンプル9	KOS2-H0662			桁材	コナラ属クスギ節	
7	サンプル10	KOS2-H0663			桁材	クスノキ科	
8	サンプル12	KOS2-H0665			桁材	マツ属複雑維管束亜属	



第142図 住屋遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. マツ属複維管束亜属 (No. 8)、2a-2c. コナラ属クスギ節 (No. 1)、3a-3c. クスノキ科 (No. 7)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

### 第3節 住屋遺跡木製品の樹種同定

パリオ・サーヴェイ株式会社

#### 1. 試料

試料は、住屋遺跡の SHa205 P01 から出土した柱材（KOS-H0694）1点である。試料は調査担当者により採取された木片である。

#### 2. 分析方法

剃刀を用いて木片から木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作成する。切片を50%エタノールに入れ、サフランinを入れて染色する。70%エタノール、90%エタノール、95%エタノール、100%エタノール、エタノール・ブタノール1：1、ブタノール、ブタノール・キシレン1：1、キシレンの順に脱水と余分なサフランの除去を行った後、ピオライトで封入してプレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、高地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

#### 3. 結果

柱材は、広葉樹のクスノキ科に同定された。木材組織写真を第143図、各分類群の解剖学的特徴等を以下に示す。

##### ・クスノキ科（Lauraceae）

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

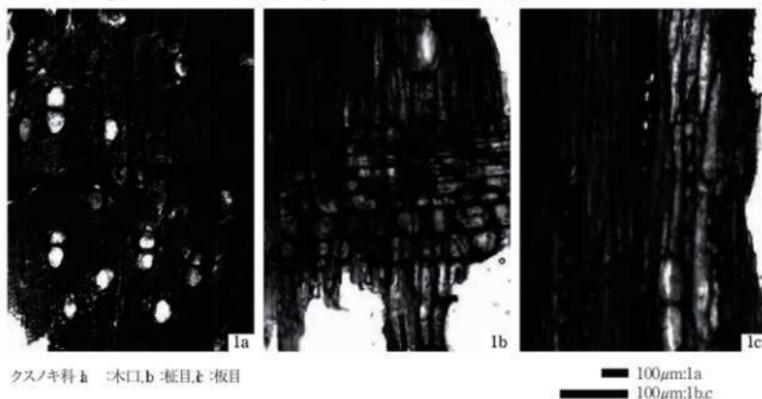
#### 4. 考察

SHa205 P01 から出土した柱材は、広葉樹のクスノキ科に同定された。クスノキ科には、クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキなど、高木から低木まで多くの種類が含まれる。常緑広葉樹が主体であるが、落葉広葉樹も含まれる。材質的にも比較的硬種な種類からやや軽軟な種類まで幅が広い。また、種類によっては、樟脳を多く含み、耐水性・保存性が高い。柱材に利用されていることから、比較的強度・耐水性が高い種類が利用されている可能性がある。

なお、香川県内の調査例では、川南・西遺跡の戦国～江戸時代初期とされる柱材にクスノキ科の利用例がある（伊東・山田 2012）。また、柱材ではないが、原間遺跡の弥生時代後期～古墳時代初頭の梁に確認された例がある。

## 引用文献

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ,木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181p.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ,木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176p.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ,木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201p.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ,木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166p.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ,木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216p.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース,海青社,449p.
- 倉田 悟,1971,原色日本林業樹木図鑑 第1巻(改訂版),地球出版株式会社,331p.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].
- 島地 謙・伊東 隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].



第 143 図 住屋遺跡 SHa205 P01 柱材の木材組織写真

## 第5章 まとめ

### 1. 遺構の変遷

#### 弥生時代終末期

平成10年度Ⅱ区で検出した竪穴建物 SHb206がこの時期に相当する。対象地内では平成9年度対象地を合わせてもこの1棟しか確認できなかった。他に建物があると想定した場合、考えられるのはより標高が高くなる対象地南東側に求められよう。北側については北包含層が堆積する谷があり、SHb206の北半を削平することから、本来この範囲についても同時期の遺構が展開していた可能性は考えられるが、標高がより下がる部分に建物が建つか判断に迷う。なお、遺跡南1.5kmに位置する原間遺跡では弥生時代後期～終末期の集落が確認されており、概ね住屋遺跡 SHb206 と同時期に相当するものが第Ⅲ調査区で検出された小型方形竪穴建物 SHⅢ 04、掘立柱建物 SBⅢ 06、井戸跡 SEⅢ 01 である（香川県教育委員会 2002）。この調査区には、周囲が流路や低湿地によって区画された概ね直径60mの円形に収まる集落が展開し、弥生時代のものについては各遺構をⅡ～Ⅴ期に区分している。先述の3遺構は遺構Ⅴ期に相当する。この集落においては、各時期について2～3棟の竪穴建物が同時存在し、Ⅴ期の遺構は相互に約10mの間隔を置いて分布することから、住屋遺跡においても同程度の集落が展開した場合、対象地南東側がその場所として考えられる。

#### 古墳時代中期末

平成10年度Ⅱ区で検出した竪穴建物 SHb204がこの時期に相当する。須恵器は伴わず、古式土師器が中心となる。対象地内では平成9年度対象地を合わせてもこの1棟しか確認できなかった。同時期の建物の存在を仮定して周辺の立地を見て、想定できるのは弥生時代終末期のものと同じ範囲であろう。範囲を広げてみた場合、遺跡南東約2kmに位置する成重遺跡で近接する時期のものと考えられる建物（Ⅲ区第1面 SH01）が認められる程度である。調査区の端で検出されたことと、削平の影響があることから本来の密度ではない可能性があるものの、散漫な分布である状況が類似する。また、単純に遺物の出土のみで見ると、遺跡東方の城泉遺跡でやや後出する時期の遺物が旧河道内からまとまって出土している。須恵器・土師器の他、木製品を伴っており、水に係る祭祀が行われていた可能性があるが、これらの母体となる集落の所在は不明である。また、正確な所在地が不明であるが、当該期のものと考えられる古墳出土と伝わる遺物が採取されている。古川あるいは与田川に面した位置に築かれた古墳であったと考えられ、住屋遺跡の集落との関連が想定できるかもしれない。

#### 古墳時代後期前半

MT15～TK10（注）並行期と考えられる須恵器が主として出土するものを充てた。平成9年度Ⅰ区 SHa110・Ⅱ区 SHa208・211、平成10年度Ⅱ区 SHb202 が MT15 期に、平成9年度Ⅱ区 SHa207・SHa213、平成9年度Ⅲ区 SHa309、平成10年度Ⅰ区 SHb108 が TK10 期に、SHb107 がそれ以前にそれぞれ相当する。両時期共に地形区分としては平成9年度Ⅰ区下層の流路 SRa101 により南北に隔てられ、北側でやや散漫に、南側ではやや密な分布を示す。SHa208・211 の2棟はカマドを西側に作り付ける共通性があり、建物の主軸もほぼ同じであることから、共時性のある遺構であると判断できる。周辺で



第144図 遺構変遷図

は当該期の堅穴建物は、約1.4km 南西の金毘羅山遺跡で1棟確認されている。また、約0.4km 南方の仲戸東遺跡では当該期のものと考えられる埴輪窯の存在が想定されるが、両者の間には秋葉山から西へ張り出した丘陵が横たわることで双方の視界を遮っており、直接的な関係を想定することは困難である。

#### 古墳時代後期後半

TK43～TK209 並行期と考えられる須恵器が主として出土するものを充てた。検出した建物のほとんどがここに収まる。

平成9年度Ⅰ区 SHa105・SHa108、Ⅱ区 SHa201・202・204・212、Ⅲ区 SHa307・310・311、平成10年度Ⅰ区 SHb104、Ⅱ区 SHb203・205 がTK43 期に、平成9年度Ⅰ区 SHa101・103・104・106・109・111、Ⅱ区 SHa203・206・209・210・214・216・217、Ⅲ区 SHa301・302・306・308、平成10年度Ⅰ区 SHb101・102・109 がTK209 期に相当する。明確な遺物が出土せず時期を決めかねた建物についても、遺構の切り合いの状況から大半がこの時期に入ると考えられる。TK43 期と考えられる建物は、見かけ上概ね2～4棟からなる4つのグループをなし、相互に10～20mの間隔で分布する。各グループ内の建物は相互に近接しており、共時性のある建物は1～2棟であったと考えられ、本来は細分が可能であろう。カマドが残存するものはいずれも北壁に作り付け、主軸方位は真北に近いものから東西にわずかに振れる程度のものからなる。これに対し、TK209 期と考えられる建物は、見かけ上のグループは大きく3つに分かれ、構成棟数が増える。相互の間隔は4～8mで大きく1つのまとまりとして捉えられるといってもよい。カマドが残存するものはいずれも北壁に作り付けるのはTK43 期と変わらないが、主軸方位が真北に近いものが減り、東西に若干振れるものが多くなる。また、やや強く西偏するものがあるが、これらの差が何に起因するのかは明らかにし得なかった。細かい時期差によるもの、あるいは建物を構築した人々の系譜を表すのかもしれない。

#### 古墳時代終末期

TK217 並行期と考えられる須恵器が主として出土するものを充てた。平成9年度Ⅰ区 SHa107、Ⅱ区 SHa205、平成10年度Ⅰ区 SHb106 が相当する。相互に約30mの間隔で分布しており、前代に比べ建物数は激減する。カマドはSHb106のみ例外的に東側に作り付けるが、残りの2棟は北壁に作り付ける。建物の主軸は東偏するもののみである。当該期の堅穴建物は約1.2km 南方の原岡遺跡で多く確認されており、主たる集落域がそちらへ移った可能性が考えられる。

遺構の時期としては弥生時代終末に始まり中世の掘立柱建物に至るまで、断続的に建物を確認できることから、比較的長期にわたり集落域として機能していたことが窺える。中でも古墳時代後期～終末期にかけてほぼ連続的に堅穴建物が構築され続けていた点は注目できる。今回の調査では集落域の南北の広がりがある程度把握できたが、東西の広がりについては不明なままである。また、重複関係が著しいことに加え、遺構埋土がマンガン分で汚染されており、切り合い関係を十分に押さえきることができなかった。その結果、遺物の取り上げが新旧逆転したものが含まれるなどとして、遺構の正確な時期を把握するための信頼度の高い資料を得ることができなかった。重複の無い部分の資料や床面直上と考えられる資料を中心に検討し、調査結果に矛盾が生じる部分は今回の整理作業で修正を加えている。また、連続と建物が建てられ続けた結果、出土遺物の時期変遷も緩やかに変化しており、各堅穴建物から出土し

た遺物を口径・立ち上がりの長さ及び角度などから分類して並べた結果、明確な区分をすることが出来なかった。既往の須恵器の編年で設定されている MT85 などは、当遺跡の中で抽出することは困難であるとする。周辺で時期比定が確実な良好な一括資料を伴った遺跡が少なく、比較検討することが出来なかった点が惜まれる。

(注) 今回の区分の中には MT85 期のものも含まれると考えている。また、須恵器の年代観は『年代のものさし-陶邑の須恵器-』（大阪府立近つ飛鳥博物館編 2006）などを参考にした。

## 2. SHb101 床面出土の棒状土錘について

SHb101 の項目で記載した通り、26 点の棒状土錘が出土しており、内 21 点が南側床面に集中している。共伴する土器類が概ね 6 世紀第 4 四半期頃のものでまとまることから当該期の建物であると判断しており、棒状土錘もこの頃のものであると判断できる。26 点のうち、19 点が完形を保つ。遺跡全体では 68 点を報告の対象としたが、完形のものとは認められない。したがって、本遺構内から出土した資料が当該期の棒状土錘製作方法を知る上での手がかりとなりうると考えられることから、以下に簡単にまとめておく。

全体の概要であるが、平均的な個体の特徴は次のとおりである。

- a. 太さ約 1.5cm、長さ約 7.7cm
  - b. 器体中央付近の横断面は円形。
  - c. 両端穿孔部の横断面は、上面が浅いすり鉢状ないし碗状、下面及び側面が平坦。
- a・b からはほぼ一定の太さの粘土紐が用意されたことがうかがえる。断面形状もある程度は整えられていたと思われる。c からは、置かれた粘土紐の上面から穿孔がなされたことがわかる。その際、使用された工具によって粘土が圧迫されることで上面の穴周辺が窪み、粘土が置かれた平坦面の上に押し付けられて平坦になる様子がうかがえる。その際に、穿孔部周辺が方形を呈するよう、側面側へ押し広げられた粘土を整形したものも認められる。ただし、孔を変形させることなく整形していることから、ある程度乾燥することで器体が残ってから整形がなされているのであろう。

また、器体に残る各痕跡から想定できる工程は以下の通りである。

- ①太さ 1.5cm 以上の断面円形を呈する粘土紐を用意し、8cm 以上の長さに切りそろえる。
- ②平坦面上（おそらく作業台様のもの）に並べ、切り口をナデで整える。
- ③両端に上から工具により穿孔を施す。
- ④表面を丁寧なナデ調整で仕上げる。端部側縁は指で摘み方形を呈するように整えるものとそのまま放置するものに分けられる。

なお、③で使用する工具は刺突部と柄からなり、丸く仕上げた太さ 1cm ほどの柄の先端に鋭利な刺突部を埋め込んだ形状を想定している。上記 c の特徴は 19 例中 17 例に認められ、いずれの窪みも概ね似たような形状を持つことから共通の工具の存在を考えた。器体の長さは大きく分けると 7cm のものと 8cm のものがあり、前者の穴の間隔が 4cm 台であるのに対し、8cm のものは 5cm 台で、いずれも概ね共通する傾向にある。

これらの資料については、製作方法が概ね共通しており、短期間で製作された、あるいは同一作者の手によるものと推定できる。

## &lt;参考文献&gt;

## 報告書

- 香川県教育委員会編 1984 「大日古墳・原間古墳・吉岡神社古墳・御産霊山古墳・磨白山古墳・鶴ヶ峰4号墳」香川県埋蔵文化財調査概報 香川県教育委員会
- 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 1998 「西谷遺跡」〔四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報〕平成9年度 香川県教育委員会
- 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 2000 「金毘羅山遺跡Ⅰ・塔の山南遺跡・庵の谷遺跡」四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第36冊 香川県教育委員会
- 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 2002 「原間遺跡Ⅰ」四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第39冊 香川県教育委員会
- 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 2002 「原間遺跡Ⅱ」四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第42冊 香川県教育委員会
- 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 2003 「他の奥遺跡・金毘羅山遺跡Ⅱ」四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第46冊 香川県教育委員会
- 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター編 2004 「成重遺跡Ⅰ」四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第47冊 香川県教育委員会
- 香川県埋蔵文化財センター編 2005 「原間遺跡」県道大内白鳥インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 香川県教育委員会
- 香川県埋蔵文化財センター編 2007 「吉野下秀石遺跡」一般国道32号溝渕バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊 香川県教育委員会
- 香川県埋蔵文化財センター編 2009 「香川県埋蔵文化財センター年報 平成20年度」香川県埋蔵文化財センター
- 香川県埋蔵文化財センター編 2015 「多肥北原西遺跡」県道太田上町志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 香川県教育委員会

## 個人論考など

- 中村 浩 1980 『須恵器』ニューサイエンス社
- 田辺昭三 1981 『須恵器大成』角川書店
- 谷 旬 1981 「古代東国のカマド」〔千葉県文化財センター研究紀要7〕
- 宮崎幹也 1988 「竈穴住居に付随するカマドの検討—滋賀県下の検出例から—」〔紀要〕第1号 財団法人滋賀県文化財保護協会
- 杉井 健 1993 「竈の地域性とその背景」〔考古学研究〕第40巻第1号 考古学研究会
- 真鍋篤行 1994 「弥生時代以降の瀬戸内地方の漁業に関する考古学的考察」〔瀬戸内海歴史民俗資料館紀要〕第7号
- 1995 「弥生・古墳時代の瀬戸内地方の漁業」〔瀬戸内海歴史民俗資料館紀要〕第8号
- 1998 「瀬戸内地方の瀬漁業技術史の諸問題」〔瀬戸内海歴史民俗資料館紀要〕第9号
- 丹治篤嘉 2009 「カマド燃焼部における遺物出土状況の検討」〔福島県文化財センター白河館研究紀要2009〕

第7表 土器観察表

番号 器名	調査 番号	調査 名称	層位	種類	器種	調整(外)	調整(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	石目 長白	非色粒	角閃石	磁粉	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	残存 状態	備考
1	1区	Sfha01		須恵器	杯蓋	同胎ナテ	同胎ナテ	S7/1 灰白	S7/1 灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
2	1区	Sfha02		須恵器	高杯	同胎ナテ 方目・同胎ナテ	同胎ナテ	N5/ 灰	75YR5.1 黄灰	-	-	-	-	-	-	92	-	-	1.8
3	1区	Sfha02		須恵器	杯蓋	同胎ナテ 方目・同胎ナテ	同胎ナテ	N6/ 灰	10YR6.2 灰黄緑	細・少	-	-	-	120	-	-	-	-	1.8
4	1区	Sfha03		須恵器	杯蓋	同胎ナテ	同胎ナテ	N6/ 灰	N6/ 灰	細・少	-	-	-	-	130	-	-	-	1.8
5	1区	Sfha04		須恵器	杯蓋	同胎ナテ	同胎ナテ	N5/ 灰	N6/ 灰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
6	1区	Sfha04		須恵器	杯蓋	同胎ナテ	同胎ナテ	N5/ 灰	N6/ 灰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
7	1区	Sfha04		土師器	甕	ヨコナテ	ヨコナテ	10YR7.3 にぶい黄褐色	10YR7.3 にぶい黄褐色	-	中・量	-	-	122	-	-	-	-	1.8
8	1区	Sfha05		須恵器	杯蓋	同胎ナテ 同胎ヘラケズリ	同胎ナテ	N7/ 灰白	N8/ 灰白	-	-	-	-	134	-	-	-	-	1.8
9	1区	Sfha05		須恵器	杯身	同胎ナテ	同胎ナテ	2.5YR4.1 藍灰色	N7/ 灰白	-	-	-	-	136	-	-	-	-	1.8
10	1区	Sfha05	共通上	須恵器	杯身	同胎ナテ	同胎ナテ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	-	-	-	-	128	-	-	-	-	1.8
11	1区	Sfha05	下層	須恵器	高杯	方目目・透かし	同胎ナテ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	-	-	-	-	-	91	-	-	-	1.8
12	35	1区	Sfha05	須恵器	高杯	同胎ナテ 透かし孔2個一組 或は二組	同胎ナテ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	-	-	-	-	-	128	-	-	-	4.8
13	1区	Sfha05		土師器	高杯	指押え後ハケ・動減・ 指押え後ナテ	指押え後ハケ	10YR8.2 灰白	10YR8.2 灰白	中・量	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8
14	35	1区	Sfha05	土師器	高杯	灰土ナテ 指押え後ナテ	指押え後ナテ	10YR7.3 にぶい黄褐色	10YR7.3 にぶい黄褐色	中・少	-	-	-	-	105	-	-	-	5.8
15	1区	Sfha05		土師器	甕	指押え後ヨコナテ	ヨコナテ	10YR8.1 灰白	10YR8.1 灰白	中・量	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
16	35	1区	Sfha05	土師器	甕	ハケ目後板ナテ ナテ・動減	指押え後ハケ後・ 板ナテ	7.5YR7.4 にぶい青緑	10YR5.3 にぶい青緑	中・多・中・量	-	-	-	118	101	-	-	-	5.8
17	35	1区	Sfha05	土師器	甕	指押え・板ナテ	指押え・板ナテ	10YR8.3 灰黄緑	10YR8.3 灰黄緑	中・多・中・量	-	-	-	224	242	90	-	-	6.8
19	35	1区	Sfha06	共通上	須恵器	同胎ナテ 同胎ヘラケズリ	同胎ナテ	S7/1 灰白	S7/1 灰白	-	-	-	-	143	49	-	-	-	4.8
20	1区	Sfha06	下層	須恵器	杯蓋	同胎ナテ	同胎ナテ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	-	-	-	132	-	-	-	-	2.8
21	1区	Sfha06		須恵器	杯身	同胎ナテ 同胎ヘラケズリ	同胎ナテ	S7/1 灰白	N6/ 灰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8
22	1区	Sfha06		須恵器	杯身	同胎ナテ 同胎ヘラケズリ	同胎ナテ	S7/1 灰白	S7/1 灰白	-	-	-	-	118	-	-	-	-	1.8
23	1区	Sfha06		須恵器	杯身	同胎ナテ	同胎ナテ	N5/ 灰	N5/ 灰	-	-	-	-	128	-	-	-	-	1.8
24	1区	Sfha06		須恵器	杯身	同胎ナテ	同胎ナテ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	-	-	-	128	-	-	-	-	1.8
25	1区	Sfha06		須恵器	蓋 つぎ瓦	同胎ナテ	-	N6/ 灰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片 つぎ瓦 8.8
26	35	1区	Sfha06	土師器	甕	ハケ目・指押え	ハケ目・ベラケズリ・ ナテ・指押え	10YR7.2 にぶい黄褐色	5YR7.4 にぶい橙	中・多	-	-	-	179	-	-	-	-	4.8
27	1区	Sfha06	共通上	土師器	甕	指押え後ハケ目 ハケ目後板ナテ	ハケ目後板ナテ	10YR7.3 にぶい黄褐色	2.5Y7.2 灰黄	細・少	-	-	-	81	-	-	-	-	1.8
28	35	1区	Sfha06	土師器	甕	ヨコナテ(花織1枚) ハケ目	ヨコナテ・板ナテ	10YR7.3 にぶい黄褐色	10YR7.3 にぶい黄褐色	中・少・細・量	-	-	-	147	-	-	-	-	3.8
29	1区	Sfha06		土師器	甕	ヨコナテ	ヨコナテ	10YR8.3 灰黄緑	10YR8.3 灰黄緑	中・量	-	-	-	134	-	-	-	-	1.8
30	35	1区	Sfha06	下層 共通上	土師器	板 ナテ・ハケ目・ 指押え	指押え後ナテ 指押え	2.5Y8.2 灰白	2.5Y8.2 灰白	細・多・中・量	-	-	-	288	276	120	-	-	3.8

標本分類番号	調査区名	遺構名	層位	種類	特徴	器種	調査(外)	調査(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	石灰質石	赤色粒	向灰石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	長さ(cm)	保存率	備考	
31	36	1区	Sfa106	支脚	須恵器	支脚	指押え・ナデ	-	10YR7.3に赤い雲母	-	中・並	-	-	-	-	133	65	-	-	7.8	上部が一部黒化	
32	1区	Sfa107	須恵器	杯蓋	須恵器	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	
33	36	1区	Sfa107	須恵器	杯蓋	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	25Y8/1灰白	25Y8/1灰白	-	-	-	中・多	117	-	-	-	-	-	3.8	
34	1区	Sfa107	須恵器	杯身	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	130	4.9	-	-	-	-	2.8	ロケ口右回転
35	1区	Sfa107	須恵器	杯身	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	126	-	-	-	-	-	2.8	
36	1区	Sfa107	須恵器	高坏	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	5YR7/1灰白	5YR7/1灰白	-	-	-	-	97	-	-	-	-	-	3.8	
37	1区	Sfa107	床土上	土師器	裏	ヨコナデ	ヨコナデ	同標ナデ	25Y7.3灰黄	25Y7.3灰黄	-	-	-	177	-	-	-	-	-	-	1.8	
38	1区	Sfa107	土師器	裏	ヨコナデ	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	10YR6.4に赤い雲母	10YR6.4に赤い雲母	中・並	中・少	-	-	170	-	-	-	-	-	2.8	
39	36	1区	Sfa107	土師器	裏	ハケ目・指押え・ 雲母・筋線	ハケ目・指押え・ 指押え・筋線	同標ナデ	25Y7.2灰黄	25Y7.2灰黄	粗・多	-	-	-	128	-	-	-	-	-	4.8	
42	1区	Sfa108	須恵器	杯身	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	128	-	-	-	-	1.8	
43	1区	Sfa108	須恵器	杯身	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	134	-	-	-	-	-	1.8	
44	1区	Sfa108	土層	須恵器	杯身	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	119	-	-	-	-	-	1.8	外面に自然釉
45	36	1区	Sfa108	土層	須恵器	高坏	同標ナデ	同標ナデ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	129	-	-	-	-	-	4.8	
46	1区	Sfa108	土層	土師器	裏	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	7.5YR7.4に赤い雲母	7.5YR7.4に赤い雲母	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	
47	1区	Sfa109	土層	須恵器	杯蓋	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	142	-	-	-	-	-	1.8	ロケ口右回転
48	1区	Sfa109	須恵器	杯蓋	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	152	-	-	-	-	-	1.8	
49	1区	Sfa109	須恵器	杯身	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	162	-	-	-	-	-	1.8	
50	1区	Sfa109	土層	須恵器	杯身	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	108	-	-	-	-	-	2.8	
51	1区	Sfa109	床土上	須恵器	杯身	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	122	-	-	-	-	-	1.8	
52	1区	Sfa109	須恵器	杯身	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	122	3.6	7.2	-	-	-	1.8	ロケ口右回転
53	36	1区	Sfa109	須恵器	高坏	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	5YR7.2灰黄	5YR7.2灰黄	-	-	-	-	126	14.3	14.0	-	-	-	5.8	
54	1区	Sfa109	土師器	裏	ハケ目・指押え	ハケ目・指押え	同標ナデ	同標ナデ	10YR7.3に赤い雲母	10YR7.3に赤い雲母	中・多	-	-	-	164	-	-	-	-	-	3.8	
55	1区	Sfa110	土師器	裏	ハケ目・指押え	ハケ目・指押え	同標ナデ	同標ナデ	5YR7.6橙	5YR7.6橙	中・多	中・多	-	-	140	-	-	-	-	-	1.8	
56	1区	Sfa110	土師器	裏	指押え・ナデ	指押え・ナデ	同標ナデ	同標ナデ	10YR8.3灰黄	10YR8.3灰黄	中・多	中・並	-	-	102	-	-	-	-	-	2.8	
57	36	1区	Sfa110	土師器	裏	ヨコナデ・指押え	ヨコナデ・指押え	同標ナデ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	粗・並	中・並	-	-	27.4	28.6	-	-	-	-	4.8	黒底あり
58	36	1区	Sfa110	土師器	裏	指押え・ハケ目	指押え・ハケ目	同標ナデ	7.5YR8.3灰黄	7.5YR8.3灰黄	粗・並	中・少	-	-	24.5	29.1	8.1	-	-	-	6.8	黒底あり
60	1区	Sfa111	須恵器	杯蓋	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	同標ナデ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	129	4.5	-	-	-	-	6.8	ロケ口右回転

国・地区 番号	調査 区名	遺構名	層位	種類	器種	調整(外)	調整(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	石灰 炭石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	残存 率		
61	I区	Sfa111		須恵器 杯蓋	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	148	-	-	-	1.8	ロケ右回転	
62	I区	Sfa111		須恵器 杯蓋	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	136	-	-	-	1.8	ロケ右回転	
63	II区	Sfa201	床面上	須恵器 杯蓋	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	152	-	-	-	1.8	ロケ右回転	
64	37	II区	Sfa201	須恵器 杯蓋	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・多	146	43	-	-	6.8	ロケ右回転	
65	II区	Sfa201		須恵器 杯蓋	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	-	-	-	-	-	破片	
66	II区	Sfa201		須恵器 杯身	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N7/灰白	75Y7/1灰白	-	-	-	-	中・少	118	-	-	-	1.8	ロケ右回転	
67	II区	Sfa201	床面上	須恵器 杯身	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	中・少	118	-	-	-	1.8	ロケ右回転	
68	II区	Sfa201		須恵器 杯身	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	118	-	-	-	1.8	ロケ右回転	
69	II区	Sfa201	床面上	須恵器 蓋 つまみ	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	つまみ 径3.6	-	-	-	-	8.8	
70	37	II区	Sfa201	土師器 高坏	須恵土 ハケ目・ヨコナテ	ハケ目	ハケ目	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	中・並	中・多	-	-	-	133	-	-	-	6.8	破片	
71	II区	Sfa201		土師器 高坏	須恵土 ハケ目・ヨコナテ	ハケ目	ハケ目	5YR6/4にぶい黄褐色	5YR6/4にぶい黄褐色	中・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	
72	37	II区	Sfa201	土師器 甕	ヨコナテ・ 指押え(黄褐色)	ヨコナテ・ 指押え後ナテ	ヨコナテ・ 指押え後ナテ	75YR6/3 にぶい黄褐色	75YR6/3 にぶい黄褐色	中・少	中・少	-	-	-	144	-	-	-	3.8	里底あり	
73	37	II区	Sfa201	土師器 甕	ヨコナテ・ 指押え(黄褐色)	ヨコナテ・ 指押え後ナテ	ヨコナテ・ 指押え後ナテ	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	中・並	中・少	-	-	-	146	-	-	-	1.8	里底あり	
74	37	II区	Sfa201	土師器 甕	須恵土 ハケ目	ハケ目	ハケ目	5YR6/4にぶい黄褐色	5YR6/4にぶい黄褐色	中・並	中・並	-	-	-	138	-	-	-	3.8	里底あり	
75	II区	Sfa201	下層	土師器 甕	須恵土 ハケ目	ハケ目	ハケ目	75YR7/6黄褐色	75YR7/6黄褐色	中・並	中・並	-	-	-	194	-	-	-	4.8	里底あり	
78	II区	Sfa202		須恵器 杯身	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	178	-	-	-	1.8	破片	
79	II区	Sfa202		須恵器 高坏	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N4/灰	N4/灰	-	-	-	-	中・多	-	-	-	-	-	破片	
80	II区	Sfa202		土師器 管状土罐	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・多	-	-	-	-	-	破片	
81	II区	Sfa203	下層	須恵器 杯身	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	126	-	-	-	1.8	破片	
82	II区	Sfa203	上層	須恵器 杯身	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・多	7.0 幅20	厚21	-	-	-	8.8	
83	II区	Sfa203		須恵器 杯身	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	114	-	-	-	1.8	ロケ右回転	
84	II区	Sfa203	下層	須恵器 杯身	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	131	-	-	-	1.8	破片	
85	II区	Sfa203		須恵器 杯身	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	124	-	-	-	1.8	破片	
86	II区	Sfa203	床面上	須恵器 つまみ	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	中・少	-	-	-	-	つまみ 径3.0	8.8	
87	II区	Sfa203	上層	須恵器 高坏	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N4/灰	N4/灰	-	-	-	-	中・少	-	-	-	-	1.8	破片	
88	II区	Sfa203	土師器 高坏	土師器 高坏	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	25YR6/6黄褐色	25YR6/6黄褐色	-	中・少	-	-	中・少	114	-	-	-	1.8	破片	
89	II区	Sfa203	土師器 高坏	土師器 高坏	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	130	-	1.8	里底あり
90	II区	Sfa204	上層	須恵器 杯蓋	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	5Y6/1灰	N6/灰	-	-	-	-	中・多	158	53	-	-	4.8	ロケ右回転	
91	II区	Sfa204		須恵器 杯蓋	須恵土 同様にラケズリ	同様にラケズリ	同様にラケズリ	N7/灰白	N6/灰	-	-	-	-	中・少	132	-	-	-	1.8	破片	

種名・図説番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調査(外)	調査(内)	色調(内)・釉	色調(内)・胎土	石灰質石	赤色粒	向灰石	雲母	砂鉄	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	長さ(cm)	保存率	備考
92	Ⅱ区	Sh204	上層	須恵器	杯身	同様ナテ	同様ナテ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	細・少	94	-	-	-	1/8	
93	Ⅱ区	Sh204	上層	須恵器	杯身	同様ナテ 同様ヘラケスリ	同様ナテ	N6/灰	N5/灰	-	-	-	-	細・少	103	-	-	-	2/8	
94	Ⅱ区	Sh204		須恵器	杯身	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	108	-	-	-	1/8	
95	Ⅱ区	Sh204		須恵器	杯身	同様ナテ後同様ヘラケスリ	同様ナテ	5Y6/1灰	N5/灰	-	-	-	-	中・少	162	-	-	-	3/8	ロクロ右回転
96	38	Ⅱ区	Sh204	上層	須恵器	杯身	同様ナテ	5Y7/1灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	121	4.5	-	-	7/8	ロクロ右回転
97	Ⅱ区	Sh204		須恵器	杯身	同様ナテ 自然剥付層	同様ナテ	N5/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	128	-	-	-	1/8	
98	Ⅱ区	Sh204	下層	須恵器	杯身	同様ナテ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	138	-	-	-	1/8	
99	Ⅱ区	Sh204		須恵器	杯身	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	破片	
100	Ⅱ区	Sh204	上層	須恵器	蓋 つまみ	同様ナテ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	破片	
101	Ⅱ区	Sh204	上層	須恵器	高坏	同様ナテ 同様ヘラケスリ	同様ナテ	5Y6/1灰	25Y7/1灰白	-	-	-	-	中・少	-	-	-	-	破片	
102	Ⅱ区	Sh204	下層	須恵器	高坏	同様ナテ 文子・波状文	同様ナテ	25Y6/1黄灰	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	178	-	-	-	1/8	
103	Ⅱ区	Sh204	上層	須恵器	高坏	同様ナテ	同様ナテ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	細・少	132	-	-	-	1/8	
104	Ⅱ区	Sh204		須恵器	高坏	同様ナテ 同様ナテ透かし	同様ナテ	5Y5/1灰	75Y7/1灰白	-	-	-	-	細・少	160	-	-	-	1/8	
105	Ⅱ区	Sh204	下層	須恵器	高坏	同様ナテ 透かし 2.5層(4月高中)	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	84	-	-	-	1/8	
106	Ⅱ区	Sh204		須恵器	裏	同様ナテ 波状文	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・多	214	-	-	-	破片	
107	38	Ⅱ区	Sh204	須恵器	裏	同様ナテ 同様ナテ・穿孔1個	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	137	161	-	-	8/8	ロクロ右回転
108	Ⅱ区	Sh204		土師器	壺	へらミガキ	縁り目・指押え	5YR5.4 に赤い点	75YR7/4に赤い点	-	-	-	-	細・多 中・少	-	-	-	-	2/8	
109	Ⅱ区	Sh204		土師器	裏	ヨコナテ・刷離	ヨコナテ・ハケ目	10YR5/2 に赤い点	10YR5/2 に赤い点	-	-	-	-	中・並	103	-	-	-	1/8	
110	Ⅱ区	Sh204		土師器	裏	波状文	指押え・磨滅	5YR6.0黄	5YR7/4に赤い点	-	-	-	-	中・並 中・並	148	-	-	-	1/8	
111	Ⅱ区	Sh204		土師器	裏	同様ナテ 同様ナテ後ナテ(磨滅)	指押え後ナテ(磨滅)	75YR7/4に赤い点	75YR7/4に赤い点	-	-	-	-	細・少	157	-	-	-	2/8	
112	Ⅱ区	Sh204		土師器	支脚	同様ナテ	同様ナテ	75YR7/4に赤い点	N6/灰	-	-	-	-	中・少 細	105	高115	-	-	破片	
113	Ⅱ区	Sh205	束直上	須恵器	杯蓋	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	破片	
114	Ⅱ区	Sh205		須恵器	杯蓋	同様ナテ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	118	-	-	-	1/8	
115	Ⅱ区	Sh205	下層	須恵器	杯蓋	同様ナテ 同様ヘラケスリ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	破片	
116	Ⅱ区	Sh205	下層	須恵器	杯蓋	同様ナテ 同様ヘラケスリ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	138	-	-	-	1/8	
117	Ⅱ区	Sh205		須恵器	杯蓋	同様ナテ	同様ナテ	5Y7/1灰白	5Y8/1灰白	-	-	-	-	細・少	102	-	-	-	1/8	
118	Ⅱ区	Sh205	束直上	須恵器	杯身	同様ナテ後同様ヘラケスリ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	121	43	-	-	4/8	ロクロ右回転
119	Ⅱ区	Sh205	下層	須恵器	杯身	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	136	-	-	-	1/8	ロクロ右回転
120	Ⅱ区	Sh205	下層	須恵器	杯身	同様ナテ 同様ヘラケスリ	同様ナテ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	118	-	-	-	1/8	
121	Ⅱ区	Sh205	下層	須恵器	杯身	同様ナテ へらミガキ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	150	-	-	-	1/8	

論文掲載 番号	調査 番号	遺構名	層位	種類	器種	調整 (外)	調整 (内)	色調 (外)・釉	色調 (内)・胎土	石灰 炭石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口縁 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	残存
122	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	杯身	同様ナナ	同様ナナ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	133	130	-	-	1.8
123	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	杯身	同様ナナ	同様ナナ	N3/灰	N3/灰	-	-	-	-	-	130	-	-	-	1.8
124	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	50S/1草灰	N4/灰	-	-	-	-	-	122	-	-	-	2.8
125	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	130	-	-	-	1.8
126	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N3/灰	N3/灰	-	-	-	-	-	128	-	-	-	1.8
127	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	116	-	-	-	破片
128	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	136	-	-	-	1.8
129	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N3/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	140	-	-	-	1.8
130	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	7.5YR6/1灰白	7.5YR6/1灰白	-	-	-	-	-	140	36	8.1	-	3.8
131	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N3/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	128	-	-	-	1.8
132	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白	-	-	-	-	-	94	-	-	-	2.8
133	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
134	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	盤	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	2.5Y7/1灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	182	-	-	-	2.8
135	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	盤	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	5Y7/1灰白	5Y8/1灰白	-	-	-	-	-	180	-	-	-	破片
136	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	盤	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	180	-	-	-	1.8
137	38	Ⅱ区 Sfa06	灰土層上	須恵器	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	7.5YR8/4浅黄	7.5YR8/4浅黄	中・並	-	-	-	-	82	-	-	-	3.8
138	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	須	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	7.5YR8/4浅黄	10YR8/2灰白	中・並	-	-	-	-	149	-	-	-	1.8
139	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	須	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	中・並	-	-	-	-	186	-	-	-	1.8
140	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	高坏	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	10YR8/4浅黄	10YR8/4浅黄	中・並	-	-	-	-	304	-	-	-	2.8
141	38	Ⅱ区 Sfa06	灰土層上	須恵器	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	7.5YR7/4に赤・黄	10YR8/4浅黄	中・並	-	-	-	-	161	-	-	-	2.8
142	38	Ⅱ区 Sfa06	灰土層上	須恵器	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	7.5YR7/4に赤・黄	7.5YR7/4に赤・黄	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	?
143	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	支脚	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	-	-	-	-	-	長59	幅22	高19	-	8.8
145	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	140	3.5	-	-	1.8
146	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
147	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	高坏	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	150	-	-	-	2.8
148	38	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	有蓋高坏	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N5/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	122	73	106	-	7.8
149	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	高坏	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	-	-	-	-	-	116	-	-	-	1.8
150	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	高坏	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	2.5Y7/2灰黄	10YR8/2灰白	中・並	-	-	-	-	162	-	-	-	3.8
151	38	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	7.5Y7/1灰白	2.5Y7/3浅黄	-	-	-	-	-	142	-	-	-	2.8
152	39	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	142	42	-	-	6.8
153	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯身	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
154	Ⅱ区 Sfa06	須恵器	杯	須恵器	同様ハタケズリ	同様ナナ	同様ナナ	10YR8/3浅黄	10YR7/3に赤・黄	中・並	-	-	-	-	133	-	-	-	3.8

標本分類番号	調査区名	遺構名	層位	種類	形態	用途(外)	調整(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	石蓋	赤色粒	向灰石	扉	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	長さ(cm)	保存率	備考
155	Ⅱ区	SfA208	上層	須恵器	須恵器	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	中・少	11.3	47	-	-	2.8	ロケロ右側板	
156	Ⅱ区	SfA208		須恵器	須恵器	同様ナテ後同様ヘウケズリ	同様ナテ	N7/灰白	N8/灰白	-	-	-	細・少	14.8	-	-	-	1.8	ロケロ左側板	
157	Ⅱ区	SfA208		須恵器	須恵器	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	細・少	11.2	-	-	-	2.8	ロケロ右側板	
158	Ⅱ区	SfA208		須恵器	須恵器	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	細・少	13.2	-	-	-	1.8		
159	Ⅱ区	SfA208		須恵器	須恵器	同様ナテ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	細・少	13.0	-	-	-	1.8		
160	Ⅱ区	SfA208	上層	須恵器	須恵器	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	細・少	11.0	-	-	-	1.8		
161	Ⅱ区	SfA208	上層	須恵器	須恵器	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	細・少	11.8	-	-	-	1.8	ロケロ右側板	
162	Ⅱ区	SfA208	上層	須恵器	須恵器	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	中・少	-	-	-	-	1.8	羅片	
163	Ⅱ区	SfA208	上層	須恵器	須恵器	同様ナテ	同様ナテ	N3/灰	N3/灰	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8	羅片	
164	29	SfA208	灰土上	須恵器	須恵器	同様ナテ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	中・少	10.0	53	-	-	8.8	つぎみ土26	
165	Ⅱ区	SfA208		須恵器	つぎみ	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	中・少	-	-	-	-	8.8		
166	Ⅱ区	SfA208		須恵器	高坪	同様ナテ・波紋文	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	中・多	19.0	-	-	-	1.8		
167	Ⅱ区	SfA208		須恵器	高坪	同様ナテ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	中・多	8.8	-	-	-	1.8		
168	39	SfA208		土師器	甕	ヨコナテ・ヘウケズリ後板ナテ後ハケ目ナテ	ヨコナテ	10YR8-3 黄赤色	10YR8-3 黄赤色	粗・多	中・差	-	-	16.8	28.2	-	-	6.8		
169	Ⅱ区	SfA208		土師器	甕	ヨコナテ	ヨコナテ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	粗・多	中・差	-	-	16.0	-	-	-	2.8		
170	39	SfA208		土師器	甕	ヨコナテ・ナテ後板	ヨコナテ・ナテ後板	10YR6-2 灰黄褐色	10YR6-2 灰黄褐色	粗・少	-	-	-	14.2	-	-	-	3.8		
171	39	SfA208		土師器	甕	板ナテ	板ナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	粗・差	-	-	-	17.4	-	-	-	3.8		
172	Ⅱ区	SfA208	灰土上	土師器	甕	ヨコナテ(磨滅)	ヨコナテ(磨滅)	5YR6-8 橙	5YR6-8 橙	粗・多	中・差	-	-	17.0	-	-	-	1.8		
173	39	SfA208	灰土上	土師器	甕	ヨコナテ・ナテ	ヨコナテ・ナテ	5YR6-8 橙	5YR6-8 橙	粗・多	中・差	-	-	16.8	-	-	-	2.8		
174	Ⅱ区	SfA208		土師器	甕	ヨコナテ	ヨコナテ	7.5YR8-4 黄赤色	10YR8-4 黄赤色	中・差	-	-	-	19.0	-	-	-	1.8		
175	Ⅱ区	SfA208		土師器	甕	ヨコナテ	ヨコナテ	10YR4-1 黒褐色	2.5Y2-1 黒褐色	粗・多	-	-	-	18.4	-	-	-	1.8		
176	Ⅱ区	SfA208	下層	土師器	甕	磨滅	磨滅	7.5YR7-4 にぶい黄褐色	10YR8-3 黄赤色	粗・多	中・差	-	-	-	-	-	-	1.8	羅片	
177	Ⅱ区	SfA208		土師器	甕	磨滅	磨滅	2.5YR6-8 橙	2.5YR6-8 橙	粗・少	中・少	-	-	-	-	-	-	1.8	羅片	
178	Ⅱ区	SfA208		土師器	甕	板ナテ後ナテ	ヨコナテ	7.5YR7-6 橙	7.5YR7-6 橙	中・差	-	-	-	-	-	-	-	1.8	羅片	
179	39	SfA208		土師器	甕	ナテ・指押え	ナテ・指押え	2.5Y7-3 黄赤	2.5Y7-3 黄赤	中・少	-	-	-	10.0	6.1	4.3	-	6.8	外周に羅片着	
180	39	SfA208		土師器	甕	ヨコナテ・(磨滅)	ヨコナテ・(磨滅)	7.5YR8-4 黄赤色	7.5YR8-4 黄赤色	中・少	細・少	-	-	13.2	6.1	-	-	8.8	外周に羅片着	
181	40	SfA208		土師器	甕	ナテ・指押え	ナテ・指押え	5YR8-4 黄赤	5YR8-4 黄赤	中・多	中・多	-	-	12.5	5.5	-	-	5.8		
182	Ⅱ区	SfA208	灰化物層	土師器	甕	同様ナテ	同様ナテ	7.5YR7-6 橙	7.5YR7-6 橙	粗・多	中・差	-	-	12.4	-	-	-	2.8		
183	Ⅱ区	SfA208	灰化物層	土師器	甕	同様ナテ	同様ナテ	7.5YR8-4 黄赤色	10YR8-4 黄赤色	粗・多	中・多	-	-	14.0	-	-	-	1.8		
184	Ⅱ区	SfA208		土師器	甕	ヨコナテ(磨滅)	ヨコナテ(磨滅)	5YR6-6 橙	5YR7-6 橙	中・少	-	-	-	15.0	-	-	-	1.8		
185	Ⅱ区	SfA208	灰土上	土師器	甕	磨滅	磨滅	5YR5-4 にぶい黄褐色	5YR5-4 にぶい黄褐色	中・差	中・少	-	-	4.2	5.6	3.4	-	2.8	把持長3.5	
186	Ⅱ区	SfA208		土師器	甕	指押え・ナテ	指押え・ナテ	2.5Y7-3 黄赤	2.5Y7-3 黄赤	中・差	中・少	-	-	-	-	-	-	1.8	羅片	

国史 地方 番号	調査 番号	遺構名	層位	種類	器種	調査(外)	調査(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	石灰 長石	非色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	残存 状態	備考
188	Ⅱ区 Sfa209	須恵器 杯蓋	床土上	須恵器	杯蓋	同胎子テ	同胎子テ	N8/灰白	S17/1灰白	-	-	-	-	-	50	25	-	-	破片	5・8
189	Ⅱ区 Sfa209	須恵器 蓋	床土上	須恵器	蓋	同胎子テ 同胎子テ・ 指押え・ 指押え点文	同胎子テ	23Y7/1灰白	23Y7/1灰白	-	-	-	-	-	50	25	-	-	破片	2・8
190	Ⅱ区 Sfa209	土師器 甕	床土上	土師器	甕	ヨコナテ・ ヨコナテ・ 指押え・ハケ目	ヨコナテ・ハケ目	5YR7/6黄緑	10YR7/6黄緑	細・少	中・多	-	-	-	184	-	-	-	破片	皿底あり
191	Ⅱ区 Sfa209	土師器 甕	床土上	土師器	甕	ヨコナテ・ 指押え・ハケ目	ヨコナテ・ハケ目	10YR6/2灰黄緑	23Y7/2灰白	細・並	細・少	-	-	-	276	-	-	-	破片	3・8
192	Ⅱ区 Sfa209	土師器 甕	床土上	土師器	甕	ヨコナテ・ 指押え・ハケ目	ヨコナテ	10YR7/4	10YR7/4	中・並	-	-	-	-	122	-	-	-	破片	1・8
193	Ⅱ区 Sfa209	土師器 鉢	下層	土師器	鉢	ヨコナテ	ヨコナテ	10YR7/4	10YR7/4	-	-	-	-	-	138	-	-	-	破片	1・8
195	Ⅱ区 Sfa210	須恵器 杯蓋	床土上	須恵器	杯蓋	同胎子テ	同胎子テ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	138	-	-	-	破片	1・8
196	Ⅱ区 Sfa210	須恵器 蓋	床土上	須恵器	蓋	同胎子テ	同胎子テ	10YR5/1黒灰	75YR5/2灰黒	-	-	-	-	-	138	-	-	-	破片	8・8
197	Ⅱ区 Sfa210	須恵器 杯身	上層	須恵器	杯身	同胎子テ	同胎子テ	25YR5/2灰赤	25YR5/2灰赤	-	-	-	-	-	138	-	-	-	破片	8・8
198	Ⅱ区 Sfa210	須恵器 杯身	床土上	須恵器	杯身	同胎子テ	同胎子テ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	138	-	-	-	破片	1・8
199	Ⅱ区 Sfa210	土師器 甕	下層	土師器	甕	ヨコナテ・ 指押え	ヨコナテ	10YR7/2	10YR7/2	細・少	-	-	-	-	138	-	-	-	破片	1・8
200	Ⅱ区 Sfa210	土師器 甕	下層	土師器	甕	ヨコナテ・ 指押え	ナテ・指押え	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・多	-	-	-	-	138	-	-	-	破片	4・6
203	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 蓋	上層	須恵器	蓋	同胎子テ 同胎子テ・ 指押え	同胎子テ	5Y6/1灰	N8/灰白	-	-	-	-	-	138	-	-	-	破片	8・8
204	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 蓋	上層	須恵器	蓋	同胎子テ・ 指押え	同胎子テ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	124	53	-	-	破片	2・8
205	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 杯蓋	床土上	須恵器	杯蓋	同胎子テ・ 指押え	同胎子テ	N7/灰白	N6/灰	-	-	-	-	-	115	45	-	-	破片	6・8
206	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 杯蓋	床土上	須恵器	杯蓋	同胎子テ・ 指押え	同胎子テ	5Y6/1灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	116	44	-	-	破片	4・8
207	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 杯身	床土上	須恵器	杯身	同胎子テ・ 指押え・ ハケ目	同胎子テ	75Y4/2 灰赤	N6/灰	-	-	-	-	-	114	-	-	-	破片	3・8
208	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 杯身	床土上	須恵器	杯身	同胎子テ・ 指押え・ ハケ目	同胎子テ	N4/灰	5Y8/1灰白	-	-	-	-	-	113	51	-	-	破片	8・8
209	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 杯身	下層	須恵器	杯身	同胎子テ・ 指押え	同胎子テ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	-	-	-	-	-	113	-	-	-	破片	2・8
210	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 杯身	下層	須恵器	杯身	同胎子テ・ 指押え	同胎子テ	25G3/1 灰赤	N6/灰	-	-	-	-	-	116	48	-	-	破片	4・8
211	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 杯身	下層	須恵器	杯身	同胎子テ・ 指押え	同胎子テ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	102	-	-	-	破片	1・8
212	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 杯身	下層	須恵器	杯身	同胎子テ・ 指押え	同胎子テ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	135	-	-	-	破片	2・8
213	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 杯身	下層	須恵器	杯身	同胎子テ・ 指押え	同胎子テ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	104	55	-	-	破片	6・8
214	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 杯身	下層	須恵器	杯身	同胎子テ・ 指押え	同胎子テ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	100	46	-	-	破片	7・8
215	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 杯身	下層	須恵器	杯身	同胎子テ・ 指押え	同胎子テ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	105	-	-	-	破片	2・8
216	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 杯身	下層	須恵器	杯身	同胎子テ・ 指押え	同胎子テ	5Y6/1灰	5Y7/1灰白	-	-	-	-	-	144	-	-	-	破片	1・8
217	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 有蓋高坏	下層	須恵器	有蓋高坏	同胎子テ・ 指押え・ ハケ目	同胎子テ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	113	88	-	-	破片	5・8
218	Ⅱ区 Sfa211	須恵器 高坏	床土上	須恵器	高坏	同胎子テ・ 指押え・ ハケ目	同胎子テ	75Y7/1灰白	75Y7/1灰白	-	-	-	-	-	128	-	-	-	破片	1・8
219	Ⅱ区 Sfa211	土師器 杯	床土上	土師器	杯	ヨコナテ	ヨコナテ	75YR8/4 灰黄緑	75YR8/4 灰黄緑	細・並	-	-	-	-	118	-	-	-	破片	2・8

標本番号	調査名	遺構名	層位	種類	調整	調整(外)	調整(内)	色調(内・外・種)	包圍(内・胎土)	石表	赤色粒	向隅石	須母	砂粒	口径	器高	底径	長さ	保存	備考
220	Ⅱ区	Sh6211	上層	土師器 碗	ヨコナテ(樽)	ヨコナテ(樽)	ヨコナテ(樽)	25YR6.8 橙	25YR6.8 橙	中・並	-	-	-	104	-	-	-	1.8	-	
221	41	Ⅱ区	Sh6211	土師器 碗	ヨコナテ(樽)	ヨコナテ(樽)	ナテ・樽減	75YR7.4に赤い	75YR7.4に赤い	中・多	中・多	-	-	117	5.3	-	-	6.8	-	
222	41	Ⅱ区	Sh6211	土師器 碗	ヨコナテ(樽)	ヨコナテ(樽)	樽減	5YR7.6 橙	5YR7.6 橙	中・並	-	-	-	108	-	-	-	1.8	-	
223	41	Ⅱ区	Sh6211	土師器 皿	樽減	樽減	樽減	75YR7.6 橙	25YR6.6 橙	中・多	中・並	-	-	94	6.4	-	-	4.8	-	
224	41	Ⅱ区	Sh6211	土師器 小皿	樽減	樽減	樽減	75YR8.4 浅黄	75YR8.4 浅黄	中・少	中・並	-	-	78	-	-	-	2.8	-	
225	41	Ⅱ区	Sh6211	土師器 壺	ヨコナテ(樽)	ヨコナテ(樽)	樽減	25YR6.6 橙	75YR6.4に赤い	中	-	-	-	91	-	-	-	2.8	-	
226	41	Ⅱ区	Sh6211	土師器 高杯	樽減	樽減	樽減	10YR7.0に赤い	75YR6.4に赤い	中・少	-	-	-	-	-	-	-	5.8	-	
227	41	Ⅱ区	Sh6211	土師器 壺	ヨコナテ・ハケ目・指押え	ヨコナテ・ハケ目・指押え	ハケ目	75YR8.4 浅黄	75YR8.4 浅黄	中・並	中・並	-	-	190	-	-	-	3.8	黒底あり	
228	41	Ⅱ区	Sh6211	土師器 壺	ヨコナテ・ハケ目・指押え	ヨコナテ・ハケ目・指押え	ハケ目	75YR8.6 浅黄	75YR8.6 浅黄	中・並	中・並	-	-	137	-	-	-	2.8	黒底あり	
229	41	Ⅱ区	Sh6211	土師器 壺	ヨコナテ(樽)	ヨコナテ(樽)	樽減	75YR7.4に赤い	75YR7.4に赤い	中・並	中・並	-	-	168	-	-	-	2.8	-	
230	41	Ⅱ区	Sh6211	土師器 壺	樽減	樽減	樽減	ハケ(樽減)	75YR7.4に赤い	中・少	中・並	-	-	198	-	-	-	1.8	-	
231	41	Ⅱ区	Sh6211	土師器 杯	樽減	樽減	樽減	75YR8.4 浅黄	5YR7.6 橙	中・並	中・多	-	-	198	-	-	-	1.8	-	
234	41	Ⅱ区	Sh6212	須恵器 杯	同様ナテ	同様ナテ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	140	-	-	-	1.8	-	
235	42	Ⅱ区	Sh6212	須恵器 杯	同様ナテ	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	145	3.9	-	-	5.8	ロケ口左回転	
236	42	Ⅱ区	Sh6212	須恵器 杯	同様ナテ	同様ナテ	同様ナテ	5YR7.4 灰白	5YR7.4 灰白	-	-	-	-	135	4.0	-	-	2.8	ロケ口右回転	
237	42	Ⅱ区	Sh6212	須恵器 杯	同様ナテ	同様ナテ	同様ナテ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	128	-	-	-	1.8	-	
238	42	Ⅱ区	Sh6212	須恵器 杯	同様ナテ	同様ナテ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	118	-	-	-	1.8	-	
239	42	Ⅱ区	Sh6212	須恵器 壺	同様ナテ・別点	同様ナテ・別点	同様ナテ	N4/灰	N4/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	-	
240	42	Ⅱ区	Sh6212	土師器 壺	樽減	樽減	樽減	25YR7.8 橙	75YR8.4 浅黄	中・並	中・並	-	-	140	-	-	-	1.8	-	
241	42	Ⅱ区	Sh6212	土師器 壺	樽減	樽減	樽減	25YR7.6 橙	75YR7.6 橙	中・並	中・並	-	-	158	-	-	-	1.8	-	
243	42	Ⅱ区	Sh6213	須恵器 杯	同様ナテ	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	140	-	-	-	1.8	-	
244	42	Ⅱ区	Sh6213	須恵器 杯	同様ナテ	同様ナテ	同様ナテ	N5/灰	N7/灰白	-	-	-	-	143	-	-	-	1.8	ロケ口右回転	
245	42	Ⅱ区	Sh6213	須恵器 杯	同様ナテ	同様ナテ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	-	
246	42	Ⅱ区	Sh6213	須恵器 杯	同様ナテ	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	-	
247	42	Ⅱ区	Sh6213	須恵器 杯	同様ナテ	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	-	
248	42	Ⅱ区	Sh6213	須恵器 高杯	同様ナテ	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	119	-	-	-	2.8	内面へう跡あり	
249	42	Ⅱ区	Sh6213	須恵器 壺	同様ナテ	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	-	
250	42	Ⅱ区	Sh6213	土師器 高杯	ヨコナテ(樽)	ヨコナテ(樽)	樽減	5YR6.8 橙	5YR6.8 橙	中・多	中・多	-	-	103	-	-	-	2.8	-	
251	42	Ⅱ区	Sh6213	土師器 高杯	ハケ	ハケ	樽減	5YR7.6 橙	5YR7.6 橙	中・並	中・並	-	-	-	-	-	-	3.5	8.8	
252	42	Ⅱ区	Sh6213	土師器 壺	樽減	樽減	樽減	75YR6.4に赤い	75YR6.3に赤い	中・並	中・並	-	-	167	-	-	-	1.8	黒底あり	
253	42	Ⅱ区	Sh6213	土師器 壺	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ	25Y7.2 灰黄	10YR7.3に赤い	中・少	中・少	-	-	166	-	-	-	1.8	-	
254	42	Ⅱ区	Sh6213	土師器 壺	ヨコナテ・ハケ目・指押え	ヨコナテ・ハケ目・指押え	ヨコナテ	10YR7.4に赤い	10YR7.4に赤い	中・多	中・多	-	-	152	-	-	-	1.8	-	
255	42	Ⅱ区	Sh6213	土師器 壺	樽減	樽減	樽減	25YR3 淡黄	25YR3 淡黄	中・並	中・多	-	-	218	-	-	-	4.8	黒底あり	



標本番号	調査区分名	遺構名	層位	種類	調査(外)	調査(内)	色調(外)・種	色調(内)・胎土	石室 墓石	彩色 装束	形状 向度	形状 向度	砂粒	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	保存 率	備考	
285	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N5/灰	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	138	-	-	-	3.8	ロクロ右回転	
286	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	-	-	142	-	2.8	ロクロ右回転	
287	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・多	144	4.6	-	-	2.8	ロクロ左回転	
288	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、式置1米、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	細・少	144	-	-	-	1.8	ロクロ右回転	
289	43	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N4/灰	N5/灰	-	-	-	-	中・多	144	3.9	-	-	7.8	ロクロ右回転	
290	43	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	細・少	142	4.3	-	-	8.8	ロクロ右回転	
291	43	Sf6a214	下層・ 灰土上	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	10f8/1灰白	10f8/1灰白	-	-	-	-	中・多	146	4.2	-	-	6.8	ロクロ右回転	
292	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	147	-	-	-	1.8	ロクロ右回転	
293	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	5f7/1灰白	5f7/1灰白	-	-	-	-	中・少	148	4.4	-	-	2.8	ロクロ右回転	
294	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N7/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	細・少	148	-	-	-	1.8	ロクロ右回転	
295	43	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	5f8/1灰白	5f8/1灰白	-	-	-	-	中・少	145	5.5	-	-	7.8	ロクロ右回転	
296	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	110	-	-	-	2.8		
297	43	Sf6a214	下層・ 灰土上	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	119	4.5	-	-	3.8	ロクロ右回転	
298	43	Sf6a214	下層・ 灰土上	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N5/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	124	-	-	-	4.8	ロクロ右回転	
299	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ、 草履	同標本ナデ	7f5/3 堀オリーノ	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	122	4.1	-	-	5.8		
300	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	5f6/1灰	5f7/1灰白	-	-	-	-	細・少	121	-	-	-	1.8	ロクロ右回転	
301	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	122	-	-	-	1.8		
302	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N6/灰	7f5f6/1灰	-	-	-	-	細・少	128	-	-	-	1.8		
303	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	細・少	132	-	-	-	細片		
304	Ⅱ区	Sf6a214	下層・ 灰土上	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	5f7/1灰白	5f7/1灰白	-	-	-	-	細・多	91	-	-	-	6.8		
305	Ⅱ区	Sf6a214	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	N5/灰	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	192	-	-	-	1.8		
306	Ⅱ区	Sf6a214	下層	土師器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	7f5f6/6程	7f5f6/53に灰い 同標本ナデ	-	-	-	-	158	-	-	-	-	1.8		
307	Ⅱ区	Sf6a214	下層	土師器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	7f5f6/8程	7f5f6/84灰土 同標本ナデ	-	-	-	-	中・量	-	-	-	-	1.8		
308	Ⅱ区	Sf6a214	下層	土師器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	2f5f7/6程	5f7f7/4に灰い 同標本ナデ	-	-	-	-	中・少・量	-	-	-	-	把手長 8.8 3.5		
309	43	Sf6a214	下層	支障	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	7f5f6/6程	5f6f5/6程	-	-	-	-	細・少	69	8.6	8.7	-	2.8		
311	43	Sf6a216	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	5f7/2灰白	5f6f1/2	-	-	-	-	中・少	120	4.2	-	-	7.8	ロクロ右回転	
312	44	Sf6a216	下層	須恵器	同標本ナデ、 同標本ヘラケズリ	同標本ナデ	10f8f7/2 に灰い、草履	10f8f7/2 に灰い、草履	-	-	-	-	細・多	-	130	4.0	5.4	-	3.8	

本文図説 番号	調査 区名	遺構名	層位	種類	器種	調整(外)	調整(内)	色調(外)・種 類	色調(内)・粘土 質	石灰 質	非色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	残存 率	備考
313	44	Ⅱ区 Sfa216		土師器	壺	ハナ目・ナテ	へろズリ・指押え ナテ	10YR6/3 に赤い黄緑	10YR6/3 に赤い黄緑	-	中・多	-	-	-	160	-	-	-	3.8	
314	44	Ⅱ区 Sfa217	下層	須恵器	杯蓋	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	150	50	-	-	6.8	ロケロ右回転
315	44	Ⅱ区 Sfa217	下層	須恵器	杯身	同様ヘラケズリ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	中・少	中・少	115	-	-	-	5.8	ロケロ左回転
316	44	Ⅱ区 Sfa217	上層	須恵器	杯身	同様ナテ・右肩幅打滑 取付處	同様ナテ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	104	-	-	-	1.8	
317	44	Ⅱ区 Sfa217		須恵器	杯身	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	122	-	-	-	1.8		
318	44	Ⅱ区 Sfa217		須恵器	杯身	同様ヘラケズリ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	106	-	-	-	1.8		
319	44	Ⅱ区 Sfa217		須恵器	高杯	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	102	-	-	-	2.8		
320	44	Ⅱ区 Sfa217		須恵器	高杯	口まじ・透かし	同様ナテ	7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	-	-	-	-	96	-	-	-	1.8		
321	44	Ⅱ区 Sfa217		須恵器	壺	同様ナテ・取付文	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	146	-	-	-	1.8		
322	44	Ⅱ区 Sfa217	下層	土師器	壺	同様ナテ	同様ナテ	7.5YR6/4に赤・黄	7.5YR6/4に赤・黄	-	中・並	中・並	-	164	-	-	-	2.8		
325	44	Ⅱ区 Sfa301		須恵器	杯蓋	同様ヘラケズリ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	137	50	-	-	4.8	ロケロ左回転	
326	44	Ⅱ区 Sfa301	床面上	須恵器	杯蓋	同様ナテ	同様ナテ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	-	-	-	中・多	142	44	-	-	6.8	ロケロ左回転	
327	44	Ⅱ区 Sfa301	第1層・ 床面上	須恵器	杯蓋	同様ヘラケズリ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	中・少	139	4.5	-	-	6.8	右肩幅へろ ケ	
328	44	Ⅱ区 Sfa301	第1層・ 床面上	須恵器	杯蓋	同様ヘラケズリ	同様ナテ	N4/灰	N4/灰	-	-	-	中・多	136	4.4	-	-	7.8	ロケロ右回転	
329	44	Ⅱ区 Sfa301	第2層	須恵器	杯蓋	同様ヘラケズリ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	中・少	136	4.1	-	-	5.8	ロケロ右回転	
330	44	Ⅱ区 Sfa301	第1層・ 床面上	須恵器	杯蓋	同様ナテ	同様ナテ	5Y6/1灰	5Y6/1灰	-	-	-	中・多	144	4.0	-	-	5.8	ロケロ右回転	
331	45	Ⅱ区 Sfa301		須恵器	杯蓋	同様ヘラケズリ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	142	3.8	-	-	7.8	ロケロ左回転	
332	44	Ⅱ区 Sfa301	第1層	須恵器	杯蓋	同様ヘラケズリ	同様ナテ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	中・多	138	3.8	-	-	1.8	ロケロ左回転	
333	44	Ⅱ区 Sfa301	第2層	須恵器	杯蓋	同様ヘラケズリ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	中・少	138	-	-	-	3.8	ロケロ右回転	
334	44	Ⅱ区 Sfa301	第1層	須恵器	杯身	同様ヘラケズリ	同様ナテ	5Y6/1灰	5Y6/1灰	-	-	-	中・少	132	-	-	-	3.8	ロケロ回転不 明	
335	45	Ⅱ区 Sfa301	第1層・ 床面上	須恵器	杯身	同様ヘラケズリ	同様ナテ	N4/灰	N5/灰	-	-	-	-	128	4.2	-	-	8.8	ロケロ右回転	
336	44	Ⅱ区 Sfa301	第1層	須恵器	杯身	同様ナテ	同様ナテ	7.5YR5/1赭灰	7.5YR5/1赭灰	-	-	-	中・少	130	-	7.2	-	1.8		
337	44	Ⅱ区 Sfa301	第2層	須恵器	壺	同様ナテ・ハナ目・ 光瀬1条	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	中・少	136	-	-	-	1.8		
338	44	Ⅱ区 Sfa301	第1層	須恵器	壺	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	中・少	131	-	-	-	1.8		
339	45	Ⅱ区 Sfa301	第1層・ 第2層	土師器	瓶	指押え・ 取付文(壊滅)	指押え・ 取付文(壊滅)	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR8/4浅黄緑	-	中・並	中・並	中・少	244	-	-	-	2.8	破片	
340	44	Ⅱ区 Sfa301		土師器	瓶	同様ナテ・ハナ目・ 光瀬1条	同様ナテ	7.5YR7/4に赤・黄	7.5YR7/4に赤・黄	-	中・多	中・多	-	270	-	-	-	2.8		
344	45	Ⅱ区 Sfa302		須恵器	壺	同様ヘラケズリ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	138	4.5	-	-	7.8	ロケロ右回転	
345	45	Ⅱ区 Sfa302	第1層	須恵器	杯身	同様ヘラケズリ	同様ナテ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	-	-	-	-	120	4.3	5.4	-	8.8	ロケロ右回転	

館名 番号	調査 区分	遺構 名	層位	種類	調査(外)	調査(内)	色調(外)・植	色調(内)・胎土	右面 裏石	赤色粒	向隅石	扉母	砂粒	口括 (cm)	器高 (cm)	器径 (cm)	長さ (cm)	保存 率	備考
346	Ⅲ区	Sh306	下層	須恵器 杯蓋	同様ナデ、へつ記号 同様ナデ	同様ナデ	10YR6.1 肌灰	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	152	4.5	-	-	4.8	へつ記号あり
347	Ⅲ区	Sh306	上層	須恵器 杯身	同様ナデ	同様ナデ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	粗・少	102	-	-	-	1.8	
348	Ⅲ区	Sh306	下層	須恵器 杯身	同様ナデ	同様ナデ	10YR6.1 肌灰	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	130	3.8	-	-	2.8	ロクロ右回転
349	Ⅲ区	Sh306	第1層、 上層、 下層	小皿& 底蓋	指押え後ナデ	ナデ・指押え	5YR6.6 黄	7.5YR7.6 黄	中・並	-	-	-	-	-	-	4.2	-	4.8	
350	Ⅲ区	Sh306	上層	須恵器 甕	摩滅	肌子ナデ(摩滅)	10YR7.4 肌子ナデ(摩滅)	10YR7.4 肌子ナデ(摩滅)	中・並	重・少	-	-	-	164	-	-	-	1.8	
351	Ⅲ区	Sh306	上層	須恵器 甕	肌子ナデ、ハケ目、 摩滅	肌子ナデ、 ヘラケズリ、 摩滅	7.5YR7.4 に赤い層 10YR7.3 に赤い層	10YR7.3 肌子ナデ	中・多	中・多	粗・少	-	-	196	-	-	-	1.8	
352	Ⅲ区	Sh306	上層	須恵器 甕	ナデ・摩滅	肌子ナデ・指押え	7.5YR6.4 に赤い層 10YR3.2 肌灰	7.5YR7.6 黄	中・並	中・並	-	-	-	135	-	-	-	2.8	
353	Ⅲ区	Sh307	上層	須恵器 甕	摩滅	摩滅	7.5YR7.6 黄	7.5YR7.6 黄	粗・少	中・並	-	-	-	121	5.3	-	-	7.8	
354	Ⅲ区	Sh307	上層	須恵器 高坏	摩滅、透かし3方	摩滅、透かし3方	2.5YR7.6 黄	10YR7.1 灰白	粗・並	-	-	-	-	121	-	-	-	2.8	
355	Ⅲ区	Sh309	上層	須恵器 高坏	摩滅	摩滅	5YR7.6 黄	5YR7.6 黄	粗・並	中・多	-	-	-	-	-	141	-	3.8	
356	Ⅲ区	Sh307	上層	須恵器 甕	肌子ナデ	肌子ナデ	7.5YR6.4 に赤い層	10YR6.4 肌子ナデ	中・多	粗・並	-	-	-	200	-	-	-	2.8	
357	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 杯蓋	同様ナデ、 同様ヘラケズリ	同様ナデ	N7/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	中・多	145	4.3	-	-	7.8	ロクロ右回転
358	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 杯蓋	同様ナデ、 同様ヘラケズリ	同様ナデ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・多	136	4.2	-	-	4.8	ロクロ右回転
359	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 杯身	同様ナデ	同様ナデ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	128	-	-	-	2.8	
360	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 杯身	同様ヘラケズリ	同様ナデ	N6/灰	7.5Y6.1 灰	-	-	-	-	粗・多	136	4.8	-	-	5.8	ロクロ右回転
361	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 提瓶	同様ナデ・ナデ	同様ナデ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	80	-	-	-	2.6	
362	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 提瓶	同様ナデ	同様ナデ	N6/灰	N5/灰	-	-	-	-	粗・少	62	-	-	-	2.8	
363	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 高坏	透かし・同様ナデ	同様ナデ	N7/灰白	N6/灰	-	-	-	-	粗・少	-	8.8	-	-	1.8	
364	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 甕	磨滅・指押え・ナデ	磨滅・指押え・ナデ	7.5YR6.2 肌灰	7.5YR4.1 肌灰	中・多	-	-	-	-	-	-	67	-	5.8	
365	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 甕	肌子ナデ、 ヘラケズリ	肌子ナデ	10YR7.4 ヘラケズリ	10YR7.4 ヘラケズリ	粗・少	重・並	-	-	-	150	-	-	-	2.8	黒底あり
366	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 甕	磨滅・ハケ目	指押え	5YR7.6 黄	5YR7.6 黄	中・多	-	-	-	-	188	-	-	-	1.8	黒底あり
367	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 甕	指押え・ハケ目、 肌子ナデ	指押え・ ヘラケズリ	10YR8.3 肌黄	2.5Y8.2 灰白	粗・多	中・並	-	-	-	169	26.8	-	-	7.8	胴部下半2/3 の範囲に黒底 着色あり。
368	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 甕	肌子ナデ、 肌子ナデ(摩滅)	肌子ナデ、 ヘラケズリ	10YR7.3 肌子ナデ(摩滅)	10YR7.3 肌子ナデ(摩滅)	粗・並	重・並	-	-	-	246	21.1	-	-	5.8	黒底あり
369	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 甕	ナデ・ハケ目、 指押え・摩滅	ナデ・ ヘラケズリ、 指押え・摩滅	5YR7.6 黄	5YR7.6 黄	粗・多	-	-	-	-	223	22.1	65	-	2.8	把手長 4.0
370	Ⅲ区	Sh308	上層	須恵器 甕	指押え	同様ナデ	10YR8.3 肌黄	10YR8.2 灰白	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8	
375	Ⅲ区	Sh309	上層	須恵器 杯蓋	同様ナデ、 自然粘付着	同様ナデ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	粗・少	122	-	-	-	1.8	
376	Ⅲ区	Sh309	上層	須恵器 杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	中・少	-	-	-	-	1.8	

国史 史跡 史蹟 史跡 史蹟	種別	器種	種類	調査(外)	調査(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	石質 表出	非色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	残存 率	備考	
377	47	Ⅲ区	ShA309	須恵器	杯身	同様ナデ	調整ナデ 同様ヘラケズリ	同様ナデ 同様ヘラケズリ	5X7/1 灰白	23Y7/1 灰白	-	中・少	110	4.8	44	-	3.8	ロケ口右回転 内面見込みにて 当て取底	
378	48	Ⅲ区	ShA309	須恵器	杯身	同様ナデ	同様ナデ 同様ヘラケズリ	同様ナデ 同様ヘラケズリ	5Y7/1 灰白	5Y6/1 灰	-	中・多	134	3.6	84	-	3.8		
379		Ⅲ区	ShA309	須恵器	杯身	同様ナデ	同様ナデ・同様1条 同様ナデ	同様ナデ 同様ヘラケズリ	N5/ 灰	N4/ 灰	-	中・少	11.6	-	-	-	1.8		
380		Ⅲ区	ShA309	須恵器	匙	同様ナデ	同様ナデ・流紋文	同様ナデ	23YR4.2 灰赤	23YR5.2 灰赤	-	中・少	11.1	-	-	-	1.8		
381		Ⅲ区	ShA309	須恵器	有蓋高杯	同様ナデ	同様ナデ 方寸目・透かし3方	同様ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	-	中・少	-	-	50	-	2.8		
384		Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	73Y4/1 灰	N6/ 灰	-	中・少	129	4.7	-	-	1.8	ロケ口右回転	
385	48	Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰	-	中・少	14.7	4.5	-	-	7.8	ロケ口右回転	
386		Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/ 灰	N5/ 灰	-	中・少	13.4	4.4	-	-	1.8		
387		Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	-	中・少	14.3	4.2	-	-	1.8	ロケ口右回転	
388		Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	-	中・少	14.8	-	-	-	2.8		
389		Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	-	中・少	14.0	-	-	-	1.8		
390		Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ 同様ヘラケズリ	同様ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰	-	中・少	13.6	-	-	-	1.8		
391		Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	中・少	15.3	-	-	-	1.8		
392		Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	中・多	14.0	-	-	-	1.8		
393		Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯身	同様ナデ	同様ナデ 同様ヘラケズリ	同様ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	中・少	13.6	-	-	-	1.8		
394		Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯身	同様ナデ	同様ナデ 同様ヘラケズリ	同様ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	中・少	13.6	-	-	-	1.8		
395		Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯身	同様ナデ	同様ナデ 同様ヘラケズリ	同様ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	中・少	12.1	4.1	-	-	2.8	ロケ口右回転	
396		Ⅲ区	ShA310	須恵器	杯身	同様ナデ	同様ナデ 同様ヘラケズリ	同様ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	中・少	13.9	-	-	-	1.8		
397		Ⅲ区	ShA310	須恵器	蓋	方寸目・同様ナデ 同様ヘラケズリ	同様ナデ 同様ヘラケズリ	同様ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	-	中・少	-	-	-	-	2.8	ロケ口右回転	
398		Ⅲ区	ShA310	須恵器	高杯	同様ナデ	同様ナデ・流紋文	同様ナデ	N4/ 灰	N7/ 灰白	-	中・多	-	-	-	-	1.8		
399		Ⅲ区	ShA310	土師器	甕	ヨコナデ・ハケ目 同様ナデ	同様ナデ 同様ナデ	同様ナデ	73YR8.6 黄褐色	73YR8.4 黄褐色	-	中・少	16.2	-	-	-	1.8		
401		Ⅲ区	ShA311	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	中・少	12.2	-	-	-	1.8	蓋のみあり	
402		Ⅲ区	ShA312	土師器	甕	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	73YR7.4 に赤・帯 73YR7.4 に赤・帯	73YR7.4 に赤・帯	-	中・多	18.5	-	-	-	1.8		
403	47	Ⅲ区	ShA312	土師器	甕	ナデ・ハケ目	同様ナデ 同様ナデ	同様ナデ	73YR5.4 に赤・帯	73YR5.4 に赤・帯	-	中・多	-	-	-	-	1.8	破片	
404		Ⅲ区	ShA312	土師器	甕	ハケ目・指押え	同様ナデ 同様ナデ	同様ナデ	10YR7.3 に赤い黄褐色	10YR7.3 に赤い黄褐色	-	中・多	-	200	-	-	-	1.8	破片
405	48	1区	ShB101	須恵器	蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	中・多	14.5	4.6	-	-	4.8	ロケ口右回転	
406		1区	ShB101	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	-	中・少	15.3	-	-	-	3.8		
407	48	1区	ShB101	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	73Y7/1 灰白	N6/ 灰	-	中・少	14.0	3.8	-	-	4.8	ロケ口右回転	

標本分類番号	調査区名	遺構名	層位	種類	器種	調査(外)	調査(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	石炭灰・炭石	赤色粒	向灰石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	長さ(cm)	保存率	備考
408	1区	Sfb001		須恵器	杯蓋	同標ナデ・ヘラケズリ	同標ナデ	N5/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	146	-	-	-	1.8	ロクロ右回転
409	1区	Sfb001		須恵器	杯蓋	同標ナデ・ヘラケズリ	同標ナデ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	細・多	140	-	-	-	1.8	ロクロ右回転
410	1区	Sfb001		須恵器	杯蓋	同標ナデ・ヘラケズリ	同標ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	152	-	-	-	1.8	
411	48	1区	Sfb001	須恵器	杯身	同標ナデ・ヘラケズリ	同標ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・多	125	34	-	-	4.8	ロクロ右回転
412	48	1区	Sfb001	須恵器	有蓋高杯	同標ナデ・ヘラケズリ	同標ナデ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	-	-	-	-	中・少	122	82	109	-	7.8	ロクロ右回転
413	1区	Sfb001		須恵器	蓋	同標ナデ・ヘラケズリ	同標ナデ	25Y6-1新灰	25Y5-1新灰	-	-	-	-	細・少	208	-	-	-	1.8	
414	1区	Sfb001		土師器	蓋	ヨコナデ・樽蓋	ヨコナデ	7.5YR6.4に赤・橙	7.5YR4.1黒灰	細・中・多	-	-	-	-	158	-	-	-		破片
415	1区	Sfb001		土師器	蓋	ヨコナデ・樽蓋	ヨコナデ	7.5YR7.4に赤・橙	10YR5.4黒ナデ	中・中・多	-	-	-	-	164	-	-	-	2.8	
416	1区	Sfb001		土師器	蓋	ヨコナデ・樽蓋	ヨコナデ	25Y7-2灰黄	25Y7-2灰黄	細・中	-	-	-	-	-	-	-	-		破片
417	1区	Sfb001		土師器	瓶	ハナ・樽蓋・ナデ	ケズリ・ナデ	10YR8-3灰黄	10YR8-3灰黄	中・中	-	-	-	-	-	-	-	-	把長8.8	
418	1区	Sfb001		土師器	瓶	指押え	指押え	10YR8-2灰白	5YR7-6黄	中・中	-	-	-	-	-	-	-	-	把長8.8	
419	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR8-2灰白	2.10YR8-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.9	幅14	厚14	-	5.8	
420	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR7-2灰白	10YR8-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.1	幅14	厚13	-	8.8	
421	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR8-2灰白	10YR8-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.6	幅13	厚13	-	8.8	
422	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	2.5YR-2灰白	2.5YR-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.7	幅13	厚13	-	8.8	
423	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR8-2灰白	10YR8-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.1	幅12	厚11	-	8.8	
424	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR8-2灰白	10YR8-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.9	幅13	厚10	-	8.8	
425	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	7.5YR8-3灰黄	7.5YR8-3灰黄	細・少	-	-	-	-	長7.8	幅11	厚12	-	8.8	外面赤色化粧土黄帯
426	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	2.5YR7-6黄	2.5YR7-6黄	細・少	-	-	-	-	長7.3	幅13	厚12	-	8.8	
427	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	7.5YR8-2灰白	7.5YR8-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.8	幅13	厚12	-	8.8	
428	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	2.5YR-2灰白	2.5YR-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.7	幅13	厚13	-	8.8	
429	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	2.5YR-2灰白	2.5YR-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.8	幅14	厚13	-	8.8	
430	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	7.5YR8-3灰黄	7.5YR8-3灰黄	細・少	-	-	-	-	長7.1	幅13	厚12	-	8.8	
431	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR5-1黒灰	10YR5-1黒灰	細・少	-	-	-	-	長7.3	幅15	厚17	-	8.8	底面に凹みあり
432	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR8-2灰白	10YR8-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.5	幅15	厚12	-	8.8	
433	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR7-3に赤い黄帯	10YR7-3に赤い黄帯	細・少	-	-	-	-	長6.8	幅15	厚13	-	8.8	
434	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR7-2灰白	10YR7-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.5	幅12	厚12	-	8.8	
435	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR7-2灰白	10YR7-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.1	幅14	厚12	-	8.8	
436	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR8-2灰白	10YR8-2灰白	細・少	-	-	-	-	長7.3	幅14	厚13	-	8.8	
437	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR8-3灰黄	10YR8-3灰黄	細・少	-	-	-	-	長6.9	幅13	厚14	-	8.8	
438	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR8-2灰白	10YR8-2灰白	細・少	-	-	-	-	長6.5	幅12	厚14	-	8.8	
439	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	2.5YR-2灰黄	2.5YR-2灰黄	細・少	-	-	-	-	長6.5	幅13	厚12	-	8.8	
440	1区	Sfb001		土師器	楕状土師ナデ	指押え	指押え	10YR4.2灰黄	10YR4.2灰黄	細・少	-	-	-	-	長4.5	幅18	厚16	-	8.8	

原文/国訳 番号/氏名	調査 番号/氏名	遺構名	層位	種類	器種	調整(外)	調整(内)	色調(外)・釉	色調(内)・粘土	石灰 灰白	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口徑 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	残存 率
441	1区 Sfb01	土師器	土師器	棒状土師				10YR7/2 にぶい黄褐色							長41	幅13	厚1.2	-	8.8
442	1区 Sfb01	土師器	棒状土師	ナデ				7.5YR5.1黄褐色							長33	幅16	厚1.5	-	8.8
443	1区 Sfb01	土師器	棒状土師	指ナデ				10YR8.3黄褐色							長39	幅13	厚1.4	-	2.8
444	1区 Sfb01	土師器	棒状土師					10YR3.1黄褐色							長33	幅18	厚1.7	-	8.8
445	48 1区 Sfb02	須恵器	杯蓋	同転ナデ 同転ハケラケズリ	同転ナデ			N7/灰白	7.5Y7/1灰白						幅多	139	44	-	5.8
446	1区 Sfb02	須恵器	杯蓋	同転ナデ	同転ナデ			N6/灰	N6/灰						幅少	140	-	-	2.8
447	1区 Sfb02	須恵器	杯身	同転ナデ	同転ナデ			N6/灰	N6/灰						幅少	124	-	-	1.8
448	1区 Sfb02	土師器	甕	ハケ・箱蓋				7.5YR7.2明褐色 にぶい黄褐色	10YR7.2 にぶい黄褐色							164	-	-	5.8
451	1区 Sfb04	土師器	杯蓋	同転ナデ 同転ハケラケズリ	同転ナデ			N5/灰	N6/灰						幅少	132	-	-	1.8
452	1区 Sfb04	土師器	甕	ハケ・箱蓋・ナデ ヨコナデ	ハケ・箱蓋・ナデ ヨコナデ			2.5YR5.6明赤褐色	2.5YR5.6明赤褐色						幅多	182	-	-	1.8
453	1区 Sfb04	土師器	甕	ヨコナデ・板ナデ	ヨコナデ・板ナデ			2.5YR5.2暗赤褐色	2.5YR5.2暗赤褐色						幅多	160	-	-	2.8
454	1区 Sfb05	須恵器	杯蓋	同転ナデ	同転ナデ			5Y7/1灰白	N6/灰						幅少	146	-	-	2.8
455	1区 Sfb05	須恵器	杯蓋	同転ナデ	同転ナデ			2.5Y7/3浅黄	N6/灰						幅多	146	-	-	1.8
456	1区 Sfb05	須恵器	杯蓋	同転ナデ	同転ナデ			N6/灰	N6/灰						幅少	-	-	-	1.8
457	1区 Sfb05	須恵器	杯蓋	同転ナデ	同転ナデ			N6/灰	N6/灰						幅少	144	-	-	1.8
458	1区 Sfb05	土師器	杯蓋	同転ナデ	同転ナデ			2.5YR8.1灰白	10YR8.2浅黄褐色						幅少	170	-	-	1.8
459	1区 Sfb05	須恵器	杯蓋	同転ナデ	同転ナデ			N6/灰	N7/灰白						幅多	178	-	-	8.8
460	1区 Sfb05	須恵器	杯蓋	同転ナデ	同転ナデ			5Y7/1灰白	5Y7/1灰白						幅多	-	-	-	8.8
461	1区 Sfb05	須恵器	杯身	同転ナデ	同転ナデ			N6/灰	N6/灰						幅少	126	-	-	1.8
462	1区 Sfb05	須恵器	杯身	同転ナデ	同転ナデ			2.5Y6.1黄灰	2.5Y6.1黄灰						幅少	151	-	-	2.8
463	1区 Sfb05	須恵器	杯身	同転ナデ	同転ナデ			N6/灰	N7/灰白						幅少	121	-	-	1.8
464	1区 Sfb05	須恵器	杯身	同転ナデ	同転ナデ			5YR8.1灰白	2.5YR6.2灰白						幅多	138	-	-	1.8
465	1区 Sfb05	須恵器	高杯	同転ナデ	同転ナデ			N5/灰	N5/灰						幅多	139	-	-	1.8
466	1区 Sfb05	土師器	甕	箱蓋	箱蓋			2.5YR6.2灰白	中・並						幅多	212	-	-	1.8
467	48 1区 Sfb06	平面精査	須恵器	蓋	同転ナデ			7.5YR8.1灰白	5YR8.1灰白						幅多	202	-	-	2.8
468	1区 Sfb06	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ			7.5Y6.1灰白	7.5Y6.1灰白						幅少	118	-	-	1.8
469	49 1区 Sfb06	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ			N7/灰白	N7/灰白						幅多	106	4.2	-	6.8
470	49 1区 Sfb06	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ			N7/灰白	N7/灰白						幅多	86	-	-	7.8
471	1区 Sfb06	上面精査	須恵器	杯身	同転ナデ			N6/灰	N6/灰						幅少	-	-	-	1.8
472	49 1区 Sfb06	須恵器	甕	指ナデ・ヨコナデ ハケナデ	指ナデ・ヨコナデ ハケナデ			10YR6.2 にぶい黄褐色	10YR6.2 にぶい黄褐色						幅多	144	-	-	3.8
473	1区 Sfb06	須恵器	土師器	甕	箱蓋			5YR7.8橙	5YR7.8橙						幅多	-	-	-	1.8
474	1区 Sfb06	須恵器	棒状土師	指ナデ	指ナデ			10YR7.3 にぶい黄褐色	10YR7.3 にぶい黄褐色						幅多	幅19	厚20	-	8.8

標名・図例番号	調査区名	遺構名	層位	種類	形態	調査(外)	調査(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	石蓋・裏石	赤色粒	向灰石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	長さ(cm)	残存率
475	Ⅰ区	SHb108	東壁	須恵器	杯身	別帳ナブ・ 別帳ハラクズリ	別帳ナブ	25Y6.1黄灰	25Y6.1黄灰	-	-	-	-	細・多	132	44	40	-	1.8
476	Ⅰ区	SHb108	東壁	須恵器	杯身	別帳ナブ	別帳ナブ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8
477	Ⅰ区	SHb109	上壁精査	須恵器	杯身	別帳ナブ・ 別帳ハラクズリ	別帳ナブ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	112	-	-	-	1.8
478	49	Ⅰ区	SHb109	床土上	須恵器	別帳ナブ	別帳ナブ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・多	107	37	-	-	8.8
479	Ⅱ区	SHb201		土師器	甕	ヨコナブ・指押スリ ナブ・指押スリ	ヨコナブ・板ナブ	10YR8.3黄褐色	10YR8.3黄褐色	中・並	-	-	-	-	21.4	-	-	-	2.8
480	Ⅱ区	SHb201		土師器	甕	ヨコナブ・指押スリ ナブ・指押スリ	ヨコナブ・板ナブ	5YR6.6橙	5YR6.6橙	細・多	-	-	-	-	14.0	-	-	-	破片
481	Ⅱ区	SHb201	床土上	土師器	甕	ヨコナブ・黄緑	ヨコナブ	10YR7.4に赤い黄緑	10YR7.4に赤い黄緑	中・並	中・並	-	-	-	15.0	-	-	-	1.8
482	Ⅱ区	SHb202	下層	須恵器	杯蓋	別帳ナブ	別帳ナブ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	126	-	-	-	1.8
483	Ⅱ区	SHb202		須恵器	杯蓋	別帳ナブ	別帳ナブ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	132	-	-	-	1.8
484	Ⅱ区	SHb202		須恵器	杯蓋	別帳ナブ	別帳ナブ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	8.8
485	Ⅱ区	SHb202		須恵器	杯身	別帳ナブ	別帳ナブ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・多	11.0	-	-	-	破片
486	Ⅱ区	SHb202		須恵器	杯身	別帳ナブ	別帳ナブ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	-	-	-	-	1.8
487	49	Ⅱ区	SHb202	下層	須恵器	別帳ナブ・ 別帳ハラクズリ	別帳ナブ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	10.4	5.0	-	-	5.8
488	Ⅱ区	SHb202		須恵器	杯身	別帳ナブ	別帳ナブ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・多	12.0	-	-	-	3.8
489	Ⅱ区	SHb202		須恵器	杯蓋	別帳ナブ	別帳ナブ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	9.6
490	Ⅱ区	SHb202		須恵器	杯蓋	別帳ナブ	別帳ナブ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	13.0	-	-	-	2.8
491	Ⅱ区	SHb202	下層	須恵器	高坏	別帳ナブ・ 方正目・透かし4方・ 別帳ナブ	別帳ナブ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8
492	Ⅱ区	SHb202	下層	土師器	甕	ヨコナブ・黄緑	ヨコナブ・ナブ	7.5YR7.6橙	7.5YR7.6橙	中・並	中・少	-	-	-	16.2	-	-	-	2.8
493	Ⅱ区	SHb202		土師器	甕	ハク目・黄緑	破滅	7.5YR6.4に赤い黄緑	7.5YR6.4に赤い黄緑	中・並	-	-	-	15.8	-	-	-	-	1.8
494	49	Ⅱ区	SHb202	外生土器	鉢	指押スリ・ナブ	ハク目・板ナブ	10YR5.2灰黄緑	10YR6.6黄緑に赤い黄緑	細・多	-	-	-	-	11.1	6.6	-	-	4.8
495	Ⅱ区	SHb202		土師器	甕	ヨコナブ・黄緑	ヨコナブ・板ナブ	10YR6.4に赤い黄緑	10YR6.6黄緑	中・並	中・少	-	-	-	17.6	-	-	-	3.8
496	49	Ⅱ区	SHb202	土師器	甕	ヨコナブ・ハク目・ 指押スリ・ナブ	ヨコナブ・ハク目・ 指押スリ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	細・多	-	-	-	-	23.8	-	-	-	3.8
498	Ⅱ区	SHb203	器体下 灰土上	須恵器	杯蓋	別帳ナブ	別帳ナブ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	8.8
499	Ⅱ区	SHb203		須恵器	杯身	別帳ナブ・ 別帳ハラクズリ	別帳ナブ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	12.2	-	-	-	1.8
500	Ⅱ区	SHb203		須恵器	杯身	別帳ナブ	別帳ナブ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・多	18.4	-	-	-	破片
501	Ⅱ区	SHb203		須恵器	杯身	別帳ナブ	別帳ナブ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	12.8	-	-	-	1.8
502	Ⅱ区	SHb203		須恵器	杯身	別帳ナブ	別帳ナブ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	12.5	-	-	-	2.8
503	Ⅱ区	SHb203		須恵器	杯身	別帳ナブ	別帳ナブ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	12.0	-	-	-	2.8
504	Ⅱ区	SHb203		須恵器	杯身	別帳ナブ	別帳ナブ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8

地区	調査年度	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整(外)	調整(内)	色調(外)・種	色調(内)・粘土	石灰 灰白	赤色粒 角閃石	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	保存 状況
505	50	Ⅱ区	SHB033	須恵器	甕	同様ナデ・尊乳1個 同様ナデ・指押え	同様ナデ・紋目 ハケナズリ・指押え	同様ナデ・紋目 ハケナズリ・指押え	75Y7/1灰白 75YR6/4に赤・黄 5YR6/3に赤・黄	75Y7/1灰白 5YR6/6	中・少	中・多 中・少	中・少	134	141	38	-	7・8 4・8 黒底あり
506	50	Ⅱ区	SHB033	土師器	甕	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	23Y5/1黄灰	10YR6/3 に赤・黄	中・多	-	-	174	-	-	-	破片
508	50	Ⅱ区	SHB034	土師器	甕	同様ナデ	同様ナデ・ハケ目	同様ナデ・指押え	5YR5.6明赤黄	5YR5.6明赤黄	中・多	-	-	140	-	-	-	1・8
509	50	Ⅱ区	SHB034	土師器	甕	同様ナデ・ハケ目・ 指押え	同様ナデ・ハケ目・ 指押え	同様ナデ・ハケ目・ 指押え	75YR7/4に赤・黄	75YR6/4に赤・黄	中・多	-	-	150	-	-	-	5・8
511	50	Ⅱ区	SHB034	土師器	甕	指押え・ヨコナデ・ ハケ目	指押え・ヨコナデ・ ハケ目	同様ナデ・ナデ	10YR8/3成黄	10YR8.2灰白	中・少	-	-	144	-	-	-	1・8
512	50	Ⅱ区	SHB034	土師器	高坏	指押え・ヨコナデ	指押え・ヨコナデ	同様ナデ・華威	10YR8.4成黄	10YR8.3成黄	中・少	-	-	196	-	-	-	2・8
513	50	Ⅱ区	SHB034	土師器	高坏	指押え・透かし3方	指押え・透かし3方	華威・紋目	5YR7.8成	5YR7.8成	中・少	-	-	-	-	-	-	-
514	50	Ⅱ区	SHB034	土師器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	指押え	10YR7/3 に赤・黄	10YR7/4 に赤・黄	中・中	-	-	98	-	-	-	2・8
515	50	Ⅱ区	SHB034	土師器	鉢	華威	華威	華威	75YR7/6成	5YR7/6成	中・少	-	-	114	49	56	-	5・8
516	50	Ⅱ区	SHB034	土師器	鉢	華威	同様ナデ	同様ナデ	25YR6/6成	25YR6/6成	中・少	-	-	66	-	-	-	3・8
518	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	144	44	-	-	7・8 ロケ口右側
519	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	5Y7/1灰白	N7/灰白	-	-	-	146	-	-	-	2・8 ロケ口右側
520	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	146	-	-	-	3・8 ロケ口右側
521	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	138	36	-	-	4・8 ロケ口右側
522	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	148	-	-	-	1・8
523	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N4/灰	N5/灰	-	-	-	148	-	-	-	1・8
524	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N5/灰	N6/灰	-	-	-	149	-	-	-	1・8
525	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	150	-	-	-	1・8
526	50	Ⅱ区	SHB035	土師器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N5/灰	N6/灰	-	-	-	154	-	-	-	1・8
527	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	138	32	-	-	2・8 ロケ口右側
528	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	144	-	-	-	1・8
529	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	134	-	-	-	1・8
530	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N5/灰	N7/灰白	-	-	-	122	-	-	-	1・8
531	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N7/灰白	N6/灰	-	-	-	122	-	-	-	1・8
532	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	142	-	-	-	1・8
533	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯蓋	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	150	-	-	-	1・8
534	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯身	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	120	42	-	-	4・8 ロケ口右側
535	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯身	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N7/灰白	N6/灰	-	-	-	122	39	-	-	2・8 ロケ口右側
536	50	Ⅱ区	SHB035	須恵器	杯身	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	130	-	-	-	1・8

標本番号	調査区名	調査名	層位	種類	器種	調査(外)	調査(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	石灰 炭石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	口径 (cm)	長さ (cm)	保存 率	備考
537	Ⅱ区	SHb205	上層	須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	117	-	-	-	1.8	
538	Ⅱ区	SHb205	上層	須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	125	-	-	-	1.8	
539	Ⅱ区	SHb205		須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・多	132	4.1	6.3	-	8.8	ロケ口右側
540	Ⅱ区	SHb205	上層	須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	124	-	-	-	3.8	ロケ口右側
541	Ⅱ区	SHb205		須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字・ 雲滅	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	-	-	-	-	細・多	119	4.6	3.8	-	3.8	ロケ口右側
542	Ⅱ区	SHb205		須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細	123	-	-	-	1.8	
543	Ⅱ区	SHb205		須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	25Y6/1黄灰	25Y6/1黄灰	-	-	-	-	中・少	128	4.3	7.5	-	7.8	
544	Ⅱ区	SHb205		須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	中・少	124	4.3	6.2	-	2.8	ロケ口右側
545	Ⅱ区	SHb205		須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	10YR7/1灰白	N6/灰	-	-	-	-	中・少	128	-	-	-	1.8	
546	Ⅱ区	SHb205	上層	須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N6/灰	N8/灰白	-	-	-	-	中・少	124	-	-	-	2.8	ロケ口右側
547	Ⅱ区	SHb205		須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	124	-	-	-	1.8	
548	Ⅱ区	SHb205		須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細	142	-	-	-	1.8	
549	Ⅱ区	SHb205		須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	細・多	144	3.3	-	-	1.8	
550	Ⅱ区	SHb205	上層	須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・多	125	3.8	-	-	4.8	
551	Ⅱ区	SHb205	上層	須恵器	杯身	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	5Y7/1灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・多	114	-	-	-	1.8	
552	Ⅱ区	SHb205		須恵器	罎	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	4.8	
553	Ⅱ区	SHb205		須恵器	罎	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	2.8	
554	Ⅱ区	SHb205		須恵器	甕	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	2.8	破片
555	Ⅱ区	SHb205		須恵器	高坏	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	5Y6/1灰	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	70	-	-	-	2.8	
556	Ⅱ区	SHb205		須恵器	甕	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字	N5/灰	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	168	-	-	-	1.8	
557	Ⅱ区	SHb205		須恵器	甕	同様ナ字・ 同様ハケナズリ	同様ナ字・ 青緑文 に赤い垂馬	25YR5/3 に赤い垂馬	25YR6/4に赤い 垂馬	-	-	-	-	細・多	240	-	-	-	1.8	
558	Ⅱ区	SHb205		土師器	甕	ヨコナ字・ 指押え	ヨコナ字・ 指押え	10YR8/3成黄緑	10YR8/3成黄緑	中・少	細・少	-	-	-	111	14.0	-	-	6.8	
559	Ⅱ区	SHb205		土師器	甕	ヨコナ字・ 指押え	ヨコナ字・ 指押え	7.5YR6.4に赤い 垂馬	25YR2.2暗灰	中・多	中・多	-	-	-	145	-	-	-	1.8	
560	Ⅱ区	SHb205		土師器	甕	ヨコナ字・ 指押え	ヨコナ字・ 指押え	10YR8.4成黄緑	10YR8.2灰白	中・並	中・多	-	-	中・並	360	-	-	-	6.8	
561	Ⅱ区	SHb205		土師器	甕	ヨコナ字・ 指押え	ヨコナ字・ 指押え	7.5YR7.4に赤い 垂馬	5YR7.6成 黄緑	中・多	細・並	-	-	中・並	180	-	-	-	1.8	
562	Ⅱ区	SHb205		土師器	甕	ヨコナ字・ 指押え	ヨコナ字・ 指押え	10YR8.4成黄緑	10YR8.4成黄緑	中・多	中・多	-	-	中・並	212	-	-	-	1.8	
563	Ⅱ区	SHb205		土師器	甕	ヨコナ字	ヨコナ字	7.5YR6.3に赤い 垂馬	10YR7.3 に赤い垂馬	中・並	-	-	-	細・少	160	-	-	-	2.8	
564	Ⅱ区	SHb205		土師器	甕	ヨコナ字・ 指押え	ヨコナ字	5YR6.6成 黄緑	5YR6.6成 黄緑	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	
565	Ⅱ区	SHb205		土師器	甕	指押え・ ハケ目	指押え	10YR5.2成黄緑	10YR7.2 に赤い垂馬	細・多	-	-	-	中・並	126	-	-	-	7.8	
566	Ⅱ区	SHb205		土師器	甕	ナ字・ 指押え	ナ字・ 指押え	10YR7.3に赤い 垂馬	7.5YR8.4成黄緑	中・並	中・並	-	-	-	-	-	-	-	8.8	

国 道 沿 道 の 地 区 名 番 号	遺 跡 名	遺 跡 の 種 別	種 類	器 種	調 査 の 外 情 況	調 査 の 内 情 況	色 調 の 外 ・ 種 別	色 調 の 内 ・ 粘 土 質 別	石 瓦 表 出	赤 色 粘 土 質 の 有 無	角 筒 石	帯 石	砂 粒	口 縁 高 さ (cm)	器 高 さ (cm)	底 径 高 さ (cm)	長 さ (cm)	残 存 率	
567	Ⅱ区 SHB205	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	10YR7.0 にふい青	10YR7.0 にふい青	中・少	中・少	-	-	-	-	-	65	-	2.8	-	
568	51 Ⅱ区 SHB205	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	10YR6.3 にふい青	10YR6.3 にふい青	中・少	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8	-
569	51 Ⅱ区 SHB205	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	25Y7.2灰黄	25Y7.2灰黄	中・並	中・並	-	-	-	-	65	-	-	-	7.8	-
570	52 Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	7.5YR5.4にふい青	25Y7.2灰黄	中・並	中・並	-	-	-	-	152	-	-	-	5.8	-
571	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	10YR7.3にふい青	10YR7.3にふい青	中・少	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8	-
572	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	7.5YR6.6	10YR7.4にふい青	中・少	中・少	-	-	-	-	222	-	-	-	1.8	-
573	52 Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	7.5YR6.6	7.5YR6.4にふい青	中・多	中・多	-	-	-	-	140	-	-	-	7.8	-
574	54 Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	7.5YR8.4にふい青	7.5YR5.4にふい青	中・並	中・並	-	-	-	-	144	-	-	-	3.8	-
575	52 Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	10YR7.3にふい青	10YR7.3にふい青	中・少	中・少	-	-	-	-	165	-	-	-	1.8	-
576	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	7.5YR7.4にふい青	10YR7.3にふい青	中・中	中・中	-	-	-	-	164	-	-	-	破片	-
577	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	10YR7.3にふい青	10YR7.3にふい青	中・並	中・並	-	-	-	-	168	-	-	-	1.8	-
578	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	2.5Y3.4黒褐	10YR8.2灰黄	中・多	中・多	-	-	-	-	131	-	-	-	1.8	-
579	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	7.5YR6.4にふい青	7.5YR7.4にふい青	中・並	中・並	-	-	-	-	146	-	-	-	1.8	-
580	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	10YR7.3にふい青	5YR6.6	中・並	中・並	-	-	-	-	118	-	-	-	2.8	-
581	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	2.5Y7.2灰黄	2.5Y7.2灰黄	中・並	中・並	-	-	-	-	126	-	-	-	1.8	-
582	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	5YR7.6	7.5YR6.4にふい青	中・並	中・並	-	-	-	-	148	-	-	-	1.8	-
583	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	2.5Y8.2灰白	10YR7.3にふい青	中・少	中・少	-	-	-	-	142	-	-	-	1.8	-
584	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	2.5Y8.2灰黄	10YR7.3にふい青	中・少	中・少	-	-	-	-	164	-	-	-	1.8	-
585	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	10YR7.3にふい青	10YR7.3にふい青	中・並	中・並	-	-	-	-	124	-	-	-	1.8	-
586	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	10YR7.3にふい青	7.5YR6.4にふい青	中・並	中・並	-	-	-	-	106	-	-	-	3.8	-
587	52 Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	2.5Y7.2灰黄	2.5Y7.2灰黄	中・並	中・並	-	-	-	-	116	-	-	-	1.8	-
588	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	10YR7.3にふい青	10YR7.3にふい青	中・少	中・少	-	-	-	-	114	-	-	-	1.8	-
589	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	10YR7.3にふい青	10YR7.3にふい青	中・並	中・並	-	-	-	-	114	-	-	-	1.8	-
590	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	2.5Y8.4灰黄	2.5Y8.3灰黄	中・並	中・並	-	-	-	-	114	120	1.6	-	7.8	-
591	52 Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	2.5Y7.2灰黄	2.5Y7.2灰黄	中・並	中・並	-	-	-	-	102	120	-	-	4.8	-
592	52 Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	10YR7.2にふい青	10YR7.2にふい青	中・並	中・並	-	-	-	-	118	-	-	-	1.8	-
593	Ⅱ区 SHB206	土製品	土製土器	支脚	ナテ、指押え	10YR7.2にふい青	10YR7.2にふい青	中・並	中・並	-	-	-	-	118	-	-	-	1.8	-

標本番号	遺跡名	遺構名	層位	種類	調査(外)	調査(内)	色調(内・外)	色調(内・胎土)	石灰質	赤色粒	向灰石	雲母	砂粒	口縁	器高	底径	長さ	保存	備考
504	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	甕	ヨコナテ	ヨコナテ	75YR6.4に赤い帯にぶい青股	5YR6.6青	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
505	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	甕	ヨコナテ・ハケ	ヨコナテ・ハケ	10YR7.3にぶい青股	10YR7.3にぶい青股	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
506	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	甕	タタキ	ナテ	10YR7.2にぶい青股	10YR8.2灰白	中・少	-	-	-	-	6.2	-	-	-	-	1.8
507	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	甕	ハケ	ケズリ	75YR7.6青	75YR7.4に赤い帯	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.8
508	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	甕	タタキ・ナテ	ナテ	75YR6.4に赤い帯	25YR5.6黒赤褐	中・並	-	-	-	-	3.4	-	-	-	-	7.8
509	52	SHB206	弥生土器	鉢	ハケ目・ハケ目・ナテ	ヨコナテ・ナテ	10YR8.4浅黄股	75YR7.6青	細・少	細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
600	1区	急倉塚b1区	弥生土器	大鉢	ハケ目・ハケ目・タタキ・ハケ目・ナテ	ナテ	10YR8.3浅黄股	5Y4.1灰	中・並	-	-	-	-	-	10.5	-	-	-	2.8
601	52	SHB206	弥生土器	鉢	タタキ・ハケ目・ナテ	ナテ	10YR7.4にぶい青股	10YR7.3にぶい青股	粗・並	中・少	-	-	-	24.0	8.4	-	-	-	4.8
602	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	鉢	ヨコナテ・板ナテ	ヨコナテ・板ナテ	10YR8.3浅黄股	25YR2.6灰白	中・並	-	細・並	-	-	21.6	-	-	-	-	1.8
603	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	鉢	ヨコナテ・ハケ目	ナテ	10YR8.3浅黄股	10YR7.2灰白	粗・少	-	-	-	-	20.1	-	-	-	-	2.8
604	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	鉢	ハケ・柳城	ナテ	10YR8.3浅黄股	10YR7.2灰白	細・少	-	-	-	-	20.6	-	-	-	-	1.8
605	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	鉢	ヨコナテ・ハケ目・ナテ	ナテ	10YR6.3にぶい青股	10YR6.3にぶい青股	中・並	-	-	-	-	19.8	-	-	-	-	1.8
606	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	鉢	ナテ	ナテ	10YR6.2灰黄股	10YR7.3にぶい青股	細・少	-	-	-	-	20.0	-	-	-	-	1.8
607	53	SHB206	弥生土器	鉢	タタキ目・ナテ	ナテ	10YR5.2灰黄股	10YR5.2灰黄股	粗・並	中・少	-	-	-	17.0	7.1	-	-	-	6.8
608	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	鉢	ヨコナテ・板ナテ・柳城	ナテ	25Y7.2灰黄	25Y7.2灰黄	中・並	-	-	-	-	16.8	7.5	-	-	-	1.8
609	53	SHB206	弥生土器	鉢	ヨコナテ・ハケ目・ナテ	ナテ	10YR6.2灰黄股	10YR7.2にぶい青股	中・並	-	-	-	-	16.3	7.2	-	-	-	6.8
610	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	鉢	ヨコナテ・ハケ目・ナテ	ナテ	25Y7.2灰黄	25Y7.2灰黄	粗・多	-	-	-	-	15.8	7.0	4.4	-	-	4.8
611	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	鉢	ヨコナテ・板ナテ	ナテ	10YR7.2にぶい青股	10YR8.2灰白	中・並	-	-	-	-	14.6	-	-	-	-	1.8
612	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	鉢	ヨコナテ	ナテ	10YR7.3にぶい青股	10YR7.3にぶい青股	中・並	-	-	-	-	15.4	-	-	-	-	1.8
613	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	鉢	湯罌2葉・タタキ・柳城	ナテ	10YR7.3にぶい青股	10YR7.3にぶい青股	中・並	-	-	-	-	12.0	-	-	-	-	1.8
614	53	SHB206	弥生土器	鉢	ナテ	ナテ	10YR7.2灰黄	10YR8.4浅黄股	中・並	中・並	-	-	-	9.9	5.5	-	-	-	3.8
615	53	SHB206	弥生土器	碗	ヨコナテ・板ナテ	ナテ	25Y6.2灰黄	25Y7.2灰黄	中・少	-	-	-	-	9.9	4.2	2.0	-	-	5.8
616	53	SHB206	弥生土器	鉢	ナテ・タタキ目・ナテ	ナテ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	中・並	-	-	-	-	8.4	-	-	-	-	5.8
617	53	SHB206	弥生土器	鉢	ナテ	ナテ	5YR7.6青	5YR7.6青	中・多	中・並	-	-	-	10.4	3.7	2.9	-	-	3.8
618	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	鉢	ハケ目・ナテ	ナテ	25Y7.3灰黄	10YR7.3にぶい青股	粗・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8
619	Ⅱ区	SHB206	弥生土器	鉢	ハケ目・板ナテ	ナテ	25Y7.2灰黄	25Y7.3灰黄	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8
620	53	SHB206	弥生土器	高坏	ヨコナテ・ハケ目・ハケ目・ナテ	ナテ	10YR7.4にぶい青股	25YR5.6黒赤褐	粗・多	中・多	-	-	-	15.5	-	-	-	-	4.8

原文図説 番号	調査 区名	遺構名	層位	種類	器種	調整(外)	調整(内)	色調(外)・釉	色調(内)・粘土	石目 表出	非色粒	角閃石	雲母	砂粒	口徑 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	残存 率
621	Ⅲ区	SHb206	床直上	弥生土器	高坏	ナテ・拍押え	ナテ・拍押え	25YR2/2灰白	10YR8/2灰白	細・並	細・並	-	-	-	150	-	-	-	3/8
622	Ⅲ区	SHb206	床直上	弥生土器	鉢	ナテ	板ナテ・拍押え	25Y6/6に赤い黄	25Y7/3黄	中・多	中・多	-	-	-	-	-	5.5	-	2/8
623	Ⅲ区	SHb206	弥生土器	瓦	拍押え	拍押え	板ナテ後ヘラミヤギ	7.5YR6/4に赤い黄	10YR7/4	中・並	細・並	-	-	-	-	-	3.5	-	6/8
624	Ⅲ区	SHb206	弥生土器	瓦	拍押え	拍押え	拍押え	7.5YR7/4に赤い黄	7.5YR7/4に赤い黄	中・並	中・並	-	-	-	-	-	-	-	3/8
625	Ⅲ区	SHb206	土層	須恵器	杯蓋	同板ナテ	同板ナテ	N5/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	150	42	-	-	7/8
626	Ⅲ区	SHb206		須恵器	杯身	同板ナテ	同板ナテ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	138	-	-	-	1/8
627	Ⅲ区	SHb206		土師器	土師器	同コナテ	同コナテ	10YR7/3に赤い黄	10YR7/3に赤い黄	中・少	中・少	-	-	-	178	-	-	-	1/8
628	Ⅲ区	SHb206		土師器	高坏	拍押え	拍押え	7.5YR7/4に赤い黄	7.5YR5/3に赤い黄	中・多	中・多	-	-	-	-	-	-	-	8/8
631	Ⅰ区	SKb104		須恵器	平瓶	同板ナテ	同板ナテ	5Y6/1灰	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	106	-	-	-	1/8
632	Ⅰ区	SKb105		土師器	杯	同板ナテ	同板ナテ	25Y7/3黄	25Y7/3黄	中・少	中・少	-	-	-	101	-	60	-	2/8
633	Ⅰ区	SPa161		須恵器	杯蓋	同板ナテ・拍押え	同板ナテ	N4/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	144	-	-	-	1/8
634	Ⅰ区	SPa164		須恵器	杯蓋	同板ナテ	同板ナテ	7.5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	-	-	-	-	細・少	130	-	-	-	1/8
635	Ⅰ区	SPa150		須恵器	杯蓋	同板ナテ	同板ナテ	2.5Y3/1灰	4.5Y7/6灰	-	-	-	-	細・少	132	-	-	-	1/8
636	Ⅰ区	SPa120		須恵器	杯身	同板ナテ	同板ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	132	-	-	-	1/8
637	Ⅰ区	SPa146		須恵器	杯身	同板ナテ・拍押え	同板ナテ	10Y5/2/灰	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	132	-	-	-	1/8
638	Ⅰ区	SPa131		須恵器	蓋	同板ナテ・表柱文	同板ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	80	27	54	-	1/8
639	Ⅰ区	SPa120		須恵器	蓋	同板ナテ	同板ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	80	27	54	-	1/8
640	Ⅲ区	SPa212	4層	須恵器	杯身	同板ナテ	同板ナテ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	中・少	130	-	-	-	1/8
641	Ⅲ区	SPa207		須恵器	瓶	同板ナテ	同板ナテ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	細・少	147	57	73	-	5/8
642	Ⅲ区	SPa206		土師器	瓶	同板ナテ・拍押え	同板ナテ・拍押え	25YR7/6黄	25YR7/6黄	中・多	細・並	-	-	-	111	50	-	-	5/8
643	Ⅲ区	SPa213		須恵器	杯	同板ナテ	同板ナテ	5Y8/2灰白	5Y8/2灰白	-	-	-	-	細・少	127	36	87	-	2/8
644	Ⅰ区	SPb112	4層	須恵器	杯蓋	同板ナテ	同板ナテ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	中・少	146	41	-	-	1/8
645	Ⅰ区	SPb106		須恵器	杯蓋	同板ナテ	同板ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	147	-	-	-	1/8
646	Ⅰ区	SPb108		須恵器	蓋	同板ナテ	同板ナテ	25Y7/2黄	25Y7/1灰白	-	-	-	-	細・少	122	-	-	-	1/8
647	Ⅰ区	SPb109		須恵器	杯蓋	同板ナテ	同板ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1/8
648	Ⅰ区	SPb109		須恵器	杯蓋	同板ナテ	同板ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	149	-	-	-	1/8
649	Ⅰ区	SPb121		須恵器	杯身	同板ナテ	同板ナテ	25Y7/1灰白	25Y7/3黄	-	-	-	-	中・少	150	-	-	-	1/8
650	Ⅰ区	SPb107		須恵器	杯身	同板ナテ	同板ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	116	-	-	-	1/8
651	Ⅰ区	SPb132		須恵器	杯身	同板ナテ	同板ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	125	-	-	-	1/8
652	Ⅰ区	SPb108		須恵器	杯身	同板ナテ	同板ナテ	10YR6/6黄	10YR8/4黄	-	-	-	-	中・多	122	-	-	-	1/8
653	Ⅰ区	SPb101		須恵器	杯身	同板ナテ	同板ナテ	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1/8
654	Ⅰ区	SPb109		須恵器	蓋	同板ナテ・拍押え	同板ナテ・拍押え	25Y7/1灰白	25Y8/1灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1/8
655	Ⅰ区	SPb1017		土師器	杯	同板ナテ	同板ナテ	7.5YR6/3に赤い黄	10YR6/2底黄	中・並	中・並	-	-	112	36	-	-	-	6/8

標名・図説 番号	遺構名	層位	種類	調査(外)	調査(内)	色調(内・外)	色調(内)・釉	白土	赤色粒	向灰石	炭酸	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	保存 率
656	Ⅰ区 S6b017	黒色土器	筒	同標子テ、指押え	ヘラミカキ ヨコナテ	25Y2/1黒褐 7.5YR7/4に赤い帯	25Y2/1黒褐 7.5YR7/4に赤い帯	中・並	-	-	-	-	85	-	-	-	3/8
657	Ⅰ区 S6b017	土師器	甕	ヨコナテ・指押え	ヨコナテ	7.5YR7/4に赤い帯	7.5YR7/4に赤い帯	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8 未測
659	Ⅰ区 S6b001	土師器	棒状土師 杯蓋	指ナテ・指押え 同標子テ	同標子テ	10YR7/3 N6/灰	10YR7/3 N6/灰	細・少	-	-	-	長12	幅12	-	-	-	4/8
660	Ⅱ区 SF2025	須恵器	杯蓋	同標子テ	同標子テ	N6/灰	N6/灰	-	細・少	-	-	147	-	-	-	-	1/8 未測
661	Ⅱ区 SF2022	須恵器	杯蓋	同標子テ	同標子テ	N6/灰	N6/灰	-	細・少	-	-	-	-	-	-	-	1/8 未測
662	Ⅱ区 SF2023	須恵器	杯身	同標子テ	同標子テ	N7/灰白	N7/灰白	-	細・少	-	-	-	-	-	-	-	1/8 未測
663	Ⅱ区 SF2027	須恵器	杯身	同標子テ	同標子テ	N4/灰	N4/灰	-	細・少	-	-	-	-	-	-	-	1/8 未測
664	Ⅱ区 SF2040	土師器	甕	ヨコナテ・指押え	ヨコナテ・指押え	10YR7/3 に赤い帯	10YR7/3 に赤い帯	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8 未測
665	Ⅱ区 SF2021	弥生土器	鉢	ヨコナテ・指押え・ ハケ	ヨコナテ・指押え・ ハケ	7.5YR8/4浅黄	7.5YR7/4浅黄	中・並	-	-	-	163	-	-	-	-	1/8
666	Ⅰ区 SD6b01	須恵器	杯蓋	同標子テ	同標子テ	N7/灰白	N7/灰白	-	細・少	-	-	130	-	-	-	-	1/8 未測
667	Ⅰ区 SD6b01	須恵器	杯身	同標子テ	同標子テ	N7/灰白	N7/灰白	-	細・少	-	-	-	-	-	-	-	1/8 未測
668	Ⅰ区 SD6b01	須恵器	杯	同標子テ	同標子テ	N8/灰白	N8/灰白	-	中・少	-	-	102	-	-	-	-	2/8
669	Ⅰ区 SD6b01	土師器	高付皿	同標子テ	同標子テ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	-	細・少	-	-	-	-	-	-	-	1/8
670	Ⅰ区 SD6b01	土師器	皿	同標子テ・赤帯	同標子テ・赤帯	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・多	中・並	-	-	128	20	100	-	-	1/8 赤帯
671	Ⅰ区 SD6b01	土師器	皿	同標子テ	同標子テ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	細・並	-	-	-	168	16	130	-	-	2/8
672	Ⅰ区 SD6b01	土師器	棒状土師 指ナテ	指ナテ	指ナテ	7.5YR6/4に赤い帯	7.5YR6/4に赤い帯	中・並	-	-	-	長34	幅13	厚1.3	-	-	4/8
673	Ⅰ区 SD6b01	土師器	管状土師 指ナテ	指ナテ	指ナテ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・並	-	-	-	長43	幅18	厚1.8	-	-	8/8
674	Ⅰ区 SD6b01	土師器	管状土師 指ナテ	指ナテ	指ナテ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	-	-	-	-	長46	幅15	厚1.5	-	-	8/8
675	Ⅰ区 SBa01	須恵器	杯身	同標子テ	同標子テ	N6/灰	N6/灰	-	中・少	-	-	120	33	58	-	-	2/8 ロケ口右側
676	Ⅰ区 SBa01	弥生土器	甕	同標子テ・ハケ目、 指押え	同標子テ・ 指押え	10YR7/3 に赤い帯	10YR7/3 に赤い帯	中・多	細・少	-	-	134	-	-	-	-	1/8
677	Ⅰ区 SBa01	弥生土器	甕	同標子テ	同標子テ	5YR6/4に赤い帯	5YR6/4に赤い帯	中・多	-	-	-	-	-	-	-	原厚 (106)	
678	Ⅰ区 SBa01	弥生土器	鉢	ヨコナテ・指押え	ヨコナテ・指押え	10YR6/3 赤い帯	10YR6/3 赤い帯	細・多	-	-	-	336	-	-	-	-	1/8
679	Ⅰ区 SBa01	土師器	高杯	同標子テ・指押え	同標子テ・指押え	7.5YR6/4に赤い帯	7.5YR6/4に赤い帯	中・多	細・少	-	-	212	-	-	-	-	1/8
680	Ⅰ区 SBa01	土師器	高杯	同標子テ・指押え	同標子テ・指押え	7.5YR6/4に赤い帯	7.5YR6/4に赤い帯	中・多	-	-	-	-	-	-	-	-	3/8
681	Ⅲ区 SBa001	須恵器	杯蓋	同標子テ	同標子テ	N5/灰	N5/灰	-	細・多	-	-	134	46	-	-	-	2/8 ロケ口右側
682	Ⅲ区 SBa001	須恵器	杯蓋	同標子テ	同標子テ	5Y7/2灰白	5Y7/2灰白	-	中・多	-	-	136	-	-	-	-	4/8 ロケ口右側
683	Ⅲ区 SBa001	須恵器	杯蓋	同標子テ	同標子テ	N5/灰	N5/灰	-	中・少	-	-	144	-	-	-	-	4/8 ロケ口右側
684	Ⅲ区 SBa001	須恵器	杯蓋	同標子テ	同標子テ	N6/灰	N6/灰	-	中・少	-	-	148	-	-	-	-	2/8 ロケ口右側
685	Ⅲ区 SBa001	須恵器	杯蓋	同標子テ	同標子テ	7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	-	細・少	-	-	156	41	-	-	-	2/8 ロケ口右側

国文調査委員番号	調査員名	遺構名	層位	種類	器種	調整(外)	調整(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	石目・表面	非色粒	角閃石	雲母	砂粒	口徑(mm)	器高(mm)	底径(mm)	長さ(mm)	残存率	備考		
686	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	杯蓋	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	N4/灰	N5/灰	-	-	-	-	細・多	126	48	-	-	5:8	ロケロ右回転		
687	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	杯身	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	133	45	6.0	-	2:8	ロケロ右回転		
688	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	杯身	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	5Y7.1灰白	5Y7.1灰白	-	-	-	-	中・少	134	-	-	-	1:8	ロケロ右回転		
689	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	杯身	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	中・少	121	-	-	-	2:8	ロケロ右回転		
690	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	杯身	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	中・少	116	-	-	-	2:8	ロケロ右回転		
691	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	杯身	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	124	-	-	-	1:8	-		
692	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	杯身	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	10Y6.1灰	10Y6.1灰	-	-	-	-	中・少	134	33	7.3	-	2:8	ロケロ右回転		
693	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	杯身	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	10YR7.1灰白	10YR7.1灰白	-	-	-	-	細・多	136	-	-	-	1:8	-		
694	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	杯身	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ・ナブ	N4/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・多	128	44	-	-	2:8	ロケロ右回転		
695	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	杯身	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	N5/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	150	-	-	-	-	編片		
696	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	杯身	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	2.5GY4.1 紫オリーブ灰	2.5Y8.1灰白	-	-	-	-	細・多	119	37	-	-	13:4	1:8		
697	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	蓋	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	N7/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	-	-		
698	55 Ⅲ区 S8a-001	第五層下	須臾器	高杯	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	2.5Y7.2灰黄	2.5Y7.2灰黄	-	-	-	-	中・少	136	-	8.6	-	5:8	-		
699	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	蓋	別紙ナブ 別紙ヘラケズリ	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	中・多	222	-	-	-	-	編片		
700	Ⅲ区 S8a-001	第五層	須臾器	蓋	別紙ナブ・カキ目	別紙ナブ	別紙ナブ	N4/灰	N4/灰	-	-	-	-	中・少	190	-	-	-	1:8	未調		
701	Ⅲ区 S8a-001	第五層	瓦器	瓶	ヨコナブ ヨコナブ	ヨコナブ	ヨコナブ	N4/灰	10YR8.2灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1:8	-		
702	Ⅲ区 S8a-001	第五層	瓦器	瓶	ヨコナブ・尊風 ヨコナブ	ヨコナブ	ヨコナブ	10YR8.3灰黄緑	N3/紫灰	-	-	-	-	-	154	-	-	-	1:8	-		
703	Ⅲ区 S8a-001	第五層	瓦器	瓶	紫風・瓶口付打高台 紫風	別紙ナブ	別紙ナブ	10YR4.1紫灰	10YR4.1紫灰	-	-	-	-	細・少	-	-	6.8	-	1:8	-		
704	Ⅲ区 S8a-001	第五層	瓦器	碗	別紙ナブ 別紙ナブ	別紙ナブ	別紙ナブ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	7.0	-	1:8	-		
705	55 Ⅲ区 S8a-001	第五層下	土師器	杯	別紙ナブ・尊風 ヨコナブ・ハケ目	別紙ナブ・尊風 ヨコナブ・ハケ目	別紙ナブ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	-	-	-	-	中・中・少	136	35	9.2	-	7:8	-		
706	55 Ⅲ区 S8a-001	第五層下	土師器	甕	ヨコナブ・ハケ目 指押え	ヨコナブ・ハケ目 指押え	別紙ナブ	10YR5.2灰黄緑	10YR5.2灰黄緑	-	-	-	-	中・中	182	-	-	-	1:8	-		
707	Ⅲ区 S8a-001	第五層	土師器	甕	ヨコナブ・ハケ目 指押え	ヨコナブ・ハケ目 指押え	別紙ナブ	5YR7.4にぶい 指押え	7.5YR7.4にぶい 指押え	-	-	-	-	細・中・少	156	-	-	-	3:8	-		
708	Ⅲ区 S8a-001	第五層	土師器	甕	紫風	紫風	紫風	7.5YR5.6明黄	7.5YR5.6明黄	-	-	-	-	中・多	326	-	-	-	1:8	-		
709	Ⅲ区 S8a-001	第五層	土師器	瓶	指押え	指押え	指押え	7.5YR7.4にぶい 指押え	5YR7.6橙	-	-	-	-	中・中	-	-	-	把長 3.6	8:8	-		
710	Ⅲ区 S8a-001	第五層	土師器	瓶	ナブ	ナブ	ナブ	10YR8.3灰黄緑	10YR8.3灰黄緑	-	-	-	-	中・中	-	-	-	把長 3.8	8:8	-		
711	Ⅲ区 S8a-001	第五層	土師器	支脚	ナブ・指ナブ	ナブ	ナブ	7.5YR6.6橙	10YR7.6明黄緑	-	-	-	-	細・少	-	-	-	7.6	-	1:8		
712	Ⅲ区 S8a-001	第五層	土師器	支脚	ナブ	ナブ	ナブ	10YR7.6橙	10YR7.6明黄緑	-	-	-	-	細・少	長3.9	幅1.0	厚0.9	-	8:8	-		
713	Ⅲ区 S8a-001	第五層	土師器	管状土師	指ナブ	指ナブ	指ナブ	2.5Y5.3黄緑	-	-	-	-	-	細・少	-	-	長3.1	幅0.9	厚0.9	-	4:8	
714	Ⅲ区 S8a-001	第五層	土師器	管状土師	ナブ	ナブ	ナブ	5YR7.6橙	-	-	-	-	-	中・少	長3.3	幅0.8	厚0.8	-	8:8	-		
715	Ⅲ区 S8a-001	第五層	土師器	管状土師	ナブ	ナブ	ナブ	2.5YR6.6橙	-	-	-	-	-	中・少	長2.6	幅1.0	厚0.9	-	8:8	-		
716	Ⅲ区 S8a-001	第五層	土師器	管状土師	指ナブ	指ナブ	指ナブ	5YR7.4にぶい 指ナブ	-	-	-	-	-	細・少	長2.3	幅0.8	厚0.7	-	4:8	-		
717	Ⅲ区 S8a-001	第五層	土師器	管状土師	指ナブ	指ナブ	指ナブ	5YR7.4にぶい 指ナブ	-	-	-	-	-	細・少	-	-	-	長2.8	幅0.9	厚0.8	-	8:8

標本番号	調査区名	遺構名	層位	種類	調査(外)	調査(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	石灰質石	赤色粒	向閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	保存 率	備考
718	Ⅲ区 SR6301	管状土器		土師器	指子	-	25YR7/2灰白	-	細・少	-	-	-	-	長33	厚1.6	-	-	8.8	
719	Ⅲ区 SR6302	須恵器		須恵器	同標子	同標子	5Y6/1灰	25Y6/1黄灰	細・少	-	-	中・少	中・少	11.6	5.6	-	-	5.8	ロケ口左側
720	Ⅲ区 SR6302	須恵器		須恵器	同標子	同標子	N6/灰	N6/灰	-	-	-	中・少	中・少	-	9.8	-	-	1.8	
721	Ⅲ区 SR6302	須恵器		須恵器	同標子	同標子	N5/灰	N6/灰	-	-	-	中・少	中・少	-	-	面径 5.0	-	1.8	
722	Ⅲ区 SR6302	土師器		土師器	同標子	同標子	5YR6/6	5YR7/6	中・並	細・並	-	-	中・少	18.2	-	-	-	2.8	
724	Ⅲ区 SR6301	須恵器		須恵器	同標子	同標子	N6/灰	N6/灰	-	-	-	細・多	細・多	17.4	4.8	-	-	5.8	ロケ口右側
725	Ⅲ区 SR6301	須恵器		須恵器	同標子	同標子	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	細・少	細・少	14.1	-	-	-	1.8	
726	Ⅲ区 SR6301	須恵器		須恵器	同標子	同標子	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	細・少	細・少	9.8	-	-	-	1.8	
727	Ⅲ区 SR6301	須恵器		須恵器	同標子	同標子	10YR5/1	10YR5/1黄灰	-	-	-	細・多	細・多	-	10.2	-	-	1.8	
728	Ⅲ区 SR6301	下層		土師器	同標子	同標子	25Y6/1	25Y6/1黄灰	-	-	-	中・少	中・少	18.0	2.4	12.6	-	-	底片
729	Ⅲ区 SR6301	黒色土器		土師器	同標子	同標子	10YR6/1	10YR4/1	中・並	-	-	-	細・少	-	7.0	-	-	2.8	A類
730	Ⅲ区 SR6301	土師器		土師器	同標子	同標子	10YR6/3	10YR6/3	細・並	-	-	-	細・少	長7.6	幅2.5	厚2.8	-	-	3.8
741	Ⅲ区 SR6301	土師器		土師器	同標子	同標子	7.5YR6/4	7.5YR6/4	中・並	-	-	-	-	長8.3	幅3.3	厚2.2	-	-	8.8
742	Ⅲ区 SR6301	土師器		土師器	同標子	同標子	10YR7/3	10YR7/3	中・並	-	-	-	-	長6.4	幅1.3	厚1.2	-	-	8.8
743	Ⅲ区 SR6301	土師器		土師器	同標子	同標子	7.5YR6/4	7.5YR6/4	細・並	-	-	-	-	長4.8	幅1.2	厚1.0	-	-	8.8
744	Ⅲ区 SR6301	土師器		土師器	同標子	同標子	10YR6/3	10YR6/3	細・少	-	-	-	-	長2.2	幅1.2	厚1.2	-	-	3.8
745	Ⅲ区 SR6301	土師器		土師器	同標子	同標子	10YR7/2	10YR7/2	細・少	-	-	-	-	長3.1	幅1.1	厚0.9	-	-	8.8
746	Ⅲ区 SR6301	土師器		土師器	同標子	同標子	10YR4/2	10YR4/2	細・少	-	-	-	-	長2.2	幅1.5	厚1.5	-	-	8.8
747	Ⅲ区 SR6301	土師器		土師器	同標子	同標子	7.5YR7/3	7.5YR7/3	中・並	-	-	-	-	長2.5	幅1.4	厚1.4	-	-	8.8
753	Ⅲ区 SR6302	須恵器		須恵器	同標子	同標子	2.5Y7/1	2.5Y7/1	-	-	-	細・少	細・少	幅2.1	-	-	-	2.8	
754	Ⅲ区 SR6302	須恵器		須恵器	同標子	同標子	N4/灰	N4/灰	-	-	-	細・少	細・少	-	-	-	-	2.8	
755	Ⅲ区 SR6302	須恵器		須恵器	同標子	同標子	N5/灰	N6/灰	-	-	-	細・少	細・少	-	10.2	-	-	2.8	
756	Ⅲ区 SR6302	土師器		土師器	同標子	同標子	10YR7/3	10YR8/3	中・並	中・並	-	-	-	11.2	3.3	7.0	-	-	1.8
757	Ⅲ区 SR6302	土師器		土師器	同標子	同標子	10YR8/3	10YR8/3	中・並	中・並	-	-	-	13.8	8.9	9.7	-	-	6.8
758	Ⅲ区 SR6302	土師器		土師器	同標子	同標子	5YR7/6	5YR6/6	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	
759	Ⅲ区 SR6302	土師器		土師器	同標子	同標子	10YR8/3	10YR8/3	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8	
760	Ⅲ区 SR6302	土師器		土師器	同標子	同標子	10YR7/2	10YR7/2	細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	底片	
761	Ⅲ区 SR6302	土師器		土師器	同標子	同標子	2.5Y7/2	2.5Y7/2	細・並	-	-	-	-	-	-	-	-	底片	
762	Ⅲ区 SR6302	土師器		土師器	同標子	同標子	2.5Y7/3	2.5Y7/3	中・少	-	-	-	-	10.1	-	-	-	2.8	
763	Ⅲ区 SR6302	土師器		土師器	同標子	同標子	10YR7/3	10YR7/3	細・少	-	-	-	-	長4.9	幅1.2	厚1.1	-	-	8.5
764	Ⅲ区 SR6302	土師器		土師器	同標子	同標子	10YR6/3	10YR6/3	細・少	-	-	-	-	長4.5	幅1.1	厚2.0	-	-	8.8

国史 調査 番号	調査 区名	遺構名	層位	種類	器種	調整(外)	調整(内)	色調(外)・釉	色調(内)・粘土	石灰 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	残存 率	備考
765	Ⅱ区	SR5302	下層	土師器	管状土器	ナテ	同様ナテ	10YR7/3 に赤い黄緑		細・少	-	-	-	-	長32	幅17	厚1.6	-	4.8	
767	Ⅰ区	SS501	第1層	須恵器	杯身	同様ナテ	同様ナテ	7.5Y4/2 灰オリーブ	25Y8.1灰白	中・多	中・少	-	-	中・少	11.4	4.5	5.6	-	4.8	外側に自然釉 及び黒着痕
768	Ⅰ区	SS191区	第1層	土師器	瓶	同様ナテ、 管状取付4個	指押え・板ナテ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	中・多	中・多	-	-	-	23.4	-	-	-	4.8	黒斑あり
769	Ⅰ区	SS191区	第1層	外生土器	底部	ヨコナテ・指押え	指押え	10YR7/4 に赤い黄緑	10YR7/3 に赤い黄緑	中・多	-	-	-	-	-	-	-	6.0	-	7.8
770	Ⅰ区	SS191区	第1層	土師器	管状土器	指ナテ	-	10YR7/4 に赤い黄緑		細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
771	Ⅰ区	SS191区	第1層	土師器	管状土器	ナテ	ナテ	7.5YR6.4に赤い橙		細・少	-	-	-	-	長4.4	幅1.3	厚1.2	-	4.8	
772	Ⅰ区	SS191区	第1層	土師器	管状土器	ナテ	ナテ	5YR5.6明赤黒		細・少	-	-	-	-	長5.6	幅1.3	厚1.3	-	8.8	
773	Ⅰ区	SS191区	第1層	土師器	管状土器	ナテ	ナテ	7.5YR6.6橙		細・並	-	-	-	-	長4.8	幅1.1	厚1.1	-	8.8	
774	Ⅰ区	SS191区	第1層	土師器	管状土器	ナテ	ナテ	7.5YR7.6橙		中・並	-	-	-	-	長4.5	幅1.3	厚1.2	-	8.8	
775	Ⅰ区	SS191区	第1層	土師器	管状土器	ナテ	ナテ	7.5YR6.6橙		中・少	-	-	-	-	長3.3	幅1.5	厚1.3	-	8.8	
776	Ⅰ区	SS191区	第1層	土師器	管状土器	ナテ	ナテ	7.5YR6.6橙		中・並	-	-	-	-	長3.3	幅1.1	厚1.0	-	8.8	
777	Ⅰ区	SS191区	第1層	土師器	管状土器	指ナテ	指ナテ	2.5Y4.1黄灰		細・少	-	-	-	-	長3.0	幅1.2	厚1.2	-	4.8	
777	Ⅰ区	SS191区	第1層	土師器	管状土器	指ナテ	指ナテ	2.5Y4.1黄灰		細・少	-	-	-	-	長3.3	幅1.0	-	-	8.8	
778	Ⅰ区	SS191区	第1層	土師器	管状土器	ナテ	ナテ	10YR6.1黄灰		細・少	-	-	-	-	長2.2	幅0.9	厚0.8	-	8.8	
780	Ⅱ区	SS191区	上層	須恵器	杯身	同様ナテ、 同様ヘラケズリ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	-	-	-	-	1.8	
781	Ⅱ区	SS191区	上層	須恵器	杯身	同様ナテ、 同様ヘラケズリ	同様ナテ	7.5Y6.1灰	7.5Y7.1灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8	
782	Ⅱ区	SS191区	上層	須恵器	杯身	同様ナテ、 同様ヘラケズリ	同様ナテ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	12.2	-	-	-	1.8	
783	Ⅱ区	SS191区	上層	須恵器	杯身	同様ナテ、 同様ヘラケズリ	同様ナテ	5Y5.1灰	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	12.6	5.1	-	-	6.8	ロケ石同軸
784	Ⅱ区	SS191区	上層	須恵器	杯身	同様ナテ、 同様ヘラケズリ	同様ナテ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	細・少	14.0	-	-	-	1.8	
785	Ⅱ区	SS191区	上層	須恵器	杯身	同様ナテ、 同様ヘラケズリ	同様ナテ、 管状取付	5YR.2灰白	5YR.1灰白	-	-	-	-	細・少	14.0	-	-	-	2.8	
786	Ⅱ区	SS191区	上層	須恵器	高坏	同様ナテ、 同様ヘラケズリ	同様ナテ	7.5Y5.1灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	13.1	-	-	-	4.8	ロケ石同軸
787	Ⅱ区	SS191区	上層	須恵器	高坏	同様ナテ、 同様ヘラケズリ	同様ナテ	2.5YR5.2赤黒	2.5YR5.2赤黒	-	-	-	-	細・少	16.4	-	-	-	1.8	
788	Ⅱ区	SS191区	上層	須恵器	甕	同様ナテ、 同様ヘラケズリ	同様ナテ	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8	
789	Ⅱ区	SS191区	上層	須恵器	甕	同様ナテ	同様ナテ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	18.2	-	-	-	1.8	
790	Ⅱ区	SS191区	上層	須恵器	甕	同様ナテ	同様ナテ	10YR7.2 に赤い黄緑	10YR7.2 に赤い黄緑	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8	黒斑 2.5

標本分類番号	標本分類名	遺構名	層位	種類	調整(外)	調整(内)	色調(外)・種	色調(内)・胎土	石灰質石	赤色粒	向灰石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	長さ(cm)	保存率	備考
791	Ⅱ区 急倉南 H19 Ⅱ区	灰土層間(北層)	土師器	棒状土罐	-	-	10YR6.6明黄褐色	-	細・並	-	-	-	-	長さ52	幅14	厚1.2	-	8.8	-
792	Ⅱ区 急倉南 H19 Ⅱ区	機械層間	土師器	棒状土罐	-	-	10YR6.4にぶい黄褐色	-	細・並	-	-	-	-	長さ43	幅16	厚1.3	-	破片	-
793	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	灰土層間(北層)	土師器	管状土罐	ナデ	ナデ	5YR6.6黄褐色	-	細・少	-	-	-	-	長さ52	幅19	厚1.6	-	8.8	-
800	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	第1層	土師器	甕	指挿入・ハケ目	ハケ目・板ナデ	10YR8.3灰黄褐色	10YR8.3灰黄褐色	中・並	中・並	-	-	-	240	-	-	-	2.8	1.8 土層あり
804	Ⅰ区 急倉南 H19 Ⅱ区	須恵器	杯身	同板ナデ	同板ナデ	同板ナデ	N6/灰	N5/灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8	-
805	Ⅰ区 急倉南 H19 Ⅱ区	須恵器	杯身	同板ナデ	同板ナデ	同板ナデ	N7/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	細・少	154	-	-	-	3.8	-
806	Ⅰ区 急倉南 H19 Ⅱ区	土師器	高坏	ヨコナデ・指挿入・ナデ・ハケ目	ナデ・ハケ目	10YR5.2灰黄褐色	25Y7.3浅黄	25Y7.3浅黄	細・多	-	-	-	-	201	-	-	-	-	-
807	56 Ⅰ区 急倉南 H19 Ⅱ区	土師器	甕	ハケ目・ナデ・指挿入	ハケ目・ナデ・指挿入	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	中・多	-	-	-	-	196	270	128	-	5.8	黒底あり
808	Ⅰ区 急倉南 H19 Ⅱ区	土師器	棒状土罐	ナデ	-	-	5YR5.6明赤褐色	-	細・並	-	-	-	-	長さ46	幅16	厚1.5	-	8.8	-
811	57 Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	須恵器	杯蓋	同板ナデ・灰土層	同板ナデ	同板ナデ	7.5Y6.1灰	7.5Y6.1灰	-	-	-	-	細・少	140	4.1	-	-	6.8	ロケ口右側
812	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	須恵器	杯身	同板ナデ・灰土層	同板ナデ	同板ナデ	5Y7.1灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	128	-	-	-	2.8	ロケ口右側
813	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	須恵器	蓋	つぼみ	同板ナデ	同板ナデ	5Y4.1灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	つぼみ径24	5.8	-
815	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	須恵器	高坏	同板ナデ	同板ナデ	同板ナデ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	つぼみ径26	8.8	-
816	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	弥生土師器	鉢	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・ハケ目	25Y7.3灰黄	25Y7.1灰白	25Y7.1灰白	-	-	-	-	細・少	-	92	-	-	5.8	-
817	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	弥生土師器	鉢	ナデ・指挿入	ナデ・板ナデ・指挿入	ナデ・板ナデ・指挿入	25Y7.2灰黄	5Y3.1オリーブ黒	細・少	-	-	-	189	67	-	-	-	3.8	-
818	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	縄文土師器	鉢	縄文	縄文	25Y6.1黄灰	25Y7.2灰黄	25Y7.2灰黄	細・並	-	-	-	113	63	15	-	-	5.8	-
819	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	土師器	棒状土罐	ナデ	同板ナデ	同板ナデ	25Y6.2灰白	25Y6.1黄灰	中・多	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	-
820	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	土師器	棒状土罐	ナデ	同板ナデ	同板ナデ	10YR7.4にぶい黄褐色	-	中・並	-	-	-	-	長さ57	幅13	厚1.2	-	8.8	-
821	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	土師器	棒状土罐	ナデ	同板ナデ	同板ナデ	25Y7.3浅黄	-	細・少	-	-	-	-	長さ40	幅12	厚1.1	-	4.8	-
822	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	土師器	管状土罐	ナデ	同板ナデ	同板ナデ	7.5YD6.4にぶい黄褐色	-	中・並	-	-	-	-	長さ53	幅17	厚1.4	-	8.8	-
823	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	土師器	管状土罐	ナデ	同板ナデ	同板ナデ	10YR7.3にぶい黄褐色	-	細・少	-	-	-	-	長さ50	幅15	厚1.4	-	7.8	-
828	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	須恵器	杯蓋	同板ナデ・灰土層	同板ナデ	同板ナデ	5Y8.1灰白	5Y8.1灰白	中・並	-	-	-	細・少	-	-	-	-	破片	-
829	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	須恵器	杯蓋	同板ナデ	同板ナデ	同板ナデ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	細・少	102	-	-	-	1.8	-
830	Ⅲ区 急倉南 H19 Ⅱ区	須恵器	杯蓋	同板ナデ・灰土層	同板ナデ	同板ナデ	5Y7.1灰白	N8/灰白	-	-	-	-	細・少	136	4.0	-	-	2.8	ロケ口右側

国史 調査 番号	調査 区名	遺構名	層位	種類	器種	調査(外)	調査(内)	色調(外)・釉	色調(内)・粘土	石灰 炭石	非色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	残存 率	備考	
831	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	杯蓋	同様ナデ・ 同様ヘラタケズリ	同様ナデ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	-	-	-	-	中・少	15.3	-	-	-	2.8	ロケ口左側編	
832	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	杯蓋	同様ナデ・ 同様ヘラタケズリ	同様ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	-	破片	
833	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	杯蓋	同様ナデ・ 同様ヘラタケズリ	同様ナデ	7.5Y6/1 灰	N6/ 灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	-	破片	
834	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	杯蓋	同様ナデ・ 同様ヘラタケズリ	同様ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	-	破片	
835	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	高杯	同様ナデ・ 同様ヘラタケズリ	同様ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	-	-	-	-	細・少	-	11.4	-	-	1.8	-	
836	57	Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	杯身	同様ナデ・ヘラ切り (未調査)	同様ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	-	-	-	-	中・少	11.3	28	6.7	-	8.8	-	
837	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	杯身	同様ナデ・ 同様ヘラタケズリ	同様ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y6/1 黄灰	-	-	-	-	細・多	14.5	4.8	9.8	-	1.8	-	
838	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	杯身	同様ナデ・ 同様ヘラタケズリ	同様ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	-	-	-	-	細・少	-	11.2	-	-	1.8	-	
839	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	杯身	同様ナデ・ 同様ヘラタケズリ	同様ナデ	5Y4/1 灰	10YR4/1 黄灰	-	-	-	-	細・少	13.4	3.3	10.0	-	3.8	-	
840	57	Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	高杯	同様ナデ・透かした 1個(調査3個)	同様ナデ	N4/ 灰	2.5Y7/1 灰白	-	-	-	-	細・多	11.7	6.8	7.8	-	5.8	-	
841	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	高杯	同様ナデ・透かした 2個(調査3個)	同様ナデ	7.5Y5/1 灰	7.5Y4/1 灰	-	-	-	-	粗・多	-	12.4	-	-	7.8	-	
842	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	杯蓋	同様ナデ・同様ヘラ タケズリ・ヘラ切 り	同様ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	-	破片	
843	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	埴輪	注記3条・同様ナデ・ 青漆英文	同様ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	2.8	ヘラ記号あり	
844	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	壺	同様ナデ・ヘラ記号・ タケナキ	同様ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	3.8	器底にヘラ記 号	
845	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	壺	同様ナデ・ヘラ記号・ タケナキ	同様ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8	-	
846	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	壺	同様ナデ・波状文	同様ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	-	破片	
847	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	須臾器	壺	同様ナデ・透かした 同様ヘラタケズリ	同様ナデ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	-	-	-	-	細・少	-	11.8	-	-	1.8	-	
848	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	土師器	杯	同様ナデ	同様ナデ	2.5YR5.6 明赤褐	2.5YR5.6 明赤褐	-	-	-	-	細・少	-	11.8	-	-	1.8	-	
849	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	土師器	皿	同様ナデ	同様ナデ	2.5YR 2 灰白	2.5YR 2 灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	-	破片	
850	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	土師器	皿	同様ナデ	同様ナデ	2.5YR6.6 黄	2.5YR6.6 黄	-	-	-	-	細・少	25.0	2.6	21.0	-	-	破片	
851	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	土師器	杯	同様ナデ・ 同様ヘラタケズリ	同様ナデ	10YR7/2 に赤い黄緑	2.5YR7/3 に赤い 黄緑	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8	内面見込み に花弁状腐文	
852	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	土師器	杯	同様ナデ・ 同様ヘラタケズリ	同様ナデ	10YR8.3 黄赤褐	7.5YR8.3 黄赤褐	-	-	-	-	細・並	-	-	-	-	2.8	-	
853	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	土師器	高杯	ヨコナデ・ 同様ナデ	ヨコナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	-	破片	
854	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	土師器	高杯	ヨコナデ・ 同様ナデ	ヨコナデ	10YR8.2 灰白	10YR8.2 灰白	-	-	-	-	細・少	-	-	-	-	-	破片	
855	Ⅱ区	急倉溝 田田Ⅱ区	褐色色 粘質土	土師器	壺	同様ナデ・ 同様ナデ	同様ナデ	10YR7/2 に赤い黄緑	10YR7/2 に赤い黄緑	-	-	-	-	中・少	細・少	-	-	-	-	2.8	内面底に腐付 付

種子回割 番号	調査 区分名	遺構名	層位	種類	調整(外)	調整(内)	色調(外)・種	色調(内)・胎土	石蓋 長さ (cm)	赤色粒 向径石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	器径 (cm)	長さ (cm)	残存 率	備考	
856	Ⅱ区 ⅡB区	黒色土 粘質土	ⅡB区	土師器	ヨコナテ・ハケ目・ 指押え	ヨコナテ・ハケ目 ヨコナテ・指押え	10YR7/4 に赤い黄褐色	10YR7/3 に赤い黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
857	Ⅱ区 ⅡB区	黒色土 粘質土	ⅡB区	土師器	ヨコナテ・指押え	ヨコナテ・指押え・ ハケ目・指押え・ ハケ目・指押え・ ハケ目・指押え	5YR7/8黄	5YR7/8黄	細・少	-	-	-	140	-	-	-	2/8	-	-
858	57 Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	把手付蓋	ヨコナテ・指押え	25Y6/2灰黄	25Y6/2灰黄	粗・少	粗・少	-	-	290	-	-	把長3.8 3.9	3/8	皿底あり	
859	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	蓋	板子テ・ヨコナテ	10YR7/3 に赤い黄褐色	-	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
860	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	10YR6/3 に赤い黄褐色	-	中・少	-	-	-	共6.2	幅13	厚1.3	-	8/8	-	-
861	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	10YR6/3 に赤い黄褐色	-	細・少	-	-	-	共6.3	幅13	厚1.4	-	6/8	-	-
862	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	10YR7/3 に赤い黄褐色	-	中・並	-	-	-	共5.6	幅11	厚1.0	-	8/8	-	-
863	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	25Y7/2灰黄	-	細・少	-	-	-	共5.5	幅10	厚1.1	-	5/8	-	-
864	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	10YR4/2灰黄褐	-	細・少	-	-	-	共4.6	幅12	厚1.2	-	4/8	-	-
865	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	N7/ 灰白	-	中・並	-	-	-	共5.0	幅14	厚1.3	-	8/8	-	-
866	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	25Y3/4黒褐	-	細・少	-	-	-	共4.5	幅13	厚1.2	-	4/8	-	-
867	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	10YR8/2 灰白	-	細・並	-	-	-	共3.7	幅14	厚1.3	-	8/8	-	-
868	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	7.5YR6.4 に赤い帯	-	細・少	-	-	-	共3.9	幅13	厚1.2	-	8/8	-	-
869	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	2.5YR6.6 黄	-	中・並	-	-	-	共2.6	幅11	厚1.1	-	8/8	-	-
870	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	7.5YR6.2 灰褐	-	中・並	-	-	-	共2.8	幅12	厚1.2	-	8/8	-	-
871	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	10YR4/1 黒灰	-	細・少	-	-	-	共2.5	幅15	厚1.4	-	2/8	-	-
872	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	7.5YR6.2 灰褐	-	中・並	-	-	-	共5.6	幅13	厚1.2	-	8/8	-	-
873	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	管状土師 ナテ	ナテ	10YR6/3 に赤い黄褐色	-	中・少	-	-	-	共5.5	幅12	厚1.1	-	8/8	-	-
874	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	管状土師 ナテ	ナテ	10YR6.2 灰黄褐	-	細・少	-	-	-	共4.2	幅13	厚1.2	-	7/8	-	-
875	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	管状土師 ナテ	ナテ	7.5YR6.4 に赤い帯	-	細・少	-	-	-	共3.9	幅19	厚1.8	-	6/8	-	-
882	57 Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	須恵器	懸	同様ナテ	N8/ 灰白	N7/ 灰白	-	-	-	-	-	54	-	-	5/8	ロケ口右側底	
883	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	須恵器	高坏	同様ナテ・ ナテ・管孔ナテ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	中・並	-	-	-	-	114	-	-	7/8	-	-
884	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	須恵器	椀	同様ナテ	5YR6.6 黄	10YR4/1 黒灰	細・少	-	-	-	-	69	-	-	1/8	A類	-
885	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	10YR5/1 黒灰	-	中・並	-	-	-	共5.5	幅15	厚1.4	-	8/8	-	-
886	Ⅱ区	黒色土 粘質土	Ⅱ区	土師器	棒状土師 ナテ	ナテ	25Y7/2 灰黄	-	中・並	-	-	-	共4.5	幅15	厚1.4	-	4/8	-	-

国土交通省 番号	調査区名	産物名	層位	種類	器種	調整(外)	調整(内)	色調(外)・釉	色調(内)・胎土	石灰 石	赤色粒 角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	長さ (cm)	残存 率	備考
887	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	棒状土師ナテ	-	調整(内)	-	10YR7.3 に赤い黄斑	-	細・量	-	-	-	共4.5	幅1.5	厚1.3	-	-	8・8	-
888	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	棒状土師ナテ	-	調整(内)	-	10YR7.3 に赤い黄斑	-	中・少	-	-	-	共5.0	幅1.3	厚1.4	-	-	8・8	-
889	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	棒状土師ナテ	-	調整(外)	-	2.5Y7.2灰黄	-	細・少	-	-	-	共3.9	幅1.2	厚1.2	-	-	8・8	-
890	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	棒状土師ナテ	-	調整(外)	-	10YR6.4に 赤い黄斑	-	細・少	-	-	-	共4.4	幅1.2	厚1.2	-	-	4・8	-
891	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	棒状土師ナテ	-	調整(外)	-	10YR6.3	-	細・少	-	-	-	共3.9	幅1.2	厚1.2	-	-	4・8	-
892	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	棒状土師ナテ	-	調整(外)	-	10YR7.2 に赤い黄斑	-	細・少	-	-	-	共3.4	幅1.2	厚1.3	-	-	8・8	-
893	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	棒状土師ナテ	-	調整(外)	-	2.5Y8.2灰白	-	中・量	-	-	-	共2.7	幅1.5	厚1.5	-	-	8・8	-
894	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	棒状土師ナテ	-	調整(外)	-	2.5Y6.3に赤い黄	-	細・少	-	-	-	共2.4	幅1.4	厚1.3	-	-	破片	-
895	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	棒状土師ナテ	-	調整(外)	-	10YR7.2 に赤い黄斑	-	細・少	-	-	-	共3.2	幅1.0	厚1.0	-	-	3・8	-
896	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	棒状土師ナテ	-	調整(外)	-	2.5Y7.2灰黄	-	細・少	-	-	-	共5.2	幅1.3	厚1.1	-	-	5・8	-
897	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	棒状土師ナテ	-	調整(外)	-	7.5Y7.2灰白	-	中・量	-	-	-	共5.6	幅1.4	厚1.3	-	-	5・8	-
898	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	管状土師ナテ	-	調整(外)	-	2.5Y6.3に赤い黄	-	細・少	-	-	-	共5.2	幅1.7	厚1.6	-	-	8・8	-
899	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	管状土師ナテ	-	調整(外)	-	10YR5.4 に赤い黄斑	-	細・少	-	-	-	共3.4	幅1.6	厚1.6	-	-	8・8	-
900	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	管状土師ナテ	-	調整(外)	-	2.5Y8.3淡黄	-	細・量	-	-	-	共4.9	幅1.4	厚1.9	-	-	5・8	-
901	Ⅱ区 北谷畑 H10 Ⅱ区	土師器	土師器	管状土師ナテ	-	調整(外)	-	2.5Y6.1黄灰	-	細・少	-	-	-	共3.0	幅1.5	-	-	-	3・8	-
907	その他	土師器	土師器	管状土師ナテ	-	調整(外)	-	2.5YR6.3に赤い黄	-	-	-	-	-	細・少	幅1.0	厚1.0	-	-	4・8	-

第8表 瓦割露表

種別 番号	調査区名	標本名	単位	器種	調査(凸面)	調整(凹面)	調整(凸面)	調整(凹面)	白色 砂粒	灰色 砂粒	灰色 砂粒	灰白色 砂粒	残存 残高 (cm)	厚さ (cm)	残存 半径 (cm)	備考
310	Ⅱ区	SR224	下層	平瓦	破目	春日庄瓦	N5/灰	N4/灰	中・少	-	-	-	8.5	5.9	1.8	破片
658	Ⅰ区	SF0100		平瓦	破目	春日庄瓦	10YR7.3に赤い黄緑	10YR7.3に赤い黄緑	中・多	-	-	-	5.2	7.1	1.9	破片
719	Ⅱ区	SF0201	第Ⅱ層	丸瓦	十子	春日庄瓦	N6/灰	N6/灰	中・多	-	-	-	10.8	21	1.9	破片
720	Ⅱ区	SF0301	第Ⅱ層	平瓦	破目	春日庄瓦	N5/灰	N5/灰	中・少	-	-	-	7.4	14.2	2.0	4.8
721	Ⅱ区	SF0301	第Ⅱ層	平瓦	丸合目	タタキ・自然焼付着	N5/灰	N5/灰	中・少	-	-	-	8.6	5.4	1.7	破片
722	Ⅱ区	SF0301	第Ⅱ層	平瓦	破目	春日庄瓦	N5/灰	N6/灰	中・少	-	-	-	8.5	10.3	1.9	破片
723	Ⅱ区	SF0301	第Ⅱ層	平瓦	破目	春日庄瓦	N5/灰	N6/灰	中・少	-	-	-	3.5	8.2	3.7	破片
724	Ⅱ区	SF0301	第Ⅱ層	平瓦	破目・割減	春日庄瓦	25Y7.2灰黄	25Y7.2灰黄	中・多	-	-	-	8.5	7.4	2.8	破片
725	Ⅱ区	SF0301	第Ⅱ層	平瓦	破目	春日庄瓦	5Y7.1灰白	5Y7.1灰白	中・多	-	-	-	11.3	7.6	2.2	破片
726	Ⅱ区	SF0301	第Ⅱ層	平瓦	十子	春日庄瓦	25Y4.1黄灰	N3/黄灰	中・少	-	-	-	5.4	6.0	3.2	破片
733	Ⅱ区	SF0302		平瓦	破目	春日庄瓦	5Y6.1灰	5Y6.1灰	中・多	-	-	-	7.1	6.5	3.0	破片
748	Ⅱ区	SR0301		丸瓦	破目・十子	春日庄瓦	5Y6.1灰	10YR6.3黄黄緑	中・少	-	-	-	6.3	7.2	1.6	破片
749	Ⅱ区	SR0301		平瓦	春日庄瓦	破目	10YR7.4に赤い黄緑	10YR7.4に赤い黄緑	中・多	-	-	-	11.1	8.0	2.1	破片
750	Ⅱ区	SR0301		平瓦	春日庄瓦	破目	75Y4.1灰	N5/灰	中・多	-	-	-	6.2	5.0	1.8	破片
751	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		丸瓦	十子	春日庄瓦	84/灰	N4/灰	中・少	-	-	-	13.0	-	2.0	破片
795	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	春日庄瓦	N6/灰	N5/灰	中・少	-	-	-	8.5	7.5	2.2	破片
796	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	春日庄瓦	25Y7.1灰白	25Y7.2灰黄	中・少	-	-	-	5.4	4.0	2.7	破片
797	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	春日庄瓦・春日後板十子	N6/灰	N6/灰	中・少	-	-	-	8.0	4.7	2.5	破片
798	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	十子	25Y5.1灰	25Y6.1灰	中・多	中・少	中・少	中・少	5.0	7.5	2.0	破片
799	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	十子	10YR6.4に赤い黄緑	10YR6.4に赤い黄緑	中・多	中・少	中・少	中・少	5.3	6.1	2.2	破片
801	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	春日庄瓦	N5/灰	N6/灰	中・多	-	-	-	7.6	7.2	3.4	破片
824	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	春日庄瓦	N5/灰	N6/灰	中・少	-	-	-	9.2	8.6	2.6	破片
825	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	破目	N5/灰	N5/灰	中・多	-	-	-	10.0	7.8	2.4	破片
826	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	春日庄瓦	N5/灰	N5/灰	中・少	-	-	-	12.9	-	1.8	破片
827	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目・靴十子	春日庄瓦	N6/灰	N6/灰	中・少	-	-	-	12.3	10.0	2.1	破片
877	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		丸瓦	靴十子	春日庄瓦	N6/灰	N6/灰	中・少	-	-	-	12.0	6.4	1.9	破片
878	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		丸瓦	靴十子	春日庄瓦	N5/灰	N5/灰	中・少	-	-	-	5.4	6.7	1.7	破片
879	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	春日庄瓦	破目	25Y7.1灰白	25Y4.1灰	中・少	-	-	-	9.3	6.8	2.3	破片
880	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	春日庄瓦	N5/灰	N5/灰	中・多	-	-	-	8.1	6.7	2.3	破片
881	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	春日庄瓦	N6/灰	N5/灰	中・多	-	-	-	6.5	8.0	1.8	破片
904	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	春日庄瓦	N5/灰	N5/灰	中・少	-	-	-	7.9	7.8	2.0	破片
905	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	春日庄瓦	N6/灰	N6/灰	中・少	-	-	-	10.6	5.8	2.6	破片
906	Ⅱ区	包合層119Ⅱ区(表土層割(北側))		平瓦	破目	春日庄瓦	10YR7.2に赤い黄緑	10YR7.3に赤い黄緑	中・多	中・少	中・少	中・少	5.5	8.8	2.5	破片

第9表 石器観察表

順文番号	図版番号	調査区名	遺構名	層位	器種	長さ (c m)	幅 (c m)	厚さ (c m)	重量 (g)	石材	備考
76	37	Ⅱ区	SHa201		カマド支石	158	8.6	7.4	17000	砂岩	
77	37	Ⅱ区	SHa201		カマド支石	16	9.2	9.5	25500	砂岩	
187		Ⅱ区	SHa208		カマド支石	208	6.3	7.0	11500	砂岩	
302		Ⅱ区	SHa210		楔状石核	2.7	5.1	1.1	16.22	サスカイト	
232		Ⅱ区	SHa211		磨減痕ある石器	8.2	8.9	1.2	13795	結晶片石	
242	60	Ⅱ区	SHa212		石匙	5.4	6.0	0.8	27.17	サスカイト	
257	59	Ⅱ区	SHa213		石鏝	2.8	2.0	0.3	0.97	サスカイト	
324	59	Ⅱ区	SHa217		石鏝	2.3	1.6	0.4	1.05	サスカイト	
342	59	Ⅲ区	SHa301	第2層	石鏝	3.4	0.9	0.3	1.86	サスカイト	
343	59	Ⅲ区	SHa301	第1層	石鏝	1.5	1.1	0.2	0.44	サスカイト	
382	59	Ⅲ区	SHa309		石鏝	2.1	1.4	0.3	0.80	サスカイト	
383	60	Ⅲ区	SHa309		スクレイパー	3.6	8.4	1.3	37.77	サスカイト	
449	59	Ⅰ区	SHa102		石鏝	1.6	1.2	0.3	0.36	サスカイト	
629		Ⅱ区	SHb206		叩石	8.1	7.8	4.7	390.23	砂岩	
630		Ⅱ区	SHb206		台石	36.2	26.0	11.0	16800.00	砂岩	
766		Ⅲ区	SRa302	下層	スクレイパー	4.1	8.0	0.8	24.13	サスカイト	
802	60	Ⅲ区	包含層 H9 Ⅲ区		石匙	3.4	6.8	0.5	15.46	サスカイト	
810	56	Ⅰ区	包含層 H10 Ⅰ区		紙石	5.0	3.6	2.0	59.20	凝灰岩	

第10表 金属器観察表

順文番号	図版番号	調査区名	遺構名	層位	器種	長さ (c m)	幅 (c m)	厚さ (c m)	材質	備考
59	36	Ⅰ区	SHa110		鋤先	3.3	9.2	0.8	鉄	
194	40	Ⅱ区	SHa209	上層	鋤先	9.7	4.7	0.5	鉄	
201		Ⅱ区	SHa210		鉄鏝	2.9	2.5	1.0	鉄	
233		Ⅱ区	SHa211	上層	鏟	-	-	-	鉄	
374		Ⅲ区	SHa308		刀子	1.3	3.8	0.6	鉄	
727	55	Ⅲ区	SRa301	第1層(最上層)	帯金具	3.3	3.8	0.7	鉄地銅張り	
779		Ⅰ区	包含層 H9 Ⅰ区	第1層	長照鏡	-	-	-	鉄	

第11表 玉器観察表

順文番号	図版番号	調査区名	報告遺構名	層位	器種	長さ (c m)	幅 (c m)	厚さ (c m)	重量 (g)	材質	備考
18	58	Ⅰ区	SHa105		玉	1.3	1.8	1.6	5.31	メノウ	
40	58	Ⅰ区	SHa107		土玉	1.0	1.1	1.0	0.98	-	
41	58	Ⅰ区	SHa107		白玉	0.6	0.6	0.2	0.10	滑石	
323	58	Ⅱ区	SHa217		有孔円盤	2.0	2.7	0.4	4.43	滑石	
341	59	Ⅲ区	SHa301	第2層	紡錘車	3.8	4.0	1.9	18.59	滑石	
371	59	Ⅲ区	SHa308		紡錘車	4.0	4.0	2.2	48.86	滑石	
372	59	Ⅲ区	SHa308	底部付近	紡錘車	3.3	3.4	1.7	31.77	滑石	
373	58	Ⅲ区	SHa308	上層	土玉	1.5	1.6	1.5	3.36	-	
400	58	Ⅲ区	SHa310		小玉	0.5	0.5	0.2	0.05	ガラス	
450	58	Ⅰ区	SHb102		白玉	0.8	0.9	0.7	0.69	ガラス	
497	58	Ⅱ区	SHb202		有孔石製品	3.8	1.7	0.5	4.44	滑石	
507	58	Ⅱ区	SHb203		有孔円盤	1.7	2.1	0.3	2.16	滑石	
517	58	Ⅱ区	SHb204		有孔円盤	1.8	2.3	0.3	2.00	滑石	
728	59	Ⅲ区	SRa301	第2層	紡錘車	4.0	1.8	1.7	32.83	滑石	
752	58	Ⅲ区	SRb301		玉	0.8	-	-	0.25	ガラス	
803	58	Ⅲ区	包含層 H9 Ⅲ区	(包含層上層) 第1層	有孔石製品	2.3	1.2	0.3	1.23	滑石	
809	58	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		土玉	1.8	1.9	1.8	5.81	-	
876	58	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		有孔円盤	2.4	1.6	0.3	1.85	滑石	表裏面磨減
902	59	Ⅲ区	北包含層 H10 Ⅲ区		紡錘車	1.8	1.5	4.0	7.73	滑石	
903	58	Ⅲ区	北包含層 H10 Ⅲ区		勾玉形模造品	3.8	2.3	0.5	7.27	滑石	

第12表 木器観察表

順文番号	図版番号	調査区名	遺構名	層位	器種	長さ (c m)	幅 (c m)	厚さ (c m)	備考
144		Ⅲ区	SHa205		柱材	(14.4)	(8.3)	(9.2)	

第13表 種子観察表

観文 番号	調査区名	遺構名	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存率	備考
908	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.66	2.16	1.95	-	
909	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.65	2.14	1.82	-	
910	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.42	1.98	1.59	-	
911	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.19	1.75	1.46	-	
912	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.46	1.96	1.54	-	
913	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.41	2.01	1.70	-	
914	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.48	1.91	1.69	-	
915	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.22	1.87	1.58	-	
916	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.55	2.16	1.67	-	
917	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	1.74	1.46	1.26	-	
918	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	1.82	1.44	1.25	-	
919	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.16	2.04	1.85	-	
920	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	1.95	1.60	1.34	-	
921	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.43	2.11	1.80	-	
922	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.02	1.69	1.37	-	
923	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	1.98	1.76	1.51	-	
924	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.06	1.65	1.32	-	
925	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.00	1.75	1.51	-	
926	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.65	2.08	1.71	-	
927	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.55	1.98	1.62	-	
928	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.09	1.65	1.41	-	
929	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.34	1.66	1.38	-	
930	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.20	1.66	1.26	-	
931	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.11	1.85	1.50	-	
932	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.83	2.12	1.28	-	
933	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.40	1.91	1.50	-	
934	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	1.98	1.74	1.50	-	
935	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.31	1.91	1.43	-	
936	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.41	1.89	1.55	-	
937	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.57	1.92	1.46	-	
938	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.60	2.01	1.65	-	
939	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	1.87	1.54	1.21	-	
940	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	1.85	1.53	1.37	-	
941	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.25	1.98	1.44	-	
942	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.45	1.95	1.54	-	
943	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.19	1.76	1.45	-	
944	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.67	(1.55)	1.73	欠け有	
945	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.18	(1.29)	(1.70)	欠け有	
946	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.46	(1.53)	(1.64)	欠け有	
947	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.41	(1.87)	(1.45)	欠け有	
948	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	1.97	(1.40)	(1.47)	欠け有	
949	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	(2.32)	(2.15)	(1.88)	欠け有	
950	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.05	(1.75)	1.51	欠け有	
951	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	1.77	(1.22)	1.17	欠け有	
952	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.15	(1.59)	1.46	欠け有	
953	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.60	(1.21)	1.69	欠け有	
954	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.05	(1.36)	1.59	欠け有	
955	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.70	(2.02)	1.30	欠け有	
956	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.01	(1.23)	1.29	欠け有	
957	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	(1.36)	1.63	1.35	欠け有	
958	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.01	(1.43)	1.46	欠け有	
959	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.17	(1.53)	1.56	欠け有	
960	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.42	(1.49)	1.59	欠け有	
961	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.41	(1.41)	1.52	欠け有	
962	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.01	(1.11)	1.40	欠け有	
963	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.24	(1.46)	1.52	欠け有	
964	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.29	(1.57)	1.78	欠け有	
965	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.23	(1.73)	1.58	欠け有	
966	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.14	(1.44)	1.40	欠け有	
967	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	1.82	(1.11)	1.28	欠け有	
968	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.33	1.82	(0.76)	半分	
969	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.15	1.85	(0.79)	半分	
970	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.38	(1.47)	(0.81)	半分	
971	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	(1.54)	(1.16)	(0.50)	半分	
972	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.34	1.92	(0.89)	半分	
973	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	(2.31)	(2.30)	(0.96)	半分	
974	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	(2.02)	(1.65)	(0.71)	半分	

観文 番号	調査区名	遺構名	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存率	備考
975	Ⅱ区	SHb206		2.09	1.88	1.62	-	
976	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	1.89	1.54	0.660	半分	
977	Ⅲ区	SRb302	下層	(1.97)	1.88	1.50	欠け有	
978	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		2.18	(1.53)	1.69	欠け有	
979	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	暗灰色粘質土	2.41	1.70	(1.36)	-	
980	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		2.04	(1.16)	1.45	欠け有	
981	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区	褐色粘質土	1.98	1.74	1.52	-	
982	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		1.92	1.57	1.42	-	
983	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		2.42	2.01	(0.80)	半分	
984	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		2.08	1.73	(0.75)	半分	
985	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		(1.79)	1.65	(0.65)	半分	
986	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		1.84	1.43	(0.60)	半分	
987	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		3.09	2.35	1.66	-	
988	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		2.21	(0.72)	(1.34)	欠け有	
989	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		2.19	(1.65)	(1.01)	欠け有	
990	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		(2.03)	(1.33)	(0.93)	欠け有	
991	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		(1.70)	(1.22)	(1.61)	欠け有	
992	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		(1.56)	(1.18)	(0.45)	欠け有	
993	Ⅲ区	包含層 H10 Ⅲ区		(1.81)	(1.10)	(0.50)	欠け有	
994	Ⅱ区	SKb201		1.82	1.43	1.18	-	
995	Ⅱ区	SKb201		2.12	1.73	1.35	-	
996	Ⅱ区	SKb201		1.93	1.51	1.20	-	
997	Ⅱ区	SKb201		2.00	1.56	1.27	-	
998	Ⅱ区	SKb201		1.90	1.30	1.05	-	
999	Ⅱ区	SKb201		2.18	1.67	1.39	-	
1000	Ⅱ区	SKb201		2.10	1.54	1.29	-	
1001	Ⅱ区	SKb201		1.87	1.51	1.30	-	
1002	Ⅱ区	SKb201		1.83	1.38	1.14	-	
1003	Ⅱ区	SKb201		1.98	1.51	1.19	-	
1004	Ⅱ区	SKb201		1.79	1.42	1.18	-	
1005	Ⅱ区	SKb201		1.95	1.53	1.21	-	
1006	Ⅱ区	SKb201		2.50	1.89	1.53	-	
1007	Ⅱ区	SKb201		1.95	1.53	1.31	-	
1008	Ⅱ区	SKb201		1.95	1.56	1.27	-	
1009	Ⅱ区	SKb201		2.08	1.49	1.27	-	
1010	Ⅱ区	SKb201		1.90	1.55	1.29	-	
1011	Ⅱ区	SKb201		1.98	1.59	1.29	-	
1012	Ⅱ区	SKb201		2.07	1.61	1.37	-	
1013	Ⅱ区	SKb201		1.97	1.33	1.29	-	
1014	Ⅱ区	SKb201		2.06	1.62	1.28	-	
1015	Ⅱ区	SKb201		2.19	1.38	1.30	-	
1016	Ⅱ区	SKb201		2.13	1.62	1.30	-	
1017	Ⅱ区	SKb201		1.77	1.31	1.20	-	
1018	Ⅱ区	SKb201		2.01	1.51	1.26	-	
1019	Ⅱ区	SKb201		1.87	1.49	1.18	-	
1020	Ⅱ区	SKb201		1.71	1.45	1.17	-	
1021	Ⅱ区	SKb201		1.94	1.54	1.30	-	
1022	Ⅱ区	SKb201		1.56	1.33	1.13	-	
1023	Ⅱ区	SKb201		1.82	1.29	1.96	-	
1024	Ⅱ区	SKb201		1.80	1.31	1.11	-	
1025	Ⅱ区	SKb201		1.77	1.33	1.11	-	
1026	Ⅱ区	SKb201		1.87	1.45	1.22	-	
1027	Ⅱ区	SKb201		1.86	1.45	1.13	-	
1028	Ⅱ区	SKb201		1.91	1.54	1.28	-	
1029	Ⅱ区	SKb201		1.83	1.53	1.27	-	
1030	Ⅱ区	SKb201		1.76	1.42	1.32	-	
1031	Ⅱ区	SKb201		1.92	1.47	1.11	-	
1032	Ⅱ区	SKb201		1.92	1.51	1.20	-	
1033	Ⅱ区	SKb201		1.86	1.49	1.23	-	
1034	Ⅱ区	SKb201		1.86	1.32	1.09	-	
1035	Ⅱ区	SKb201		2.00	1.53	1.34	-	
1036	Ⅱ区	SKb201		1.98	1.60	1.38	-	
1037	Ⅱ区	SKb201		1.63	1.29	1.20	-	
1038	Ⅱ区	SKb201		1.77	1.34	1.08	-	
1039	Ⅱ区	SKb201		1.87	1.41	1.22	-	
1040	Ⅱ区	SKb201		2.14	1.69	1.31	-	
1041	Ⅱ区	SKb201		1.95	1.49	1.20	-	

順文番号	調査区名	遺構名	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存率	備考
1042	Ⅱ区	SKb201		190	161	137	-	
1043	Ⅱ区	SKb201		187	142	111	-	
1044	Ⅱ区	SKb201		201	145	108	-	
1045	Ⅱ区	SKb201		162	130	096	-	
1046	Ⅱ区	SKb201		181	133	106	-	
1047	Ⅱ区	SKb201		175	128	107	-	
1048	Ⅱ区	SKb201		140	108	086	-	
1049	Ⅱ区	SKb201		129	094	075	-	
1050	Ⅱ区	SKb201		141	103	(049)	半分	
1051	Ⅱ区	SKb201		173	129	(051)	半分	
1052	Ⅱ区	SKb201		158	135	(060)	半分	
1053	Ⅱ区	SKb201		(130)	(086)	(052)	半分	
1054	Ⅱ区	SKb201		(152)	(089)	(040)	半分	
1055	Ⅱ区	SKb201		(169)	(116)	(048)	半分	
1056	Ⅱ区	SKb201		210	170	(072)	半分	
1057	Ⅱ区	SKb201		(126)	109	(051)	半分	
1058	Ⅱ区	SKb201		168	127	(056)	半分	
1059	Ⅱ区	SKb201		(139)	(114)	(040)	半分	
1060	Ⅱ区	SKb201		165	113	(056)	半分	
1061	Ⅱ区	SKb201		152	121	(051)	半分	
1062	Ⅱ区	SKb201		212	(141)	(063)	半分	
1063	Ⅱ区	SKb201		205	166	(061)	半分	
1064	Ⅱ区	SKb201		(172)	(117)	(042)	半分	
1065	Ⅱ区	SKb201		169	138	(060)	半分	
1066	Ⅱ区	SKb201		176	128	(060)	半分	
1067	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		193	154	122	-	
1068	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		201	149	118	-	
1069	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		183	132	092	-	
1070	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		171	132	103	-	
1071	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		174	129	083	-	
1072	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		145	116	(063)	欠け有	
1073	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		172	106	103	-	
1074	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		150	118	(043)	-	
1075	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		140	098	170	-	
1076	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		212	(128)	(058)	半分	
1077	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(121)	(085)	(042)	半分	
1078	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(123)	(089)	(040)	半分	
1079	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(133)	(088)	(043)	半分	
1080	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(132)	(108)	(049)	半分	
1081	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(080)	(077)	(036)	半分	
1082	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		128	(077)	(039)	半分	
1083	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		104	(085)	(047)	半分	
1084	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(131)	(082)	(043)	半分	
1085	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(095)	(088)	(046)	半分	
1086	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(092)	(083)	(035)	半分	
1087	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(078)	(055)	(030)	半分	
1088	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(072)	(070)	(039)	半分	
1089	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(080)	(076)	(024)	半分	
1090	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(095)	(068)	(038)	半分	
1091	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(076)	(038)	(036)	半分	
1092	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(096)	(055)	(025)	半分	
1093	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(104)	(073)	(030)	半分	
1094	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(097)	(083)	(036)	半分	
1095	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(095)	(072)	(038)	半分	
1096	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(112)	(076)	(029)	半分	
1097	Ⅱ区	包含層 H10 Ⅱ区		(077)	(043)	(036)	半分	



写真1 全景 西から



写真2 全景 南から

図版 2 川北遺跡



写真3  
調査前風景  
東から



写真4  
SB201 完掘状況  
南から



写真5  
SB201・SP2263 断面  
北から

図版 3 川北遺跡



写真6  
SB201・SP2267 断面  
南から

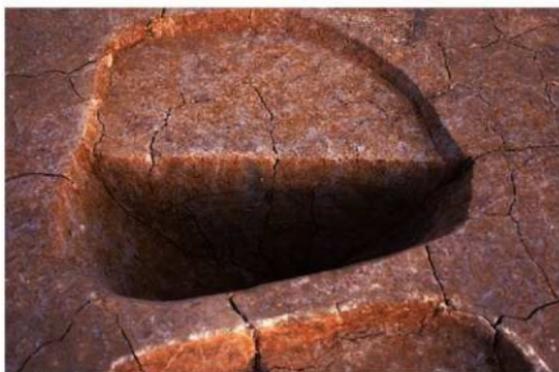


写真7  
SB201・SP2270 断面  
西から

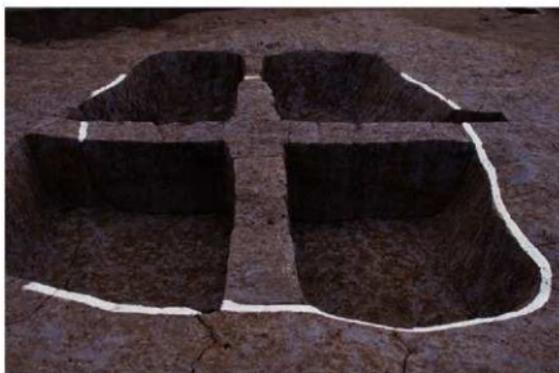


写真8  
SK201 断面  
北から

図版 4 川北遺跡



写真9  
第1面全景  
南から



写真10  
SK101 断面  
東から



写真11  
SK102 断面  
東から



写真 12  
SD102 断面  
北から



写真 13  
SD12 断面  
南から



写真 14  
SD106 断面  
西から

図版 6 川北遺跡



写真 15  
SD106 土器出土状況  
北から



写真 16  
SP1034 断面  
東から



写真 17  
SP1062 瓦器碗出土状況  
東から



写真 18  
SP1155 断面  
東から



写真 19  
SP1134 遺物出土状況  
北から



写真 20  
南壁断面  
北から

図版 8 川北遺跡



写真 21 出土遺物



遺跡遠景 南から



遺跡遠景 南から



遺跡遠景 北から

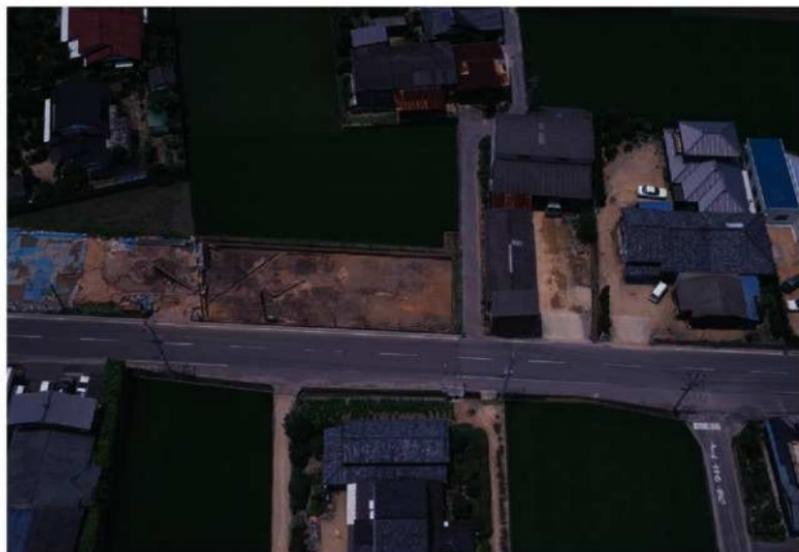


H9 I区・Ⅲ区 東から



H9 I区下層 西から

図版 12 住屋遺跡



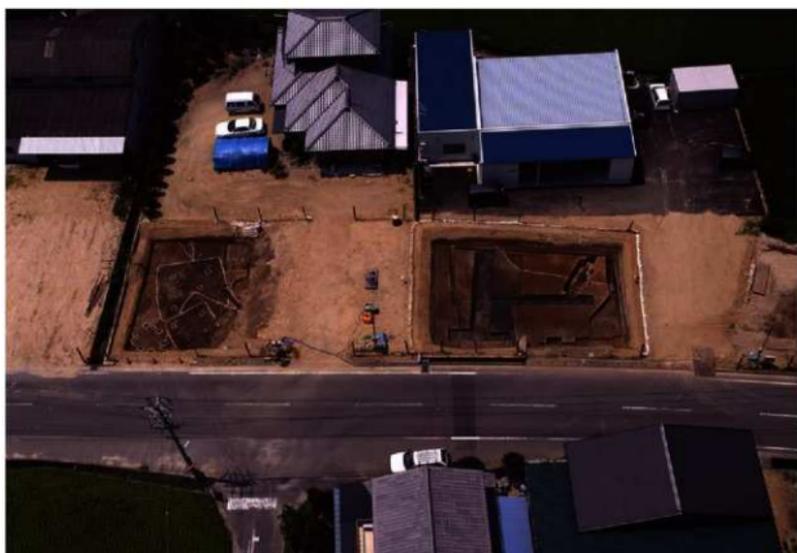
H9 I 区下層 東から



H9 II 区 西から

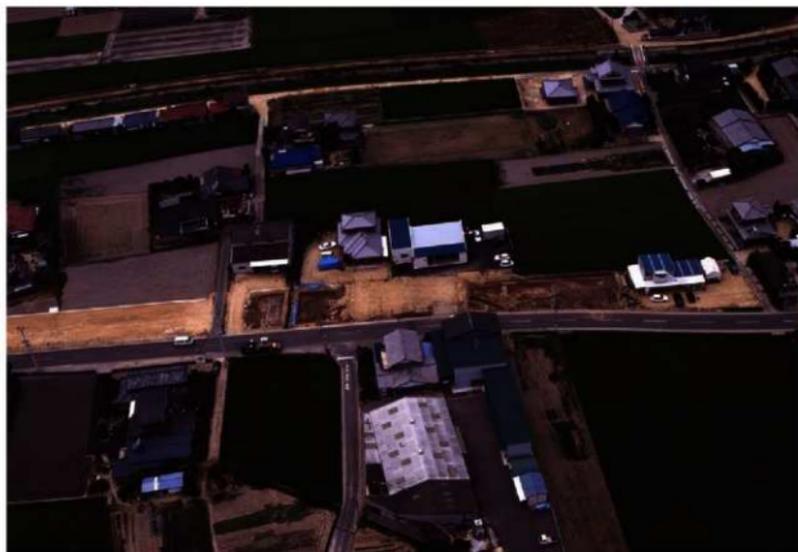


H10 I 区南半・II 区北半 東から



H10 II 区南半・III 区南半 東から

図版 14 住屋遺跡



H10 I区北半・Ⅲ区北半 東から



H10 I区北半・Ⅲ区北半 西から



H9 I 区 西壁断面1 東から



H9 I 区 西壁断面2 東から



H9 II 区 中央全景 東から



H9 II 区 南半全景 北から



H9 III 区 全景 南から



H9 SHa101 全景 南東から



H9 SHa102・103 全景 南から



H9 SHa104 全景 南東から

図版 16 住屋遺跡



H9 SHa104 カマド 北東から



H9 SHa105 西側カマド 東から



H9 SHa105 東側カマド 南から



H9 SHa105 カマド 北から



H9 SHa106 カマド遺物出土状況 南東から



H9 SHa106 カマド 南東から



H9 SHa106 カマド支脚部分断面 東から



H9 SHa106 カマド完掘 南東から



H9 SHa107 全景 北から



H9 SHa107 断面 西から



H9 SHa108 全景 南から



H9 SHa109 全景 西から



H9 SHa109 カマド 東から



H9 SHa109 カマド 南から



H9 SHa109 カマド完掘 東から



H9 SHa109 カマド完掘 南から

図版 18 住屋遺跡



H9 SHa110 断面 南から



H9 SHa110 出土土器 (甕) 南南東から



H9 SHa201 カマド土器出土状況 南から



H9 SHa201 カマド土器出土状況 西から



H9 SHa201 カマド支脚出土状況 東から



H9 SHa201 カマド支脚出土状況 南から



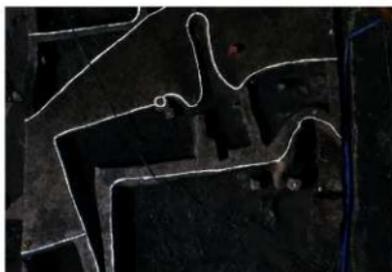
H9 SHa201 支脚出土状況 南から



H9 SHa204 カマド堆積状況断面 南から



H9 SHa204 カマド 南から



H9 SHa206 全景 南から



H9 SHa206 カマド土器出土状況 西から



H9 SHa206 カマド土器出土状況 北から



H9 SHa208 全景 東から



H9 SHa208 カマド脇土器出土状況 南から



H9 SHa208 カマド完掘 南東から



H9 SHa208 カマド 南東から

図版 20 住屋遺跡



H9 SHa208 カマド支脚出土状況 南東から



H9 SHa208 カマド壁面断ち割り 南東から



H9 SHa208 カマド支脚出土状況 南から



H9 SHa208 カマド完掘 南東から



H9 SHa208 カマド完掘 北東から



H9 SHa208 カマド完掘状況 南東から



H9 SHa209・211 全景 北から



H9 SHa210 全景 北から



H9 SHa211 遺物出土状況 北から



H9 SHa211 床面土器出土状況 北から



H9 SHa211 東壁土層 西から



H9 SHa213 全景 東から



H9 SHa214 全景 東から



H9 SHa305 全景 北西から



H9 SHa306 土器集中部 北から



H9 SHa306 断面 西から



H9 SHa306 全景 南から



H9 SHa307 全景 西から



H9 SHa309 全景 南から



H9 SHa310 全景 南から



H9 SPa207 土器出土状況 西から



H9 SRa101 完掘 北から



H10 I区 西半柱穴群 北から



H10 I区 西壁断面 東から



H10 I区南半 全景 西から



H10 I区南半 全景 西から



H10 I区南壁土層 北から



H10 I区北半 遺構検出状況 (西半) 南から



H10 I区北半 遺構検出状況 (中央) 南から



H10 I区北半 遺構検出状況 (東半) 南から



H10 I区北半 遺構検出状況 西から



H10 I区北半 全景 西から

図版 24 住屋遺跡



H10 I区北半 完掘 南から



H10 II区 遺構検出状況 南から



H10 II区 遺構検出状況 南から



H10 II区 全景 南から



H10 II区 全景 南から



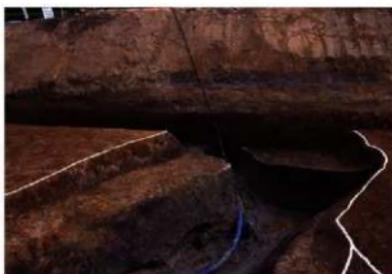
H10 III区南部 全景 南から



H10 III区 完掘状況全景 南から



H10 III区 下層確認トレンチ



H10 III区 東壁土層 西から



H10 III区 南端東西トレンチ拡張土層 南から



H10 SDb201 全景 北東から



H10 SHb101 カマド 西土器出土状況 南から



H10 SHb101 断面 北から



H10 SHb102 P04 断面 北から



H10 SHb102 P05 断面 北から



H10 SHb102 カマド土器出土状況 南から



H10 SHb102 完掘 南から



H10 SHb104 貼床面 東から



H10 SHb104 貼床面 北東から



H10 SHb106 カマド断面 南から



H10 SHb106 カマド断面 南から



H10 SHb106 カマド土器出土状況 西から



H10 SHb106 完掘 西から



H10 SHb106 完掘 南から



H10 SHb107 断面 西から



H10 SHb201 断面 南から



H10 SHb201・202・203 全景 北から



H10 SHb202 (SKb203) 土器出土状況 北から



H10 SHb202 断面 南から



H10 SHb202 全景 南から



H10 SHb203 カマド周辺出土土器 南から



H10 SHb203 カマド断面 南から



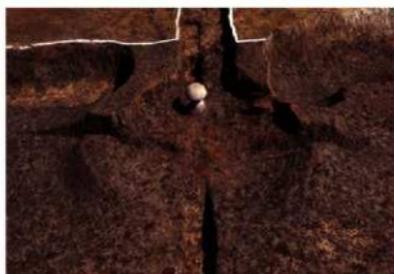
H10 SHb203 カマド 東から



H10 SHb203 カマド 南から



H10 SHb203 カマド内土器出土状況 南から



H10 SHb203 カマド 南から



H10 SHb203 北壁周辺完掘 南から



H10 SHb203・202・201 全景 北から



H10 SHb204 最終床面 北から



H10 SHb204 西壁土層 東から



H10 SHb204 貼床面 東から



H10 SHb204 完掘 南から



H10 SHb204 完掘 北から



H10 SHb204 完掘 南から



H10 SHb204 焼土面 北西から



H10 SHb205 全景 南から



H10 SHb205 南北アゼ土層 西から

図版 30 住屋遺跡



H10 SHb205 東西アゼ土層 北から



H10 SHb205 全景 南から



H10 SHb205 完掘 北から



H10 SHb205 カマド 南から



H10 SHb205 カマド東西トレンチ (西) 南から



H10 SHb205 カマド東西トレンチ (東) 南から



H10 SHb205 カマド 南から



H10 SHb205 カマド内土器出土状況 南から



H10 SHb205 カマド完掘 南から



H10 SHb205 完掘 南から



H10 SHb205 内 SKb202 土層 西から



H10 SHb205 内 SKb202 南から



H10 SHb205 内下層確認トレンチ土層 東から



H10 SHb206 全景 南から



H10 SHb206 炭化材検出状況 西から



H10 SHb206 炭化材検出状況 南から



H10 SHb206 炭化材検出状況 西から



H10 SHb206 断面 西から



H10 SHb206 ベッド状遺構炭化材検出状況 南から



H10 SHb206 ベッド状遺構土器出土状況 南から



H10 SHb206 中央土坑 東から



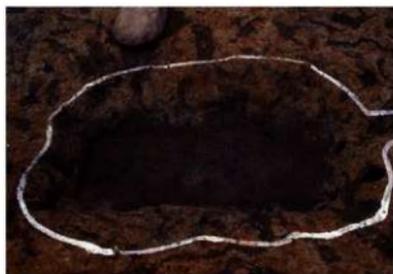
H10 SHb206 中央土坑 南から



H10 SHb206 中央土坑断面 南西から



H10 SHb206 中央土坑断面 北東から



H10 SHb206 中央土坑 南から



H10 SHb206 完掘状況 南から



H10 SKb302 断面 西から



H10 SKb105 焼礫・炭化物出土状況 南から



H10 SKb105 断面 南から



H10 SKb201 断面 南から



H10 SKb201 断面 北から



H10 SKb201 桃核出土状況 西から

図版 34 住屋遺跡



H10 SPb215 断面 南から



H10 SPb225 断面 南から



H10 SPb1017 土器出土状況 南から



H10 SPb1021 断面 東から



H10 SPb1049 断面 南から



H10 SXb101 土器出土状況 北から



図版 36 住屋遺跡























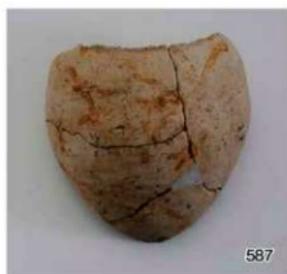






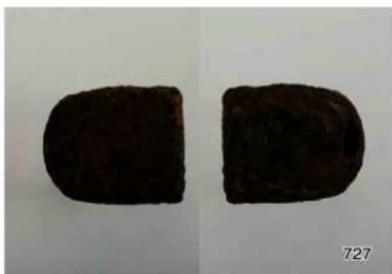


















各遺構 出土遺物 (玉類)



各遺構 出土遺物 (有孔円盤)



各遺構 出土遺物 (紡錘車)



各遺構 出土遺物 (石鏃)



各遺構 出土遺物 (スクレイパー・石匙)



SHa211 出土遺物



SHa214 出土遺物



SHa301 出土遺物



SHb205 出土遺物



SHb206 出土遺物

## 報告書抄録

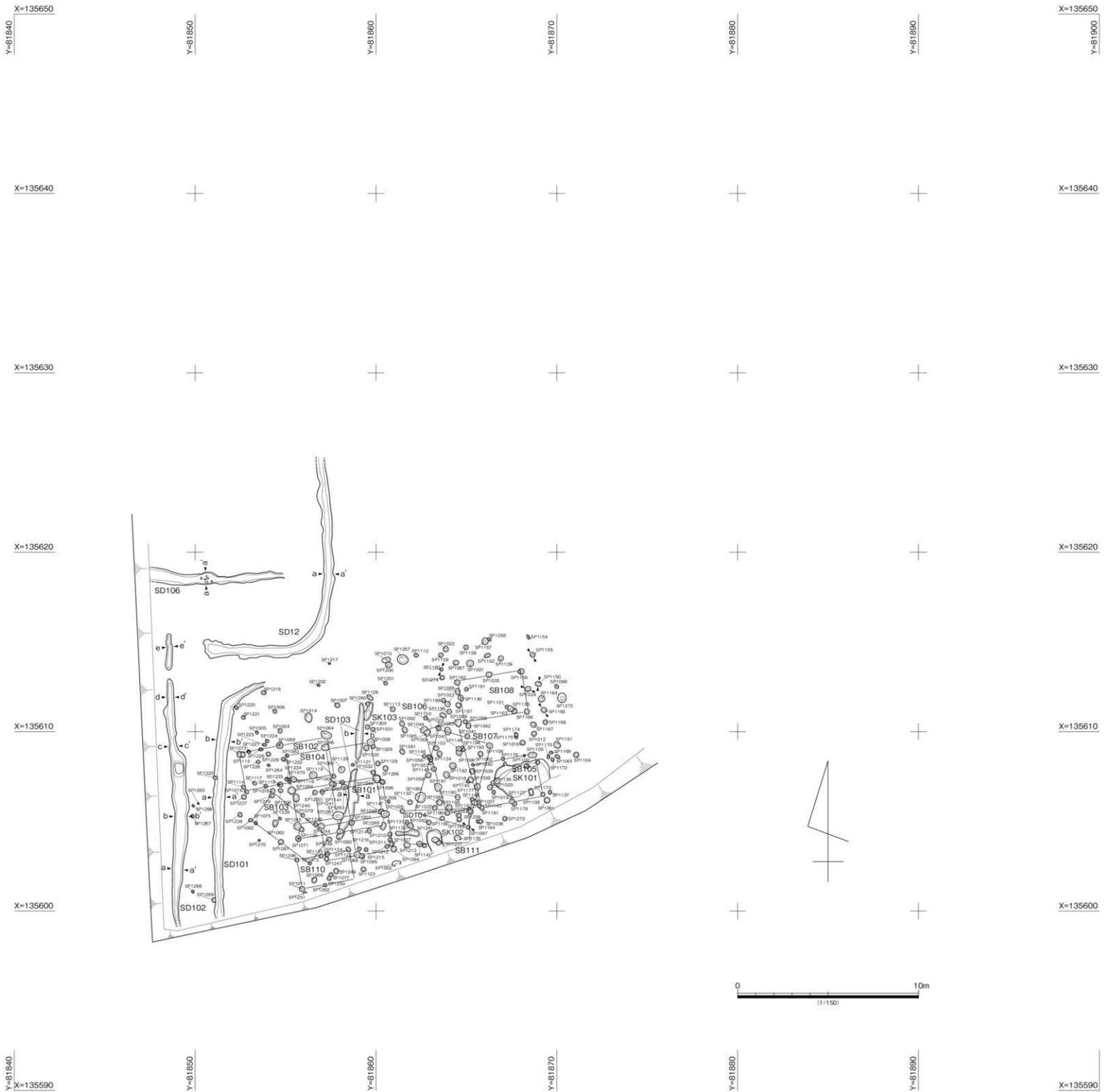
ふりがな	かわきたいせき・すみやいせき							
書名	川北遺跡・住屋遺跡							
副書名	県道白鳥引田線及び大内白鳥インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	乗松真也、小野秀幸、株式会社パレオ・ラボ、バリノ・サーヴェイ株式会社							
編集機関	香川県教育委員会・香川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001番地4 TEL 0877-48-2191 FAX 0877-48-3249							
発行年月日	2017年3月10日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
かわきたいせき 川北遺跡	香川県 ひがし 東かがわ市小海	37301		34° 13' 11"	134° 23' 22"	19980901 ～ 19981130	1,120	県道 白鳥引田線 建設
すみやいせき 住屋遺跡	香川県 ひがし 東かがわ市川東	37303		34° 14' 45"	134° 19' 58"	19980401 ～ 19980831	2,475	県道 大内白鳥 インター線 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
川北遺跡	集落	古代	掘立柱建物 土坑・溝	土師器 須恵器				
		中世	掘立柱建物	鉄器				
住屋遺跡	集落	弥生時代	竪穴建物	弥生土器		焼失建物		
		古墳時代	竪穴建物	須恵器・土師器 棒状土錘 滑石製模造品 鉄製鋤先など				
		古代	柱穴・土坑	須恵器・土師器		包含層から 鈎帯金具(鉈尾)出土		
要約	<p>川北遺跡は引田湾背後の小海川と古川に挟まれた小さな平野に面して立地する。隣接する四国横断自動車道に伴う調査対象地を含め、7世紀中葉から8世紀の中葉にかけて建てられた13棟の建物などから、当該地周辺の条里施工時期を考察するうえで貴重な成果を上げることが出来た。</p> <p>また、住屋遺跡は大内平野東部に位置し、古川及び与田川右岸に張り出した丘陵裾部に立地する。弥生時代終末期の焼失建物1棟を含む、古墳時代中期末から終末期にかけての竪穴建物55棟を検出した。約100年の間、ほぼ一定の範囲内で集落が営まれ、当該期の集落の在り方を考察するうえで貴重な資料となる。</p>							

県道白鳥引田線及び大内白鳥インター線  
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

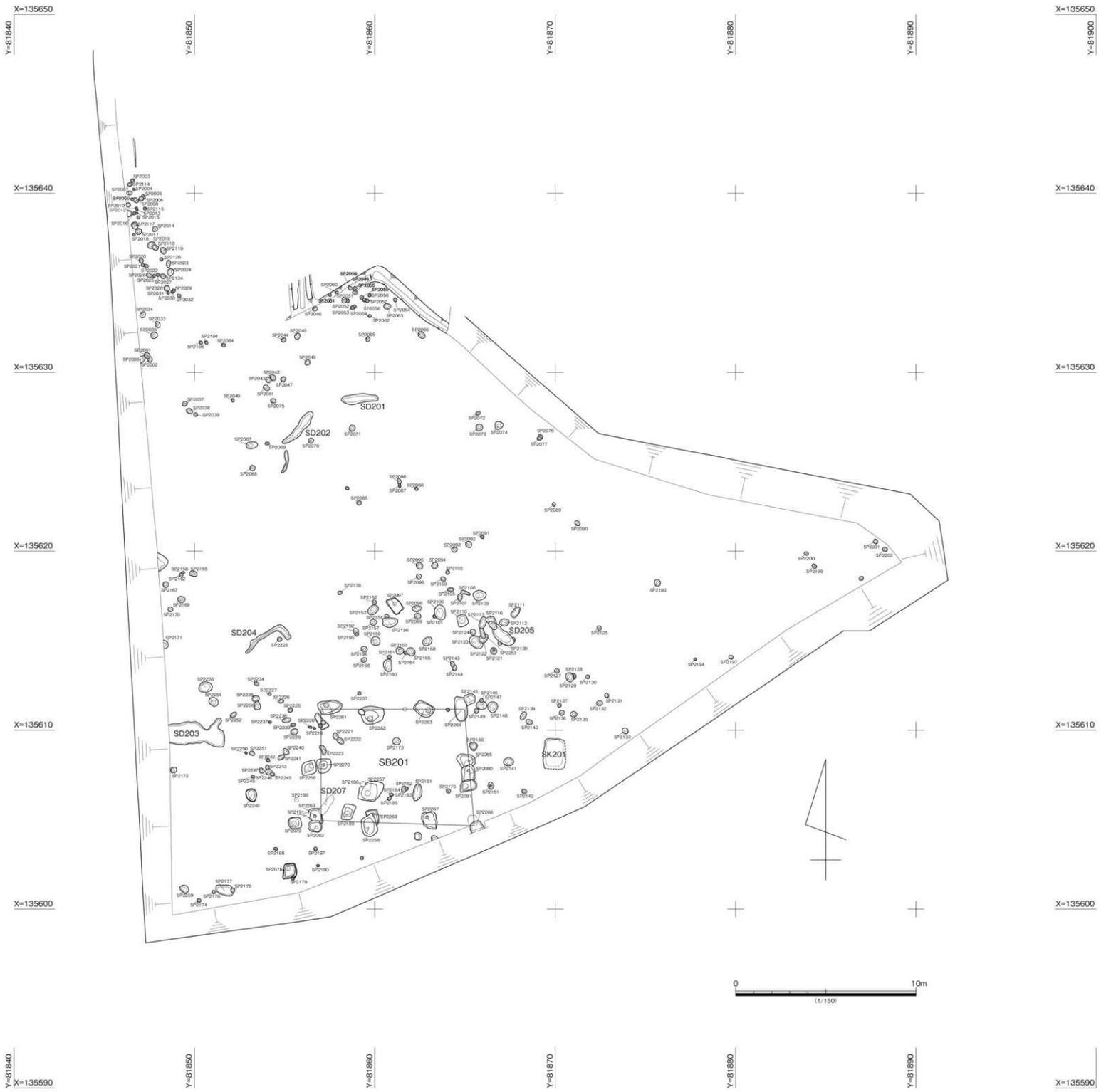
川北遺跡・住屋遺跡

2017年3月10日

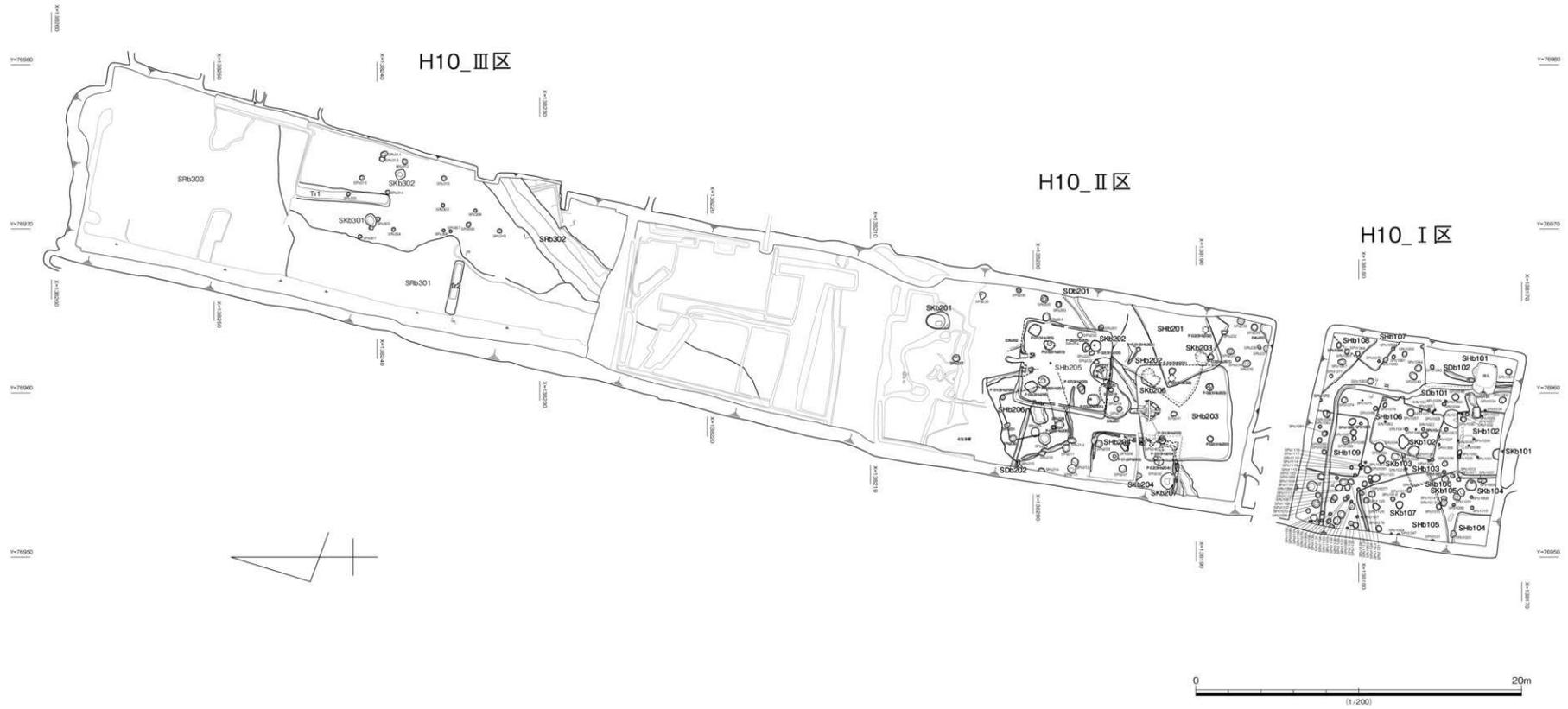
編集 香川県埋蔵文化財センター  
〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4  
Tel 0877-48-2191  
E-Mail maibun@pref.kagawa.lg.jp  
発行 香川県教育委員会  
印刷 株式会社 成光社



香川県 川北遺跡（県道） 第1面遺構配置図（S=1/150）



香川県 川北遺跡（県道） 第2面遺構配置図（S=1/150）

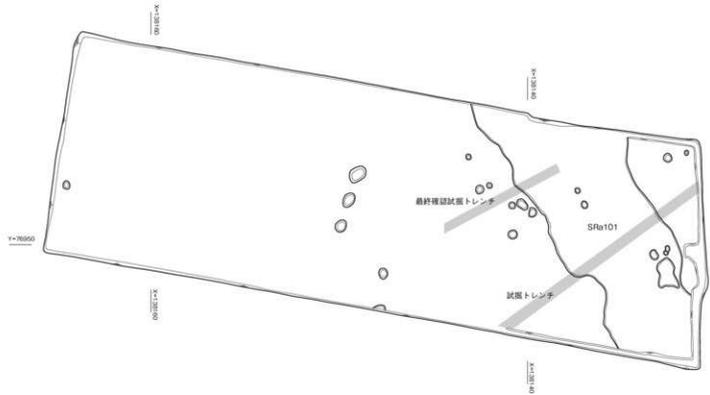


香川県 住屋遺跡 遺構配置図2 (S=1/200)

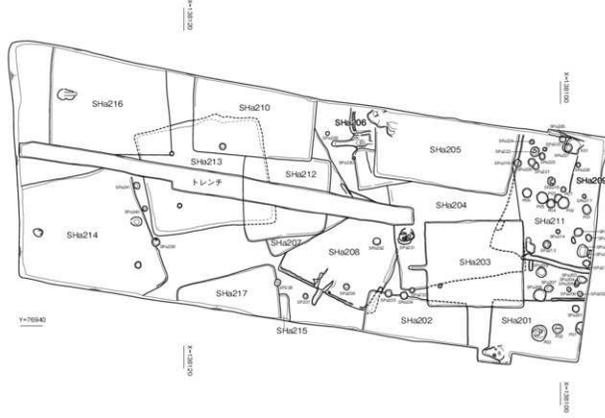
H9\_I区\_第1面



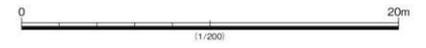
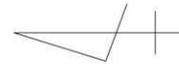
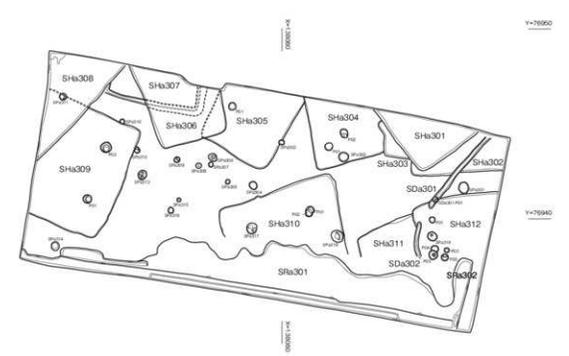
H9\_I区\_第2面



H9\_II区



H9\_III区



香川県 住屋遺跡 遺構配置図1 (S=1/200)